

HP Client Automation Starter and Standard

Windows® オペレーティング システム用

ソフトウェア バージョン : 7.20

管理者ガイド

製造パート番号 : なし

ドキュメントのリリース日 : 2009 年 3 月

ソフトウェアのリリース日 : 2009 年 3 月



ご注意

保証

当社は、本書に関して特定目的の市場性と適合性に対する保証を含む一切の保証をいたしかねます。当社は、本書の記載事項の誤り、またはマテリアルの提供、性能、使用により発生した直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害または結果損害については責任を負いかねますのでご了承ください。

当社製品に適用可能な具体的な保証条件のコピーは、お近くの営業所から入手できます。

権利の制限

合衆国政府が使用、複製、または開示を行う場合、国防総省については **DFARS 252.227-7013** の "Rights in Technical Data and Computer Software" の (c) (1) (ii) に記載されている制限が適用されます。

Hewlett-Packard Company
United States of America

その他の機関については **FAR 52.227-19** の (c) (1) および (c) (2) に記載されている制限が適用されます。

著作権

© Copyright 2006-2008 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き、禁止されています。本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。

商標

Linux は、**Linus Torvalds** の登録商標です。

Microsoft®、**Windows®**、および **Windows® XP** は、米国 **Microsoft Corporation** の米国およびその他の国における登録商標です。

OpenLDAP は、**OpenLDAP Foundation** の登録商標です。

謝辞

PREBOOT EXECUTION ENVIRONMENT (PXE) SERVER
Copyright © 1996-1999 Intel Corporation.

TFTP SERVER

Copyright © 1983, 1993

The Regents of the University of California.

OpenLDAP

Copyright 1999-2001 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA.

Portions Copyright © 1992-1996 Regents of the University of Michigan.

OpenSSL License

Copyright © 1998-2001 The OpenSSLProject.

Original SSLeay License

Copyright © 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)

DHTML Calendar

Copyright Mihai Bazon, 2002, 2003

ドキュメントの更新

本書のタイトル ページには、次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェア バージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。
 - ピリオドの前の番号は、メジャー リリースの番号を識別します。
 - ピリオドの後の最初の番号は、マイナー リリースの番号を識別します。
 - ピリオドの後の 2 番目の番号は、マイナー-マイナー リリースの番号を示します。
- ドキュメントのリリース日。ドキュメントが更新されるごとに変わります。
- ソフトウェアのリリース日。ソフトウェアのこのバージョンのリリース日を示します。

最近の更新がないか確認したり、最新版を使用していることを確認するには、次の URL に移動してください。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトでは、HP Passport に登録し、サインインする必要があります。HP Passport ID に登録するには、次のサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport サインインのページの[New users - please register] のリンクをクリックしてください。

適切な製品サポート サービスを購読している場合にも、更新版や新版を受け取ることができます。詳細は、HP 営業担当者までご連絡ください。

次の表は、このリリースで追加された新機能の一覧です。

表 1 HP Client Automation 7.20 で追加された新機能

章	バージョン	変更
すべて	7.20	Client Configuration Manager (CCM) は、HP Client Automation Starter and Standard (HPCAS) にブランドが変更されました。 <ul style="list-style-type: none">● CCM Basic は、HP Client Automation Starter になりました。● CCM Premium は、HP Client Automation Standard になりました。
2	7.20	32 ページ、「VMware の要件」VMware 環境に HPCAS をインストールするために追加された要件です。
4	7.20	62 ページ、「デバイスの詳細」[プロパティ] タブには、[詳細プロパティ] セクションが含まれるようになりました。

4	7.20	62 ページ、「 デバイスの詳細 」前回ログオン ユーザーが [デバイスの詳細] ウィンドウに追加されました。
4	7.20	85 ページ、「 ソフトウェアの詳細 」[プロパティ] タブ。[事前インストール コマンド ライン] テキスト ボックスが新しく追加されました。
4	7.20	73 ページ、「 グループの詳細 」[プロパティ] タブには、ダイナミック レポート グループを作成するための条件が表示されるようになりました。
4	7.20	54 ページ、「 デバイス管理 」リモート制御インターフェイスが更新されました。これには、ウィザードが使用されなくなり、リモート インターフェイスで直接開かれるようになりました。
5	7.20	129 ページ、「 インベントリ管理レポート 」S.M.A.R.T 警告レポートを作成するための情報が含まれます。
5	7.20	129 ページ、「 インベントリ管理レポート 」新しいブレード サーバー レポートが含まれるようになりました。
6	7.20	146 ページ、「 インフラストラクチャ サーバーの同期 」新しい同期機能に追加された情報で、選択されたインフラストラクチャ サーバー上のサービス キャッシュを HPCAS サーバーと同期できます。
6	7.20	149 ページ、「 ロケーション 」インフラストラクチャ ロケーションが追加されました。これらは、インフラストラクチャ サーバーを特定のサブネットに割り当てるのに使用されます。
6	7.20	158 ページ、「 S.M.A.R.T の設定 」S.M.A.R.T. 監視およびレポート機能の設定が追加されました。
7	7.20	169 ページ、「 ウィザード 」ほとんどのウィザードから、不必要な手順が削除されました。
7	7.20	177 ページ、「 グループ作成ウィザード 」グループ作成ウィザードが変更され、表示名および説明を追加できるようになりました。
7	7.20	171 ページ、「 エージェント配布ウィザード 」エージェント配布ウィザードに、[サイレント モード] オプションが含まれるようになりました。

サポート

次の HP Software Web サイトを参照してください。

www.hp.com/go/hpsoftwaresupport

この Web サイトでは、HP Software が提供する製品、サービス、サポートに関するお問い合わせ情報が掲載されています。

HP Software オンライン ソフトウェア サポートでは、お客様自身が問題を解決するのに有益な情報を提供します。ビジネスを管理するのに必要な、対話型技術サポート ツールにアクセスする、素早く効率的な方法を提供しています。サポートを受けるお客様は、サポート サイトを使って以下のことができます。

- 関心がある知識ドキュメントの検索
- サポート事例および機能強化リクエストの提出とサポート状況の追跡
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート連絡先の確認
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- 他のソフトウェア顧客とのディスカッションへの参加
- ソフトウェア トレーニングの検索と登録

サポート エリアのほとんどでは、HP Passport ユーザーとして登録し、サインインする必要があります。

アクセス レベルに関する詳細は、次を参照してください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Passport ID に登録するには、次を参照してください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.htm>

目次

1 はじめに	19
対象	19
要約	19
概要	21
HP Client Automation Starter の機能	22
HP Client Automation Standard の機能	24
HPCAS コンソール	25
管理エージェント	26
HP Client Automation Administrator Publisher	27
Image Preparation Wizard	28
Settings Migration Manager	28
ヘルプの表示	28
2 HPCAS のインストール	29
システム要件	29
プラットフォーム サポート	29
Web ブラウザ	29
サーバー	29
データベース	30
ターゲット デバイス	30
ファイアウォールの設定	30
ターゲット デバイス	30
HPCAS サーバー	31
SQL Server	31
インフラストラクチャ サーバー	31
Sygate ファイアウォールの設定	32
VMware の要件	32
HPCAS のインストール	33
管理エージェントの手動インストール	39

シン クライアントでの 管理エージェントのインストール.....	39
Linux ベースのシン クライアント	39
Windows XPe	41
Windows CE.....	42
HPCAS の削除.....	42
OS 配布用の PXE の設定.....	43
3 はじめに.....	45
ログイン.....	45
クイック スタート タスク	46
4 管理	53
デバイス管理.....	54
一般.....	54
デバイス	55
デバイスのインポート	57
[デバイス] タブからの管理エージェントの配布	58
管理エージェントの削除	58
ソフトウェア／ハードウェア インベントリの探索.....	59
パッチ適用状況の探索.....	59
アプリケーション利用状況の探索.....	59
リモート制御	60
電源管理.....	61
デバイスの削除.....	62
デバイスの詳細.....	62
現在のジョブ	64
過去のジョブ	64
グループ管理.....	65
一般.....	65
グループ タイプ	66
グループ	67
グループの作成.....	69
管理エージェントのグループへの配布.....	69
管理エージェントのグループからの削除.....	70
グループに対するソフトウェア／ハードウェア インベントリの探索.....	70
グループに対するパッチ適用状況の探索.....	71

グループに対するアプリケーション利用状況データの探索	71
電源管理	72
グループの削除	72
グループの詳細	73
[グループの詳細] ウィンドウのタスク	75
スタティック グループでのデバイスの追加と削除	76
グループでのソフトウェア エンタイトルメントの追加と削除	76
グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期	77
グループでのパッチ エンタイトルメントの追加と削除	78
グループへのパッチの配布	78
現在のジョブ	79
過去のジョブ	79
ソフトウェア管理	80
一般	80
ソフトウェア	81
ソフトウェアの配布	83
グループ エンタイトルメントの追加	83
サービスのインポート	83
サービスのエクスポート	84
HPCAS からのソフトウェアの削除	84
ソフトウェアの詳細	85
現在のジョブ	89
過去のジョブ	89
パッチ管理	89
一般	91
パッチ	92
パッチの配布	93
グループ エンタイトルメントの追加	94
サービスのインポート	94
サービスのエクスポート	95
パッチの詳細	95
現在のジョブ	99
過去のジョブ	99
OS 管理	100
一般	100
オペレーティング システム	101
オペレーティング システムの配布	102

ローカル サービスの起動 (LSB : Local Service Boot) を使用した OS イメージの配布	107
PXE を使用した OS イメージの配布	107
サービス CD を使用した OS イメージの配布	108
グループ エンタイトルメントの追加	109
サービスのインポート	110
サービスのエクスポート	110
オペレーティング システムのライブラリからの削除	110
OS の詳細	111
現在のジョブ	113
過去のジョブ	113
ジョブ管理	114
一般	114
現在のジョブ	114
ジョブ コントロール	114
ジョブ ステータス	115
ジョブの詳細	117
過去のジョブ	119

5 レポート 121

検索オプション	122
表示オプション	122
検索条件	123
[レポート] ウィンドウ	123
検索オプションを使用したフィルタの選択	124
[ディレクトリ/グループ フィルタ] 領域	125
[データ フィルタ] 領域	125
表示オプションを使用したレポート ビューの選択	127
レポート ビューのタイプ	128
インベントリ管理レポート	129
パッチ管理レポート	130
利用状況管理レポート	130
HP ハードウェア レポートの表示	131
[レポート] ウィンドウについて	132

Windows アクション バーの使用.....	133
レポート データからのフィルタの適用.....	135
ダイナミック レポート グループの作成.....	136

6 設定 137

サポート	137
ログ ファイルのダウンロード.....	138
ライセンス情報の更新.....	139
コンソールへのアクセス.....	139
追加コンソール ユーザーの作成	140
コンソール ユーザーの削除	140
コンソール ユーザーの詳細の表示および変更	141
コンソール パスワードの変更.....	141
インフラストラクチャ管理.....	142
サーバー	142
インフラストラクチャ サーバーの管理.....	143
インフラストラクチャ サービスの配布.....	145
インフラストラクチャ サーバーの同期.....	146
[サーバーの詳細] ウィンドウ	148
ロケーション	149
ロケーションの詳細.....	152
パッチ管理 — 設定.....	152
パッチ取得スケジュールの設定	153
パッチ取得設定の設定.....	153
OS 管理	156
ハードウェア管理	157
CMI の設定.....	157
S.M.A.R.T の設定.....	158
TPM の設定	159
レポート	160
データベース	161
利用状況の設定	161
利用状況の収集	162

利用状況収集フィルタの設定	164
利用状況条件の定義.....	165
メンテナンス	167

7 ウィザード..... 169

デバイス インポート ウィザード.....	170
エージェント配布ウィザード	171
エージェント削除ウィザード	172
ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード	173
パッチの適用状況探索ウィザード.....	174
アプリケーション利用状況収集ウィザード.....	174
電源管理ウィザード.....	175
グループ作成ウィザード.....	177
ソフトウェア配布ウィザード	180
サービス インポート ウィザード.....	181
サービス エクスポート ウィザード	181
ソフトウェア同期ウィザード	182
パッチ配布ウィザード	183
サービス エンタイトルメント ウィザード.....	184
ソフトウェア削除ウィザード	185
ユーザー作成ウィザード.....	186
OS 配布ウィザード.....	186
利用状況収集フィルタ作成ウィザード.....	188
インフラストラクチャ配布ウィザード.....	189
インフラストラクチャ削除ウィザード.....	190
インフラストラクチャ ロケーション作成ウィザード	190

8 イメージの準備と取得 191

Windows OS イメージ.....	191
----------------------	-----

タスク 1 – 参照マシンの準備	192
タスク 2 – 応答ファイルの作成.....	194
unattend.xml (Windows Vista 配布の場合) の準備	194
Sysprep.inf の作成 (非 Vista OS の場合のみ)	195
タスク 3 – Image Preparation Wizard の実行.....	197
シン クライアントの OS イメージ.....	202
Windows XPe OS イメージ	202
タスク 1 – XPe 参照マシンの準備.....	203
タスク 2 – Image Preparation Wizard の実行.....	203
Windows CE OS イメージ.....	206
タスク 1 – CE 参照マシンの準備	207
タスク 2 – Image Preparation Wizard の実行.....	207
Embedded Linux OS イメージ.....	210
タスク 1 – Embedded Linux 参照マシンの準備.....	210
タスク 2 – Image Preparation Wizard の実行.....	211
OS イメージのパブリッシュおよび配布	214

9 Publisher の使用 217

ソフトウェアのパブリッシュ	218
Windows インストーラ ファイルのパブリッシュ	218
[コンポーネントの選択] を使用したパブリッシュ	221
オペレーティング システム イメージのパブリッシュ	223
Vista OS の .WIM イメージをパブリッシュするための前提条件.....	223
.subs および .xml ファイルについて	224
置き換えの例	225
filename.xml の準備.....	227
OS イメージのパブリッシュ	227
HP Softpaq のパブリッシュ	228
BIOS 設定のパブリッシュ.....	230
BIOS 設定ファイルの作成	233
パブリッシュされたサービスの表示	233
HP Client Automation Administrator Agent Explorer	234

10 Application Self-Service Manager の使用 235

Application Self-Service Manager へのアクセス	235
Application Self-Service Manager の概要.....	236
グローバル ツールバー.....	237
メニュー バー	238
カタログ リスト.....	238
サービス リスト.....	239
Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスの使用	239
ソフトウェアのインストール.....	240
カタログのリフレッシュ	241
情報の表示.....	241
ソフトウェアの削除	242
履歴の表示.....	242
バンド幅の調整	243
ステータスの表示.....	244
ユーザー インターフェイスのカスタマイズ.....	245
全般オプション	245
サービス リスト オプション.....	247
接続オプション	250
HPCA システム トレイのアイコン	251
[HPCA ステータス] ウィンドウ.....	252

11 設定の移行 255

サポートされるアプリケーションと設定	255
設定テンプレートの作成.....	257
Settings Migration Utility の使用	260
設定のバックアップ	260
保管された設定およびファイル	261
設定の復元.....	262
OS 配布の間の設定の移行	263
File Rules	264

File Rules へのアクセス	264
[File Rules] ダイアログ ボックス	265
アプリケーション サポートの注意点.....	267
Microsoft Office サポートの注意点	267
Microsoft Office.....	267
Microsoft Access	268
Microsoft Excel	269
Microsoft Frontpage	270
Microsoft InfoPath.....	271
Office アシスタントの設定	271
Office ショートカット バー	271
Microsoft OneNote.....	272
Microsoft Outlook	272
Microsoft PowerPoint.....	273
Microsoft Project.....	274
Microsoft Publisher	275
Microsoft Word	275
サポートされる他のアプリケーションと OS に関する注意点	276
ACT! 2000	276
Adobe Acrobat.....	277
Lotus Notes 5.X、6.X.....	278
Microsoft Internet Explorer	278
Microsoft NetMeeting.....	278
Microsoft Outlook Express.....	279
Netscape.....	279
Norton AntiVirus.....	280
Norton AntiVirus Corporate Edition.....	280
Visio.....	281
WinZip.....	281
WordPerfect for Office 2000.....	282
Dragon Naturally Speaking for WordPerfect	283
Corel Utilities	283
Corel Quattro Pro	283
Corel WordPerfect	283
Data Transports	283
Windows のオプション	284
デスクトップ ショートカット	284
ダイヤルアップ ネットワーク	284
フォルダ オプション	284
ローカル プリンタ ログ	284
マッピングされたネットワーク ドライブ	285
マイ ドキュメント	285

ネットワークおよび共有プリンタの設定.....	285
ネットワーク設定	285
タスク バーおよびクイック起動バー	286
Windows アドレス帳.....	286
コントロール パネル.....	286
ユーザー補助オプション	286
表示.....	286
インターネット オプション	286
キーボード.....	287
マウスの設定	287
電源管理.....	287
地域の設定	287
サウンド.....	287
タイム ゾーン.....	287

12よく寄せられる質問..... 289

HPCAS コンソールにはどうやってアクセスしますか?.....	290
どのバージョンを使用しているかは、どのようにしてわかりますか?	290
コンソールのパスワードはどのようにして変更できますか?.....	291
自分の環境にあるデバイスの管理を始めるには、どのようにしますか?	291
インベントリの収集のスケジュール設定は、どのようにしますか?.....	292
管理対象デバイスのインベントリ情報は、どのようにして表示できますか?	292
パッチ取得はどのようにして自動化できますか?.....	293
パッチ適用状況探索スケジュールをどのようにして設定しますか?.....	293
管理対象デバイスすべてにソフトウェアを配布するには、どのようにしますか?.....	294
特定の Microsoft パッチを取得するには、どのようにしますか?.....	294
ライセンス キーはどのようにして更新しますか?.....	295
OS サービス パックの対象とするデバイスのグループをどのようにして作成 しますか?	295
ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布するには、どのようにしますか?.....	296
コンソールを使用せずに管理エージェントをデバイスにインストールするには、 どのようにしますか?	296

Windows インストーラ パッケージをパブリッシュするには、どのように しますか?	297
Setup.exe をパブリッシュするには、どのようにしますか?.....	297
全デバイスがソフトウェアを受信したのは、どのようにしてわかりますか?	297
ソフトウェアをユーザーがインストールできるようにするには、どのよう にしますか?	298
デバイス適用状況レポートを生成するには、どのようにしますか?.....	298
OS イメージを取得するには、どのようにしますか?.....	299
OS イメージにドライバを追加するには、どのようにしますか?.....	299
OS イメージをパブリッシュするには、どのようにしますか?	300
OS イメージを配布するには、どのようにしますか?.....	300
利用状況データの収集を開始するには、どのようにしますか?	301
サポートに連絡するには、どのようにしますか?.....	301
13 トラブルシューティング	303
ログ ファイル	303
エージェント配布の問題.....	304
OS 配布の問題	305
Application Self-Service Manager の問題.....	306
電源管理の問題	306
パッチ管理の問題	307
A 2 バイト文字のサポートについて	309
サポートされる言語.....	309
ロケールの変更	309
Sysprep ファイルの 2 バイト文字サポート	310
索引.....	311

1 はじめに

HP Client Automation Starter and Standard (HPCAS)は、PC ソフトウェア設定管理ソリューションです。OS イメージの配布、パッチの管理、リモート コントロール、HP ハードウェアのドライバや BIOS の更新、ソフトウェアの配布、利用状況の測定などの、ソフトウェアおよび HP ハードウェア管理機能すべてを、Web ベースの統合コンソールから提供します。

このガイドでは、HPCAS の紹介、製品コンポーネントのセットアップとインストールの方法の説明、HPCAS コンソール、Publisher、Application Self-Service Manager および Image Preparation Wizard を使用するための詳細な情報と手順の提供を行います。

HPCAS の機能とコンポーネントの概要については、21 ページの「[概要](#)」を参照してください。

対象

このガイドは、HP Client Automation Starter and Standard のインストール、設定、および使用を行う管理者を対象にしています。

要約

第 1 章, はじめに

この章では、HPCAS の概要および利用可能な機能およびコンポーネントを説明します。

第 2 章, インストール

この章では、HPCAS とそのコンポーネントをインストールし、設定する詳細な手順を説明します。

第 3 章, はじめに

この章では、開始方法、最初に行う操作、HPCAS コンソールの使用を開始する方法など、HPCAS をすぐに使用するための手順を説明します。

第 4 章, 管理

この章では、管理コンソールの [管理] タブとその各機能を詳しく説明します。

第 5 章, レポート

この章では、[レポート] タブを使用してレポートを作成および表示する方法を説明します。

第 6 章, 設定

この章では、HPCAS のインストール、HPCAS のコンソールおよびコンポーネント用の設定オプションについて説明します。

第 7 章, ウィザード

この章では、HPCAS の各ウィザードの詳細な手順を説明します。

第 8 章, イメージの準備と取得

この章では、お使いの環境にあるデバイスに配布するため、オペレーティング システム イメージを準備し、取得する方法を説明します。

第 9 章, Publisher の使用

この章では、HPCAS Publisher の使用手順を説明します。

第 10 章, Application Self-Service Manager の使用

この章では、管理エージェントとともにインストールされる Application Self-Service Manager の使用方法を説明します。

第 11 章, 設定の移行

この章では、Settings Migration Manager および Settings Migration Utility を使用したユーザー設定のバックアップおよび復元について説明します。

第 12 章, よく寄せられる質問

この章では、HPCAS およびそのコンポーネントを使用したときに利用できる一般的な管理タスクに関する、よく寄せられる質問を紹介します。

第 13 章, トラブルシューティング

この章では、HPCAS の使用中に遭遇する一般的な問題を解決するための情報と手順を説明します。

付録 A, 2 バイト文字のサポートについて

この付録では、2 バイト文字のサポートに関して説明します。

概要

HP Client Automation は、次の製品レベルで使用できます。

- Starter
- Standard
- Enterprise

このガイドには、**Starter** と **Standard** の使用に関する情報が含まれています。**HP Client Automation Enterprise** については、**HP Software Support Web** サイトを参照してください。

次のセクションで、**Starter** と **Standard** の各ライセンスで利用可能な機能を詳しく説明します。

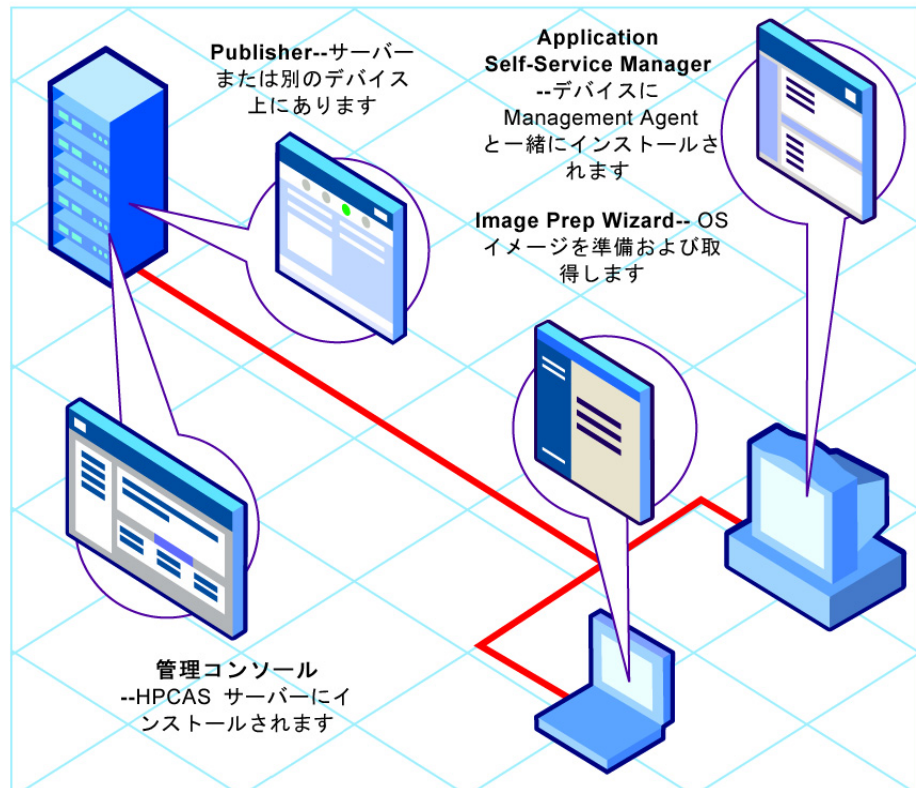
- [HP Client Automation Starter の機能](#) (22 ページ)
- [HP Client Automation Standard の機能](#) (24 ページ)

次のセクションには、各 HPCAS コンポーネントに関する概要が含まれます。

- [HPCAS コンソール](#) (25 ページ)
- [管理エージェント](#) (26 ページ)
- [HP Client Automation Administrator Publisher](#) (27 ページ)
- [Image Preparation Wizard](#) (28 ページ)
- [Settings Migration Manager](#) (28 ページ)

次の図は、HPCAS コンポーネントがインストールされた環境のサンプルを示します。

図 1 HPCAS 環境の例



HP Client Automation Starter の機能

HP Client Automation Starter のライセンスを持っている場合は、以下の管理機能が利用できます。

- **ハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ**

BIOS 設定情報など、管理対象の HP デバイスに対して、ハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ収集が利用できます。デバイスで収集されたインベントリ情報は、中央コンソールで表示できます。レポート ツールでは、

データを詳細にまたはグラフィック表示で表示します。簡単にフィルタ処理をして、特定の条件にマッチするデバイスを表示できます。

- **ハードウェア警告のレポート**

HP Client Automation Starter が管理するデバイスは、ファンが故障している、シャーシが開いている、などのハードウェア警告をクライアント デバイス上、または中央コンソールにレポートするように、中央で設定できます。HP Client Management Interface (CMI) を使用して、他のハードウェア コンポーネントが影響を受ける前に、管理者は、修復する必要があるシステムを確認できます。

- **Softpaq 管理**

HP Client Automation Starter では、ある環境のデバイスに自動的に適用できる Softpaq を取得できるようになります。また、BIOS、デバイス ドライバまたは HP が提供するアプリケーションの更新に、デバイスが Softpaq を必要とするかどうかを判断し、デバイスに Softpaq を配布します。これらはすべて中央コンソールから行います。コンソールのレポート領域では、取得して適用可能などの Softpaq が、デバイスに適用されたか、まだ適用されていないか、に関する情報を提供します。詳細は、228 ページの「[HP Softpaq のパブリッシュ](#)」を参照してください。

- **BIOS 管理**

HP Client Automation Starter では、BIOS の保護、デバイスでの起動順序の調節、Wake-on-LAN の有効化、または他の BIOS 設定の調節を行うため、パスワードを使用できます。HPCAS は、環境の HP デバイスの現在の BIOS 設定を判断し、希望の設定になるように BIOS 設定を更新できます。

- **ProtectTools 管理**

ProtectTools のセキュリティ設定を行います。

- **リモート管理**

管理者は、コンソールの統合リモート コントロール機能を使用して、問題が発生したデバイスを管理できます。リモート コントロールの他に、電源のオフ、デバイスの再起動や Wake-On-LAN などの、コンソール内蔵の電源管理機能が備わっています。

- **シン クライアント管理**

Windows XPe、CE および Enbedded Linux を実行している HP シン クライアント デバイスへオペレーティング システムおよびソフトウェアを配布します。シン クライアント デバイスとは、主にセントラル サーバーに依存してアクティビティの処理を行ってもらうクライアント コンピュータのことです。HP では、さまざまなシン クライアント デバイスのモデルを提供しています。

HP Client Automation Standard の機能

HP Client Automation Standard のライセンスでは、上で説明した、**Starter** ライセンスで利用可能な全機能に加えて、次の追加機能が利用できます。

- **OS の配布**
サポートされる Windows オペレーティング システムを PC クライアント デバイスに配布します。オペレーティング システムはベア メタル デバイス（既存のオペレーティング システムではなく）またはサポートされる既存の Windows オペレーティング システムを現在実行しているデバイスに配布できます。
- **設定の移行**
ユーザーの設定およびファイルは、マシンからマシンに移動できます。同じデバイスでのインプレース移行では OS から OS へ移行できます。設定の移行は、製品バージョンが異なってもサポートされます。たとえば、Office XP から Office 2003 へ設定を移行できます。
- **ソフトウェアの配布**
環境内の管理対象デバイスへパッケージ化されたソフトを配布します。ソフトウェアは、ローカル接続またはリモート接続の PC に配布できます。デバイスが、ネットワーク上にあるが、配布ジョブが実行されたときに電源がオフになっている場合、配布プロセスの一部として、デバイスの電源をオンにすることができます。
- **Microsoft パッチ管理**
HP Client Automation Standard は、環境内の Microsoft パッチを管理できます。パッチは、Microsoft から自動的に取得します。取得の後、管理対象のデバイスは、パッチの適用状況を判断し、パッチがデバイスに配布可能になります。パッチが配布された後、パッチが対応しているセキュリティ脅威からデバイスが保護されていることが、定期的に確認されます。
- **インベントリおよびソフトウェア利用状況の収集**
ハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ収集に加えて、HP Client Automation Standard は、ソフトウェア利用状況を収集できます。利用状況の情報を使用して、ライセンスの適用状況を判断したり、環境でどのソフトウェア ライセンスが必要であるかを判断できます。管理者は、HPCAS の利用状況管理追跡、レポート機能を使って、ソフトウェア ライセンスの数が多すぎないか、不十分ではないか、判断できます。
- **リモート コンテンツ管理**
リモート オフィスをよりよく推進するため、HP Client Automation Standard は、リソースを提供するインフラストラクチャ サーバーを配布できます。これにより、クライアント デバイスは、速度がより遅いワイド エリア ネットワーク接続からリソースを取得する代わりに、よりローカルなソースからそのリソースを取得できます。

HPCAS コンソール

HPCAS コンソールは、メインとなる Web インターフェイスです。これを使って、デバイス、ソフトウェア、オペレーティング システムおよびパッチの管理だけでなく、これらの管理対象デバイスをベースにレポートを作成、表示できます。

25 ページの 図 2 に表示された HPCAS コンソール領域を確認してください。

図 2 HPCAS コンソール領域



凡例

- a** コンソール タブ — コントロールの上部に位置する一連のタブで、3 つのメイン コンソール領域を移動できます
- b** ワークスペース タブ — 各セクション内に表示されるタブ
- c** コンソール タブ セクション — コンソール タブ内で利用可能なセクション
- d** ワークスペース — 各タブのコンテンツが表示される主要領域

コンソールの [レポート] タブは、[管理] タブや [設定] タブとは、レイアウトが多少異なります。[検索] オプションと [表示] オプションが、左に表示され、レポート クエリの結果が、右のワークスペースに表示されます。次の図は、[レポート] タブ ウィンドウの例です。

図 3 「レポート」タブ



管理エージェント

管理エージェントを使用して、HPCAS にインポートされたデバイスを管理します。管理者は、管理エージェントをデバイスに配布してから、そのデバイスまたはデバイスのグループにソフトウェアやパッチのエンタイトルメント設定とインストールを行います。

- **Application Self-Service Manager**

管理エージェントがデバイスに配布されると、Application Self-Service Manager がインストールされ、そのデバイスにエンタイトルメントが設定されたソフトウェアをユーザーが管理できるようになります。

詳細は、235 ページの「[Application Self-Service Manager の使用](#)」を参照してください。

ソフトウェアのインストール

管理対象デバイスにソフトウェアをインストールする方法は 2 つあります。

- 1 ユーザーは、**Application Self-Service Manager** からエンタイトルメントが設定されたソフトウェアを選択して、ユーザーの判断でインストールします。詳細は、235 ページの「**Application Self-Service Manager の使用**」を参照してください。
- 2 管理者は、**HPCAS** から直接、管理対象デバイスにソフトウェアのエンタイトルメントを設定したり、ソフトウェアを配布します。エンド ユーザーとの対話は必要ありません。詳細は、80 ページの「**ソフトウェア管理**」を参照してください。

HP Client Automation Administrator Publisher

Publisher は、**HPCAS** データベースへソフトウェア、オペレーティング システムのイメージ、**BIOS** 設定または **HP Softpaq** をパブリッシュするために使用します。その後、ソフトウェアサービスのエンタイトルメント設定を行い、お使いの環境の管理対象デバイスに配布できます。

▶ **サービス**は、ソフトウェア ライブラリ、パッチ ライブラリまたは **OS** ライブラリの任意のエントリです。サービス **インポート デッキ**または **エクスポート デッキ**には、ある特定のサービスをインストールするのに必要なコンポーネント（ファイルおよびフォルダ構造など）をすべて格納しています。

Publisher は、ソフトウェア サービスの選択と設定を行うデバイスにインストールする必要があります。**Publisher** をインストールするには、**HPCAS** インストール CD にある **HP Client Automation Administrator** インストール ファイルを使用できます。または、管理対象デバイスへの配布のため、ソフトウェア ライブラリで利用可能な **HP Client Automation Administrator Publisher** サービスを使用できます。

詳細は、217 ページの「**Publisher の使用**」を参照してください。

- **HP Client Automation Agent Explorer**
Agent Explorer は、**HP Client Automation Administrator** のコンポーネントで、**Publisher** と一緒にインストールされます。問題のトラブルシューティングおよび解決のためにこれを使用します。**HP** サポートからの直接の指示がない限り、これを使用しないでください。

Image Preparation Wizard

Image Preparation Wizard は、デバイス上でオペレーティング システムをローカルに準備して取得します。このウィザードは、**HPCAS** メディア から利用可能な、**Image Preparation Wizard CD ISO** の一部です。

詳細な方法については、191 ページの「[イメージの準備と取得](#)」を参照してください。


Settings Migration Manager

HPCAS サーバー上で **Settings Migration Manager** を使用して、管理対象デバイス上のアプリケーションやオペレーティング システム用のユーザー設定を取得するためのテンプレートを定義します。

定義したら、**Settings Migration Utility** サービスを管理対象デバイスへ配布します。ユーティリティを使用して、**HPCAS** サーバー上で定義された設定テンプレートに基づいて、設定のバックアップと復元を行います。

詳細は、255 ページの「[設定の移行](#)」を参照してください。

ヘルプの表示

ウィンドウの右上角にある **[ヘルプ]**  ボタンをクリックすると、**HPCAS** オンライン ヘルプが表示されます。

コンソールの他に、**Publisher**、**Application Self-Service Manager** および **Image Preparation Wizard** でも、このガイドの情報に基づいたそれぞれのオンラインヘルプが利用できます。

2 HPCAS のインストール

この章では、HP Client Automation Starter and Standard およびそのコンポーネントをインストールおよび設定する方法を説明します。次の各セクションでは、HPCAS、Publisher および 管理エージェントの具体的なインストール方法と要件を説明しています。

- システム要件 (29 ページ)
- インストール (33 ページ)
- Publisher のインストール (37 ページ)
- 管理エージェントの手動インストール (39 ページ)

システム要件



デバイスに対して HPCAS で行うソフトウェア、パッチ、およびインベントリの管理は、最大 10,000 台までとすることをお勧めします。

プラットフォーム サポート

HPCAS サーバーおよびターゲット デバイスでサポートされるプラットフォームの詳細は、このリリースに付属のリリース ノートを参照してください。

Web ブラウザ

HPCAS は、次の Web ブラウザでサポートされています。

- Microsoft Internet Explorer 6 および 7

サーバー

- 最低 2GHz CPU のデュアル プロセッサ構成の専用サーバー
- 4 GB の RAM

データベース

- ローカルにインストールされているか、HPCAS サーバーからリモートにアクセス可能な、**Microsoft SQL Server 2000 SP4** 以上 (**SQL Server Personal Edition** は、テストまたはデモンストレーション目的にのみ推奨します)。
- SQL Server** は、混在モード認証を使用するように設定する必要があります。



Windows 2000 システムに **HPCAS** をインストールしている場合、ローカル システムに最新の **Microsoft Data Access Component** をインストールしておきます (これは、**SQL Server** にリモートでアクセスするのに必要です)。詳細は **www.microsoft.com** を参照してください。

ターゲット デバイス

- ターゲット デバイスでサポートされるプラットフォームの詳細は、リリースノートを参照してください。
- 管理対象の **HP シン クライアント デバイス** には、**Windows CE**、**XPe**、または **Embedded Linux** をインストールしておく必要があります。
- ファイルとプリンタの共有を有効にする必要があります。
- Active Directory** の一部でない **Windows XP** を実行するターゲットデバイスについては、簡易ファイルの共有を無効にする必要があります。
- TPM** 対応システムでは、**Infineon Driver version 2.00** 以降が必要です。

ファイアウォールの設定

HPCAS は、管理対象デバイスとの通信に、複数の **TCP** ポートを使用します。企業または個人向けのファイアウォールソフトウェアを使用している場合、これらのポートを除外する必要があります。

ターゲット デバイス

ターゲット クライアント デバイスに個人向けファイアウォールがインストールされている場合、受信トラフィックに対して次のポートを除外します。

- TCP 3463**

次のポートを除外して、管理エージェントのリモート配布を可能にします。

- TCP 139 および 445
- UDP 137 および 138

Windows ファイアウォールのユーザーは、ファイルとプリンタの共有を選択し、これらのポートを除外できます。

さらに、次のプログラム ファイルをファイアウォールから除外する必要があります。C:\Program Files\Hewlett-Packard\CM\Agent の中:

- RadUIShell.exe
- Radexecd.exe
- nvdkit.exe

C:\Program Files\Hewlett-Packard\CM\ManagementAgent の中:

- nvdkit.exe

HPCAS サーバー

企業ファイアウォールがインストールされている場合、次のポートをサーバー上の TCP トラフィックについて除外する必要があります。

3460、3464、3465、3466、3467、3468、3469、3470 および 3480

SQL Server

SQL Server が HPCAS サーバーとは別のサーバーにインストールされている場合は、ファイアウォール ルールを追加して、HPCAS サーバーから SQL Server への通信を有効にする必要がある可能性があります。

SQL Server 用に必要なポートをオープンする方法については、次の Microsoft サポート技術情報の記事を参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/841251>

インフラストラクチャ サーバー

使用するインフラストラクチャ サーバーのいずれかでファイアウォールが有効になっている場合は、次のポートを除外する必要があります。ご使用の環境に含まれるインフラストラクチャ サーバーの管理については、142 ページの「[インフラストラクチャ管理](#)」を参照してください。

- TCP 3463、139、445、および 3467
- UDP 137 および 138

Windows ファイアウォールのユーザーは、ファイルとプリンタの共有を選択し、TCP ポート 139 と 445、および UDP ポート 137 と 138 を除外できます。

Sygate ファイアウォールの設定

Windows XP シン クライアント デバイスには、Sygate ファイアウォールがプレインストールされています。30 ページの「[ターゲット デバイス](#)」で説明されている設定に加えて、HPCAS が動作するように Sygate を設定する必要があります。

- 1 管理者として Windows XP へログオンします。
- 2 システム トレイの Sygate アイコンを右クリックして、**[Advanced Rules]** を選択します。
- 3 [一般] タブで
 - 説明 **[Allow HPCAS All]** を追加します。
 - **[Allow this traffic]** を選択します。
- 4 [アプリケーション] タブで、ブラウズ ボタンを使用して、C:\Program Files\Hewlett-Packard\CM\Agent から次のアプリケーションを追加します。
 - Nvdkit
 - Radconct
 - Radpinit
 - Radexecd
 - Radstgrq
- 5 各項目の隣のチェック マークで、各項目が選択されていることを確認します。
- 6 **[OK]** をクリックして、新しいルールを保存します。
- 7 **[OK]** をクリックして終了します。
- 8 システム トレイの **[Enhanced Write Filter (EWF)]** アイコンを右クリックして、**[コミット]** を選択します。再起動するようという指示が表示されます。これで、変更がフラッシュ メモリに書き込まれます。

VMware の要件

HPCAS をテスト目的で VMware 環境にインストールする場合、次の要件を満たす必要があります。

- VMware バージョン 6.02 以降
- 1.5 GB のメモリーの割り当て
- 8 GB HDD の領域の割り当て（移行には追加の領域が必要になる可能性があります）
- ホスト OS: Windows 2000 または 2003 Server
- ゲスト OS: Windows 2000 または 2003 Server
- ホスト システム: VMware が必要に応じてアフィニティを 1 つに設定できるようなデュアル プロセッサ（最低 2 GHz CPU）
- HPCAS サーバーの追加要件については、上記の「システム要件」を参照してください。

▶ VMware 環境にインストールされている HPCAS は、テストまたは評価目的でのみ使用してください。

▶ HPCAS を Windows XP ホスト オペレーティング システムを使用する VMware 環境にインストールする場合、インストールがハングアップする可能性があります。VMware の詳細オプションの [アクセラレーション] を無効化することで、インストールが続行できる可能性があります。インストールの完了後、[アクセラレーション] を再度有効化できます。

HPCAS のインストール

次のセクションでは、HPCAS のインストールと設定に必要な手順を説明します。手順 1 と 2 はこの順序で完了する必要があります。

- 1 インストール前 - データベースのセットアップ (33 ページ)
- 2 インストール (35 ページ)
- 3 Publisher のインストール (37 ページ)

タスク 1 インストール前 - データベースのセットアップ

HPCAS をインストールする前に、最初に SQL Server のデータベースをセットアップする必要があります。これには、HPCAS に使用する SQL Server に、付属のデータベース ファイル (CCMDB_Data.MDF) をアタッチします。

SQL Server 2000 を使用して HPCAS データベースをアタッチするには

- 1 HPCAS メディアから、Database フォルダを SQL Server がアクセスできる場所にコピーします。
- 2 SQL Server Enterprise Manager を開いて、目的の SQL Server の下（たとえば、ローカル）で **[データベース]** をクリックして強調表示します。
- 3 [ファイル] メニューから、**[アクション] → [すべてのタスク] → [データベースのアタッチ]** をクリックします。
- 4 コピーした Database フォルダに移動して、**CCMDB_Data.MDF** を選択します。

- データベースのアタッチメントを設定して、データベースのオーナー名を **sa**（または、データベース管理者が割り当てた適当な名前）とし、**CCMDB** としてアタッチします。



Windows 認証を使用している場合、データベースのオーナー名は **sa** 以外でもかまいません。

- SQL Server 名、admin ユーザーの ID およびパスワードが、HPCAS のインストールの間に必要となります。

SQL Server 2005 を使用して HPCAS データベースをアタッチするには

- 1 HPCAS メディアから、Database フォルダを SQL Server がアクセスできる場所にコピーします。
- 2 SQL Server Management Studio を開きます。 **[サーバーに接続]** ウィンドウが表示されます。
- 3 **[認証]** ボックスで、**[SQL Server 認証]** を選択し、**sa**（または、データベース管理者によって付けられた適切な名前）としてログインします。
- 4 **[接続]** をクリックします。
- 5 **[データベース]** を右クリックし、**[アタッチ]** を選択します。
- 6 **[追加]** をクリックし、コピーした Database フォルダに移動して、**CCMDB_Data.MDF** を選択します。

- データベースのアタッチメントを設定して、データベースのオーナー名を **sa**（または、データベース管理者が割り当てた適当な名前）とし、**CCMDB** としてアタッチします。



Windows 認証を使用している場合、データベースのオーナー名は **sa** 以外でもかまいません。

- SQL Server 名、admin ユーザーの ID およびパスワードが、HPCAS のインストールの間に必要となります。

これでデータベースがアタッチされました。次のセクションでは、HPCAS のインストールについて詳しく説明します。

タスク 2 インストール HPCAS

お使いの環境にある専用サーバーに HPCAS をインストールします。



HPCAS をインストールする前に、最初に SQL Server のデータベースをセットアップする必要があります。データベースのセットアップ手順は前のセクションを参照してください。

HPCAS をインストールするには

- 1 HPCAS メディアの **hpccm.exe** をダブルクリックします。[ようこそ] ウィンドウが表示されます。
- 2 **[次へ]** をクリックします。[エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。
- 3 ライセンス契約を読んで承諾し、**[次へ]** をクリックします。[ユーザー情報] ウィンドウが表示されます。
- 4 ユーザー情報およびライセンス ファイルの場所を入力して、**[次へ]** をクリックします。



ライセンス ファイルは、拡張子 .nvd を付ける必要があります。

[ODBC 接続の設定] ウィンドウが開きます。

- 5 HPCAS データベースへの ODBC DSN 接続を設定します。SQL Server のホスト名、ユーザー アカウント、およびユーザー パスワードを入力して、**[次へ]** をクリックします。[ターゲット ドライブ] ウィンドウが開きます。
- 6 ターゲットのインストール ドライブを選択して、**[次へ]** をクリックします。[プロキシ設定] ウィンドウが開きます。
- 7 インターネットにアクセスするのに、インターネット プロキシを使用する必要がある場合、**[はい]** をクリックして、[プロキシの詳細] と [高度なプロキシ設定] を表示します。使用しない場合、デフォルトの **[いいえ]** を承諾し、手順 10 を続けます。
- 8 必要な場合、必要な [プロキシの詳細] と [高度なプロキシ設定] に入力して、**[次へ]** をクリックします。[HPCAS サーバー ホスト名] ウィンドウが開きます。

- 9 このサーバーに接続しているクライアント コンピュータで使用される完全修飾ホスト名を入力します。



通常、このホスト名はネットワーク管理者により、たとえば HPCAS.acmecorp.com のように、スタティック DNS エントリとしてセットアップされます。これにより、クライアント コンピュータは、コンピュータ名や IP アドレスが変更された場合でも、HPCAS サーバーへのアクセスを続けることができます。

- 10 **[次へ]** をクリックします。[アプリケーションをインストールする準備ができました] ウィンドウが表示されます。
- 11 インストール設定を変更する場合は、**[戻る]** をクリックします。インストールの準備ができたなら、**[次へ]** をクリックします。
- 12 HPCAS がインストールされます。**[閉じる]** をクリックして、アプリケーションを終了します。
- 13 Windows Vista イメージを、HPCAS によって取得および配布する場合、HPCAS サーバーに 2 つのユーティリティをコピーする必要があります。これらのユーティリティは Windows Vista メディアおよび WAIK (Windows Automated Installation Kit) のデフォルトのインストール ディレクトリにあります。WAIK は、Microsoft の Web サイトから入手可能です。これは、通常の Vista のインストールには含まれません。
- a C:\Novadigm\OSManagerServer\OSM\SOS\winpe\ に \utilities\Program ファイルを作成します。
 - b bootsect.exe を Windows Vista メディアの \boot から C:\Novadigm\OSManagerServer\OSM\SOS\winpe\utilities\Program Files\ にコピーします。
 - c imagex.exe を、C:\Program Files\Windows AIK\Tools\x86 から C:\Novadigm\OSManagerServer\OSM\SOS\winpe\utilities\Program Files\ にコピーします。

HPCAS コンソールの起動

HPCAS をローカルで起動する場合、**[HP Client Automation Console]** デスクトップ アイコンをダブルクリックします。

または、お使いの環境にある任意のデバイスから Web ブラウザを使用して、HPCAS コンソールにアクセスできます (Microsoft Internet Explorer 6 以上が必要です)。

- **http://HPCAShost:3480/ccm** に移動します。

ここで、*HPCAShost* は、HPCAS がインストールされているサーバーの名前です。

[ログイン] ページで、ユーザー名とパスワードを入力し、**[サインイン]** をクリックします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

- ▶ **Windows 2003 Server に関する注意** Windows 2003 Server をインストールしたデバイスで HPCAS へのローカルなアクセスができるようにするには、そのデバイスの [ローカル エリア ネットワーク (LAN) 設定] で **[ローカル アドレスにはプロキシ サーバーを使用しない]** をオンにする必要があります。
- ▶ [レポート] セクションのグラフィカル レポートを表示するには、Java Runtime または Java Virtual Machine が必要です。Java は <http://java.com/en/index.jsp> からインストールできます。

タスク 3 Publisher のインストール

ソフトウェアを HPCAS にパブリッシュ元となる場所に Publisher をインストールします。

製品 CD に含まれるインストール ファイルの他に、HPCAS ソフトウェア ライブラリでは、管理対象デバイスへの配布に Publisher サービス、**HP Client Automation Administrator Publisher** が使用できます。Publisher をインストールするには、次のセクションで説明している 2 つの方法のいずれかを使用します。

- インストール プログラムを使用して **Publisher** をインストールするには (37 ページ)
- **Software Publisher** サービスを使用して **Publisher** をインストールするには (38 ページ)

インストール プログラムを使用して Publisher をインストールするには

- 1 **Publisher** をインストールするデバイスで、HPCAS メディアの RadAdmin ディレクトリに移動し、**setup.exe** をダブルクリックします。

[ようこそ] ウィンドウが表示されます。

- ▶ **Publisher** は、HP Client Automation Administrator のコンポーネントです。HP Client Automation Enterprise の製品およびサービスに関する追加情報は、HP Web サイトを参照してください。

- 2 インストールを開始するには、**[次へ]** をクリックします。[エンドユーザーライセンス契約] ウィンドウが表示されます。
- 3 ライセンス契約を読んで承諾し、**[次へ]** をクリックします。
- 4 インストール ディレクトリを選択して、**[次へ]** をクリックします。
- 5 HPCAS サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。デフォルトのポート **3464** は変更しないでください。
- 6 **[次へ]** をクリックします。[アプリケーションをインストールする準備ができました] ウィンドウが表示されます。
- 7 **[インストール]** をクリックしてインストールを開始します。
- 8 インストールが完了したら、**[完了]** をクリックします。

Software Publisher サービスを使用して Publisher をインストールするには

- 1 管理エージェントを配布して、ターゲット デバイスを管理します。詳細は、58 ページの「[管理エージェントの配布](#)」を参照してください。
- 2 **Software Publisher** サービスに対するエンタイトルメントをデバイスに設定します。最初にグループにそのデバイスを追加してから、エンタイトルメントを割り当てます。詳細は、65 ページの「[グループ管理](#)」を参照してください。
- 3 HPCAS ソフトウェア ライブラリで利用可能な **HP Client Automation Administrator Publisher** サービスを配布します。ソフトウェア配布方法については、80 ページの「[ソフトウェア管理](#)」を参照してください。

配布してから、**Publisher** を使用して、ソフトウェアや HP Softpaq、BIOS 設定、OS イメージ サービスをパブリッシュできます。

Publisher へのアクセス

- [スタート] メニューを使用して **Publisher** にアクセスします。

[スタート] > [すべてのプログラム] > [HP Client Automation Administrator] > [HPCA Administrator Publisher]



HPCAS のユーザー名とパスワードを使用して、**Publisher** にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

Publisher に関する詳細は、217 ページの「[Publisher の使用](#)」、または **Publisher** のオンライン ヘルプを参照してください。

管理エージェントの手動インストール

通常、管理エージェントは、HPCAS コンソールを使用してターゲット デバイスに配布されます（詳細は、58 ページの「[管理エージェントの配布](#)」を参照してください）。ネットワークに常時接続されているとは限らないデバイスを管理するために、管理エージェントを手動でインストールします。HPCAS メディアには、個別のインストール ファイルが含まれています。

管理エージェントがインストールされた後、クライアント デバイスは HPCAS データベースに自動的に追加されます。

▶ 管理エージェントはシン クライアント デバイスには配布できないので、手動でインストールする必要があります。インストールの指示については、39 ページの「[シン クライアントでの 管理エージェントのインストール](#)」を参照してください。

管理エージェントを手動でインストールするには

- 1 コマンド ラインを使用して、HPCAS メディアの RadAgent ディレクトリに移動します。
- 2 **setup.cmd** *host* と入力します。この場合の *host* は HPCAS サーバーの IP アドレスまたはホスト名です。
- 3 **Enter** キーを押します。管理エージェントがインストールされ、デバイスは HPCAS を使用した管理の準備ができました。

シン クライアントでの 管理エージェントのインストール

ネットワークに常時接続されているとは限らないデバイスの他に、管理するシン クライアント デバイスにも管理エージェントを手動でインストールする必要があります。

Linux ベースのシン クライアント

HPCAS 管理エージェントのインストールには、/mnt ファイル システム上に最低 3 MB の空き領域が必要です。シン クライアント モデルおよび関連するイメージには、エージェントをインストールする十分な領域を持たないものがあります。現在のところ、32 MB のフラッシュ メモリしか持たないモデルでは、エージェントをローカルにインストールできません。後述の NFS 共有からの実行に

関する注意および OS の配布に **Local Service Boot (LSB)** を使用する際の制限を参照してください。

Linux ベースのシン クライアントに管理エージェントをインストールするには

- 1 ターゲットのシン クライアント デバイスに **root** としてログインします。
- 2 `/mnt/opt/OVCM` という名前の新しいディレクトリを作成します。
- 3 **HPCAS** メディアの `/ThinClient/Linux` ディレクトリにある `ThinClient.tar` の内容を `/mnt/opt/OVCM` にコピーします。

tar ファイルと展開された内容を両方とも格納する十分なディスク領域（約 **7 ～ 8 MB** の空き領域が必要）がないモデルもあるため、デバイスのモデルによっては、`/tmp` または別のマシンでこれらのファイルを展開する必要があります。展開した後は、`ThinClient.tar` を削除できます。

- 4 カレント ディレクトリを `/mnt/opt/OVCM` に変更して、次のように入力してインストールを実行します。

```
./install -i HPCAS_Server
```

この場合の **HPCAS_Server** は **HPCAS** サーバーのホスト名または **IP** アドレスです。

管理エージェントがインストールされます。



これらのデバイスでは出荷時に、**DNS** サーバーとの連絡や登録の機能が備えられていません。そのため、このデバイスには **ping** を実行できない場合があります。また、ファクトリー イメージに作成された **hosts** ファイルには、デフォルトのホスト名として `'localhost.localdomain'` が、またエイリアスとして（実際に）割り当てられたホスト名が使用されています。その結果、管理エージェントでは、デバイスが `localhost.localdomain` として登録されます。割り当てられたホスト名を反映するため、**hosts** ファイルでの順序を変更して、**127.0.0.1** エントリのリストの最初に、割り当てられたホスト名を移動できます。



これらのデバイスの管理には、**BIOS** に有効なシリアル番号とマシン **UUID** が含まれている必要があります（アセット タグの設定も推奨します）。これらの設定を行わないと、**OS** の配布が正しく実行されない場合があります。

NFS 共有からのエージェントの実行

32 MB のフラッシュ メモリしかないモデルを使用している場合、管理エージェントをローカルにインストールできません。また、OS イメージを配布するための [ローカル サービスの起動] オプションは使用できないので、そのためには PXE を使用する必要があります。

NFS 共有からリモートにエージェントを実行するには

- 1 インストール スクリプトを更新して、**MEDIA_RAM_ROOT** および **INFRA_MEDIA_ROOT** 変数が NFS ディレクトリを指すように変更します。
- 2 ディレクトリ /mnt/opt/OVCM を作成し、インストール スクリプトをこの場所に置き、インストール パッケージの残りの部分 (thinclient.tar) を NFS ディレクトリに置きます。
- 3 上の手順 4 で説明したようにインストールを実行します。

Linux ベースのシン クライアントから管理エージェントを削除するには

管理エージェントを削除するには、**uninstall** スクリプトを使用します。

- 1 デバイスに **root** としてログインします。
- 2 /tmp/OVCM/IDMSYS に移動します。
- 3 ./uninstall と入力して、**Enter** キーを押します。

管理エージェントが削除されます。

Windows XPe

Windows XPe に管理エージェントをインストールするには

- 1 Windows XPe シン クライアント デバイスから HPCAS メディアにアクセスします。
- 2 HPCAS メディアで、SystemDrive:\ThinClient\XPE に移動します。
- 3 **setup.exe** をダブルクリックします。
- 4 インストールの手順に従います。
- 5 IP アドレスとポート番号の入力を要求されたら、HPCAS サーバーの IP アドレスとポート番号を入力します。

管理エージェントがインストールされます。

Windows XP から管理エージェントを削除するには

Windows XP から管理エージェントを削除するには、インストール プログラム **setup.exe** を使用します。

- 1 **setup.exe** をダブルクリックします。
- 2 **[削除]** を選択します。
- 3 **[OK]** をクリックします。

管理エージェントが削除されます。

Windows CE

Windows CE に管理エージェントをインストールするには

- 1 Windows CE シン クライアント デバイスから HPCAS メディアにアクセスします。
- 2 HPCAS メディアで、SystemDrive:\ThinClient\WinCE に移動します。
- 3 **radskman.X86.CAB** をダブルクリックします。
- 4 HPCAS サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力して、**[OK]** をクリックします。

管理エージェントがインストールされます。

Windows CE から管理エージェントを削除するには

- Windows のコントロール パネル アプレット **[プログラムの追加と削除]** を使用して、管理エージェントを Windows CE から削除します。

HPCAS の削除

サーバーから HPCAS を削除するには、HPCAS インストール プログラムを使用します。

HPCAS を削除するために Windows コントロール パネル アプレット **[プログラムの追加と削除]** を使用する場合、一部のファイルやフォルダがサーバー上に残るので、ディレクトリ C:\Novadigm、および最初のインストール後に追加または変更されたファイルを手動で削除する必要があります。

サーバーから HPCAS を削除するには

- 1 HPCAS メディアの **hpccm.exe** をダブルクリックします。
- 2 **[削除]** を選択して **[OK]** をクリックします。

HPCAS がサーバーから削除されます。

OS 配布用の PXE の設定

PXE を使用して、オペレーティング システム イメージの配布を行う場合、次の手順を使用して、DHCP サーバーおよび TFTP サーバーを設定します。

▶ HPCAS は、TFTP サーバーおよび DHCP サーバーがお使いの環境にすでに存在することを前提としています。これらは、HPCAS メディアには含まれていません。

OS 配布用に PXE を設定するには

- DHCP サーバーが、ブート ファイル (DHCP オプション 067) および ブート サーバー (DHCP オプション 066) を使用するように設定します。
 - HPCAS で使用されるブート ファイルは `romb1.0` です。
 - ブート サーバーは、TFTP サーバーを実行している IP アドレスを指している必要があります。
- TFTP サーバーがブート ファイルを提供するように設定します。
 - HPCAS メディアの`¥OSManagement¥PXE¥` ディレクトリの内容を TFTP サーバーにコピーします。
 - 新しくコピーされた`¥linux.cfg` ディレクトリで、ファイルをデフォルトでお使いの HPCAS サーバーを参照するように編集します。この設定ファイルは、サーバーのホスト名ではなく IP アドレスを使用する必要があります。デフォルトの設定ファイルの例は次のとおりです。

```
[OS Manager]
DFLTSVOS=_SVC_LINUX_
ISVR=192.168.1.11:3469
[_SVC_LINUX_]
KERNEL=bzImage
```

```
APPEND=initrd=rootfs.gz root=/dev/ram0 rw quiet pci=nommconf  
vga=0x311 splash=silent  
[_SVC_PEX86_]
PEBCD=rombl.bcd
PEAPPEND=initrd=winpe.wim
```

上の例では、HPCAS サーバーの IP アドレスは 192.168.1.11 であり、OS 管理用に使用されるポート番号は 3469 です。



PXE は DHCP ブロードキャスト、マルチキャスト、または UDP プロトコルを使用し、ブロードキャストを受信します。ブロードキャストトラフィックがサブネット間で制限されている場合、PXE サーバーを各サブネットに置き、ブロードキャストを有効にするか（これはオプションにない場合があります）、DHCP ヘルパー機能を使用して DHCP ブロードキャストトラフィックを通過させる必要があります。この状況は、標準の DHCP サーバーの状況と似ているので、ネットワーク管理者はおそらく十分に理解していると思われます。

PXE 業界標準に関する情報は、次を参照してください。
<ftp://download.intel.com/design/archives/wfm/downloads/pxespec.pdf>

3 はじめに

HPCAS のインストールと設定が完了し、Web ベースのコンソールを使用して、Windows クライアント環境の管理を始める準備ができました。次のセクションでは、HPCAS の使用を始め、開始する必要がある重要なタスクを紹介します。

- ログイン (45 ページ)
- クイック スタート タスク (46 ページ)

ログイン

デスクトップ アイコンを使用して、または HPCAS サーバーへのネットワーク アクセスが可能な環境で任意のデバイスからブラウザを使用して、HPCAS にアクセスします。

- **http://HPCAShost:3480/ccm** に移動します。ここで、HPCAShost は、HPCAS がインストールされているサーバーの名前です。

[ログイン] ページで、ユーザー名とパスワードを入力し、**[サインイン]** をクリックします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

パスワードの変更方法やユーザーの追加方法は、137 ページの「**設定**」を参照してください。

▶ ウィザードを実行したり通知を表示するときに、HPCAS コンソールが別のブラウザ インスタンスを開く場合があります。これらのウィザードや通知にアクセスするには、必ずブラウザのポップアップ ブロック設定で **[許可されたサイト]** に HPCAS を設定します。

▶ セキュリティのため、HPCAS は、20 分間操作を行わないと、自動的に現在のユーザーをログアウトさせます。その後、コンソールの使用を続けるには、再ログインする必要があります。

クイック スタート タスク

このセクションで説明するクイック スタート タスクを使用して、ただちに **Windows** クライアント環境の管理を始めます。



このセクションのいくつかのタスクは、**HP Client Automation Standard** が必要になります。

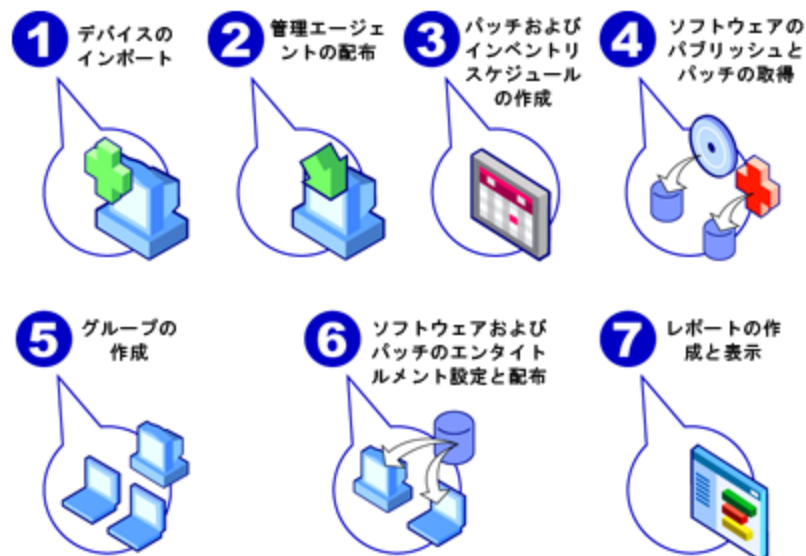
これらのタスクを完了すると以下のことが行えます。

- デバイスを **HPCAS** にインポートして、管理エージェントを配布することにより、デバイスを管理できます。
- インベントリやパッチ管理に必要なスケジュールを設定できます。
- ソフトウェアのパブリッシュやパッチの取得を開始する場所がわかります。
- デバイス グループを作成して、そのグループのデバイスにソフトウェアおよびパッチを配布できるようになります。
- お使いの環境内の全管理対象デバイスについてレポートを作成する場所がわかります。

以下のセクションでは、これらのタスクについて説明し、追加情報については関連セクションを紹介します。

- 1 デバイスのインポート (47 ページ)
- 2 管理エージェントの配布 (47 ページ)
- 3 スケジュールの設定 (48 ページ)
- 4 ソフトウェアのパブリッシュとパッチの取得 (49 ページ)
- 5 グループの作成 (50 ページ)
- 6 ソフトウェアまたはパッチのエンタイトルメント設定と配布 (50 ページ)
- 7 レポートの生成と表示 (51 ページ)

図 4 クイック スタート タスクの概要



タスク 1 デバイスのインポート

インベントリ情報を収集したり、ソフトウェアおよびパッチを配布するため、最初に、お使いの環境のデバイスを CCM に認識させるのに、HPCAS へデバイスをインポートする必要があります。

- [デバイス管理] の [一般] タブから、**[インポート]** をクリックして、**デバイス インポート ウィザード**を起動します。
- 170 ページのウィザードの手順に従って、デバイスをインポートします。

▶ ほとんどのタスクは、[現在のジョブ] タブおよび [過去のジョブ] タブまたは [ジョブ管理] セクションでモニタできるジョブを生成します。

デバイスがインポートされたら、ソフトウェア、パッチ、およびインベントリを管理するため、**管理エージェントの配布**を行います。

タスク 2 管理エージェントの配布

デバイスがインポートされたら、管理エージェントを配布します。

- [デバイス管理] の [一般] タブから、**[配布]** をクリックして、**エージェント配布ウィザード**を起動します。

- 171 ページのウィザードの手順に従って、インポートしたデバイスに管理エージェントを配布します。



管理エージェントを **Windows Vista** のデバイスに配布します。

ローカルに定義された管理者に対しては、**Windows Vista** デバイスの管理共有 (C\$) へのアクセスは無効にされています。このため、**Windows Vista** デバイスはドメインの一部である必要があり、そのドメインの管理者の資格情報は、**HPCAS** コンソールによる管理エージェントの配布の間に指定する必要があります。デバイスがドメインの一部でない場合、その他の手順ではローカルの管理者にアクセスを許可する必要があります。詳細な手順は、**Microsoft** のサポート **Web** サイト上の次のリンクを参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/947232/en-us>


これらの変更が終了したら、デバイスを再起動します。

デバイスの管理を開始したので、インベントリの収集、パッチの適用状況スキャン、およびパッチの取得の **スケジュールの設定**を行います。

タスク 3 スケジュールの設定

インベントリおよびパッチ取得のスケジュールを開始するには、[ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード] タブおよび [設定] タブを使用します。

インベントリ スケジュールを設定するには

- [デバイス管理] 領域の [デバイス] タブから、管理対象デバイスを選択します（または、グループ管理の [グループ] タブからグループを選択します）。
- **[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックして、[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索] を選択し、ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードを起動します。
- 173 ページのウィザードの手順に従って、ユーザーのデバイスとグループについてソフトウェアおよびハードウェアのインベントリ収集を定義します。

パッチ取得のスケジュールリングおよび設定を行うには


- [設定] タブの [パッチ管理] セクションを使用して、パッチ取得の設定およびスケジュールリングを行います。
- [スケジュール] タブを使用して、パッチ取得のスケジュールを入力します。

- [設定] タブを使用して、必要な **Windows** パッチおよび **HP Softpaq** 取得の設定を入力します。



HP Client Automation Standard では、**Microsoft** パッチ管理が使用できます。

パッチ適用状況探索スケジュールを設定するには

- [デバイス管理] 領域の [デバイス] タブから、管理対象デバイスを選択します。
- **[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[パッチ適用状況の探索]** を選択し、**パッチの適用状況探索ウィザード** を起動します。
- 174 ページのウィザードの手順に従って、該当するデバイスとグループに対するパッチ適用状況スケジュールを作成します。

スケジュールを設定したら、**ソフトウェアのパブリッシュ**と**パッチの取得**を行うことができます。

タスク 4 ソフトウェアのパブリッシュとパッチの取得

管理対象のデバイスにソフトウェアやパッチを配布する前に、ソフトウェア ライブラリおよびパッチ ライブラリにソフトウェアやパッチを格納する必要があります。

- **Publisher** を使用して、ソフトウェアを **HPCAS** データベースにパブリッシュします。
 - ソフトウェア サービスの設定およびパブリッシュを行う側のマシンで **Publisher** を起動します。詳細は、**Publisher** のオンライン ヘルプ または「[第 9 章、Publisher の使用](#)」を参照してください。



HP Client Automation Standard では、ソフトウェアおよびオペレーティング システムのパブリッシュができます。**HP Client Automation Starter** では、**HP Softpaq** および **BIOS** 設定のパブリッシュができます。また、ソフトウェアおよび **OS** イメージもパブリッシュできますが、シン クライアント デバイスに限られます。

- **HP** または **Microsoft** からパッチを取得して、パッチ ライブラリに格納します。
 - [管理] タブの [パッチ管理] セクションで、**[取得]** をクリックします。パッチがダウンロードされ、パッチ ライブラリに追加されます。**HPCAS**

は、前の手順「[スケジュールの設定](#)」で設定した取得スケジュールに従って、パッチを自動的にダウンロードします。



パフォーマンスの問題を避けるため、最初はパッチを、評価のため非プロダクション環境にある **HPCAS** サーバーに取得します。

各ライブラリでソフトウェアおよびパッチが利用可能になると、[グループの作成](#)を行い、配布用のソフトウェアおよびパッチのエンタイトルメントを設定します。

タスク 5 グループの作成

ソフトウェアまたはパッチを配布するには、ターゲット デバイスを含むグループを作成してから、ソフトウェアまたはパッチのエンタイトルメントをそのグループに設定します。

- [グループ管理] の [一般] タブから、**[新しいスタティック グループの作成]** をクリックします。[グループ作成ウィザード](#)が起動します。177 ページのウィザードの手順に従って、スタティック グループを作成します。
- **HPCAS** は、発見されたデバイス（探索グループ）または選択されたインベントリ条件（レポート グループ）に基づいて、動的なデバイス グループもサポートします。これらのグループは、グループ作成ウィザードを使用しても作成できます。詳細は、65 ページの [グループ管理](#)、および 121 ページの [レポート](#)を参照してください。

グループが作成されたら、そのグループのデバイスについて [ソフトウェアまたはパッチのエンタイトルメント設定と配布](#)を行います。

タスク 6 ソフトウェアまたはパッチのエンタイトルメント設定と配布



[グループ管理] セクションの [グループ] タブで、グループの説明をクリックして [グループの詳細] ウィンドウを開きます。ここから、ソフトウェアまたはパッチのエンタイトルメント設定および配布ができます。



ソフトウェアおよびパッチを配布するには、**HP Client Automation Standard** が必要です。**HP Client Automation Starter** では、BIOS 設定および **HP Softpaq** の配布ができます。

ソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布を行うには

- [[グループの詳細](#)] の [ソフトウェア] タブを使用して、ソフトウェアのエンタイトルメントを設定します。

- **[ソフトウェア エンタイトルメントの追加]**  ツールバー ボタンをクリックして、ソフトウェア サービスを選択し、そのグループで利用できるようにします。エンタイトルメントが設定されたソフトウェアは、[ソフトウェア] タブ リストに表示され、**Application Self-Service Manager** のエンド ユーザーが利用できますが、自動的に配布されることはありません。これにより、管理対象ソフトウェア カタログを作成でき、ユーザーは、いつどのオプションのソフトウェアを配布するかを決定できます。
- ソフトウェアを配布するには、配布するソフトウェアを選択して、**[ソフトウェアの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。**ソフトウェア配布ウィザード**が開きます。180 ページのウィザードの手順に従って、そのグループのデバイスにソフトウェアを配布します。配布されたソフトウェアは、エンド ユーザーのデバイスに自動的にインストールされます。

パッチのエンタイトルメント設定および配布を行うには

- **[グループの詳細]**の [パッチ] タブを使用して、パッチのエンタイトルメント設定と配布を行います。
- **[パッチ エンタイトルメントの追加]**  ツールバー ボタンをクリックして、パッチを選択し、そのグループで利用できるようにします。エンタイトルメントを設定したパッチが、[パッチ] タブ リスト内に表示されます。
- パッチを配布するには、配布するパッチを選択して、**[パッチの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。**パッチ配布ウィザード**が開きます。183 ページのウィザードの手順に従って、そのグループのデバイスにパッチを配布します。
 - ▶ パッチの適用状況の強制は、**パッチ配布ウィザード**を使用して設定できます。
 - ▶ エンタイトルメントを設定したパッチは、**Application Self-Service Manager** カタログに表示されません。

HPCAS を使用して、ソフトウェアおよびパッチの配布を行いました。次の「**レポートの生成と表示**」(51 ページ)セクションの指示に従って、レポートの作成について学びます。


タスク 7 レポートの生成と表示

[レポート] タブを使用し、管理対象デバイスの情報に基づいて、レポートの生成と表示を行います。

- デバイス レポートを生成するには、121 ページの「[レポート](#)」の指示に従います。

手早くレポートの例を生成するには、**[インベントリ情報]** 領域の **[管理対象デバイスを表示]** をクリックして、管理エージェントがインストールされている全デバイスのリストを表示します。

デバイスのリストが作成されると、左のオプションを使用して、またはデバイス カラムの詳細のいずれかをクリックして、追加のフィルタを適用できます。

レポートが生成されると、**[新しいダイナミック レポート グループの作成]**  ツールバー ボタンをクリックして、そのレポートにデバイスのダイナミック グループを作成します。[グループ作成ウィザード](#)が起動します。177 ページのウィザードの手順に従って、レポート グループを作成します。

4 管理

[管理] タブには、環境を管理するのに使用するツールが備えられています。次のセクションでは、ユーザーがコントロールできる管理領域について説明します:

- [デバイス管理](#) (54 ページ)
- [グループ管理](#) (65 ページ)
- [ソフトウェア管理](#) (80 ページ)
- [パッチ管理](#) (89 ページ)
- [OS 管理](#) (100 ページ)
- [ジョブ管理](#) (114 ページ)

デバイス管理

[デバイス管理] セクションを使用して、デバイスのインポート、管理エージェントの配布、インベントリの探索、パッチの管理、デバイスの電源オプションの管理、デバイスのリモート コントロール、アプリケーション利用状況の収集、および全管理対象デバイスに基づいたレポートの表示ができます。

デバイス管理のタブについては、以下のセクションで説明しています。

- [一般](#) (54 ページ)
- [デバイス](#) (55 ページ)
- [現在のジョブ](#) (64 ページ)
- [過去のジョブ](#) (64 ページ)

一般

[一般] タブを使用して、デバイスの追加、管理エージェントの配布、現在および過去のエージェント配布ジョブの表示、および管理対象デバイスに関するレポートの表示ができます。

ワークスペースの [要約] セクションには、データベース内のデバイスの数、管理対象デバイス（管理エージェントがインストールされているデバイス）の数、および現在のジョブの合計数が表示されます。

デバイスをインポートするには

- [共通のタスク] 領域で **[インポート]** をクリックします。[デバイス インポート ウィザード](#) が起動します。

170 ページのウィザードの手順に従って、新しいデバイスを HPCAS に追加します。

管理エージェントを配布するには

- [共通のタスク] 領域で **[配布]** をクリックします。[エージェント配布ウィザード](#) が起動します。

171 ページのウィザードの手順に従って、データベースにあるデバイスに管理エージェントを配布します。

- ▶ リモート デバイスに管理エージェントを配布するには、管理共有へのアクセスが必要です。**Windows XP** には簡易ファイルの共有（SFS）というセキュリティ機能が備えられており、これらの共有へのアクセスをブロックします。ワークグループの一部である **Windows XP** デバイスでは、SFS はデフォルトで有効になっています。また、**Active Directory** ドメインに参加するデバイスでは、SFS は自動的に無効となります。ターゲット デバイスが **Windows XP** を実行しており、**Active Directory** ドメインに参加していない場合、SFS をオフにして、管理エージェントのインストールを許可する必要があります。次の **Microsoft** サポート情報の記事は、SFS の設定方法に関して詳しく説明しています。

<http://support.microsoft.com/kb/304040/ja>

- ▶ 管理エージェントは、シン クライアント デバイスへリモートで配布できません。**HPCAS** メディアの¥ThinClient ディレクトリにあるインストールプログラムを使用して、手動でインストールする必要があります。
- ▶ 管理デバイスは、**Windows Vista** および **Windows Server 2008** デバイスには、サイレント モードでのみ配布されます。

デバイス

[デバイス] タブには、**HPCAS** にインポートされた全デバイスの表が表示されます。

- ▶ **HPCAS** がインストールされると、ホスト サーバーは自動的にデバイス リストに追加されます。このデバイス定義は、**HPCAS** が必要としており、削除できません。

新しくインポートされた（7 日以内にインポートされた）デバイスは、デバイス名の右に、カッコ付きの「新規作成」という単語「（**新規作成**）」が表示されるので識別できます。

- ▶ 管理エージェントが配布されるまでは、デバイス情報の一部しか利用できません。

[デバイス] ツールバーを使用して、デバイスのインポート、管理エージェントの配布または削除、インベントリの探索、パッチの管理、デバイスの電源オプションの管理、デバイスのリモート コントロール、アプリケーション使用状況の探索、およびデータベースからのデバイスの削除ができます。

デバイス リストのカラムの見出しをクリックして、ソート順を変更したり、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプしたりできます。










お使いの環境にあるコンピュータ名に 15 文字を超える名前がある場合、HPCAS を使用して管理エージェントの配布またはグループの作成を行うと、予期しない結果になる場合があります。コンピュータ名は 15 文字以下にすることを推奨します。詳細は、次の Microsoft サポート 情報記事を参照してください。



<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;188997>

デバイスのリストを絞り込むには、**[検索]** 機能を使用します。最初の検索ボックスには、常にコンソールの現在のセクションで利用可能なカラムの見出しが表示されます。2 番目のボックスには、クエリをカスタマイズするために使用する検索パラメータを指定します。

クエリ結果を表示すると、**[フィルタ結果]**  が、表の一番下に表示されます。

表 2 [デバイス] ツールバーのタスク

ツールバー ボタン	説明
	データのリフレッシュ — デバイス リストのリフレッシュ
	CSV にエクスポート — 開いたり保存したりできる、コンマ区切りのリストを作成します。
	管理対象デバイスのインポート — デバイス インポート ウィザードの起動
	管理エージェントの配布 — エージェント配布ウィザードの起動
	管理エージェントの削除 — エージェント削除ウィザードの起動
	インベントリの収集: ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索 — ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードの起動 パッチ適用状況の探索 — パッチの適用状況探索ウィザードの起動 アプリケーション利用状況の探索 — アプリケーション利用状況収集ウィザードの起動
	電源管理 — 電源管理ウィザードの起動


ツールバー ボタン	説明
	リモート制御 – [リモート制御] インターフェイス ウィンドウの起動
	デバイスの削除 – デバイス リストからのデバイスの削除 デバイス リストからデバイスを削除しても、デバイスのレポート データは削除されないことに注意してください。レポート データは、[設定] を使用して削除する必要があります。詳細は、167 ページの「メンテナンス」を参照してください。

次のタスクが [デバイス] タブから実行できます。

- デバイスのインポート (57 ページ)
- 管理エージェントの配布 (58 ページ)
- 管理エージェントの削除 (58 ページ)
- ソフトウェア／ハードウェア インベントリの探索 (59 ページ)
- パッチ適用状況の探索 (59 ページ)
- アプリケーション利用状況の探索 (59 ページ)
- リモート制御 (60 ページ)
- 電源管理 (61 ページ)
- デバイスの削除 (62 ページ)
- デバイスの詳細 (62 ページ)

デバイスのインポート

デバイス インポート ウィザードでは、名前または IP アドレスによるデバイスの手動インポートや、Active Directory または別の LDAP 準拠ディレクトリ内、あるいはネットワーク ドメインに含まれるデバイスの探索が行えます。

- HPCAS に 1 つ以上のデバイスをインポートするには、**[管理対象デバイスのインポート]**  ツールバー ボタンをクリックします。デバイス インポート ウィザードが起動します。

170 ページの「デバイス インポート ウィザード」の手順に従って、新しいデバイスを HPCAS に追加します。

[デバイス] タブからの管理エージェントの配布


エージェント配布ウィザードを使用して、管理エージェントをユーザー環境にあるデバイスに配布します。



管理エージェントを **Windows Vista** のデバイスに配布します。

ローカルに定義された管理者に対しては、**Windows Vista** デバイスの管理共有 (C\$) へのアクセスは無効にされています。このため、**Windows Vista** デバイスはドメインの一部である必要があり、そのドメインの管理者の資格情報は、**HPCAS** コンソールによる管理エージェントの配布の間に指定する必要があります。デバイスがドメインの一部でない場合、その他の手順を実行し、ローカルの管理者にアクセスを許可する必要があります。詳細は、**Microsoft** のサポート **Web** サイトを参照してください。


管理エージェントを配布するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、管理するデバイスを選択します。
- 2 **[管理エージェントの配布]**  ツールバー ボタンをクリックして、**エージェント配布ウィザード**を起動します。
- 3 171 ページの「**エージェント配布ウィザード**」の手順に従って、選択したデバイスに管理エージェントを配布します。

管理エージェントの削除

HPCAS データベースにあるデバイスから管理エージェントを削除するには、**エージェント削除ウィザード**を使用します。


管理エージェントを削除するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、エージェントを削除するデバイスを選択します。
- 2 **[管理エージェントの削除]**  ツールバー ボタンをクリックして、**エージェント削除ウィザード**を起動します。
- 3 172 ページの「**エージェント削除ウィザード**」の手順に従って、選択したデバイスから管理エージェントを削除します。

ソフトウェア／ハードウェア インベントリの探索

ソフトウェア／ハードウェア インベントリ ウィザードを使用して、HPCAS データベースにあるデバイスに関するインベントリを探索します。


ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、インベントリを探索するデバイスを選択します。
- 2 **[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[ソフトウェア／ハードウェア インベントリの探索]** を選択し、**ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード** を起動します。
- 3 173 ページの「ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード」の手順に従って、選択したデバイスについてインベントリを探索します。

パッチ適用状況の探索

パッチ適用状況探索ウィザードを使用して、HPCAS データベースにあるデバイスに対する適用状況を探索します。

パッチ適用状況の探索と強制を行うには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにしてパッチ適用状況探索の対象とするデバイスを選択します。
- 2 **[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[パッチ適用状況の探索]** を選択し、**パッチの適用状況探索ウィザード** を起動します。
- 3 174 ページの **パッチの適用状況探索ウィザード** の手順に従って、選択したデバイスについてパッチ適用状況を探索します。
- 4 **[レポート]** タブを使用して、選択したデバイスに関するパッチ適用状況レポートを表示します。

アプリケーション利用状況の探索

アプリケーション利用状況収集ウィザードを使用して、HPCAS データベース内のデバイスについてアプリケーション利用状況を探索します。ウィザードは、収集エージェントをインストールします。収集エージェントは、作成し有効にしたフィルタが指定する利用状況のデータを返します。さらに、必要な場合には、プライバシーを確保するため、利用状況データを難読化できます。詳細は、160 ページの [設定] タブの「**レポート**」セクションを参照してください。

利用状況データは、個々のデバイスに対して 1 度だけ返されます。利用状況データを反復して収集できるのは、グループに対してだけです。グループに対する利用状況データの収集は、71 ページの「[グループに対するアプリケーション利用状況データの探索](#)」を参照してください。

▶ アプリケーション利用状況データを収集するには、HP Client Automation Standard が必要です。

アプリケーション利用状況を探るには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにしてアプリケーション利用状況探索の対象とするデバイスを選択します。
- 2 **[インベントリの収集]** ツールバー ボタンをクリックして、**[アプリケーション利用状況の探索]** を選択し、[アプリケーション利用状況収集ウィザード](#)を起動します。
- 3 174 ページの [アプリケーション利用状況収集ウィザード](#)の手順に従って、選択したデバイスについてアプリケーション利用状況を探ります。
- 4 **[レポート]** タブを使用して、選択したデバイスに関する利用状況レポートを表示します。

リモート制御

リモート制御を使用して、任意のデバイスとのリモート セッションを開始します。インターフェイスにより、RDP または VNC のいずれかをインストールし、有効にしているデバイスに接続できます。HPCAS は、VNC または RDP がリモート システムにインストールされているかどうかを、それぞれ、ポート 5800 および 3389 に接続することで検出します。いずれかのポートに接続されると、HPCAS では、これらのうちの 1 つがインストールされ実行中であるとみなし、このオプションを利用可能なリモート接続方式として表示します。

▶ VNC を使用するには、Internet Explorer 用の Sun Java プラグインをインストールする必要があります。Java をインストールするには、<http://java.com/en/index.jsp> を参照してください。

リモート セッションを開始するには

- 1 リストからデバイスを選択して、**[リモート制御]** ツールバー ボタンをクリックし、**[リモート制御]** インターフェイス ウィンドウを起動します。


- 2 利用可能なオプションからリモート制御方法を選択します。HPCAS によって検出されたプログラムのみが利用可能です。
 - **Windows リモート デスクトップ** — RDP(リモート デスクトップ プロトコル) は、Windows クライアント デバイスで利用可能なマルチチャンネル対応のプロトコルです。RDP を使用して、RDP が有効なデバイス (Windows XP など) にリモートで接続できます。HPCAS は、リモート デバイス上のポート **3389** に接続することでこのプログラムを検出します。
 - **VNC クライアント** — VNC (仮想ネットワーク コンピュータ) は、別のコンピュータをリモートで制御するのに使用されるデスクトップ共有システムです。VNC を使用して、VNC がインストールされ有効になっているクライアント デバイスにリモート接続します。
- 3 Windows リモート デスクトップを選択する場合、リモート セッション ウィンドウ用に **[解像度]** を選択する必要もあります。
- 4 **[接続]** をクリックします。リモート セッションが新しいウィンドウで開始されます。
- 5 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。
- 6 リモート セッションを終了したら、ウィンドウを閉じてデバイスとの接続を解除します。

▶ Windows リモート デスクトップを使用すると、**ActiveX** コントロールをインストールするように要求される場合があります。これは、Windows リモート デスクトップが適切に機能するのに必要です。また、ローカルデバイスに接続するようにも要求されます。これは必須ではありません。

▶ 管理対象デバイスにインストールしている **VNC Server** は、ポート **5800** で動作する **VNC Java** アプレットをサポートする必要があります。これを確認するには、ブラウザのウィンドウを開いて、「**http://hostname:5800**」と入力します。アプレットがインストールされている場合、ログイン ページが開きます。

電源管理

デバイスの電源をオンにしたり、オフにしたり、デバイスを再起動するには、電源管理ウィザードを使用します。


- 管理するデバイスを選択して、**[電源管理]**  ツールバー ボタンをクリックし、**電源管理ウィザード**を起動します。


175 ページの「電源管理ウィザード」の手順に従って、選択したデバイスに対して電源管理ジョブを作成します。

デバイスの削除

HPCAS データベースからデバイスを削除するには、[デバイス] ツールバーを使用します。

HPCAS からデバイスを削除するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、削除するデバイスを選択します。
- 2 **[デバイスの削除]**  ツールバー ボタンをクリックして、HPCAS からデバイスを削除します。

 デバイス リストからデバイスを削除しても、デバイスのレポート データは削除されないことに注意してください。レポート データは、[設定] を使用して削除する必要があります。詳細は、167 ページの「メンテナンス」を参照してください。

デバイスの詳細

[デバイス] タブでデバイス名をクリックすると、[デバイスの詳細] ウィンドウが開きます。[デバイスの詳細] ウィンドウには、選択したデバイスに基づく設定モデルが表示されます。

[デバイスの詳細] ウィンドウを使用して、以下を行います。

- デバイスのプロパティの表示
- デバイス グループのメンバーシップの表示と変更
- エンタイトルメントの表示
- レポートの要約の表示
- 管理エージェントの配布
- デバイス管理ジョブの作成

以下の領域が、[デバイスの詳細] ウィンドウから利用できます。

一般

[一般] タブは、デバイスに利用可能な共通のタスクを表示します。その他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックします。

プロパティ

[プロパティ] タブには、デバイス名、オペレーティング システム、シリアル番号、IP アドレス、エージェントのステータス、前回ログオン ユーザー、および作成日と変更日などの情報が表示されます。管理エージェントが配布されるまでは、情報の一部しか利用できません。



前回ログオン ユーザーでは、コンソール ログイン経由でデバイスに最後にログオンしたユーザー アカウントがレポートされます。複数のユーザーがログオンしている場合は、最後にログオンしたユーザーのみが記録されます。前回ログオン ユーザーは、リモート デスクトップ接続のログインや、ログオン ユーザー間の切り替えでは更新されません。

[詳細プロパティ] セクションでは、トラブルシューティング時に役立つ可能性のあるその他のデバイス情報が利用可能です。この情報を表示するには、**[詳細プロパティ]** タイトル バーの右側にあるアイコンをクリックし、セクションを展開します。

グループ

[グループ] タブは、現在のデバイスが所属する全グループを表示します。

OS


[OS] タブは、デバイスのグループ メンバーシップに基づいて、デバイスにエンタイトルメントが設定されたオペレーティング システムをすべて表示します。付属のツールバーを使用して、OS イメージを配布します。

ソフトウェア

[ソフトウェア] タブは、グループ メンバーシップに基づいて、エンタイトルメントが設定されたソフトウェアをすべて表示します。ツールバー ボタンを使用して、現在のデバイスにソフトウェアを配布したり、デバイスからソフトウェアを削除したりします。

パッチ

[パッチ] タブは、グループ メンバーシップに基づいて、エンタイトルメントが設定されたパッチをすべて表示します。ツールバーを使用して、現在のデバイスへパッチを配布します。

 パッチは、配布されたら削除できません。

レポート

[レポート] タブには、表示しているデバイスに固有のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、メイン **HPCAS** コンソールの [[レポート](#)] タブを使用します。

現在のジョブ

[現在のジョブ] は、アクティブなデバイス管理ジョブまたはスケジュールされたデバイス管理ジョブをすべて表示します。デバイス管理ジョブは、個々のデバイスを対象とし、**HPCAS** データベースのデバイスに対して、管理エージェントの配布や削除、またはソフトウェアの管理に使用できます。


カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

[ジョブ コントロール](#) および [ジョブ ステータス](#) に関する情報は、[114 ページ](#)のジョブ管理の「[現在のジョブ](#)」セクションを参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ] は、完了したデバイス管理ジョブをすべて表示します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

 完了したジョブは完了の 1 分後に過去のジョブ リストに移動されます。

グループ管理

[グループ管理] セクションを使用して、デバイス グループの作成と管理を行います。デバイス グループの作成は、管理を容易にし、管理対象デバイスにソフトウェアおよびパッチを配布するのに必要です。

グループ管理のタブについては、以下のセクションで説明しています。

- [一般](#) (65 ページ)
- [グループ](#) (67 ページ)
- [現在のジョブ](#) (79 ページ)
- [過去のジョブ](#) (79 ページ)

一般

[一般] 領域を使用して、新しいグループの作成、既存のグループの管理、および現在および完了したグループ管理ジョブの表示を行います。

グループには、管理対象デバイスおよび管理対象ではないデバイスを含めることができます。

新しいスタティック グループを作成するには

- [共通のタスク] 領域で、**[新しいスタティック グループの作成]** をクリックします。[グループ作成ウィザード](#)が起動します。

177 ページの「[グループ作成ウィザード](#)」の手順に従って、ソフトウェアとパッチの配布用の新しいデバイス グループを作成します。

新しいダイナミック ディスカバリ グループを作成するには

- [共通のタスク] 領域で、**[新しいダイナミック ディスカバリ グループの作成]** をクリックします。[グループ作成ウィザード](#)が起動します。

177 ページの「[グループ作成ウィザード](#)」の手順に従って、新しいデバイス探索グループを作成します。

新しいダイナミック レポート グループを作成するには

- [レポート] タブを使用して、クエリを定義し、次に **[ダイナミック レポート グループの作成]** ツールバー ボタンをクリックして、[グループ作成ウィザード](#)を開始します。詳細は、136 ページの「[ダイナミック レポート グループの作成](#)」を参照してください。

次のセクション、66 ページの [グループ タイプ](#) では、HPCAS 内で利用可能なさまざまなタイプのグループについて説明します。

グループ タイプ

HPCAS は、デバイスの管理に以下のグループ タイプを使用します。

内部

内部グループは HPCAS が提供します。たとえば、全デバイス グループには、デフォルトではインポートされた全デバイスが含まれています。

スタティック

個々のデバイスを選択して、スタティック グループを作成します。スタティック グループにデバイスを追加したり、スタティック グループからデバイスを削除するには、[\[グループの詳細\]](#) ウィンドウを使用して、グループ メンバーシップを手動で変更する必要があります。

探索

探索グループには、グループ作成ウィザードの間に設定したパラメータに従って、外部ソース（LDAP、ネットワーク探索）に由来する、管理対象デバイスまたは管理対象でないデバイスの動的なリストが含まれています。探索されたデバイスは、自動的に HPCAS デバイス リストに追加されます。

レポート

レポート クエリで返されたデバイスのリストからレポート グループを作成します。レポート グループは、グループ管理ジョブを使用して、自動的に更新されます。詳細は、136 ページの「[ダイナミック レポート グループの作成](#)」を参照してください。


デフォルトでは、HPCAS には以下のレポート グループがあります。

- 全 Windows Vista デバイス
- 全 Windows XP Professional デバイス
- 全 Windows 2000 Professional デバイス
- 全 TPM 対応デバイス

これらのグループは、毎日更新され、ダイナミック グループの要件に合致した新しい管理対象デバイスが自動的に追加されます。









グループ

[グループ] タブには、作成された全グループが表示されます。新しく作成された（7 日以内に作成された）グループは、グループ名の右に、カッコ付きの新規作成という単語 "（新規作成）" が表示されます。

- グループに特有の情報を表示するには、グループの説明リンクをクリックします。
- グループ リストをソートするには、カラムの見出しをクリックします。
- グループ内のデバイスについてインベントリ、パッチ、および電源管理ジョブを作成するには、ツールバー ボタンを使用します。
- デバイスのリストを絞り込むには、**[検索]** 機能を使用します。最初の検索ボックスには、コンソールの現在のセクションで利用可能なカラムの見出しが表示されます。2 番目のボックスには、クエリをカスタマイズするために使用する検索パラメータを指定します。クエリ結果を表示すると、**[フィルタ結果]**  が、表の一番下に表示されます。

作成したグループは、デバイスのインベントリ、場所、または指定した他の条件に基づいて、どのデバイスがどのソフトウェアまたはパッチを受け取るかを判断できます。デバイスを追加する前に、必ずグループの作成を計画してください。

表 3 [グループ] ツールバーのタスク

ツールバー ボタン	説明
	リフレッシュ — グループ リストのリフレッシュ
	CSV にエクスポート — 開いたり保存したりできる、コンマ区切りのリストを作成します。
	新しいグループの作成 — グループ作成ウィザードの起動
	管理エージェントの配布 — エージェント配布ウィザードの起動
	管理エージェントの削除 — エージェント削除ウィザードの起動
	インベントリの収集 ソフトウェア／ハードウェア インベントリの探索 — ソフトウェア／ハードウェア インベントリ ウィザードの起動 パッチ適用状況の探索 — パッチの適用状況探索ウィザードの起動 アプリケーション利用状況の探索 — アプリケーション利用状況収集ウィザードの起動
	電源管理 — 電源管理ウィザード の起動
	グループの削除 — グループ リストからのグループの削除


以下のタスクが [グループ] タブから実行できます。

- [グループの作成](#) (69 ページ)
- [管理エージェントのグループへの配布](#) (69 ページ)
- [管理エージェントのグループからの削除](#) (70 ページ)
- [グループに対するソフトウェア／ハードウェア インベントリの探索](#) (70 ページ)
- [グループに対するパッチ適用状況の探索](#) (71 ページ)
- [グループに対するアプリケーション利用状況データの探索](#) (71 ページ)
- [電源管理](#) (72 ページ)
- [グループの削除](#) (72 ページ)
- [グループの詳細](#) (73 ページ)

- [グループの詳細] ウィンドウのタスク (75 ページ)
- スタティック グループでのデバイスの追加と削除 (76 ページ)
- グループでのソフトウェア エンタイトルメントの追加と削除 (76 ページ)
- グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期 (77 ページ)
- グループでのパッチ エンタイトルメントの追加と削除 (78 ページ)
- グループへのパッチの配布 (78 ページ)

グループの作成

スタティック グループを作成するには

- **[新しいグループの作成]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[新しいスタティック グループの作成]** を選択します。[グループ作成ウィザード](#)が起動します。グループは、管理対象デバイスおよび管理対象ではないデバイスの両方を作成できます。

177 ページの「[グループ作成ウィザード](#)」の手順に従って、ソフトウェアとパッチの配布用の新しいデバイス グループを作成します。

ダイナミック ディスカバリ グループを作成するには


- **[新しいグループの作成]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[新しいダイナミック ディスカバリ グループの作成]** を選択します。[グループ作成ウィザード](#)が起動します。

177 ページの「[グループ作成ウィザード](#)」の手順に従って、ソフトウェアとパッチの配布用の新しいデバイス グループを作成します。

管理エージェントのグループへの配布

エージェント配布ウィザードを使用して、エージェントをグループに配布します。

デバイスのグループに管理エージェントを配布するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、管理するグループ、または管理エージェントを配布するグループを選択します。
- 2 **[管理エージェントの配布]**  ツールバー ボタンをクリックして、[エージェント配布ウィザード](#)を起動します。

- 3 171 ページのウィザードの手順に従って、選択したグループに管理エージェントを配布します。



管理エージェントの配布には、デバイスの認証情報（管理者権限を持つユーザー名およびパスワード）が必要です。エージェントをグループに配布するには、そのグループ内の全デバイスが、同じ認証情報を共有している必要があります。




管理エージェントは、シンクライアント デバイスヘリモートで配布できません。HPCAS メディアの¥ThinClient ディレクトリにあるインストール プログラムを使用して、手動でインストールする必要があります。

管理エージェントのグループからの削除

エージェント削除ウィザードを使用して、デバイスのグループからエージェントを削除します。


デバイスのグループから管理エージェントを削除するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、エージェントを削除するグループを選択します。
- 2 **[管理エージェントの削除]**  ツールバー ボタンをクリックして、**エージェント削除ウィザード**を起動します。
- 3 172 ページの「**エージェント削除ウィザード**」の手順に従って、選択したグループ内の全デバイスから管理エージェントを削除します。

グループに対するソフトウェア／ハードウェア インベントリの探索

ソフトウェア／ハードウェア インベントリ ウィザードを使用して、デバイスのグループに対してインベントリを探索します。

デバイスのグループに対してソフトウェア／ハードウェア インベントリを探索するには


- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、インベントリを探索するグループを選択します。
- 2 **[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[ソフトウェア／ハードウェア インベントリの探索]** を選択し、**ソフトウェア／ハードウェア インベントリ ウィザード**を起動します。

- 3 173 ページの「ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード」の手順に従って、選択した各グループ内のデバイスについてインベントリを探索します。
- 4 [レポート] タブを使用して、選択したグループに関するインベントリ レポートを表示します。

グループに対するパッチ適用状況の探索

パッチ適用状況探索ウィザードを使用して、デバイスのグループに対してパッチ適用状況を探査します。

デバイスのグループに対してパッチ適用状況を探査するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、パッチ適用状況探索の対象とするグループを選択します。
- 2 [インベントリの収集]  ツールバー ボタンをクリックして、[パッチ適用状況の探索] を選択し、パッチの適用状況探索ウィザードを起動します。
- 3 174 ページの「パッチの適用状況探索ウィザード」の手順に従って、選択したグループ内のデバイスについてパッチ適用状況を探査し、強制します。
- 4 [レポート] タブを使用して、選択したグループに関するパッチ適用状況レポートを表示します。


グループに対するアプリケーション利用状況データの探索

アプリケーション利用状況収集ウィザードを使用して、HPCAS データベース内のデバイスについてアプリケーション利用状況を探査します。ウィザードは、収集エージェントをインストールします。収集エージェントは、作成し有効にしたフィルタが指定する利用状況のデータを返します。さらに、必要な場合には、プライバシーを確保するため、利用状況データを難読化できます。詳細は、160 ページの [設定] タブの「レポート」セクションを参照してください。




アプリケーション利用状況データを収集するには、HP Client Automation Standard が必要です。

アプリケーション利用状況を探るには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにしてアプリケーション利用状況探索の対象とするグループを選択します。
- 2 **[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[アプリケーション利用状況の探索]** を選択し、**アプリケーション利用状況収集ウィザード** を起動します。
- 3 174 ページの「**アプリケーション利用状況収集ウィザード**」の手順に従って、選択したデバイスについてアプリケーション利用状況を探ります。
- 4 **[レポート]** タブを使用して、選択したグループに関する利用状況レポートを表示します。

電源管理

デバイスの電源をオンにしたり、オフにしたり、デバイスを再起動するには、電源管理ウィザードを使用します。


- 管理するグループを選択して、**[電源管理]**  ツールバー ボタンをクリックし、**電源管理ウィザード** を起動します。

175 ページの「**電源管理ウィザード**」の手順に従って、選択したグループに対して電源管理ジョブを作成します。

グループの削除

[グループ] ツールバーを使用して、HPCAS からグループを削除します。

HPCAS からグループを削除するには

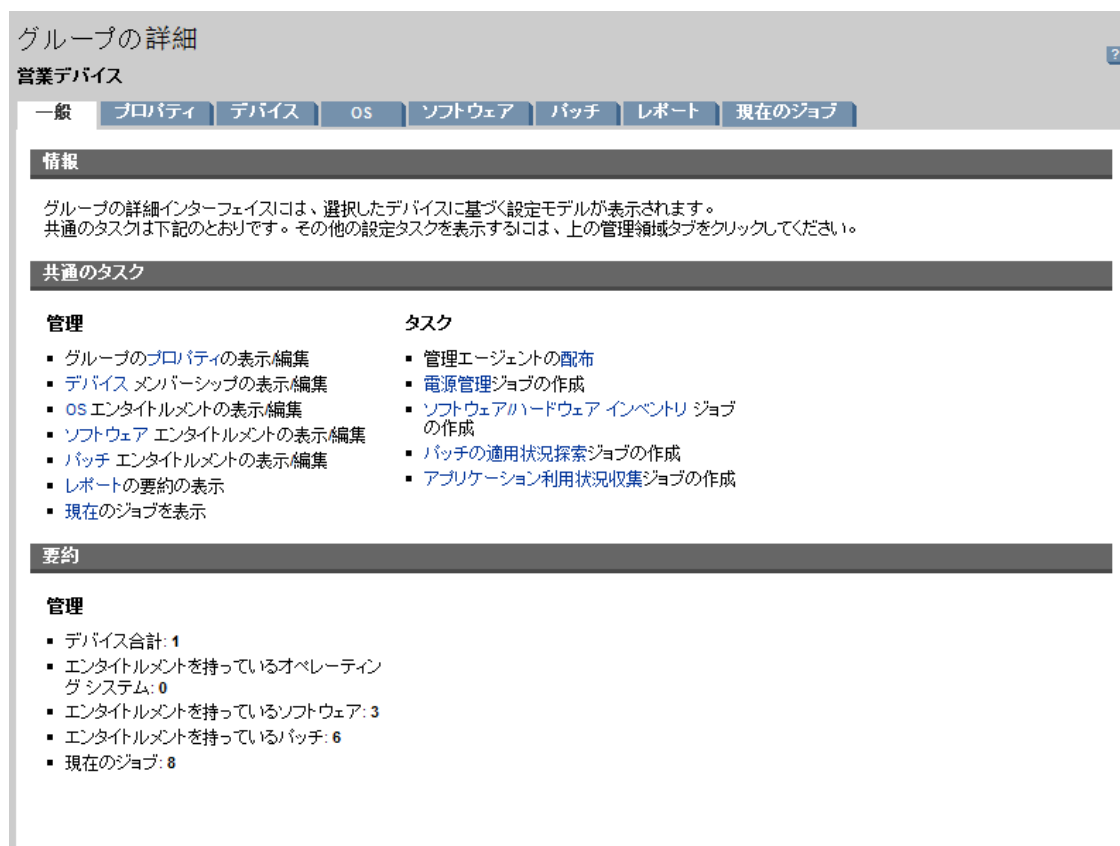
- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、削除するグループを選択します。
- 2 **[グループの削除]**  ツールバー ボタンをクリックして、HPCAS からグループを削除します。

グループの詳細

グループ名をクリックして、[グループの詳細] ウィンドウを開きます。このウィンドウには、選択したグループに基づく設定モデルが表示されます。

[グループの詳細] ウィンドウを使用して、グループのプロパティの表示、デバイスのメンバーシップの表示と変更、エンタイトルメントの表示または変更、レポートの要約の表示、またはグループ管理ジョブの作成を行います。次の領域が利用可能です。

図 5 [グループの詳細] ウィンドウ



一般

[一般] タブは、グループに利用可能な共通のタスクを表示します。その他の設定タスクにアクセスするには、他の管理領域タブをクリックします。

プロパティ

[プロパティ] タブでは、グループ タイプ、グループ名、および説明に加えて、ダイナミック グループ用のその他のプロパティが表示されます。

グループ タイプ

スタティック : [グループの詳細] の [デバイス] セクションを使用して、手動でデバイスのメンバーシップを更新します。

レポートおよび探索 : グループ メンバーシップを更新するには、[現在のジョブ] タブのジョブ制御を使用して、探索ジョブを実行します。

内部 : グループ メンバーシップは変更できません。

[保存] をクリックして、[グループ プロパティ] セクションに対する変更をコミットします。

ダイナミック レポート グループを表示する場合は、**[レポートのフィルタ条件]** セクションに元々グループを作成するのに使用された条件を表示できます。この情報は、読み取り専用です。条件を変更する場合は、ダイナミック レポート グループを新しく作成する必要があります。フィルタ条件は、反復スケジュール、または未実行の後ほど実行するスケジュールを持つグループに対してのみ表示可能であることに注意してください。一度のみ実行するスケジュールを持つグループに対しては、「フィルタ情報は利用できません」と表示されます。

ダイナミック探索グループを表示する場合は、**[探索のプロパティ]** セクションにダイナミック グループのプロパティを表示できます。

デバイス

[デバイス] タブに表示されたデバイスは、そのグループの現在のメンバーです。

- スタティック グループのデバイス メンバーシップは手動で編集する必要があります。
- [現在のジョブ] タブのジョブ コントロールを使用して、ダイナミック レポートまたは探索グループのメンバーシップ リフレッシュ スケジュールを変更します。

OS

[OS] タブに表示されたオペレーティング システムのイメージは、グループにエンタイトルメントが設定されています。ツールバー ボタンを使用して、グループ固有の OS エンタイトルメント設定および配布のタスクを完了します。

ソフトウェア

[ソフトウェア] タブに表示されたソフトウェアは、グループにエンタイトルメントが設定されています。ソフトウェア エンタイトルメントの追加または削除は、既存のデバイス メンバーすべておよび将来グループに追加されるデバイスに影響します。

ツールバー ボタンを使用して、エンタイトルメントの追加や削除、ソフトウェアの同期、またはグループのデバイスでのソフトウェアの配布や削除を行います。



ソフトウェア エンタイトルメントを削除しても、グループ内のデバイスからソフトウェアが自動的に削除されることはありません。ソフトウェアを削除するには、ターゲット デバイスを選択し、[ソフトウェアの削除] ボタンを使用します。ソフトウェアの削除後、エンタイトルメントを削除することで、そのソフトウェアを使用できないようにできます。

パッチ

[パッチ] タブには、グループに対してエンタイトルメントを持っているすべてのパッチが表示されます。

ツールバー ボタンを使用して、グループに対するパッチ エンタイトルメントの追加や削除、またはグループのデバイスへのパッチの配布を行います。



パッチは、配布された後、デバイスから削除できません。

レポート

[レポート] タブでは、グループ別のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、メイン **HPCAS** コンソールの [レポート] タブを使用します。

現在のジョブ

[現在のジョブ] タブには、そのグループについて現在アクティブなジョブ、またはスケジュールされているジョブがすべて表示されます。ツールバー ボタンを使用して、利用可能なジョブを管理します。

[グループの詳細] ウィンドウのタスク

[グループの詳細] ウィンドウを使用して、次のタスクを完了します。


- [スタティック グループでのデバイスの追加と削除 \(76 ページ\)](#)
- [グループでのソフトウェア エンタイトルメントの追加と削除 \(76 ページ\)](#)

- グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期 (77 ページ)
- グループでのパッチ エンタイトルメントの追加と削除 (78 ページ)
- グループへのパッチの配布 (78 ページ)


スタティック グループでのデバイスの追加と削除

[グループの詳細] ウィンドウを使用して、スタティック グループのメンバーシップを更新します。

スタティック グループにデバイスを追加するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 **[デバイスの追加]**  をクリックします。
- 3 開いたウィンドウで、グループに含めるデバイスを選択して、**[デバイスの追加]** をクリックします。


スタティック グループからデバイスを削除するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 そのグループから削除するデバイスを選択して、**[デバイスの削除]**  をクリックします。


グループでのソフトウェア エンタイトルメントの追加と削除

グループのデバイスに対してソフトウェアのエンタイトルメントを追加または削除するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。

グループにソフトウェアのエンタイトルメントを設定するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[ソフトウェア] タブをクリックします。
- 2 **[エンタイトルメントの追加]**  をクリックします。[ソフトウェア エンタイトルメント] ウィンドウが開きます。
- 3 グループにエンタイトルメントを設定するソフトウェアを選択して、**[エンタイトルメントの追加]** をクリックします。


グループからソフトウェアのエンタイトルメントを削除するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、**[ソフトウェア]** タブをクリックします。
- 2 グループから、エンタイトルメントの削除対象となるソフトウェアを選択して、**[エンタイトルメントの削除]**  をクリックします。


グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期

グループのデバイスに対してソフトウェアを配布、削除または同期するには、**[グループの詳細]** ウィンドウを使用します。


グループにソフトウェアを配布するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、**[ソフトウェア]** タブをクリックします。
- 2 配布するソフトウェアを選択して、**[ソフトウェアの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 グループ内の管理対象デバイスにソフトウェアを配布するには、180 ページの「ソフトウェア配布ウィザード」の手順に従います。

グループからソフトウェアを削除するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、**[ソフトウェア]** タブをクリックします。
- 2 グループ内の管理対象デバイスから削除するソフトウェアを選択して、**[ソフトウェアの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 グループ内の管理対象デバイスからソフトウェアを削除するには、185 ページの「ソフトウェア削除ウィザード」の手順に従います。


ソフトウェアを同期するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、**[ソフトウェア]** タブをクリックします。
- 2 **[ソフトウェアの同期]**  ツールバー ボタンをクリックして、を起動します。エンタイトルメントが設定された全ソフトウェアがグループのメンバーにインストールされ、新しいグループ メンバーはエンタイトルメントを設定したソフトウェアを受け取ります。
- 3 182 ページの「ソフトウェア同期ウィザード」の手順に従って、そのグループのソフトウェア同期スケジュールを設定します。

グループでのパッチ エンタイトルメントの追加と削除

グループのデバイスに対してパッチのエンタイトルメントを追加または削除するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。


グループに対しパッチのエンタイトルメントを設定するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[パッチ] タブをクリックします。
- 2 **[エンタイトルメントの追加]**  ツールバー ボタンをクリックします。[パッチ エンタイトルメント] ウィンドウが開きます。
- 3 グループにエンタイトルメントを設定するパッチを選択して、**[エンタイトルメントの追加]** をクリックします。



エンタイトルメントを設定していないパッチだけが、[パッチ エンタイトルメント] ウィンドウに表示されます。エンタイトルメントがすでに設定されたパッチは表示されません。


グループからパッチ エンタイトルメントを削除するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[パッチ] タブをクリックします。
- 2 グループから、エンタイトルメントの削除対象となるパッチを選択して、**[エンタイトルメントの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。

グループへのパッチの配布

グループのデバイスにパッチを配布するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。

グループにパッチを配布するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[パッチ] タブをクリックします。
- 2 配布するパッチを選択して、**[パッチの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。**パッチ配布ウィザード**が開始されます。
- 3 183 ページのウィザードの手順に従って、グループ内の管理対象デバイスにパッチを配布します。



パッチは、配布後はデバイスから削除できません。

現在のジョブ


[現在のジョブ] は、アクティブなグループ管理ジョブまたはスケジュールされたグループ管理ジョブをすべて表示します。グループ管理ジョブは、特定のグループを対象にし、そのグループのデバイスに配布されたソフトウェアの管理、および作成したダイナミック レポートまたは探索グループのデバイスのリフレッシュを行います。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

[ジョブ コントロール](#)および [ジョブ ステータス](#)に関する詳細は、114 ページの「[現在のジョブ](#)」を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ] は、完了したグループ管理ジョブをすべて表示します。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、ジョブの **ID** をクリックしてください。

 完了したジョブは完了の 1 分後に過去のジョブ リストに移動されます。

ソフトウェア管理

ソフトウェア サービスおよびソフトウェア管理ジョブを管理するには、[ソフトウェア管理] セクションを使用します。ソフトウェアは、管理対象デバイスのグループにエンタイトルメントが設定されてから、**HPCAS** を使用して管理者によって配布されるか、**Application Self-Service Manager** を使用してエンド ユーザーによってインストールされます。

ソフトウェア管理のタブについては、以下のセクションで説明しています。

- [一般](#) (80 ページ)
- [ソフトウェア](#) (81 ページ)
- [現在のジョブ](#) (89 ページ)
- [過去のジョブ](#) (89 ページ)



ソフトウェアを配布するには、**HP Client Automation Standard** が必要です。**HP Client Automation Starter** では、BIOS 設定および **HP Softpaq** の配布だけが可能です。

一般

[一般] タブを使用して、ソフトウェアのパブリッシュ、管理対象デバイスへのソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布、現在および過去のソフトウェア管理ジョブの表示、ソフトウェアの詳細およびレポートの要約の表示の方法を学びます。

[要約] セクションには、**HPCAS** データベースで現在利用可能なソフトウェアサービスの数および現在のソフトウェア管理ジョブの数が表示されます。

ソフトウェアをパブリッシュするには

- **Publisher** を使用して、ソフトウェアを **HPCAS** にパブリッシュします。パブリッシュされたソフトウェアは、[ソフトウェア](#) ライブラリに表示されます。

ソフトウェア サービスの選択および設定を行う側のマシンに **Publisher** をインストールします。インストールの指示については、37 ページの「[Publisher のインストール](#)」を参照してください。ソフトウェアを **HPCAS** にパブリッシュする方法の詳細は、第 9 章、「[Publisher の使用](#)」を参照してください。

ソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布を行うには

- 1 [共通のタスク] 領域で **[配布]** をクリックします。ソフトウェア配布ウィザードが起動します。
- 2 180 ページのウィザードの手順に従って、管理対象デバイスへソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布を行います。

ソフトウェア

[ソフトウェア] タブには、HPCAS にパブリッシュされたソフトウェアがすべて表示されます。

付属のツールを使用して、ソフトウェア データのリフレッシュ、管理対象デバイスへのソフトウェアの配布、またはライブラリからのソフトウェアの削除を行います。また、ソフトウェアをソフトウェア ライブラリからインポートしたり、ソフトウェア ライブラリへエクスポートしたりできます。

HPCAS には、デフォルトで以下のソフトウェア サービスがあります。

- **CCM_PUBLISHER** – HP Client Automation Administrator Publisher. Publisher の別のインストール方法。このサービスを使用して、ソフトウェアの取得およびパブリッシュ、OS イメージ、BIOS 設定、または HP Softpaq のパブリッシュを行う元のデバイスへ Publisher を配布します。
- **CCM_TPM_ENABLEMENT**– TPM Enablement. このサービスは、[設定] タブの [ハードウェア管理] セクションで設定した内容を使用して、互換性のある HP デバイスの TPM チップの使用および所有権を初期化します。設定オプションについては、159 ページの「**TPM の設定**」を参照してください。このサービスをインストールすると、以下のタスクが実行されます。
 - BIOS での TPM チップの有効化
 - 指定された BIOS 管理者パスワードの設定
 - TPM の所有権および所有者のパスワードのセットアップ
 - 緊急復旧トークンおよびパスの初期化
 - パスワード リセット トークンとパス、およびバックアップ アーカイブパスの設定

TPM Enablement サービスが配布された後、デバイスは、ユーザー レベルの初期化を実行できます（初期化は、エンド ユーザーが HP ProtectTools Security Manager インターフェイスを使用して行います）。










TPM セキュリティ チップを有効化および初期化するには、HP ProtectTools ソフトウェアをデバイスにインストールしておく必要があります。デバイス モデルによっては、このソフトウェアがブレイインストールされているものや、別途ソフトウェアをダウンロードまたは購入する必要があるものがあります。詳細は、ご使用のデバイス モデルの HP ドキュメントを参照してください。

- **CCM_SMM – Settings Migration Manager.** このサービスは、個々のデバイスのユーザー設定のバックアップおよび復元を可能にする、Settings Migration Manager Utility をインストールします。Settings Migration Manager の使用法の詳細は、255 ページの「[設定の移行](#)」を参照してください。



これらのデフォルトのサービスは、ソフトウェア ライブラリから削除できません。

表 4 [ソフトウェア] ツールバーのタスク

ツールバー ボタン	説明
	データのリフレッシュ – ソフトウェア ライブラリのリフレッシュ
	CSV にエクスポート – 開いたり保存したりできる、コンマ区切りのリストを作成します。
	ソフトウェアの配布 – ソフトウェア配布ウィザードの起動
	グループ エンタイトルメントの追加 – サービス エンタイトルメント ウィザードの起動
	サービスのインポート – サービス インポート ウィザードの起動
	サービスのエクスポート – サービス エクスポート ウィザードの起動
	ソフトウェアの削除 – ライブラリからのソフトウェアの削除

以下のタスクが [ソフトウェア] タブから実行できます。


- [ソフトウェアの配布](#) (83 ページ)
- [グループ エンタイトルメントの追加](#) (83 ページ)
- [サービスのインポート](#) (83 ページ)

- サービスのエクスポート (84 ページ)
- **HPCAS** からのソフトウェアの削除 (84 ページ)
- ソフトウェアの詳細 (85 ページ)

ソフトウェアの配布

ソフトウェア配布ウィザードを使用して、ソフトウェアをグループまたはデバイスに配布します。


ソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布を行うには

- 1 配布するソフトウェアを選択して、**[ソフトウェアの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。ソフトウェア配布ウィザードが起動します。
- 2 180 ページの「ソフトウェア配布ウィザード」の手順に従って、管理対象デバイスへソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布を行います。

グループ エンタイトルメントの追加

ライブラリで利用可能なソフトウェアは、デバイスのグループにエンタイトルメントを設定できます。

グループ エンタイトルメントを追加するには


- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、グループ エンタイトルメントを追加するソフトウェアを選択します。
- 2 **[グループ エンタイトルメントの追加]**  ツールバー ボタンをクリックして、サービス エンタイトルメント ウィザードを起動します。
- 3 184 ページの「サービス エンタイトルメント ウィザード」の手順に従って、ウィザードを使って選択するデバイスのグループに、選択したソフトウェアのエンタイトルメントを設定します。

サービスのインポート

HPCAS は、ソフトウェア サービスをソフトウェア ライブラリにインポートできます。サービスをインポートするには、サービス インポート デッキが、HPCAS サーバーの ChangeControl ディレクトリ内にある必要があります (デフォルトでは C:\¥Novadigm¥ChangeControl)。

テスト環境を構築してある場合に、サービスのインポートは便利です。テスト環境で特定のサービスを承認したら、プロダクション環境の **HPCAS** サーバーの ChangeControl ディレクトリにそのサービスをエクスポートします。次に、サービス インポート ウィザードを使用して、そのサービスをプロダクション環境のソフトウェア ライブラリにインポートして、ソフトウェアを管理対象デバイスに配布します。


サービスをインポートするには

- 1 **[サービスのインポート]**  ツールバー ボタンをクリックして、**サービス インポート ウィザード**を起動します。
- 2 181 ページのウィザードの手順に従って、サービスをソフトウェア ライブラリにインポートします。

サービスのエクスポート

パブリッシュされたソフトウェア サービスは、**HPCAS** サーバーの ChangeControl ディレクトリにエクスポートできます。エクスポートされたサービスは、（たとえば、テスト環境内の）他の **HPCAS** サーバー ライブラリへのインポートに利用できます。


サービスをエクスポートするには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、サービスとしてエクスポートするソフトウェアを選択します。
- 2 **[サービスのエクスポート]**  ツールバー ボタンをクリックして、**サービス エクスポート ウィザード**を起動します。
- 3 181 ページの「**サービス エクスポート ウィザード**」の手順に従って、そのサービスを **HPCAS** サーバー マシンのChangeControl ディレクトリにエクスポートします。

HPCAS からのソフトウェアの削除

HPCAS データベースからソフトウェアを削除するには、[ソフトウェア] ツールバーを使用します。

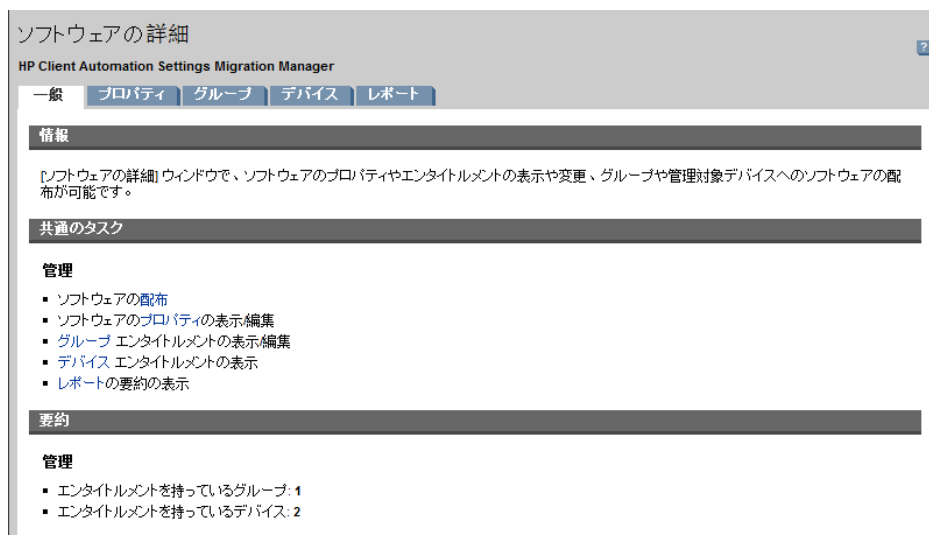
ソフトウェア ライブラリからソフトウェアを削除するには

- 1 削除するソフトウェアを選択します。
- 2 **[ソフトウェアの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。

ソフトウェアの詳細

ソフトウェア名をクリックして、[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開きます。
[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを使用して、ソフトウェア サービス プロパティの表示、エンタイトルメントの表示や変更、ソフトウェアの配布や削除、またはレポートの要約の表示を行います。

図 6 [ソフトウェアの詳細] ウィンドウ



一般

[一般] タブは、ソフトウェアに利用可能な共通のタスクを表示します。その他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックします。

プロパティ

[プロパティ] タブを使用して、カタログ グループや管理機能など、ソフトウェアの詳細を変更します。

- **説明**

ソフトウェアの詳細な説明を入力します。これは必須フィールドです。


- **ソフトウェア カテゴリ**
ソフトウェアのカテゴリを入力します。ソフトウェア カテゴリは、ソフトウェア ライブラリに表示され、ソート オプションとして利用できます。
- **カタログの表示**
管理対象デバイスのカタログにこのソフトウェアを表示するかどうかを選択します。カタログにソフトウェアを表示すると、エンド ユーザーは、そのソフトウェアをインストールまたは削除できます。
- **再起動の設定**
ソフトウェアがインストールされた後、管理対象デバイスを再起動するかどうか、およびエンド ユーザーに確認するかどうかを選択します。
- **作成者**
ソフトウェアの作成者（たとえば、Hewlett- Packard など）。
- **ベンダー**
ソフトウェアのベンダー（たとえば、Hewlett- Packard など）。
- **Web サイト**
ソフトウェアの Web サイト（たとえば、www.hp.com）。
- **インストール コマンド ライン**
ソフトウェアがデバイスに配布された後に実行するコマンド。
- **事前アンインストール コマンド ライン**
ソフトウェアがデバイスから削除される前に実行するコマンド。たとえば、ソフトウェア削除のコマンドを実行する前に、いくつかのレジストリ キーを削除する必要がある場合があります。
- **アンインストール コマンド ライン**
ソフトウェアがデバイスから削除された後に実行するコマンド。










ソフトウェアの詳細に変更を加えた後は、必ず **【保存】** をクリックしてください。

グループ







[グループ] タブには、選択されたソフトウェアについてエンタイトルメントが設定されているグループがすべて表示されます。ツールバー ボタンを使用して、各グループ内の管理対象デバイスにおけるソフトウェアのエンタイトルメントまたはインストール状態を変更します。

- 追加のグループにエンタイトルメントを設定するには、**【ソフトウェア エンタイトルメントの追加】**  ツールバー ボタンをクリックします。

- グループからエンタイトルメントを削除するには、**[ソフトウェア エンタイトルメントの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 特定のグループに、選択したソフトウェアを**配布**するには、グループを選択し、**[ソフトウェアの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。これにより、**ソフトウェア配布ウィザード**が起動します。180 ページのウィザードの手順に従って、選択したソフトウェアを配布します。
- 特定のグループからソフトウェアを**削除**するには、最初にグループを選択し、**[ソフトウェアの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。これにより、**ソフトウェア削除ウィザード**が起動します。185 ページのウィザードの手順に従って、グループ内の管理対象デバイスからソフトウェアを削除します。
- デバイスのグループのソフトウェアおよびハードウェアのインベントリを探索するには、最初にグループを選択して、**[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックし、**[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索]**を選択します。これにより、**ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード**が起動します。173 ページのウィザードの手順に従って、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索します。
- デバイスのグループのパッチ適用状況の探索と強制を行うには、グループを選択して、**[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックし、**[パッチ適用状況の探索と強制]**を選択します。これにより、**パッチの適用状況探索ウィザード**が起動します。174 ページのウィザードの手順に従って、パッチ適用状況の探索と強制を行います。
- デバイスのグループのアプリケーション利用状況の探索を行うには、グループを選択して、**[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックし、**[アプリケーション利用状況の探索]**を選択します。これにより、**アプリケーション利用状況収集ウィザード**が起動します。174 ページのウィザードの手順に従って、アプリケーション利用状況データを探索します。
- デバイスのグループの電源をオン、オフ、または再起動するには、グループを選択して、**[電源管理]**  ツールバー ボタンをクリックします。これにより、**電源管理ウィザード**が起動します。175 ページのウィザードの手順に従って、デバイスを管理します。

デバイス

[デバイス] タブには、選択されたソフトウェアについてエンタイトルメントが設定されているデバイスがすべて表示されます。リストの一番上のツールバーを使用して、特定のデバイスでソフトウェアを配布または削除します。

- 特定のデバイスに、選択したソフトウェアを**配布**するには、デバイスを選択し、**[ソフトウェアの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。これにより、**ソフトウェア配布ウィザード**が起動します。180 ページのウィザードの手順に従って、選択したソフトウェアを配布します。
- 特定のデバイスからソフトウェアを**削除**するには、最初にデバイスを選択し、**[ソフトウェアの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。これにより、**ソフトウェア削除ウィザード**が起動します。185 ページのウィザードの手順に従って、グループ内の管理対象デバイスからソフトウェアを削除します。
- デバイスのソフトウェアおよびハードウェアの**インベントリ**を探索するには、最初にデバイスを選択して、**[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックし、**[ソフトウェア／ハードウェア インベントリの探索]** を選択します。これにより、**ソフトウェア／ハードウェア インベントリ ウィザード**が起動します。173 ページのウィザードの手順に従って、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索します。
- デバイスの**パッチ適用状況の探索と強制**を行うには、デバイスを選択して、**[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックし、**[パッチ適用状況の探索と強制]** を選択します。これにより、**パッチの適用状況探索ウィザード**が起動します。174 ページのウィザードの手順に従って、パッチ適用状況の探索と強制を行います。
- デバイスの**アプリケーション利用状況の探索**を行うには、デバイスを選択して、**[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックし、**[アプリケーション利用状況の探索]** を選択します。これにより、**アプリケーション利用状況収集ウィザード**が起動します。174 ページのウィザードの手順に従って、アプリケーション利用状況データを探索します。
- デバイスの電源を**オン、オフ、または再起動**するには、デバイスを選択して、**[電源管理]**  ツールバー ボタンをクリックします。これにより、**電源管理ウィザード**が起動します。175 ページのウィザードの手順に従って、デバイスを管理します。

レポート

[レポート] タブには、表示しているソフトウェアに固有のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、メイン HPCAS コンソールの **[レポート]** タブを使用します。

現在のジョブ

[現在のジョブ] は、現在アクティブなソフトウェア管理ジョブまたはスケジュールされたソフトウェア管理ジョブをすべて表示します。**HPCAS** データベースの管理対象デバイスで、ソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布または削除するには、ソフトウェア管理ジョブが使用されます。


カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

[ジョブ コントロール](#)および [ジョブ ステータス](#)に関する詳細は、114 ページの「[現在のジョブ](#)」を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ] は、完了したソフトウェア管理ジョブをすべて表示します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更したり、表の一番上にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

 完了したジョブは完了の 1 分後に ([現在のジョブ] タブから) 過去のジョブ リストに移動されます。

パッチ管理

パッチ、HP Softpaq およびパッチ管理ジョブを管理するには、[パッチ管理] 領域を使用します。

取得したパッチと **HP Softpaq** は、管理対象デバイスのグループにエンタイトルメントが設定され、**HPCAS** を使用して、管理者によって配布されます。また、エンタイトルメントを設定したパッチと **Softpaq** は、設定した適用状況スケジュールに基づいて、自動的に配布されます。152 ページの「[パッチ管理 — 設定](#)」を参照してください。**Publisher** を使用してパブリッシュされた **Softpaq** は、ソフトウェア ライブラリに格納されています。一方、取得した **Softpaq** はパッチライブラリに格納されています。

パッチ管理のタブについては、以下のセクションで説明しています。

- [一般](#) (91 ページ)
- [パッチ](#) (92 ページ)

- [現在のジョブ](#) (99 ページ)
- [過去のジョブ](#) (99 ページ)

▶ Microsoft パッチ管理には、HP Client Automation Standard が必要です。

Microsoft Update Catalog : OS とサービス パックの最低要件

HPCAS のパッチ管理で利用する Microsoft Update Catalog および Windows Update テクノロジーに必要な OS とサービスパックの最低要件については、Microsoft の Web サイトを参照してください。このマニュアルを作成している時点で、サポートされる OS のバージョンおよび言語は、以下の Microsoft Update ホームページのリンクで確認できます。

<http://update.microsoft.com/microsoftupdate/v6/default.aspx>

▶ より新しいセキュリティ パッチをインストールするために、新しい Microsoft セキュリティ パッチが必要なので、エージェント マシンに Windows インストーラ バージョン 3.1 が必要です。Windows インストーラ 3.1 の詳細は、次の Microsoft による記事を参照してください。
<http://support.microsoft.com/kb/893803/en-us>

Microsoft 自動更新に関する重要な情報

自動更新は、Windows の機能で、必要なパッチをユーザーがスキャンできます。自動更新は、パッチのダウンロードおよびインストールも行えます。この機能では、現在、以下の設定オプションが使用できます。

- 1 更新を自動的にダウンロードするが、インストールは手動で実行する
- 2 更新を通知するのみで、自動的なダウンロードまたはインストールを実行しない
- 3 自動更新を無効にする

自動更新と HPCAS パッチ管理は、基本の Windows コンポーネント、Windows Update Agent (WUA) を使用してデバイスをスキャンし、更新をインストールします。WUA が別のパッチ管理製品によって使用中になる問題を回避するには、パッチ管理を使用するときに自動更新を以下のように設定して更新を配布およびインストールします。Microsoft は、この問題を修正する予定です。

▶ **【自動更新を無効にする】** オプションを使用することをお勧めします。

これらのオプションに関連する影響を理解してください。

自動更新を **[更新を通知するのみで、自動的なダウンロードまたはインストールを実行しない]** に設定する場合、エージェントが更新をスキャンおよびインストールしている間、ユーザーは自動更新のダウンロード プロセスを開始できません。自動更新プロセスが手動で開始されると、管理対象デバイスで更新のダウンロードとインストールに失敗することがあります。この動作はパッチ管理特有のものではありません。別のパッチ管理製品が WUA を使用しようとして、WUA がすでに使用中だった場合も同様です。このマニュアルを作成している時点で、関連する Microsoft サポート情報の記事は以下のとおりです。

- Microsoft KB 記事 910748、<http://support.microsoft.com/kb/910748>
- Microsoft KB 記事 931127、<http://support.microsoft.com/kb/931127>
- ウイルス スキャナをインストールして有効にしている場合は、「Microsoft KB 記事 922358」を参照してください。この記事では、ウイルス スキャンで%Windir%\SoftwareDistribution フォルダを除外する必要があることを説明しています。Microsoft のこのドキュメントは特定の Microsoft パッチ管理テクノロジーに言及していますが、Windows Update Agent の同じ制限事項が、Windows Update Agent テクノロジーを利用する HPCAS パッチ管理を使用している企業にも該当します。Microsoft KB 記事 922358、<http://support.microsoft.com/kb/922358> を確認してください。
- 自動更新を **[自動更新を無効にする]** に設定する場合、HPCAS は自動更新がサポートする製品をサポートしないので、使用可能な更新がまったく通知されないことがあります。

WUA は、Windows の自動更新サービスを使用します。これは、ターゲット デバイスで **[自動]** または **[手動]** に設定する必要があります。自動更新は、必要に応じて WUA によって起動されるまで停止状態です。

自動更新の詳細は、次の Microsoft の記事を参照してください。

「Windows XP での自動更新の構成方法および使用方法」このマニュアルを作成している時点で、URL は <http://support.microsoft.com/kb/306525/> です。

「Windows 2000 で自動更新を設定する方法と使用方法」このマニュアルを作成している時点で、URL は <http://support.microsoft.com/kb/327850/> です。

一般

[一般] タブを使用して、パッチの取得および配布、現在のおよび完了したパッチ管理ジョブの表示、およびパッチ適用状況の詳細とレポートの要約の表示を行います。

[要約] セクションでは、HPCAS データベースで現在利用可能なパッチの数および現在のパッチ管理ジョブの数が表示されます。

パッチおよび Softpaq は、[設定] セクションで入力した情報に基づいて、HP および Microsoft から取得します。詳細は、152 ページの「[パッチ管理 — 設定](#)」を参照してください。

パッチを取得するには

- 1 [共通のタスク] 領域で、**[取得]** をクリックします。
- 2 パッチがダウンロードされ、パッチ ライブラリに追加されます。HPCAS は、設定した取得スケジュールに従って、追加のパッチを自動的にダウンロードします。

パッチは、HPCAS コンソールからのみ管理対象デバイスに配布されます。パッチは、Application Self-Service Manager のソフトウェア カタログでは利用できません。




パッチを配布するには





- 1 [共通のタスク] 領域で、[パッチの**配布**] をクリックして、[パッチ配布ウィザード](#)を起動します。
- 2 183 ページのウィザードの手順に従って、選択されたグループのデバイスにパッチを配布します。

パッチ

パッチ ライブラリに示されたパッチは、管理対象デバイスに対してエンタイトルメントの設定や配布が可能です。ライブラリには、[設定] タブの [\[パッチ管理\]](#) セクションで設定した取得設定に基づいて取得された、パッチおよび Softpaq が格納されています。

表 5 [パッチ ライブラリ] ツールバーのタスク

ツールバー ボタン	説明
	データのリフレッシュ — パッチ ライブラリのリフレッシュ
	CSV にエクスポート — 開いたり保存したりできる、コンマ区切りのリストを作成します。
	パッチの配布 — パッチ配布ウィザード の起動

ツールバー ボタン	説明
	グループ エンタイトルメントの追加 — サービス エンタイトルメント ウィザードの起動
	サービスのインポート — サービス インポート ウィザードの起動
	サービスのエクスポート — サービス エクスポート ウィザードの起動
	パッチの削除 — パッチをライブラリから削除します。パッチが削除されると、そのパッチに対するすべてのエンタイトルメントも削除されます（デバイスからはパッチは削除されません）。


以下のタスクが [パッチ] タブから実行できます。

- [パッチの配布](#) (93 ページ)
- [グループ エンタイトルメントの追加](#) (94 ページ)
- [サービスのインポート](#) (94 ページ)
- [サービスのエクスポート](#) (95 ページ)
- [パッチの詳細](#) (95 ページ)

パッチの配布

パッチ ライブラリで利用可能なパッチは、管理対象デバイスに配布できます。


パッチを配布するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、配布用のパッチを選択します。
- 2 **[パッチの配布]**  ツールバー ボタンをクリックして、**パッチ配布ウィザード**を起動します。
- 3 183 ページのウィザードの手順に従って、管理対象デバイスに含まれるデバイスにパッチを配布します。

グループ エンタイトルメントの追加

パッチ ライブラリで利用可能なパッチは、デバイスのグループにエンタイトルメントを設定できます。エンタイトルメントにより、**パッチ配布ウィザード**で設定したスケジュールを使用して、パッチ適用状況を強制できます。

グループ エンタイトルメントを追加するには


- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、グループ エンタイトルメントを追加するパッチを選択します。
- 2 **[グループ エンタイトルメントの追加]**  ツールバー ボタンをクリックして、**サービス エンタイトルメント ウィザード**を起動します。
- 3 184 ページのウィザードの手順に従って、ウィザードを使って選択するデバイスのグループに、選択したパッチのエンタイトルメントを設定します。

サービスのインポート

HPCAS は、パッチ サービスをパッチ ライブラリにインポートできます。サービスをインポートするには、サービス インポート デッキが、HPCAS サーバーの ChangeControl ディレクトリ内にある必要があります（デフォルトでは C:\Novadigm\ChangeControl）。

テスト環境を構築してある場合に、サービスのインポートは便利です。テスト環境で特定のサービスを承認したら、プロダクション環境の HPCAS サーバーの ChangeControl ディレクトリにそのサービスをエクスポートします。次に、サービス インポート ウィザードを使用して、そのサービスをプロダクション パッチ ライブラリにインポートし、パッチを管理対象デバイスに配布します。


サービスをインポートするには

- 1 **[サービスのインポート]**  ツールバー ボタンをクリックして、**サービス インポート ウィザード**を起動します。
- 2 181 ページのウィザードの手順に従って、サービスをパッチ ライブラリにインポートします。

サービスのエクスポート

パブリッシュされたパッチ サービスは、HPCAS サーバーの ChangeControl ディレクトリにエクスポートできます。エクスポートされたサービスは、（たとえば、テスト環境内の）他の HPCAS サーバー ライブラリへのインポートに利用できます。

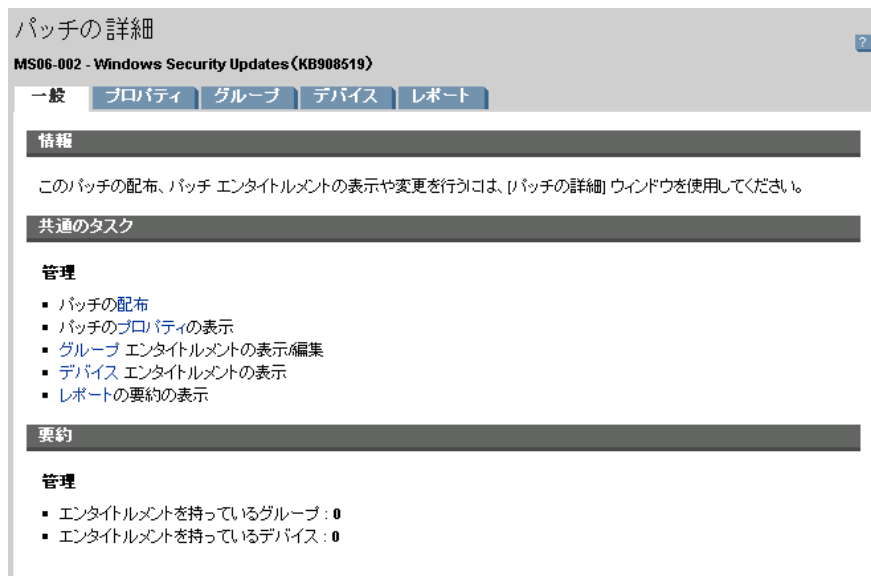
サービスをエクスポートするには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、サービスとしてエクスポートするパッチを選択します。
- 2 **[サービスのエクスポート]**  ツールバー ボタンをクリックして、**サービスエクスポート ウィザード**を起動します。
- 3 181 ページのウィザードの手順に従って、そのサービスを HPCAS サーバー マシンのChangeControl ディレクトリにエクスポートします。

パッチの詳細

パッチの説明をクリックして、[パッチの詳細] ウィンドウを開きます。[パッチの詳細] ウィンドウを使用して、パッチ サービスのプロパティの表示、エンタイトルメントの表示および変更、またはレポートの要約の表示を行います。次の領域が利用可能です。

図 7 [パッチの詳細] ウィンドウ



一般


[一般] タブは、そのパッチ サービスに利用可能な共通のタスクを表示します。その他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックします。







プロパティ

[プロパティ] タブには、ブリテン番号、ブリテンの説明とタイプ、公開日と改訂日、およびベンダー情報のリンクが表示されます。

グループ


[グループ] タブには、選択されたパッチについてエンタイトルメントが設定されているグループがすべて表示されます。ツールバー ボタンを使用して、各グループ内の管理対象デバイスでパッチのエンタイトルメントまたはインストール状態を変更します。

- 追加のグループにエンタイトルメントを設定するには、**[グループ エンタイトルメントの追加]**  ツールバーのボタンをクリックします。

- グループから**エンタイトルメント**を削除するには、**[グループ エンタイトルメントの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 特定のグループに、選択したパッチを**配布**するには、グループを選択し、**[パッチの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。これにより、**パッチ配布ウィザード**が起動します。183 ページのウィザードの手順に従って、選択したパッチを配布します。
- デバイスのグループのソフトウェアおよびハードウェアのインベントリを探索するには、最初にグループを選択して、**[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックし、**[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索]**を選択します。これにより、**ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード**が起動します。173 ページのウィザードの手順に従って、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索します。
- デバイスのグループのパッチ適用状況の探索と強制を行うには、グループを選択して、**[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックし、**[パッチ適用状況の探索と強制]**を選択します。これにより、**パッチの適用状況探索ウィザード**が起動します。174 ページのウィザードの手順に従って、パッチ適用状況の探索と強制を行います。
- デバイスのグループのアプリケーション利用状況の探索を行うには、グループを選択して、**[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックし、**[アプリケーション利用状況の探索]**を選択します。これにより、**アプリケーション利用状況収集ウィザード**が起動します。174 ページのウィザードの手順に従って、アプリケーション利用状況データを探索します。
- デバイスのグループの電源をオン、オフ、または再起動するには、グループを選択して、**[電源管理]**  ツールバー ボタンをクリックします。これにより、**電源管理ウィザード**が起動します。175 ページのウィザードの手順に従って、デバイスを管理します。

デバイス





[デバイス] タブに表示されるデバイスは、選択したパッチに対してエンタイトルメントが設定されています。ツールバー ボタンを使用して、特定のデバイスにパッチを配布します。

- 特定のデバイスに、選択したパッチを**配布**するには、デバイスを選択し、**[パッチの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。これにより、**パッチ**

配布ウィザードが起動します。183 ページのウィザードの手順に従って、選択したソフトウェアを配布します。



パッチは、配布されたら削除できません。

- デバイスのソフトウェアおよびハードウェアのインベントリを探索するには、最初にデバイスを選択して、**[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックし、**[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索]** を選択します。これにより、**ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード** が起動します。173 ページのウィザードの手順に従って、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索します。
- デバイスのパッチ適用状況の探索と強制を行うには、デバイスを選択して、**[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックし、**[パッチ適用状況の探索と強制]** を選択します。これにより、**パッチの適用状況探索ウィザード** が起動します。174 ページのウィザードの手順に従って、パッチ適用状況の探索と強制を行います。
- デバイスのアプリケーション利用状況の探索を行うには、デバイスを選択して、**[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックし、**[アプリケーション利用状況の探索]** を選択します。これにより、**アプリケーション利用状況収集ウィザード** が起動します。174 ページのウィザードの手順に従って、アプリケーション利用状況データを探索します。
- デバイスの電源をオン、オフ、または再起動するには、デバイスを選択して、**[電源管理]**  ツールバー ボタンをクリックします。これにより、**電源管理ウィザード** が起動します。175 ページのウィザードの手順に従って、デバイスを管理します。

レポート

[レポート] タブには、表示しているパッチに固有のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、メイン HPCAS コンソールの **[レポート]** タブを使用します。

現在のジョブ


お使いの環境内のデバイスにセキュリティ パッチを配布するため、パッチ管理ジョブが使用されます。[現在のジョブ] は、アクティブなまたはスケジュールされたジョブのリストを表示します。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックしてください。

ツールバーを使用して、現在スケジュールされているジョブまたはアクティブなジョブを管理します。

[ジョブ コントロール](#)および [ジョブ ステータス](#)に関する詳細は、114 ページの「[現在のジョブ](#)」を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ] は、完了したパッチ管理ジョブをすべて表示します。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックしてください。

 完了したジョブは完了の 1 分後に過去のジョブ リストに移動されます。

OS 管理

[OS 管理] セクションを使用して、クライアント デバイスが使用するオペレーティング システム (OS) を管理します。このセクションの領域で、OS の配布やサービスのインポートとエクスポート、エンタイトルメント設定などのタスクを実行できます。

次のセクションでは、OS 管理の各タブについて説明します。

- [一般](#) (100 ページ)
- [オペレーティング システム](#) (101 ページ)
- [現在のジョブ](#) (113 ページ)
- [過去のジョブ](#) (113 ページ)



OS 管理には、HP Client Automation Standard が必要です。

一般

[一般] タブを使用して、オペレーティング システムのパブリッシュに関する情報の検索、オペレーティング システムの管理対象デバイスへのエンタイトルメント設定および配布、現在および過去の OS 管理ジョブの表示、およびオペレーティング システムの詳細やレポートの要約の表示を行います。

[要約] セクションでは、HPCAS データベースで現在利用可能なオペレーティング システム サービスの数および現在の OS 管理ジョブの数が表示されます。

OS イメージを取得してパブリッシュするには

OS イメージが OS ライブラリで利用可能になるには、OS イメージを HPCAS にパブリッシュする必要があります。Image Preparation Wizard を使用して OS イメージを取得し、Publisher を使用して HPCAS へパブリッシュします。

- Image Preparation Wizard を使用して、OS イメージの準備と取得を行います。イメージの準備および取得の詳細は、191 ページの「[イメージの準備と取得](#)」、または Image Preparation Wizard のオンライン ヘルプを参照してください。
- オペレーティング システム イメージを HPCAS にパブリッシュするには、Publisher を使用します。パブリッシュされたオペレーティング システム サービスは、[オペレーティング システム] タブに表示されます。オペレーテ

イング システムのパブリッシュに関する詳細は、217 ページの「[Publisher の使用](#)」、または **Publisher** のオンライン ヘルプを参照してください。

OS イメージを配布するには

- 1 [共通のタスク] 領域で **[配布]** をクリックします。これで、**OS 配布ウィザード**が起動します。
- 2 186 ページのウィザードの手順に従って、管理対象デバイスへオペレーティング システムのエンタイトルメント設定および配布を行います。

ターゲット デバイスの要件や配布シナリオなど、オペレーティング システムの配布に関する詳細は、102 ページの「[オペレーティング システムの配布](#)」を参照してください。





オペレーティング システム




[オペレーティング システム] タブでは、**HPCAS** にパブリッシュされた利用可能なオペレーティング システムがすべて表示できます。

付属のツールを使用して、オペレーティング システム データのリフレッシュ、管理対象デバイスへのオペレーティング システムの配布、またはライブラリからのオペレーティング システムの削除を行います。また、オペレーティング システム サービスをオペレーティング システム ライブラリからインポートしたり、オペレーティング システム ライブラリへエクスポートしたりできます。

新しくパブリッシュされた（7 日以内にパブリッシュされた）サービスは、説明の右に、カッコ付きの 新規作成 という単語 " **(新規作成)** " が表示され、識別ができます。

表 6 [OS ライブラリ] ツールバーのタスク

ツールバー ボタン	説明
	データのリフレッシュ — OS ライブラリのリフレッシュ
	CSV にエクスポート — 開いたり保存したりできる、コンマ区切りのリストを作成します。
	オペレーティング システムの配布 — OS 配布ウィザードの起動
	グループ エンタイトルメントの追加 — サービス エンタイトルメント ウィザードの起動


ツールバー ボタン	説明
	サービスのインポート — サービス インポート ウィザードの起動
	サービスのエクスポート — サービス エクスポート ウィザードの起動
	オペレーティング システムの削除 — オペレーティング システムのライブラリからの削除

以下のタスクが [オペレーティング システム] タブから実行できます。

- オペレーティング システムの配布 (102 ページ)
- ローカル サービスの起動 (LSB : Local Service Boot) を使用した OS イメージの配布 (107 ページ)
- PXE を使用した OS イメージの配布 (107 ページ)
- サービス CD を使用した OS イメージの配布 (108 ページ)
- グループ エンタイトルメントの追加 (109 ページ)
- サービスのインポート (110 ページ)
- サービスのエクスポート (110 ページ)
- オペレーティング システムのライブラリからの削除 (110 ページ)
- OS の詳細 (111 ページ)

オペレーティング システムの配布

オペレーティング システムのエンタイトルメント設定および配布を行うには

- 1 配布するオペレーティング システムを選択して、**[オペレーティング システムの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。OS 配布ウィザードが起動します。
- 2 186 ページのウィザードの手順に従って、管理対象デバイスへオペレーティング システムのエンタイトルメント設定および配布を行います。

オペレーティング システムの配布には、有人モードと無人モードがあります。配布モードを選択するには、156 ページ、[設定] タブの **[OS 管理]** セクションを参照してください。

配布シナリオおよび OS 配布のターゲット デバイス要件は、以下のセクションを参照してください。

配布シナリオ

お使いの環境のデバイスへのオペレーティング システムの配布は、いくつかの要因により異なります。次の表は、複数の OS イメージ配布シナリオおよびデバイスにオペレーティング システムを配布する手順を説明しています。

表 7 OS 配布シナリオ

デバイスの状態	配布の手順
管理対象 (エージェントをインストール済み)	デバイスがすでに管理されている場合 <ul style="list-style-type: none">• デバイスをグループに追加• グループにオペレーティング システムのエンタイトルメントを設定 (エンタイトルメント設定がまだの場合)• OS 配布ウィザードを使用して OS を配布 注意： OS 配布プロセスの間に LSB を使用する場合、PXE やサービス CD の準備は必要ありません。
非管理対象 (エージェントが未インストール)	非管理対象デバイスに OS がインストールされている場合 <ul style="list-style-type: none">• デバイスに管理エージェントを配布• 上の管理対象デバイスに関する手順を参照 非管理対象デバイスに OS がインストールされていない場合 <ul style="list-style-type: none">• OS がインストールされていないデバイスへの OS の配布については、下の手順を参照

デバイスの状態	配布の手順
ベアメタル (OS が未インストール)	<p>(ハード ディスクの復旧など) デバイスが以前管理されていた場合</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ メンバーシップおよび OS エンタイトルメントがまだ有効です。PXE またはサービス CD を使用して OS を配布 <p>デバイスが以前管理されなかった場合</p> <ul style="list-style-type: none"> PXE またはサービス CD でデバイスを起動 MAC アドレスの変化をデバイス名として使用し、デバイスが HPCAS に追加される 新しいデバイスを OS エンタイトルメントを持つグループに追加 <p>注意 : OS が全デバイス グループにアタッチされている場合、OS は自動的にインストールされます。複数の OS が全デバイスにアタッチされている場合、インストールする OS を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> デバイスが再起動され、サービス CD または PXE が OS の配布を続けます。 <p>注意 : OS がインストールされていないデバイスへの OS の配布には、LSB は使用できません。</p>

ターゲット デバイスの要件

ターゲット デバイスは、オペレーティング システムをインストール、置き換え、または更新するワークステーションです。次の要件を満たす必要があります。

- Microsoft (Windows オペレーティング システムの場合) または HPCAS が配布する OS の実行に関して、マシンのメーカーにより公表されているハードウェアおよび BIOS の最低要件を満たす必要があります。
- ターゲット デバイスは、DHCP サーバーに接続し、IP アドレスを取得する必要があります。
- ポリシー用に、マシンのモデル、メーカーおよび一意の識別子のレポートを作成する場合、またはこれらを利用する場合、BIOS はシステム管理用の SMBIOS 仕様をサポートする必要があります。ターゲット デバイスが

SMBIOS をサポートしていない場合、そのマシンでポリシーを指定するのに利用できる基準は **MAC** アドレスだけです。

- 英語、フランス語、またはドイツ語のキーボードを使用している。
- **RAM** が **128 MB** 以上ある。
- ネットワーク (**PXE**) ブートを使用している場合、以下が必須です。
 - ブート サーバーから起動できる。このためには、ハード ディスクの前にネットワークから起動するように **BIOS** を設定しておく必要があります。
 - **PXE** をサポートするネットワーク インターフェイス カード (**NIC**) がある。ネットワーク カードには **PXE** 対応のものがありませんが、実際は、ネットワーク ブート **ROM** を追加した **PXE** をサポートするだけです。これらのカードに、ネットワーク ブート **ROM** が装備されている必要があります。以前の **3Com** カードには、ファームウェアの **MBA 4.3** へのアップグレードおよび **PXE** スタック バージョン **2.2** を必要とするものがありません。
 - **Microsoft Sysprep** を使用するには、ターゲット デバイスが、同じまたは互換性のある **HAL** (**Hardware Abstract Layer**) を参照マシンとして装備していることを確認します。**HAL.DLL** のバージョンが同じマシンは、同じ **HAL** を共有しています。マシンの **HAL** の決定に関する詳細は、次を参照してください。

<http://support.microsoft.com/?kbid=237556>

HAL.DLL をチェックできない場合、配布の成功を確認するため、テスト環境でターゲット マシンにイメージを配布することを検討してください。

- **IDE** または **SCSI** (**Adaptec** のみ) ブート ドライブ インターフェイスを装備している必要があります。
- 参照マシンの **ACPI** 特性 (**HAL** で表される **ACPI** と 非 **ACPI** など) とブート ドライブ インターフェイスが一致する。
- 参照マシンで取得された **HAL** に示されている、プログラム可能割り込みコントローラの特性と互換性がある (高度なプログラム可能割り込みコントローラ (**APIC**) **HAL** は **APIC** を持たないマシンでは動作しませんが、**PIC** (標準のオンボード プログラム可能割り込みコントローラ) **HAL** は、**APIC** を持つマシンで動作します)。比較的新しい **HP/Compaq** コンピュータは、多くの場合、**APIC** を備えています。
- **NTFS** および **FAT32** ファイル システムをサポート。
- **Windows XPe** および **CE** のイメージは、同等以上のサイズのフラッシュドライブを備えたターゲット マシンに配布できます。たとえば、**256 MB** の

イメージは、**256 MB** または **512 MB** のターゲット デバイスに配布できます。

- **Embedded Linux** のイメージは、サイズが同じフラッシュ ドライブを備えたターゲット マシンにしか配布できません。たとえば、**256 MB** のイメージは、**256 MB** のフラッシュ ドライブを装備したターゲット デバイスにしか配布できません。



OS イメージを配布すると、ターゲット デバイスのハード ディスクおよびパーティションの数によっては、既存のデータが上書きされます。次のシナリオは、イメージ配布プロセスで、影響を受けるパーティションと影響を受けないパーティションについて説明しています。

2 つのパーティションを持つ 1 台の HDD

- ブート パーティションにはイメージが配布されます。2 番目のパーティションは影響を受けません。

1 つのパーティションを持つ 1 台の HDD

- ハード ディスクにイメージが配布されます。既存のデータはすべて上書きされます。

各 1 つのパーティションを持つ 2 台の HDD

- 最初のハード ディスクにイメージが配布されます。最初のハード ディスクの既存のデータはすべて上書きされます。2 台目のハード ディスクは影響を受けません。

各 2 つのパーティションを持つ 2 台の HDD

- 最初のハード ディスクのブート パーティションにイメージが配布されます。2 番目のパーティションおよび 2 台目のハード ディスクは影響を受けません。

シン クライアントの出荷イメージの配布

サポートされているシン クライアントのオペレーティング システム、**Windows XP Embedded (XPe)**、**Windows CE**、または **Embedded Linux** の出荷イメージを配布する場合、以下の点に注意します。

- イメージがデバイスに配布された後、デバイスの管理を始めるために管理エージェントをインストールする必要があります。インストール方法については、**39「シン クライアントでの 管理エージェントのインストール」**を参照してください。シン クライアントでの管理エージェントのインストールを参照してください。

ローカル サービスの起動 (LSB : Local Service Boot) を使用した OS イメージの配布

ローカル サービスの起動により、HPCAS は、ネットワークから起動されていないデバイスの OS の管理を行います。

ローカル サービスの起動を使用するとき、既存のマシンは PXE 対応である必要はありません。また、各ターゲット デバイスについて、起動の順序を BIOS でローカルに設定する必要はありません。

OS 配布の前提要件については、103 ページの「[配布シナリオ](#)」を参照してください。

ローカル サービスの起動を使用して OS イメージを配布するには

- 1 配布用のイメージを選択して、**[オペレーティング システムの配布]** ツールバー ボタンをクリックし、**OS 配布ウィザード**を起動します。
- 2 ウィザードの指示に従い、配布方法の選択では、**[ローカル サービスの起動]**を選択します。
- 3 これで、LSB ソフトウェアがターゲット デバイスにインストールされます。次に選択した OS をインストールします。複数の OS イメージがデバイスにエンタイトルメント設定されている場合、インストールする OS を選択するプロンプトが表示されます。

PXE を使用した OS イメージの配布

PXE ベースの環境により、HPCAS はネットワークから起動されるターゲット デバイスの OS の管理を行います。OS 配布の前提要件については、103 ページの「[配布シナリオ](#)」を参照してください。


PXE の使用は、ネットワークから起動しているクライアントにブート イメージを提供する DHCP サーバー、およびこれらのファイルを提供する TFTP サーバーの設定からなります。

- DHCP サーバーおよび TFTP サーバーは、OS 配布に PXE を使用する前に、設定する必要があります。設定の指示は製品のドキュメントを参照してください。詳細は、43 ページの「[OS 配布用の PXE の設定](#)」を参照してください。

PXE が設定されている場合、ターゲット デバイスがネットワークから起動する、またはプライマリ ブート デバイスとして PXE が有効になっていることを確認してください。このような設定になるように必要な設定の調節を行います（たとえば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に ESC キーを押して、設定内の起動順序を変更できます）。

これで、OS イメージを配布する準備ができました。

PXE を使用して OS イメージを配布するには

- 1 PXE が設定されていることを確認します。
- 2 配布用のイメージを選択して、[オペレーティング システムの配布]  ツールバー ボタンをクリックし、OS 配布ウィザードを起動します。
- 3 186 ページのウィザードの指示に従い、配布方法の選択では、[ローカル CD または PXE サーバー] を選択します。

ウィザードが終了したら、DHCP サーバーで指定した設定を使用して、ターゲット デバイスが再起動されます。

OS イメージがターゲット デバイ스에配布、インストールされました（複数の OS イメージがデバイスにエンタイトルメント設定されている場合、インストールする OS を選択するように表示されます）。

サービス CD を使用した OS イメージの配布

サービス CD を使用して、まだオペレーティング システムがインストールされていないターゲット デバイス（ベアメタル マシン）をローカルに起動します。

ImageDeploy.iso を使用してサービス CD を作成します。このファイルは、HPCAS メディアの¥OSManagement¥ISO¥DeploymentCD¥ ディレクトリにあります。

LSB は、まだ OS をインストールしていないデバイスには使用できないので、OS 配布のためベアメタル マシンを起動するには、サービス CD または PXE サーバーのいずれかを使用する必要があります。


サービス CD は、ターゲット デバイスでローカルに作成し、利用可能でなければなりません。

OS 配布の前提要件については、103 ページの「[配布シナリオ](#)」を参照してください。

サービス CD を使用して OS イメージを配布するには

- 1 ターゲット デバイスにサービス CD を挿入し、CD から起動します。
- 2 入力を要求されたら、HPCAS サーバーの IP アドレスまたはホスト名およびポート番号を入力し、**Enter** キーを押して続行します。たとえば、「HPCAS.acmecorp.com:3469」または「192.168.1.100:3469」と入力します。ポート 3469 は、OS のイメージングと配布用に予約されています。


デバイスは、HPCAS サーバーに接続され、MAC アドレスのバリエーションをデバイス名として使用して **デバイス** リストに追加されます。サービス CD が HPCAS サーバーに接続されると、「このマシンにローカル OS がないか、OS が無効です。」および「マシンは使用できず、管理者がポリシーを指定して **Wake On LAN** を実行するまでシャットダウンされます。」というメッセージが表示されます。

- 3 HPCAS のコンソールで、**[OS 管理]** セクションを使用して、新しいデバイスをグループに追加します。
- 4 **[OS 管理]** セクションで、配布用のイメージを選択して、**[オペレーティングシステムの配布]**  ツールバー ボタンをクリックし、**OS 配布ウィザード** を起動します。
- 5 ウィザードの指示に従い、配布方法の選択では、**[ローカル CD または PXE サーバー]** を選択します。
- 6 ウィザードが完了したら、再びサービス CD を使用して、ターゲット デバイスを再起動します。この再起動の間に、OS イメージが検出され配布されます。イメージのサイズおよびネットワークのバンド幅により、これには 10 ～ 15 分かかる場合があります (複数の OS イメージがデバイスにエンタイトルメント設定されている場合、どの OS をインストールするか選択するように指示されます)。
- 7 イメージの配布が終了したら、ターゲット デバイスを再起動し、**Windows** を起動します。**Sysprep** プロセスが、新しいイメージを起動し、初期化します。

グループ エンタイトルメントの追加

OS ライブラリで利用可能な OS イメージは、デバイスのグループにエンタイトルメントを設定できます。

グループ エンタイトルメントを追加するには


- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、グループ エンタイトルメントを追加する OS イメージを選択します。
- 2 **[グループ エンタイトルメントの追加]**  ツールバー ボタンをクリックして、**サービス エンタイトルメント ウィザード** を起動します。
- 3 184 ページのウィザードの手順に従って、ウィザードを使って選択するデバイスのグループに、選択したイメージのエンタイトルメントを設定します。

サービスのインポート

HPCAS は、OS サービスを OS ライブラリにインポートできます。サービスをインポートするには、サービス インポート デッキが、HPCAS サーバーの ChangeControl ディレクトリ内にある必要があります。

テスト環境を構築してある場合に、サービスのインポートは便利です。テスト環境で特定のサービスを承認したら、プロダクション環境の HPCAS サーバーの ChangeControl ディレクトリにそのサービスをエクスポートします。次に、サービス インポート ウィザードを使用して、そのサービスをプロダクション環境のソフトウェア ライブラリにインポートして、ソフトウェアを管理対象デバイスに配布します。


サービスをインポートするには

- 1 **[サービスのインポート]**  ツールバー ボタンをクリックして、サービス インポート ウィザードを起動します。
- 2 181 ページのウィザードの手順に従って、サービスを OS ライブラリにインポートします。

サービスのエクスポート

パブリッシュされた OS イメージは、HPCAS サーバーの ChangeControl ディレクトリにエクスポートできます。エクスポートされたサービスは、(たとえば、テスト環境内の) 他の HPCAS サーバー ライブラリへのインポートに利用できません。

サービスをエクスポートするには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択して、サービスとしてエクスポートする OS イメージを選択します。
- 2 **[サービスのエクスポート]**  ツールバー ボタンをクリックして、サービス エクスポート ウィザードを起動します。
- 3 181 ページのウィザードの手順に従って、そのサービスを HPCAS サーバー マシンの ChangeControl ディレクトリにエクスポートします。

オペレーティング システムのライブラリからの削除

HPCAS データベースからソフトウェアを削除するには、[OS] ツールバーを使用します。

オペレーティング システム ライブラリからオペレーティング システム サービスを削除するには

- 1 削除する OS を選択します。
- 2 **[オペレーティング システムの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。

OS の詳細

いずれかのオペレーティング システム サービスの詳細リンクをクリックして、[OS の詳細] ウィンドウを開きます。[OS の詳細] ウィンドウで、OS のプロパティの表示、エンタイトルメントの表示や変更、レポートの要約の表示、または OS 管理ジョブの作成が可能です。次の領域が利用可能です。

図 8 [OS の詳細] ウィンドウ



[OS の詳細] ウィンドウでは次の領域が利用可能です。

一般

[一般] タブは、その OS サービスに利用可能な共通のタスクを表示します。その他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックします。

プロパティ




[プロパティ] タブを使用して、オペレーティング システム サービスの詳細を変更します。

- **説明**
このオペレーティング システム サービスについて表示される説明。このフィールドは必須です。
- **連絡先**
この OS サービスに関する連絡先情報を保管する、オプションのフィールド。
- **Web サイト**
このサービスに関連する URL を入力する、オプションのフィールド。

[保存] をクリックして、変更をコミットします。


グループ

[グループ] タブのグループは、オペレーティング システムにエンタイトルメントが設定されています。ツールバーを使用して、表示されたグループについて、エンタイトルメントの管理、OS の配布、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリの探索、パッチ適用状況の探索および強制を行います。

- 追加のグループにエンタイトルメントを設定するには、**[グループ エンタイトルメントの追加]**  ツールバーのボタンをクリックします。
- グループからエンタイトルメントを削除するには、**[グループ エンタイトルメントの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 特定のグループに、オペレーティング システムを配布するには、グループを選択し、**[オペレーティング システムの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。これにより、**OS 配布ウィザード**が起動します。186 ページのウィザードの手順に従って、選択した OS を配布します。

デバイス

[デバイス] タブのデバイスは、オペレーティング システムにエンタイトルメントが設定されています。ツールバーを使用して、特定のデバイスに OS を配布します。

- 特定のデバイスにオペレーティング システムを配布するには、デバイスを選択し、**[オペレーティング システムの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。これにより、**OS 配布ウィザード**が起動します。186 ページのウィザードの手順に従って、選択した OS を配布します。

レポート

[レポート] タブでは、そのオペレーティング システム サービスに固有のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、メイン HPCAS コンソールの [レポート] タブを使用します。

現在のジョブ

[現在のジョブ] は、現在アクティブな OS 管理ジョブまたはスケジュールされた OS 管理ジョブをすべて表示します。HPCAS データベースの管理対象デバイスで、オペレーティング システム サービスのエンタイトルメント設定および配布を行うには、OS 管理ジョブを使用します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

ジョブ コントロールおよびジョブ ステータスに関する詳細は、114 ページの「現在のジョブ」を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ] は、完了した OS 管理ジョブをすべて表示します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。



完了したジョブは完了の 1 分後に ([現在のジョブ] タブから) 過去のジョブ リストに移動されます。

ジョブ管理

[ジョブ管理] セクションを使用して、現在のジョブおよび過去のジョブをすべて表示し、管理します。要約情報で、現在アクティブな管理ジョブおよびスケジュールされている管理ジョブの合計数が表示されます。

ジョブ管理のタブについては、次のセクションで説明しています。

- [一般](#) (114 ページ)
- [現在のジョブ](#) (114 ページ)
- [過去のジョブ](#) (119 ページ)

一般

[一般] タブを使用して、現在および過去の全ジョブの表示、およびアクティブなジョブおよびスケジュールされているジョブの合計数を表示します。

現在のジョブ

[現在のジョブ] は、アクティブなまたはスケジュールされた全ジョブのリストを表示します。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックしてください。









ツールバー ボタンを使用して、現在スケジュールされているジョブ、またはアクティブなジョブを管理します。次のセクションでは、使用できるジョブ コントロールと詳細ウィンドウについて説明します。

- [ジョブ コントロール](#) (114 ページ)
- [ジョブ ステータス](#) (115 ページ)
- [ジョブの詳細](#) (117 ページ)

ジョブ コントロール

既存のジョブを管理するには、ジョブ リストの一番上にあるジョブ コントロールを使用します。各コントロールに関する説明は、下の表を参照してください。








表 8 ジョブ コントロール


アイコン	説明
	データのリフレッシュ – OS ライブラリのリフレッシュ
	CSV にエクスポート – 開いたり保存したりできる、コンマ区切りのリストを作成します。
	ジョブの開始
	無効になったり一時停止された ジョブのリジューム
	現在アクティブ、開始を待機中、または停止を待機中の ジョブの一時停止 。ジョブのステータスは一時停止に設定されます。
	現在アクティブまたは一時停止の ジョブの停止 。ジョブのステータスは停止を待機中に設定されます。
	ジョブのスケジュール再設定
	ジョブの削除

ジョブ ステータス

各ジョブに関する情報は、[ステータス] カラムを参照します。次の表は、各ジョブ ステータス メッセージを説明しています。

表 9 ジョブ ステータス

アイコン	ステータス	説明
	エラーで終了	ジョブは完了したが、いくつかエラーが発生した。詳細は、ジョブの説明をクリックします。
	成功	ジョブは、エラーもなく正常に終了した。
	現在アクティブ	ジョブが現在実行中。
	一時停止	ジョブは現在、一時停止。
	開始を待機中	ジョブは、スケジュールされ、実行を待機中。
	停止を待機中	ジョブは現在、停止のプロセスの途中。
	失敗	ジョブが正常に終了しなかった。

アイコン	ステータス	説明
	無効	ジョブが停止または一時停止された。

各ジョブの管理にジョブ コントロールを使用するとき、予想される結果を確認するには、次の表を参照してください。


表 10 ジョブ ステータスと予想されるジョブ コントロールのアクション

	 開始	 リジューム	 停止	 停止	 スケジュール再設定	 削除
 エラーで終了	ステータスが現在アクティブに変化	N/A	ステータスが無効化に変化	N/A	更新を適用	ジョブの削除
 成功	ステータスが現在アクティブに変化	N/A	ステータスが無効化に変化	N/A	更新を適用	ジョブの削除
 現在アクティブ	N/A	N/A	ステータスが一時停止に変化	ステータスが停止を待機中に変化	更新を適用	N/A
 一時停止	N/A	ステータスが一時停止ステータスの前の状態に変化	N/A	ステータスが停止を待機中に変化	更新を適用	N/A
 開始を待機中	ステータスが現在アクティブに変化	N/A	ステータスが無効化に変化	N/A	更新を適用	ジョブの削除
 停止を待機中	N/A	N/A	ステータスが一時停止に変化	N/A	更新を適用	N/A

	 開始	 リジューム	 停止	 停止	 スケジュール再設定	 削除
 失敗	ステータスが現在アクティブに変化	N/A	ステータスが無効化に変化	N/A	更新を適用	ジョブの削除
 無効	N/A	ステータスが無効化ステータスの前の状態に変化	N/A	N/A	更新を適用	ジョブの削除

ジョブ コントロールは、[現在のジョブ] タブにあるジョブにしか利用できません。これには、現在アクティブなジョブおよび反復スケジュールを設定したジョブが含まれます。[過去のジョブ] タブにある完了したジョブはコントロールできないので、再び実行する必要がある場合は再作成します。

ジョブに関する詳細は、[説明] カラムのリンクをクリックしてください。新しいウィンドウが開き、それぞれの [ジョブの詳細](#)が表示されます。

 ジョブが一時停止されても、ジョブのアクション（配布、収集など）は、現在対象となっているデバイスについては続行されます。アクションが完了すると、ジョブは、リジュームされるまで他のデバイスでは実行されません。

ジョブの詳細

ジョブの ID リンクをクリックすると、新しいウィンドウが開き、そのジョブに特有の情報が表示されます。ジョブ タイプに応じて、[ジョブの詳細] ウィンドウに下で説明するタブが表示されます。

図 9 [ジョブの詳細] ウィンドウ

ジョブの詳細

14 - Reporting Device Synchronization

デバイス

情報

この探索ジョブで見つかったデバイスは下記のとおりです。ダイナミック ディスカリバリ グループの場合、このリストは現在のグループ メンバーシップを反映しています。

見つかったデバイス

検索: デバイス 含む

検索 リセット

10 項目 1 - 0 項目 (共に 0 項目)

デバイス	モデル	IP アドレス	オペレーティング システム	サービス パック	エージェントのステータス	前回の変更 ↓
CCMCLIENTJA	VMware Virtual Platform	15.154.228.226	Windows XP	Service Pack 2	インストール済み	2006-11-23 11:05:04

詳細

[詳細] タブには、すべてのジョブ情報が表示されます。

ターゲット

[ターゲット] タブには、ジョブが作成された全デバイスが表示されます。

サービス

[サービス] タブには、そのジョブのターゲット デバイス用の全ソフトウェア、パッチ、またはオペレーティング システムが表示されます。

ジョブ メッセージに関する詳細は、303 ページの「[トラブルシューティング](#)」を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ] には、完了した管理ジョブがすべて表示されます。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックして [[ジョブの詳細](#)] ウィンドウを開いてください。



完了したジョブは完了の 1 分後に過去のジョブ リストに移動されます。

5 レポート

[レポート] インターフェイスを使用して、お使いの環境にあるデバイスやソフトウェアに関する詳細なレポートを設定、表示します。[レポート] インターフェイスには、次の領域があります。

- 検索オプション (122 ページ)
- 表示オプション (122 ページ)
- 検索条件 (123 ページ)
- [レポート] ウィンドウ (123 ページ)

図 10 [レポート] インターフェイス





[レポート] セクションのグラフィカル レポートを表示するには、**Java Runtime** または **Virtual Java Machine** が必要です。詳細は、<http://java.com/ja/index.jsp> を参照してください。

検索オプション

[ディレクトリ／グループ フィルタ] または [データ フィルタ] 領域を使用して、現在の表示でアクセスしているデータセットに 1 つ以上のフィルタを適用します。適用するフィルタは、レポートの上に **検索条件** として表示されます。

ディレクトリ／グループ フィルタ

- ディレクトリ／グループ エントリをクリックして、そのレベルまで現在のデータセットをフィルタします。この領域の使用方法に関する詳細は、**124** ページの「**検索オプションを使用したフィルタの選択**」を参照してください。

データ フィルタ

- この領域を使用して、現在のデータセットに適用するフィルタを生成または選択します。この領域の使用方法に関する詳細は、**124** ページの「**検索オプションを使用したフィルタの選択**」を参照してください。

表示オプション

[表示オプション] 領域を使用して、現在のセッションおよび表示をコントロールします。

レポート ビュー

- [レポート ビュー] は、現在のデータセットを表示するレポート ウィンドウおよび各ウィンドウに関連する初期設定（最小化や最大化、各ウィンドウの項目数など）の定義を行います。**Reporting Server** に初めてアクセスすると、デフォルトのビューが適用されます。現在のビューは、グローバル ツールバーの右に表示されます。

[レポート ビュー] 領域を使用して、レポート ビューの変更やカスタマイズを行います。詳細は、127 ページの「[表示オプションを使用したレポート ビューの選択](#)」を参照してください。

検索条件

検索条件リストは、[レポート] ウィンドウの上に表示され、検索コントロールのいずれかを使用してデータセットに適用されたフィルタの一覧を表示します。

- フィルタを削除するには、検索条件リストのフィルタ名の左にある **X** をクリックします。

デバイス フィルタ



デバイス フィルタは、デバイス関連の情報を含むレポートに適用されます。

レポート固有のフィルタ

レポート固有のフィルタは、特定のレポート ビュー内で利用可能なデータにだけ適用されるフィルタです。たとえば、デバイス別利用状況、利用状況関連フィルタを適用し、製品別利用状況データを表示してから、1 つの製品名を選択した場合、レポート固有のフィルタが、選択した条件に基づいてそのレポートに適用されます。

[レポート] ウィンドウ

[レポート] ウィンドウには現在のビューが表示されます。

- ウィンドウのタイトル バーにある [最小化]  をクリックして、レポート ウィンドウを折りたたみます。
- ウィンドウのタイトル バーにある [最大化]  をクリックして、レポート ウィンドウを展開します。

[レポート] ウィンドウのアクション バー アイコンの使用に関する詳細や、レポート内の項目の詳細のブラウズ、ソート、および表示については、132 ページの「[\[レポート\] ウィンドウについて](#)」を参照してください。

各ウィンドウにはアクション バーがあります。アクション バーには、ツールが含まれており、現在の [レポート] ウィンドウにより、デバイスのグループの作

成、CSV ファイルの作成、Web クエリ リストの作成やグラフィック ビューへの切り替えができます。詳細は、133 ページの「[Windows アクション バーの使用](#)」を参照してください。

▶ HPCAS のレポートは、GMT タイムゾーンで表示されます。

検索オプションを使用したフィルタの選択

[検索オプション] 領域には、Reporting Server 内のデータセットにフィルタを適用する方法が 2 つあります。以下が可能です。

- [ディレクトリ／グループ フィルタ] 領域からグループ エントリを選択します。これにより、結果はグループ エントリ レベルに制限されます。
- [データ フィルタ] 領域を使用して、フィルタを作成または適用します。これにより、結果は適用した固有のフィルタに制限されます。

図 11 [検索オプション] 領域



ディレクトリ／グループ フィルタを選択したり、データ フィルタを適用するときは、フィルタが検索条件エントリに自動的に表示されます。

次のセクションで、[検索オプション] 領域について説明します。

- [ディレクトリ／グループ フィルタ] 領域 (125 ページ)
- [データ フィルタ] 領域 (125 ページ)

[ディレクトリ／グループ フィルタ] 領域

ディレクトリ／グループ フィルタを使用して、グループをブラウズします。グループ エントリをクリックすると、**HPCAS** は、そのエントリについて表示されるレポート データを自動的にフィルタします。たとえば、販売グループ エントリをクリックすると、レポート領域には、**販売**グループに関連するデバイスだけが表示されます。

そのグループに対しさらにドリル ダウンするには、[ディレクトリ／グループ フィルタ] 領域内のイメージをクリックします。テキストをクリックすると、関連するフィルタがデータに適用されます。

[ディレクトリ／グループ フィルタ] 領域のツリー ビューを展開すると、展開された分岐はルート分岐になります。

[データ フィルタ] 領域

[データ フィルタ] 領域は、いつでも検索コントロール（ウィンドウの左側にあります）として利用できます。これを使用して、現在のデータセットに適用するフィルタを選択します。フィルタは、適用されると、レポート ウィンドウの上の検索条件リストに追加されます。

[データ フィルタ] 領域を使用して、フィルタの選択および適用を行うには

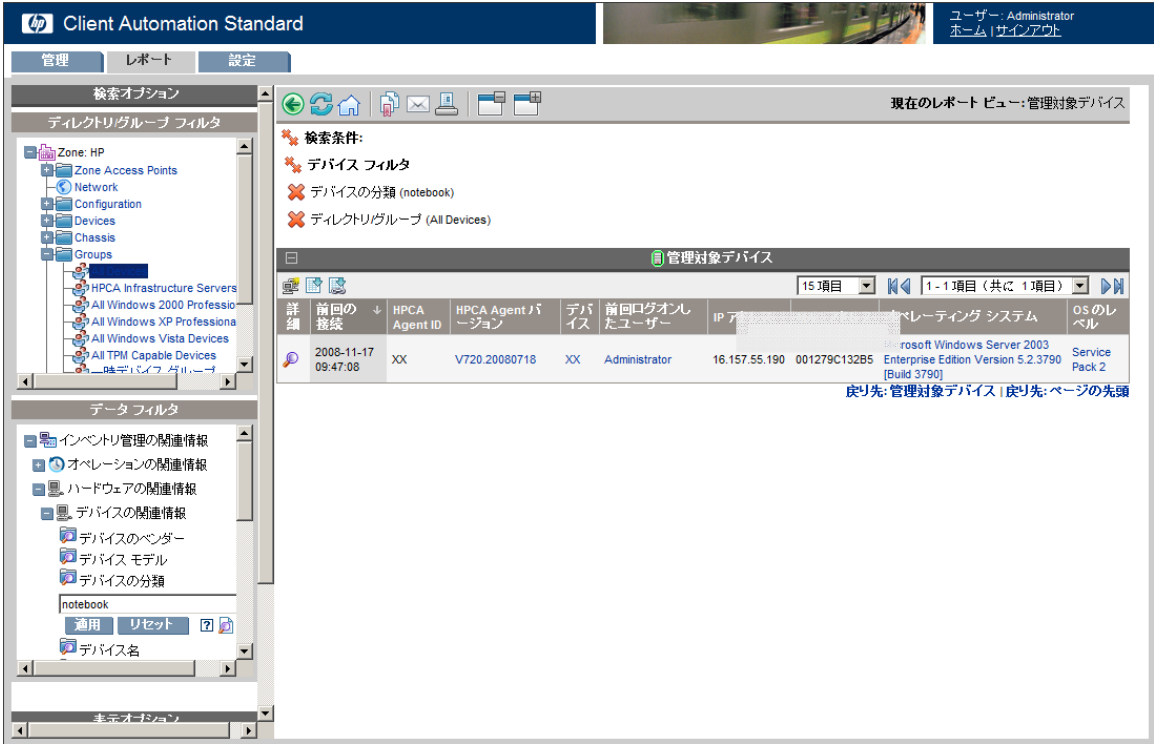
- 1 [データ フィルタ] 領域で、フィルタ グループを展開して、ツリー ビューを表示し、サブグループを選択します。この例では、**[インベントリ管理の関連情報]**、次に **[ハードウェアの関連情報]** を選択します。
- 2 ツリー ビューでフィルタを選択します。この例では、**[デバイスの関連情報]**、次に **[デバイスの分類]** を選択します。
- 3 [フィルタ値] テキスト ボックスに、具体的な値を入力します。たとえば、「***Notebook***」と入力します。複数の文字を表す ***** や、1 文字を表す **?** や **_**（アンダースコア）などのワイルドカードを使用できます。
- 4 **[適用]** をクリックして、レポートにフィルタを追加します。フィルタを適用すると、そのフィルタが、レポート ウィンドウの上の検索条件リストに追加されます。



[リセット] ボタンは、[フィルタ値] フィールドをクリアします。また、フィルタ グループおよびフィルタの選択も、デフォルト値にリセットされます。

126 ページの 図 12 は、Notebook デバイスだけにレポートを制限するのに使用されるデータ フィルタ エントリの例を示します。

図 12 レポートを Notebook デバイスに制限するため検索条件を適用



特別なフィルタ値文字とワイルドカード

検索文字列に特別な文字やワイルドカードを使用すると、適切なレコードを見つけるのが容易になります。これらの特殊文字を、[フィルタ値] テキスト ボックスに入力するテキストとともに使用します。次の表では、各特殊文字について説明します。

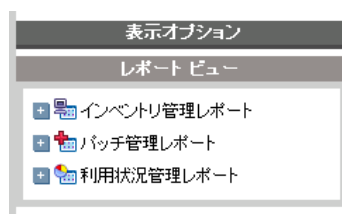
表 11 特殊文字とワイルドカード

文字	説明
* または %	特定のテキスト文字列の全レコードを返す。 例： デバイスのベンダー フィルタ HP* は、全 HP レコードを返す。 %HP% は、HP を含む全レコードを返す。
? または _	任意の 1 文字を返す。 例： デバイスの分類フィルタ Not?book は、"Not" で始まり "book" で終わる全レコードを返す。 Note_ook は、"Note" で始まり "ook" で終わる全レコードを返す。
!	フィルタを否定。! はテキスト文字列の前に置く必要があります。 例： デバイスのベンダー フィルタ !HP* は、HP でないレコードを返す。

表示オプションを使用したレポート ビューの選択

[表示オプション] 領域内で、[レポート ビュー] は、レポートページで表示するウィンドウおよびその初期状態（最大化または最小化）を指定します。

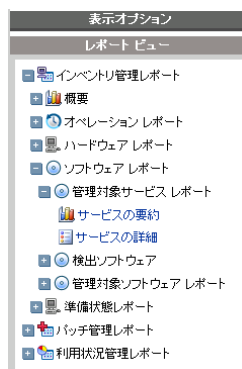
図 13 [表示オプション] 領域




ビューを適用するには

- 1 [レポート ビュー] 領域でビュー グループ リストを展開し、グループを選択します。128 ページの図では、**[インベントリ管理レポート]**、**[ソフトウェアレポート]** が展開されています。
- 2 次に、そのグループのビューを選択します。次の 128 ページの図は、**[管理対象サービス レポート]** に利用可能なレポート ビューを示します。
ビューを選択すると、適切なレポートが表示されます。

図 14 ソフトウェア レポートの選択例



[戻る] ボタン  をクリックして、前のレポート ウィンドウに戻ります。
次のセクションでは、レポート ビューについて詳しく説明しています。

- レポート ビューのタイプ (128 ページ)
- HP ハードウェア レポートの表示 (131 ページ)

レポート ビューのタイプ

表示するデータのタイプにより、適切なレポート ビューを選択します。

- インベントリ管理レポート (129 ページ)
- パッチ管理レポート (130 ページ)
- 利用状況管理レポート (130 ページ)

▶ HPCAS のレポートは、GMT タイムゾーンで表示されます。

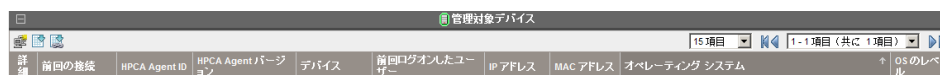
インベントリ管理レポート

インベントリ管理レポートには、HPCAS の全デバイスに関するハードウェアおよびソフトウェアの情報が表示されます。これには、HP 固有のハードウェア用レポート、詳細と要約のデバイス コンポーネント、ブレード サーバー、TPM チップセットと SMBIOS 情報、Self-Monitoring, Analysis, and Reporting Technology (S.M.A.R.T.) 警告が含まれます。

レポート オプションを表示するには、インベントリ管理レポートのレポート ビューを展開します。たとえば、S.M.A.R.T 警告や HP 固有のレポートなどのいくつかの特定のデータは、HPCAS コンポーネントを設定して初めて利用できるように注意してください。設定の詳細は、157 ページの「[ハードウェア管理](#)」セクションを参照してください。

管理対象デバイスに関する一般的なレポートには、次のスクリーン キャプチャで示すような表の見出しが含まれています。

図 15 管理対象デバイス レポートの一般的なカラム見出し



詳細	前回の接続	HPCA Agent ID	HPCA Agent バージョン	デバイス	前回ログオンしたユーザー	IP アドレス	MAC アドレス	オペレーティング システム	OS のレベル
----	-------	---------------	------------------	------	--------------	---------	----------	---------------	---------

- **詳細** – [デバイスの要約] ページを開きます。
- **前回の接続** – デバイスが前回いつ接続されたかを表示します。
- **HPCA エージェント ID** – デバイス名を表示します。
- **HPCA エージェントのバージョン** – 現在インストールされている管理エージェントのバージョンを表示します。
- **デバイス** – デバイス名も表示します。
- **前回ログオン ユーザー** – デバイスにログオンするのに使用された最後のユーザー アカウントを表示します。複数のユーザーがログオンしている場合は、最後にログオンしたユーザーのみが記録されます。現在ログオンしているユーザーを切り替えても、これには影響しません。
- **IP アドレス** – デバイスの IP アドレスを表示します。
- **MAC アドレス** – デバイスの MAC アドレスを表示します。
- **オペレーティング システム** – デバイスにインストールされているオペレーティング システムについて説明します。
- **OS レベル** – 現在のオペレーティング システム レベル（サービス パック 2 など）。

パッチ管理レポート

パッチ管理レポートには、管理対象デバイスのパッチ適用状況情報や、パッチおよび **Softpaq** の取得情報が表示されます。

- **適用状況レポート** — 管理エージェントは、**HPCAS** へ製品およびパッチの情報を送ります。この情報は利用可能なパッチと比較され、管理対象デバイスの脆弱性を削除するためパッチを必要とするかどうか調査されます。適用状況レポートは、お使いの環境で検出されたデバイスに該当する情報しか表示しません。
- **取得レポート** — 取得ベースのレポートは、ベンダーの **Web** サイトからのパッチ取得の成功および失敗を表示します。
- **リサーチ レポート** — リサーチ ベースのレポートは、ソフトウェア ベンダーの **Web** サイトから取得したパッチに関する情報を表示します。リサーチベースのレポートでは、フィルタ バーが利用できます。


利用状況管理レポート

利用状況管理レポートには、利用状況収集エージェントがインストールされているデバイスの利用状況の情報が表示されます。[アプリケーション利用状況収集ウィザード](#)を使用して、収集エージェントをインストールし、利用状況データの収集を始めます。

- **デバイス レポート** — 個々のデバイスまたはユーザー別に、収集した利用状況の情報を表示します。
- **月次利用状況レポート** — ベンダー、製品、またはアプリケーション別に、利用状況の情報を表示します。

利用状況管理レポートには、次のデータ カラムが含まれる場合があります。

- **利用時間** — アプリケーションが実行されている時間。
- **集中時** — アプリケーションがアクティブなウィンドウである時間。
- **利用回数** — ユーザーのデバイスでアプリケーションが実行された回数を追跡します。
- **利用ステータス** — 個々のアプリケーションまたはアプリケーションのグループについて、使用インスタンスと未使用インスタンスとの関係を表します。

 収集エージェントが配布された後、利用時間の収集がただちに開始されます。集中時の収集は、ユーザーが次回ログインしてから開始されます。



Program Files など、ほとんどの論理フォルダは、マシンに関連付けられており、個々のユーザーとは関連付けられていません。このため、利用状況管理レポート、デバイス レポート、ユーザー別利用状況レポートでは、[ユーザー名] カラムに [未定義] と表示される場合があります。

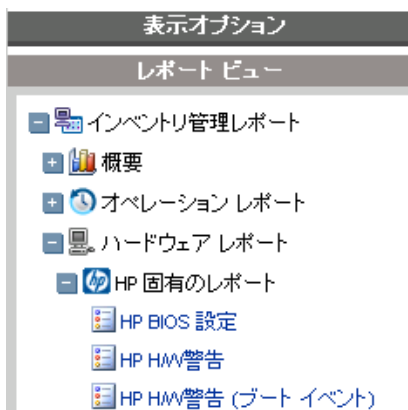
[設定] タブの [レポート] セクションで指定した [利用状況の設定] によっては、利用状況データの一部または全部が難読化される場合があります。

HP ハードウェア レポートの表示

[表示オプション] を使用して、**HP ハードウェア レポート**を表示します。これらのレポートには、互換性のある **HP デバイスの HP Client Management Interface (CMI)** が取得した簡易警告情報が含まれます。

HP ハードウェア レポートを表示するには

- 1 [表示オプション] 領域で、**[インベントリ管理レポート]** を選択します。
- 2 **[ハードウェア レポート]** を選択します。
- 3 **[HP 固有のレポート]** を選択します。



- 4 **HP 固有のハードウェア レポート ビュー**を選択します。レポートが右のペインに表示されます。
- 5 選択したレポート ビューに基づいて具体的な警告タイプまたは **BIOS 設定**を検索するには、レポートウィンドウの一番上に表示される追加のデータ フィルタ検索ボックスを使用します。

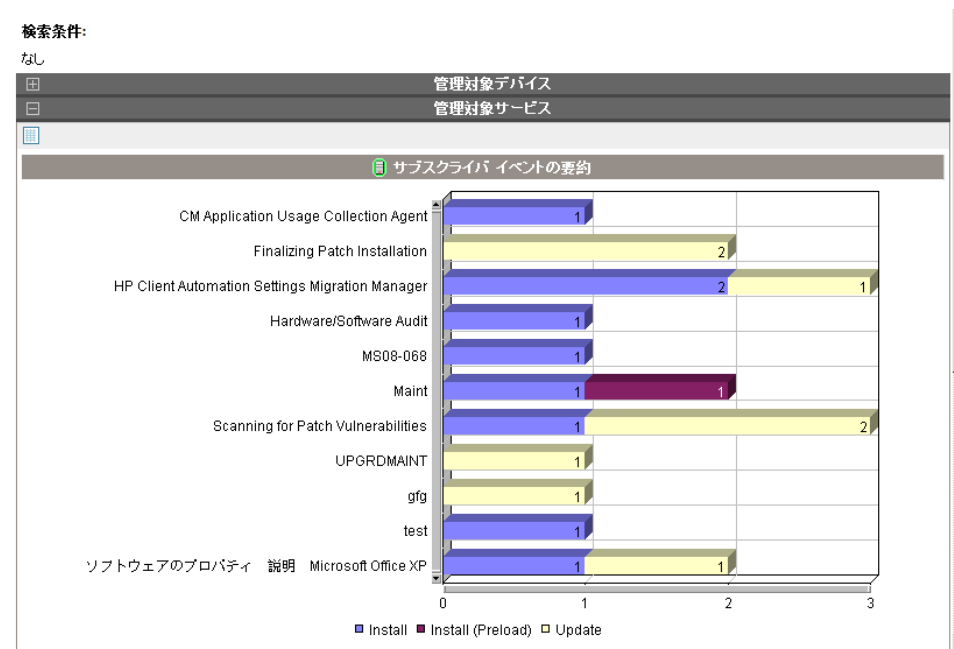
データ フィルタ							
H/W 警報の名前				<input type="text"/>			
				適用 リセット 			

HP H/W 警報							
<div>    </div>				15 項目 <div>   </div> 1~1 項目(共に1項目) <div>   </div>			
詳細	デバイス名	前回の変更	名前	説明	カテゴリ	ステータス	重大度
	HP10293324192	2005-04-18 14:38:02	Chassis Fan Stall	Chassis Fan Speed	3: センサ	5: 前兆的な故障	25: 致命的故障

[レポート] ウィンドウについて

レポート ページには、適用されたビューで指定されたウィンドウが表示されます。下の図は、レポート ページに **【管理対象デバイス】** および **【管理対象サービス】** レポート ウィンドウを表示した例です。**【管理対象デバイス】** ウィンドウは最小化され、**【管理対象サービス】** ウィンドウは最大化されて、レポート データを表示しています。

図 16 【レポート】 ウィンドウの例





次のセクションで、[レポート] ウィンドウの機能およびオプションを説明します。


- **Windows アクション バーの使用** (133 ページ)
- **ダイナミック レポート グループの作成** (136 ページ)


Windows アクション バーの使用

各ウィンドウには、**アクション バー**があり、以下のようなアイコンが表示されています。

 **新しいダイナミック レポート グループの作成** — **グループ作成ウィザード**を起動し (177 ページ)、レポートで返されたデバイスを使用して、新しいグループを作成します。

 グループ作成ボタンは、デバイスのリストを含むレポートにだけ表示されます。

 **CSV にエクスポート** — 開いたり保存したりできる、コンマ区切りのリストを作成します。

 **IQY にエクスポート** — Microsoft Excel ファイルとして開いたり保存したりできる、レポート クエリの **Web クエリ** リストを作成します。ソース レポートへのライブ リンクが作成され、**HPCAS** からデータを直接取得することにより、Excel のスプレッドシート内からレポート データをリフレッシュできます。**IQY** ファイルを開くと、アクセス用の資格情報が要求されます。次の詳細を使用します。

— **Reporting Server のユーザー ID を入力してください** = admin

— **パスワード** = secret

— **ディレクトリ ソース** = 空白 (Space キーを押して、Enter キーを押すなど)



 **グラフィック ビューに切り替え** — レポート ビューをグラフィック モードに切り替えます。

図 17 [レポート] ウィンドウの例

管理対象デバイス									
									
15 項目 1-1 項目 (共に 1 項目)									
詳細	前回の接続	HPCA Agent ID	HPCA Agent パージョン	デバイス	前回ログインしたユーザー	IP アドレス	MAC アドレス	オペレーティング システム	OS のレベル

レポートの項目のブラウズ

レポートには、多くの項目が含まれる場合があります。[アクション バー] で、ウィンドウ領域に表示する項目の数をカスタマイズできます。現在のウィンドウ領域外のレコードまでブラウズするには、[ブラウズ] ボタンまたはドロップダウン リストを使用します。

ウィンドウあたりの最大項目数

このドロップダウン リスト ボックスを使用して、現在のウィンドウに表示する項目の数を制限します。たとえば、最大 30 項目を選択した場合、現在のウィンドウで 30 項目をスクロールできます。

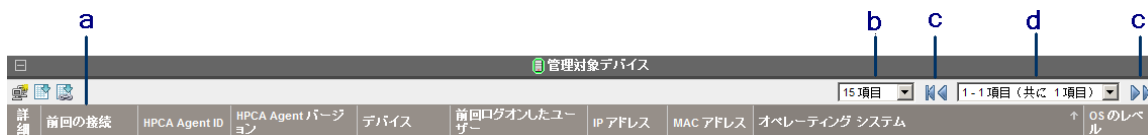
前後にブラウズするボタン

ウィンドウあたりの最大項目数に、レポートの合計項目数より小さな値を選択した場合、複数のウィンドウを使ってブラウズできます。ブラウズ ボタンを使用して、現在のレポートの最初、前、次、または最後のウィンドウに移動します。

特定のウィンドウへのブラウズ

利用可能なウィンドウのリストから、表示する項目の集合を選択します。たとえば、ドロップダウン リストから [1 - 15 of 46] を選択すると、1 ~ 15 の項目が表示されます。

図 18 レポート表示の設定



凡例

- a 現在のソート フィールドおよび順序
- b ウィンドウあたりの最大項目数
- c ブラウズ ボタン
- d 現在の表示と合計数


カラムのソート

カラムの見出し名をクリックし、そのカラムを基準としてレポートの項目を昇順または降順にソートします。

昇順と降順を切り替えるには、現在選択されているカラム (矢印で示されたもの) をクリックします。上向きの矢印は、アクティブなソート カラムを昇順で表示します。下向きの矢印は、項目を降順で表示します。

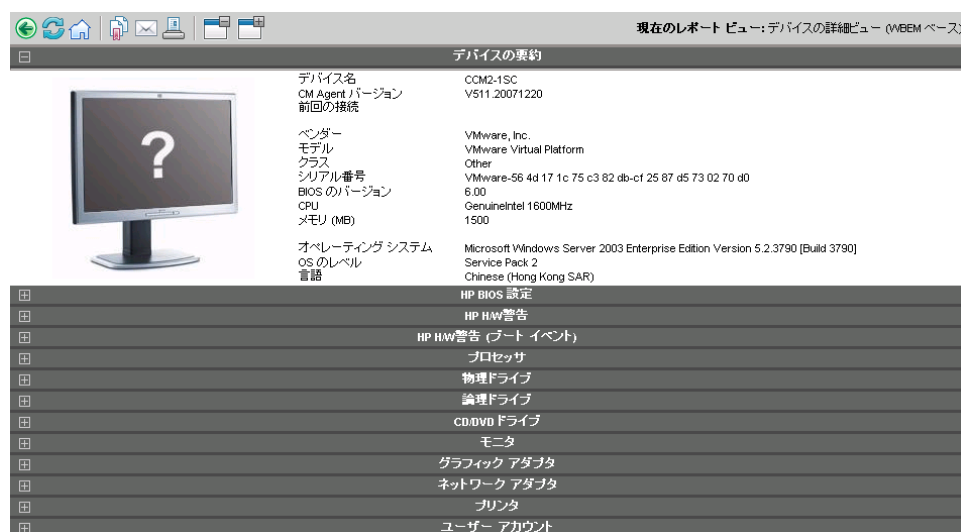
たとえば、上の図は、[前回の接続] カラムを基準に降順にソートされたレポートを示しています。[前回の接続] カラムの見出しの右に下向きの矢印があることに注意してください。

デバイスの要約の表示

[管理対象デバイス] レポートウィンドウで、項目の隣の **[詳細の表示]**  をクリックすると、そのデバイスの詳細が表示されます。

次の図で示すように [デバイスの要約] ウィンドウが開きます。標準のグローバル アイコンの他に、前のウィンドウに戻ることができる緑色の矢印アイコンが表示されることに注意してください。

図 19 [デバイスの要約] ウィンドウ



ページの下にある見出しをクリックして、リストを展開します。たとえば、**[HP ハードウェア警告]** を展開すると、そのデバイスについてレポートされたハードウェア警告のリストが表示されます。

デバイスの要約の内容は、最初の [レポート] ウィンドウにより異なります。


レポート データからのフィルタの適用

レポート内のハイパーリンクされたデータをクリックして、特定の条件でフィルタします。フィルタが適用され、[検索条件] に表示されます。

ダイナミック レポート グループの作成

ダイナミック レポート グループには、レポート クエリの結果として返されたデバイスが含まれています。ダイナミック レポート グループを作成するには、最初にレポート クエリにデバイスのリストを生成し、次に [グループ作成ウィザード](#)を使用します。

ダイナミック レポート グループを作成するには

- 1 レポート クエリを使用してデバイスのリストを生成します。たとえば、デフォルトの [レポート] ウィンドウから **[管理対象デバイスを表示]** をクリックします。
- 2 デバイス リストをフィルタして、グループに含めるデバイスだけにします。たとえば、[オペレーティング システム] カラムの **Microsoft Windows XP Professional Version 5.1.2600** をクリックします。レポートは、**Windows XP Professional** のバージョン **5.1.2600** を使用する管理対象デバイスをすべて表示します。フィルタを追加して、デバイス リストをさらにフィルタできます。
- 3 グループに追加するデバイスのリストがある場合は、 **[新しいダイナミック レポート グループの作成]** ボタンをクリックして、[グループ作成ウィザード](#)を開始します。
- 4 177 ページのウィザードの手順に従って、デバイスのダイナミック グループを作成します。

ダイナミック レポート グループについて

- ダイナミック レポート グループのメンバーシップは、元のリストを作成するため使用したクエリで定義された条件に合うデバイスに依存します。メンバーシップは、グループ作成ウィザードで指定したスケジュールに基づいて更新されます。または、[グループの詳細] ウィンドウを使用して変更できます。
- 既存のレポート グループの条件は変更できません。既存のレポート グループと名前は同じけれども異なる条件を持つグループを作成する場合は、まず既存のグループを削除し、新しいデバイス クエリを作成し、グループ作成ウィザードを使用して新しい条件を持つ新しいグループを作成します。

6 設定

[設定] セクションでは、サポートへの連絡、コンソール ユーザー アクセスの管理、インフラストラクチャ サーバーの定義と設定、パッチ取得のスケジュールと設定の管理、ハードウェアの管理、および **ODBC** の設定が行えます。

左のセクション コンテンツ領域にあるリンクをクリックして、各領域で利用可能な設定オプションを表示します。次のセクションで、コントロールできる [設定] 領域を定義しています。

- [サポート](#) (137 ページ)
- [コンソールへのアクセス](#) (139 ページ)
- [インフラストラクチャ管理](#) (142 ページ)
- [パッチ管理](#) (152 ページ)
- [OS 管理](#) (156 ページ)
- [ハードウェア管理](#) (157 ページ)
- [レポート](#) (160 ページ)

サポート

[サポート] セクションを使用して、サポート情報の検索、現在のサーバー ログ ファイルのダウンロード、およびライセンス情報の確認を行います。

ライセンス セクションでは、インストールしている **HPCAS** ライセンスのタイプ (**Starter** または **Standard**) を表示します。

図 20 [設定] タブの [サポート] セクション



次のタスクが [サポート] 領域で完了できます。

- ログ ファイルのダウンロード (138 ページ)
- ライセンス情報の更新 (139 ページ)

ログ ファイルのダウンロード

弊社サポート センターに連絡すると、ログ ファイルの提供を求められる場合があります。用意されているリンクを使用して、現在のサーバー ログ ファイルの圧縮ファイルをダウンロードし保存します。

ログ ファイルをダウンロードするには

- 1 [トラブルシューティング] 領域で、**[現在のサーバー ログ ファイルをダウンロード]** リンクをクリックします。新しいウィンドウが開きます。
- 2 ログ ファイルが準備できたら、**[logfiles.zip をダウンロードします]** をクリックします。

- 3 表示メッセージに応じて **[保存]** をクリックし、圧縮ファイルをコンピュータに保存します。
- 4 ファイルを保存する場所を指定して、**[OK]** をクリックします。
- 5 ログ ファイルがコンピュータにダウンロードされ、logfiles.zip という 1 つの ZIP 形式ファイルで保存されます。

ライセンス情報の更新

HPCAS を使用するには、現在のライセンス情報が必要です。[ライセンス] セクションを使用して、この情報の表示および更新を行います。

新しいライセンスを適用するには

- 1 新しい license.nvd ファイルからテキストをコピーして、**[ライセンス データ]** テキスト ボックスに貼り付けます。
- 2 **[保存]** をクリックします。更新されたライセンス情報が、**[現在のライセンス]** の後に表示されます。

コンソールへのアクセス

[コンソールへのアクセス] セクションを使用して、コンソール ユーザーを管理します。管理ジョブには、ジョブを作成するため使用された ユーザー ID を表示する、[作成者] フィールドが含まれます。これにより、どのコンソール ユーザーが個々のジョブを作成したかを追跡できます。

デフォルトでは、コンソール ユーザーは **admin** の 1 人で、デフォルトのパスワードは **secret** です。このコンソール ユーザー アカウントは削除できません。また、現在アクティブなユーザー アカウントも削除できません。現在アクティブなアカウントを削除する必要がある場合、最初にログアウトして、別のユーザーとしてログインしなおします。これで、以前にアクティブだったコンソール ユーザー アカウントを削除できます。


[CSV にエクスポート] ボタン を使用して、コンソール ユーザーの表のコンマ区切りの値フォーマット リストを作成します。


図 21 【コンソールへのアクセス】セクション



次のセクションでは、コンソール ユーザーの管理方法を説明します。

- [追加コンソール ユーザーの作成](#) (140 ページ)
- [コンソール ユーザーの削除](#) (140 ページ)
- [コンソール ユーザー](#) (141 ページ)
- [コンソール パスワードの変更](#) (141 ページ)


追加コンソール ユーザーの作成

- **[新しいユーザーの作成]** ツールバー ボタン  をクリックして、[ユーザー作成ウィザード](#)を起動します。
- 186 ページのウィザードの手順に従って、コンソール ユーザーを追加します。



ユーザー ID には、予約文字（アンダースコア "_", スペース、スラッシュ "/" または "¥"）を含めることはできません。予約文字は、ユーザー ID が生成されるときに自動的に削除されます。たとえば、ユーザー ID として **jdoue_1** を作成しようとする、**jdoue1** が作成されます。

コンソール ユーザーの削除

- コンソール ユーザーを削除するには、最初にユーザーをリストから選択して、**[ユーザーの削除]** ツールバー ボタン  をクリックします。

コンソール ユーザーの詳細の表示および変更

ユーザー ID をクリックして、コンソール ユーザーの詳細を表示します。

[ユーザーの詳細] ウィンドウから、表示名、説明、およびパスワードを変更できます。必ず **[保存]** をクリックして、変更を確定します。

図 22 [ユーザーの詳細] ウィンドウ

ユーザーの詳細

admin

情報

このユーザーに対して下記のパラメータを変更してください。

必須フィールド *

ユーザー ID: admin

表示名: Administrator

説明: This user has complete access to the system.

保存 リセット

パスワードの変更

パスワード:

パスワードの確認:

保存 リセット

コンソール パスワードの変更

コンソール ユーザーを作成するときに、コンソール アクセス パスワードが定義されます。パスワードを変更するには、[ユーザーの詳細] ウィンドウを使用します。

コンソール パスワードを変更するには

- 1 ユーザー ID をクリックして、[ユーザーの詳細] ウィンドウを開きます。
- 2 **[パスワードの変更]** セクションで、表示されたテキスト ボックスに新しいパスワードを入力して確認します。
- 3 **[保存]** をクリックします。

インフラストラクチャ管理

インフラストラクチャ サーバーを実装すると、管理対象デバイスにデータ キャッシング サービスを提供することにより、バンド幅を最適化し、ネットワーク パフォーマンスを向上させることができます。インフラストラクチャ サーバーおよびロケーション（サブネット）を管理するには、[設定]タブの [インフラストラクチャ管理] セクションを使用します。

管理対象デバイスは、独自のサブネットに属するインフラストラクチャ サーバーに接続します。これは、そのサーバーに割り当てられたインフラストラクチャ ロケーションによって定義されています。デバイスは、データ転送タスクにこのサーバーを使用します。

[インフラストラクチャ管理] 領域には、次の領域で説明されているように、2 つのタブが含まれています。

- [サーバー](#) (142 ページ)
- [ロケーション](#) (149 ページ)









サーバー

インフラストラクチャ サーバー グループにデバイスを追加してから、インフラストラクチャ サービスを配布して、サーバーを定義します。インフラストラクチャ サーバーの追加が終了したら、サーバーごとにインフラストラクチャ ロケーションを割り当てる必要があります。詳細は、149 ページの「[ロケーション](#)」を参照してください。

▶ インフラストラクチャ サーバーは、オペレーティング システム イメージを除く、要求されたデータをすべて自動的にキャッシュします。同期機能を使用して、HPCAS サーバー上のすべてのデータをインフラストラクチャ サーバーに事前に入力することもできます。詳細は、146 ページの「[インフラストラクチャ サーバーの同期](#)」を参照してください。

[インフラストラクチャ サーバー] ツールバーには、お使いの環境のインフラストラクチャ サーバーの定義および設定に使用できるボタンがあります。

表 12 [インフラストラクチャ サーバー] ツールバー ボタン

ツールバー ボタン	説明
	データのリフレッシュ — リスト データのリフレッシュ
	CSV にエクスポート — 開いたり保存したりできる、コンマ区切りのリストを作成します。
	インフラストラクチャ サーバーの追加 — インフラストラクチャ サーバー グループへのデバイスの追加
	インフラストラクチャ サーバーの削除 — インフラストラクチャ サーバー グループからのデバイスの削除
	インフラストラクチャ サービスの配布 — インフラストラクチャ 配布ウィザードの起動
	インフラストラクチャ サービスの削除 — インフラストラクチャ 削除ウィザードの起動
	選択されたインフラストラクチャ サーバーのサービス キャッシュの同期 — 選択されたサーバーのサービス キャッシュを HPCAS サーバーと同期させます。
	デバイスの削除 — デバイスの削除

インフラストラクチャ サーバーは、インフラストラクチャ サーバー グループに追加されたデバイスで、インフラストラクチャ サービスがインストールされています。

次のセクションでは、インフラストラクチャ サーバーの定義と設定の方法を説明しています。

- [インフラストラクチャ サーバーの管理](#) (143 ページ)
- [インフラストラクチャ サービスの配布](#) (145 ページ)
- [インフラストラクチャ サーバーの同期](#) (146 ページ)
- [\[サーバーの詳細\] ウィンドウ](#) (148 ページ)

インフラストラクチャ サーバーの管理

インフラストラクチャ サーバーとして追加するデバイスを選択する場合、以下の考慮事項があります。

- デバイスには、パブリッシュされたサービスを保管するのに十分な領域が必要です。
- デバイスには、高性能の高速ネットワーク カード（データ転送速度 100 MB または 1 GB）が必要です。
- デバイスは、そのネットワークへのダウンロード トラフィックをローカライズするサブネット上に存在する必要があります。

ツールバーを使用して、インフラストラクチャ サーバー グループでのデバイスの追加および削除を行います。




使用するインフラストラクチャ サーバーのいずれかでファイアウォールが有効になっている場合は、次のポートを除外する必要があります。


- TCP 3463、139、445、および 3467
- UDP 137 および 138

Windows ファイアウォールのユーザーは、ファイルとプリンタの共有を選択し、TCP ポート 139 と 445、および UDP ポート 137 と 138 を除外できます。

インフラストラクチャ サーバーを追加するには

- 1 [インフラストラクチャ] ツールバーで、**[デバイスの追加]**  ツールバー ボタンをクリックします。[HPCAS インフラストラクチャ サーバー グループ メンバーシップ] ウィンドウが開き、HPCAS にインポートされた全デバイスのリストが表示されます。
- 2 リストからデバイスを選択して、**[デバイスの追加]** をクリックします。
追加されたデバイスが、インフラストラクチャ サーバー リストに表示されます。

インフラストラクチャ サーバーを削除するには

- 1 [インフラストラクチャ] ツールバーで、インフラストラクチャ サーバー グループから削除するデバイスを選択します。
- 2 **[デバイスの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。
そのデバイスがグループから削除されます。




インフラストラクチャ サービスがインストールされたインフラストラクチャ グループからデバイスを削除する場合、サービスが削除されるまで、インフラストラクチャ サーバーとして機能し続けます。サービスを削除するには、**[インフラストラクチャ サービスの削除]** ツールバー ボタンを使用します。

デバイスを追加したら、**インフラストラクチャ サービスの配布**を開始できます。各サーバーでリモート データ キャッシングを開始するには、このサービスが必要です。

インフラストラクチャ サービスの配布


インフラストラクチャ サービスを配布して、インフラストラクチャ サーバー デバイスでリモート サービスを有効にします。

インフラストラクチャ サービスを配布するには

- 1 左のカラムのチェック ボックスを使用して、インフラストラクチャ サーバー リストからデバイスを選択します。
- 2 **[インフラストラクチャ サービスの配布]**  ツールバー ボタンをクリックして、**インフラストラクチャ配布ウィザード**を起動します。
- 3 189 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスにインフラストラクチャ サービスを配布します。

インフラストラクチャ サーバーのローカル キャッシュで利用できないリソースをデバイスが要求するたびに、データが HPCAS サーバーから取得され、インフラストラクチャ サーバーのダイナミック キャッシュに保存されて、クライアント デバイスに提供されます。サービスは、同期機能を使用してインフラストラクチャ サーバーにプレロードすることができます。詳細は、146 ページの「**インフラストラクチャ サーバーの同期**」を参照してください。

インフラストラクチャ サービスを削除するには

- 1 左のカラムのチェック ボックスを使用して、インフラストラクチャ サーバー リストからデバイスを選択します。
- 2 **[インフラストラクチャ サービスの削除]**  ツールバー ボタンをクリックして、**インフラストラクチャ削除ウィザード**を起動します。
- 3 190 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスからインフラストラクチャ サービスを削除します。

インフラストラクチャ サーバーの作成が終了したら、**ロケーション**を定義し、その後、これらのサーバーを特定のサブネットに割り当てる必要があります。

インフラストラクチャ サーバーの同期

インフラストラクチャ サーバーのサービス キャッシュには、管理対象デバイスによって要求されるデータを事前に入力できます。通常、インフラストラクチャ サーバーは、クライアント デバイスから要求されると、オペレーティング システム イメージを除くデータを自動的にキャッシュします。同期機能を使用することで、**HPCAS** サーバー上の利用可能なすべてのデータをインフラストラクチャ サーバーのキャッシュにプレロードすることができます。

(インフラストラクチャ サーバーのサービスが配布された後に) [サーバーの詳細] ウィンドウの [キャッシュ] タブを使用して、どのデータをプレロードするかを選択できます。

▶ インフラストラクチャ サーバーのプレロードには、大規模なバイナリ ファイルのダウンロードが含まれるので、ネットワークの全体的なパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があります。可能な限り、最適なネットワーク パフォーマンスが優先事項とならない空き時間に同期を実行するようにしてください。

各インフラストラクチャ サーバーの現在の同期ステータスを表示するには、インフラストラクチャ サーバーのリストにある **[前回の同期]** カラムを確認するか、[サーバーの詳細] ウィンドウの [一般] タブの [要約] セクションを参照してください。**[前回の同期]** では、同期機能がサーバー上で最後にいつ開始されたかが記録されます。


▶ インフラストラクチャ サーバーの最初の同期が行われると、**HPCA エージェント ID** である **<DeviceName>_PRELOAD** を使用して、管理対象デバイス レポートに新しいエントリが追加されます。このエントリは、インフラストラクチャ サーバーのサービスのプレロードのステータスを表示するために特に存在し、関連デバイスの詳細なハードウェア情報は含まれていません。インフラストラクチャ サーバーからプレロードまたは削除されたサービスに関する情報は、管理対象デバイスのエントリの詳細リンクをクリックし、管理対象サービスを展開することで確認できます。これと同じ情報は、インフラストラクチャ サーバー用の [サーバーの詳細] ウィンドウの中で、[レポート] タブの [プレロードされたサービス] 以下からも確認できます。

どのデータをプレロードするかを選択するには

- 1 インフラストラクチャ サーバーのサービスの配布後に、インフラストラクチャ サーバーのリストの中からサーバーのリンクをクリックし、**[サーバーの詳細]** ウィンドウを開きます。
- 2 **[キャッシュ]** タブをクリックします。
- 3 ドロップダウン リストを使用して、HPCAS サーバーからプレロードできるようにするサービスの有効/無効を切り替えます。デフォルトでは、プレロードはすべてのサービスに対して無効になっています。
- 4 **[保存]** をクリックして、変更をコミットします。
- 5 最後に、**[同期]** をクリックし、インフラストラクチャ サーバーを利用可能なデータ エントリと即時に同期させます。

インフラストラクチャ サーバーを同期するには

[設定] タブ、および**[インフラストラクチャ管理]** セクションの **[サーバー]** タブにおいてインフラストラクチャ サーバーを同期させるのに使用できる方法には、次の 2 つがあります。

- 1 1 つ以上のサーバーを同期させるには、インフラストラクチャ サーバー リストを使用し、同期するすべてのサーバーを選択します。**[選択されたインフラストラクチャ サーバーのサービス キャッシュの同期]**  ツールバー ボタンをクリックし、選択されたすべてのサーバーを、HPCAS サーバーからの最新のデータと同期させます。各サーバーにプレロードされているサービスは、各サーバーの **[サーバーの詳細]** ウィンドウの **[キャッシュ]** タブの設定内容に依存します。
または
- 2 単一のサーバーを同期させるには、サーバーを選択し、ツールバー ボタンを使用するか、サーバー名をクリックして **[サーバーの詳細]** ウィンドウを開き、**[共通のタスク]** 領域にある **[同期]** をクリックします。**[キャッシュ]** タブを使用して、どのサービスをプレロードするかを決定し、**[同期]** をクリックすることもできます。

インフラストラクチャ サーバーのキャッシュ内のプレロードされたサービスの要約を表示するには

- **[サーバーの詳細]** ウィンドウを開き、**[レポート]** タブをクリックします。
[レポート] タブにキャッシュ内で利用できるプレロードされたサービスおよびそれぞれのステータスが表示されます。

[イベント] カラムでは、次のような現在のステータスが説明されます。

- **更新 (プレロード)** – サービスは、前回のキャッシュ同期で更新されました。
- **インストール (プレロード)** – サービスが正常にプレロードされました (初期プレロード)。
- **アンインストール (プレロード)** – サービスがプレロード キャッシュから削除されました。
- **修復 (プレロード)** – サービス用のキャッシュは、ファイルが不明であるか無効なファイルを含んでおり、前回の同期で修復されました。

レポートには、プレロードされたサービスのみが表示されます。デフォルトの方法 (管理対象デバイスによって要求された際に自動的にキャッシュされる) によってインフラストラクチャ サーバーに保存されているサービスは、表示されません。

[サーバーの詳細] ウィンドウ

[サービスの詳細] ウィンドウにアクセスするには、インフラストラクチャ サーバー リストから任意のサーバー名のリンクをクリックします。

[サービスの詳細] ウィンドウからは、インフラストラクチャ サーバーの管理およびデバイス、サブネット、およびプレロードされたサービスに関するステータスやその他の詳細の表示が行えます。

全般

[全般] タブでは、[共通のタスク] セクションの中でインフラストラクチャ サーバーに関する情報を表示し、**インフラストラクチャ サービスの配布**および**インフラストラクチャ サーバーの同期**サービス キャッシュなどのタスクを完了できます。

[要約] 領域には、サーバーに割り当てられているロケーション (サブネット) の数、および更新のためにそのサーバーに接続しているデバイスの数が表示されます。ステータスには、インフラストラクチャ サーバーのインストールの有無、およびサーバーのサービス キャッシュと **HPCAS** サーバーとが前回いつ同期されたかが表示されます。

プロパティ

[プロパティ] タブを使用して、インフラストラクチャ サーバー デバイスのすべての情報を表示します。その他の詳細情報を表示するには、[詳細プロパティ] セクションを展開します。

キャッシュ

[キャッシュ] タブでは、インフラストラクチャ サーバーのサービス キャッシュに保存されるサービスの種類を選択できます。詳細は、**146** ページの「[インフラストラクチャ サーバーの同期](#)」を参照してください。

ロケーション

[ロケーション] タブは、インフラストラクチャ サーバーに割り当てるサブネットを定義します。サブネットの追加および割り当ての詳細は、**149** ページの「[ロケーション](#)」を参照してください。

デバイス

[デバイス] タブには、インフラストラクチャ サーバーに現在割り当てられているすべてのデバイスが表示されます。このリストは、各デバイスの前回接続に基づいており、デバイスのサブネットが変更されたら、変化する場合があります。

レポート






[レポート] タブを使用して、サービスのプレロード要約を表示します。プレロードされたサービスのみが表示されます。（デバイスの要求後に）自動的にキャッシュされたサービスは表示されません。各プレロード ステータスの詳細は、**146** ページの「[インフラストラクチャ サーバーの同期](#)」を参照してください。

ロケーション

[ロケーション] タブを使用して、既存のロケーションを表示したり、新しいロケーション（サブネット）を追加したりします（このロケーションには、インフラストラクチャ サーバーを後から割り当てます）。これにより、管理対象デバイスがローカルのインフラストラクチャ サーバー（同じサブネット内に存在する）に接続することが保証されます。

[ロケーション] ツールバーには、お使いの環境のロケーションの定義および設定に使用できるボタンがあります。


表 13 [インフラストラクチャ サーバー] ツールバー ボタン

ツールバー ボタン	説明
	データのリフレッシュ – リスト データのリフレッシュ
	CSV にエクスポート – 開いたり保存したりできる、コンマ区切りのリストを作成します。
	新しいロケーションの作成 – インフラストラクチャ ロケーション作成ウィザードの起動
	ロケーションの自動作成(インベントリ データに基づき) – 管理対象デバイスからのインベントリ データに基づいて、ロケーションのリストを作成します。
	ロケーションの削除 – 選択したインフラストラクチャ ロケーションを削除します。


ロケーション リストには、追加された各ロケーションの情報が含まれています。たとえば、割り当てられているインフラストラクチャ サーバーやサブネット内に存在するデバイスの数などの情報です。任意の **[サブネット アドレス]** をクリックし、**[ロケーションの詳細]** ウィンドウを開きます。

HPCAS に保存されているインベントリ データに基づいて、新しいインフラストラクチャ ロケーションを手動で作成するか、自動的に作成することができます。必要なインベントリ データを取得するには、管理エージェントが配布されている必要があります。

新しいロケーションを作成するには

- 1 **[新しいロケーションの作成]**  ツールバー ボタンをクリックし、**インフラストラクチャ ロケーション作成ウィザード**を起動します。
- 2 190 ページのウィザードの手順に従って、新しいインフラストラクチャ ロケーションを作成します。


インベントリ データに基づいて新しいロケーションを作成するには

- 1 **[ロケーションの自動作成(インベントリ データに基づき)]**  をクリックします。
- 2 **[OK]** をクリックします。
- 3 **[閉じる]** をクリックします。


インフラストラクチャ ロケーションのリストが更新されます。この方法では、見つかった新しいサブセットごとに 1 つのロケーションが作成されます。

ロケーションが追加されたら、インフラストラクチャ サーバーを割り当てます。


ロケーションをインフラストラクチャ サーバーへ割り当てるには

- 1 **[サーバー]** タブをクリックします。
- 2 ロケーションを割り当てるインフラストラクチャ サーバーをクリックします。**[サーバーの詳細]** ウィンドウが開きます。
- 3 **[ロケーション]** タブをクリックします。
- 4 **[ロケーションの追加]**  ツールバー ボタンをクリックします。**[サーバーのロケーション]** ウィンドウが開きます。
- 5 インフラストラクチャ サーバーに割り当てるロケーションを選択し、**[ロケーションの追加]** をクリックします。
- 6 **[閉じる]** をクリックします。ロケーションの追加が完了したら、**[閉じる]** を再度クリックし、**[サーバーの詳細]** ウィンドウを閉じます。

以上の手順が完了すると、ロケーションがインフラストラクチャ サーバーに割り当てられ、定義されたサブネット内で接続を行うデバイスは、リソースのニーズに対してそのインフラストラクチャ サーバーにルーティングされます。

インフラストラクチャ サーバーに割り当てられたロケーションは、**[ロケーションの削除]**  ツールバー ボタンを使用して削除できます。

インフラストラクチャ サーバーからロケーションを削除するには

- 1 **[サーバー]** タブをクリックします。
- 2 ロケーションを削除するインフラストラクチャ サーバーをクリックします。**[サーバーの詳細]** ウィンドウが開きます。
- 3 **[ロケーション]** タブをクリックします。
- 4 削除するロケーションを選択して、**[ロケーションの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 5 **[閉じる]** をクリックします。ロケーションの削除が完了したら、**[閉じる]** を再度クリックし、**[サーバーの詳細]** ウィンドウを閉じます。

ロケーションの詳細

ロケーションのサブネット アドレスをクリックして、[ロケーションの詳細] ウィンドウを開きます。

- **[プロパティ]** タブを使用して、ロケーションの説明を変更します。変更後、**[保存]** をクリックします。
- **[デバイス]** タブを使用してサブネット内に存在するすべてのデバイスをリストします。

パッチ管理 — 設定

[パッチ管理] セクションを使用して、パッチおよび HP Softpaq の取得、パッチ取得スケジュールの設定、およびパッチ取得設定の指定を行います。

エンタイトルメントを持っているパッチは、**パッチの適用状況探索ウィザード**を使用して指定した適用状況探索スケジュールに基づいて、自動的に配布されます。パッチは、**パッチ配布ウィザード**を使用して即時に配布できます。

図 23 [設定] タブの [パッチ管理] セクション

The screenshot shows the 'Patch Management' window with the 'Settings' tab selected. The main heading is 'Patch Acquisition Schedule'. It displays the current schedule status as 'No schedule is set' and provides a button to 'Get patches immediately'. Below this, there are fields for 'Schedule creation/update', 'Execution' (set to 'Every time'), 'Interval' (set to '1 hour'), 'Start date' (set to '2007-12-14 22:49:41 Tokyo Standard Time'), and 'Current server time'.

Field	Value
現在のスケジュール:	スケジュールは設定されていません
スケジュールの作成/更新:	
実行:	× 時間ごと
間隔:	1 時間
開始日:	2007 12 月 14 時間 22 : 50
現在のサーバー時刻:	2007-12-14 22:49:41 東京 (標準時)

次のセクションでは、各 [パッチ管理] タブについて説明します。

- **パッチ取得スケジュールの設定** (153 ページ)
- **パッチ取得設定の設定** (153 ページ)

パッチ取得スケジュールの設定

[スケジュール] タブを使用して、パッチの取得またはパッチ取得スケジュールの設定を行います。



最新のパッチを効率的に取得するため、パッチ取得スケジュールを 1 日に 1 度だけオフピーク時に実行するよう設定することを推奨します。

[現在のスケジュール] は、現在設定されているパッチ取得スケジュールを示します。

パッチを取得するには

- **[パッチを今すぐ取得]** をクリックして、現在のパッチ取得設定に基づき、パッチを取得します。パッチがダウンロードされ、パッチ ライブラリに保管されます。
- **[パッチ管理]** の **[パッチ]** タブで取得したパッチを確認します。

パッチ取得スケジュールを設定するには

- 1 付属のツールを使用して、取得スケジュールを設定します。
 - **実行**：時間、日、週など一定の間隔でパッチを探索するかどうかを設定します。
 - **間隔**：具体的な間隔（時間、日、または週）を選択します。
 - **開始日**：ドロップダウン リストを使用して、パッチ適用状況を探る日を選択します。
 - **[現在のサーバー時刻]** は、HPCAS サーバーの現在の時刻を表示します。
 - 2 終了したら、**[保存]** をクリックして、変更をコミットします。
- [現在のスケジュール]** の後に、新しいスケジュールが表示されます。

パッチ取得設定の設定

[設定] タブを使用して、取得する Windows パッチおよび HP Softpaq の取得設定を設定します。パッチは、HP および Microsoft から取得します。Softpaq は、HP インスタント サポート技術を活用して取得します。

必須のフィールドにはアスタリスク (*) が付いています。

図 24 パッチ取得の [設定] タブ

パッチ管理

スケジュール

設定

パッチ取得設定

取得するパッチタイプの取得設定を行ってください。ブリテンは HP とサードパーティベンダーソースの両方から取得されます。

必須フィールド *

Microsoft ブリテン

有効化：

はい

取得するブリテン：

MS07*

例：MS05* または MS05*,MS06*

取得する言語：

en,ja

例：en または en,ja,fr

HP Softpaq

有効化：

いいえ

接続の設定

Proxy Server のアドレス：

wwwproxy.chn.hp.com:8088

例：http://proxyserver:8080

プロキシのユーザー ID：

プロキシのパスワード：

保存

リセット

パッチ取得設定を行うには

1 [Microsoft ブリテン] 領域に入力します。


- **[有効]** ドロップダウン リストで **[はい]** を選択して **Microsoft ブリテン** を取得します。
- **[取得するブリテン]** テキスト ボックスに、各探索期間にダウンロードするブリテンを入力します。ブリテンの範囲を指定するには、ワイルドカード文字を使用します (**MS05*** など)。複数のブリテン検索を同時に行うには、コンマで区切ります (**MS05*,MS06*** など)。
- **[取得する言語]** テキスト ボックスに、ダウンロードするパッチに利用可能な各言語バージョンの言語コードを入力します。次の表を使用して、適切な言語コードを確認します。複数の言語コードはスペースを入れずにコンマで区切ります (**en,fr,ja** など)。コードは大文字と小文字を区別します。

表 14 言語コード

Language = Code	言語 = コード	言語 = コード
アラビア語 = ar	フランス語 = fr	ノルウェー語 (ブークモール) = no
中国語 (香港特別行政区) = zh-hk	ドイツ語 = de	ポーランド語 = pl

Language = Code	言語 = コード	言語 = コード
中国語（簡体字） = zh-cn	ギリシャ語 = el	ポルトガル語（ブラジル） = pt-br
中国語（繁体字） = zh-tw	ヘブライ語 = he	ポルトガル語（ポルトガル） = pt-pt
チェコ語 = cs	ハンガリー語 = hu	ロシア語 = ru
デンマーク語 = da	イタリア語 = it	スペイン語 = es
オランダ語 = nl	日本語 = ja	スウェーデン語 = sv
英語 = en	日本語（NEC） = ja-nec	トルコ語 = tr
フィンランド語 = fi	韓国語 = ko	

2 [HP Softpaq] 領域に入力します。

- **[有効]** ドロップダウン リストで **[はい]** を選択して HP Softpaq を取得します。
- **[HP システム ID]** テキスト ボックスで、どのデバイス関連 HP Softpaq を取得するか決定します。これには、テキスト ボックスに HP システム ID のリストを入力するか、またはテキスト ボックスの右にある **[データの取得]** ボタン  をクリックして、HPCAS のデバイスに基づいたシステム ID のリストを自動的に作成します。

3 必要な場合は、[接続の設定] 領域に入力します。

- ブリテンの取得元の **[プロキシ サーバーのアドレス]** を入力します (<http://proxyserver:8080/> など)。
- パッチを取得するときに使用する **[プロキシのユーザー ID]** および **[プロキシのパスワード]** を入力します。



パッチ取得は、基本認証で設定されたプロキシ サーバーからしか行えません。

4 [保存] をクリックして、変更を適用します。

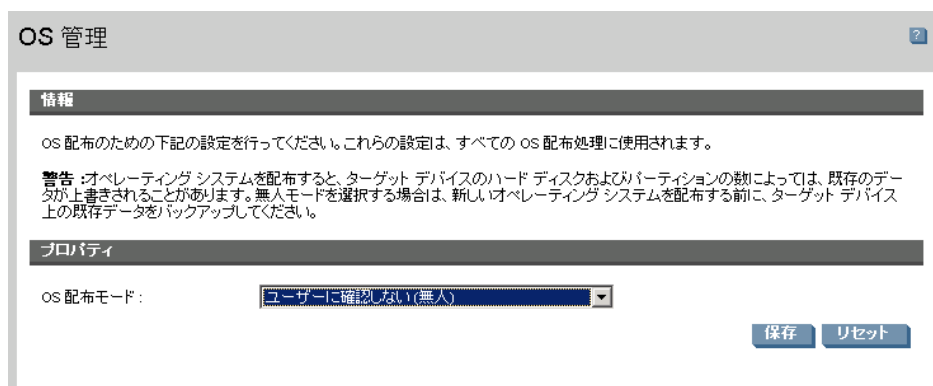


最初のパッチ取得は、長時間かかる場合があります。

OS 管理

[OS 管理] セクションを使用して、オペレーティング システム配布の設定を行います。

図 25 [設定] タブの [OS 管理] セクション



OS 配布モードを設定するには

- [設定] タブの [OS 管理] セクションで、[OS 配布モード] を選択します。
 - ユーザーに確認する（有人） — 配布プロセスを続行するには、オペレーティング システムの配布中にユーザーが管理対象デバイスがある場所にいる必要があります。
 - ユーザーに確認しない（無人） — オペレーティング システム配布の間に、管理対象デバイスではダイアログ ウィンドウが表示されません。ユーザーとの対話は必要ありません。



オペレーティング システム イメージを配布すると、ターゲット デバイスのハード ディスクおよびパーティションの数によっては、既存のデータが上書きされることがあります。**【ユーザーに確認しない（無人）】** を選択する場合、新しいオペレーティング システムを配布する前に、既存のデータを必ずバックアップしてください。



オペレーティング システムの配布中に設定を移行する場合、オペレーティング システムをインストールする前にデバイスの設定をバックアップする際、パスワードを入力する必要があります。

- **[保存]** をクリックして、変更をコミットします。



OS 配布モードを変更すると、すべての新規およびスケジュール済み OS 配布ジョブに影響を与えます。

ハードウェア管理

[ハードウェア管理] セクションを使用して、HP Client Management Interface (CMI)、Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology (S.M.A.R.T.) 警告オプションおよび Trusted Platform Module (TPM) を設定します。

次のセクションでは、利用可能なハードウェア設定オプションを説明します。

- [CMI の設定](#) (157 ページ)
- [S.M.A.R.T. の設定](#) (158 ページ)
- [TPM の設定](#) (159 ページ)

CMI の設定

CMI Softpaq は、HPCAS Agent 配布の一部として、各 HP ターゲット デバイスにインストールされます。HP Client Management Interface (CMI) は、企業管理者や IT プロフェッショナルに、HP ビジネスクラス デスクトップ、ノートブックおよびワークステーションに対する高レベルの管理システムを提供します。

CMI のハードウェア固有の情報が取得され、レポートに利用できます。[レポート] タブの [表示オプション] セクションで **[HP 固有のレポート]** レポート ビューを使用して、CMI ハードウェア関連レポートを作成します。(CMI 関連のレポート オプションを表示するには、**[インベントリ管理レポート]**、**[ソフトウェア レポート]**、**[HP 固有のレポート]** の順で選択します)。

CMI に関する詳細は、次を参照してください。

<http://h20331.www2.hp.com/Hpsub/cache/284014-0-0-225-121.html>

[CMI] タブを使用して、HP CMI 設定を変更します。変更した設定は、管理対象のクライアントが次に HPCAS インフラストラクチャに接続したときに、有効になります。



CMI は、特定の HP デバイス モデルでしか互換性がありません。互換性に関する情報は、デバイスの説明を参照してください。

CMI を設定するには

- 1 HPCAS コンソールで、**[設定]** タブをクリックし、**[ハードウェア管理]** を選択します。
- 2 **[CMI]** タブをクリックします。

クライアント警告のレポートを有効にするには

- 1 [クライアント警告のレポート] ドロップダウン リストから **[有効]** を選択して、管理対象 HP デバイスから取得したクライアント警告についてレポートします。警告レポートはデフォルトでは無効になっています。
- 2 レポートする最低の警告重大度をドロップダウン リストから選択します。

クライアント デバイスにクライアント警告を表示するには

- 1 [クライアント警告の表示] ドロップダウン リストから **[有効]** を選択して、管理対象 HP デバイスでのクライアント警告をオンにします。警告はデフォルトでは無効です。
- 2 クライアント デバイスに表示する最低の警告重大度を選択します。
- 3 警告をクライアント デバイスに表示する秒数を入力します。デフォルトでは、警告は 5 秒間表示されます。

S.M.A.R.T の設定

Self-Monitoring, Analysis, and Reporting Technology (S.M.A.R.T.) とは、コンピュータのハードディスクの監視システムで、信頼性のさまざまなインジケータについて検出およびレポートを行い、ドライブの問題に対する早期警告システムとして働きます。これらのイベントの検出は、**Client Automation Management Agent** の一部として、表示とレポートの両方の目的で有効化することができます。**[設定]** タブの **[ハードウェア管理]** 領域を使用して、S.M.A.R.T. 監視設定を構成します。S.M.A.R.T. 監視は、デフォルトでは無効です。

S.M.A.R.T. 監視の有効化および設定を行うには

- 1 HPCAS コンソールで、**[設定]** タブをクリックし、**[ハードウェア管理]** を選択します。

- 2 **[S.M.A.R.T.]** タブをクリックします。
- 3 **[S.M.A.R.T. 監視の有効化]** ドロップダウン リストを使用し、**[有効]** を選択します。S.M.A.R.T. 監視は、デフォルトでは無効です。
- 4 **[クライアント警告の表示] ドロップダウン** リストを使用して、S.M.A.R.T. クライアント 警告の有効/無効を切り替えます。警告はデフォルトでは無効です。クライアント警告を有効化すると、管理対象デバイスでドライブに関する問題が検出されると、そのデバイス上に警告ウィンドウが表示されます。
- 5 **[クライアント警告のレポート]** ドロップダウン リストを使用して、S.M.A.R.T. クライアント 警告レポートの有効/無効を切り替えます。有効化されると、クライアント警告が取得され、レポートの目的で利用できるようになります。レポートはデフォルトでは無効になっています。
- 6 **[保存]** をクリックします。

[S.M.A.R.T. 監視の有効化] および **[クライアント警告のレポート]** の有効化後は、HPCAS コンソールの **[レポート]** 領域を使用して、S.M.A.R.T. レポートを作成します。警告レポートは、**インベントリ管理レポート** レポート ビューに含まれています。**S.M.A.R.T. 警告** レポートを表示するには、**[インベントリ管理レポート]**、**[ハードウェア レポート]**、**[詳細レポート]** の順で選択します。

TPM の設定

[TPM] タブを使用して、互換性がある HP デバイスに **Trusted Platform Module** チップを設定します。**CCM_TPM_ENABLEMENT** サービスを配布して、TPM の所有権を初期化し、これらの設定を適用します。ソフトウェア配布に関する情報は、83 ページの「**ソフトウェアの配布**」を参照してください。

▶ **TPM セキュリティ チップ**を有効化および初期化するには、**HP ProtectTools** ソフトウェアをデバイスにインストールしておく必要があります。デバイス モデルによっては、このソフトウェアがプレインストールされているものや、別途ソフトウェアをダウンロードまたは購入する必要があるものがあります。詳細は、ご使用のデバイス モデルの **HP ドキュメント**を参照してください。

TPM は、HP ビジネス PC のマザーボードに取り付けられたハードウェア セキュリティ チップです。これは、**HP ProtectTools Embedded Security** の一部です。

詳細は、次を参照してください。

<http://h20331.www2.hp.com/hpsub/cache/292199-0-0-225-121.html>

TPM を設定するには

- 1 HPCAS コンソールで、[設定] タブをクリックし、**[ハードウェア管理]** を選択します。
- 2 **[TPM]** タブをクリックします。
- 3 **BIOS Admin** パスワードおよび **TPM Owner** パスワードを入力します。
- 4 緊急リカバリ トークンおよびパスワード リセット トークンを入力します。
- 5 [再起動の設定] を選択します。**TPM** チップが有効になった後で、デバイスが再起動されます。この設定は、エンド ユーザーが行う対話のレベルを決定します。
 - **許可のみ** — 再起動の後、ユーザーは有効化を許可する必要があります。
 - **許可または拒否** — 再起動の後、ユーザーは有効化を許可または拒否できます。
 - **サイレント** — ユーザーは、再起動の後に有効化の確認を求められません。
- 6 バックアップ アーカイブ、緊急リカバリ アーカイブ、および **TPM** パスワード リセット アーカイブのファイル パスを入力します。
- 7 **[保存]** をクリックします。

レポート

[レポート] セクションのタブを使用して、データベースの **ODBC** 設定の変更、利用状況データ収集の設定、利用状況収集フィルタの管理、および古いレポートデータのクリーンアップを行います。

- [データベース](#) (161 ページ)
- [利用状況の設定](#) (161 ページ)
- [利用状況の収集](#) (162 ページ)
- [メンテナンス](#) (167 ページ)

図 26 「設定」 タブの 「レポート」 セクション

レポート

データベース 利用状況の設定 利用状況の収集 メンテナンス

ODBC 設定

下記の ODBC 設定を行ってください。これらの設定は Client Automation サーバーの ODBC DSN の設定と一致する必要があります。

必須フィールド *

ODBC DSN : CCMDB

ODBC のユーザー ID : * sa

ODBC のパスワード :

保存 リセット

データベース

[データベース] タブを使用して、ODBC の設定を行います。これらの設定は HPCAS サーバーの ODBC DSN の設定と一致する必要があります。

必須のフィールドにはアスタリスク (*) が付いています。

ODBC を設定するには

- 1 表示されるテキスト ボックスに DSN ユーザー ID およびパスワードを入力します。
- 2 **【保存】** をクリックして、変更をコミットします。

利用状況の設定

[利用状況の設定] タブを使用して、利用状況収集のパラメータを設定します。必要な場合には、プライバシーを確保するため、利用状況データを難読化できます。利用状況データは、収集エージェントが配布されたときに収集されます。[アプリケーション利用状況収集ウィザード](#)を使用して、エージェントを配布し、データの収集を始めます。

利用状況の設定は、収集スケジュールの間に既存のクライアント デバイスに適用されます。



難読化は、収集エージェントを配布する前に有効にしておく必要があります。エージェントを配布してから有効にすると、レポート データの一部が、難読化された状態や難読化されない状態で表示されます。

利用状況データを難読化するには

- 1 ドロップダウン リストを使用して、どの利用状況データ情報を非表示にするかを選択します。
 - **コンピュータ** — コンピュータ関連の情報を非表示にします。
コンピュータ名はランダムな英数字列としてレポートされます。
 - **ユーザー** — ユーザー固有の情報を非表示にします。
ユーザー名は **[AnyUser]** としてレポートされます。
 - **ドメイン** — ドメイン情報。
ドメイン名は、ランダムな英数字列としてレポートされます。
 - **利用状況** — 利用回数および利用時間を非表示にします。
実行ファイルの利用時間および起動回数はすべてゼロとレポートされます。
- 2 利用状況レポート内で難読化する利用状況情報の隣にある **[有効]** を選択します。
- 3 **[保存]** をクリックして、変更をコミットします。

利用状況の収集

[利用状況の収集] タブを使用して、利用状況収集フィルタの作成および管理を行います。

図 27 「利用状況の収集」タブ

レポート

データベース 利用状況の設定 利用状況の収集 メンテナンス

情報

設定されているすべての収集フィルタは下記のとおりです。これらのフィルタによって、HPCA 利用状況収集エージェントがレポートのために提供する利用状況データが決まります。

収集フィルタ

検索: 説明 含む

検索 リセット

10 項目 1-7 項目 (共に 7 項目)

説明	有効化	前回の变更日期
<input type="checkbox"/> Internet Explorer	いいえ	2006-06-13 11:55:25
<input type="checkbox"/> Microsoft PowerPoint	いいえ	2006-06-13 11:52:17
<input type="checkbox"/> Microsoft Project	いいえ	2006-06-13 11:52:14
<input type="checkbox"/> Microsoft Outlook	いいえ	2006-06-13 11:52:11
<input type="checkbox"/> Microsoft Excel	いいえ	2006-06-13 11:52:08
<input type="checkbox"/> Microsoft Word	いいえ	2006-06-13 11:52:04
<input type="checkbox"/> Microsoft Access	いいえ	2006-05-17 15:26:56

0 個のアイテムが選択されました

▶ アプリケーション利用状況データを収集するには、**HP Client Automation Standard** が必要です。

利用状況収集フィルタは、利用状況収集エージェントがどの利用状況データをレポートに利用できるようにするかを決定します。利用状況収集エージェントがデバイスに配布されると、全アプリケーションの全利用状況データが収集されローカルに保存されます。作成して有効にした利用状況フィルタが、ローカルの利用状況データのどれを **HPCAS** に送信するかを決定します。[アプリケーション利用状況収集ウィザード](#)を使用して、収集エージェントを配布し、収集スケジュールを指定します。

利用状況収集エージェントがすでに配布されているときにフィルタを有効にすると、フィルタが指定し、収集してローカルに保存されていた利用状況データがすべて **HPCAS** にレポート用に送信されます。

たとえば、利用状況収集エージェントが 5 月に配布され、フィルタが **Microsoft Word** に対して有効になると、**Microsoft Word** の利用状況データすべてが、指定したスケジュールに基づいて **HPCAS** へ送信されます。さらに 6 月に、**Microsoft Excel** に対して新しいフィルタを作成し、有効にすると決めました。次に利用状況データが **HPCAS** に送信されるとき、5 月に初めて利用状況収集エージェントがインストールされた日から 6 月の現在の日付までの、収集され

ローカルに保存されていた **Excel** 利用状況データもすべて送信されます。その後、両方のアプリケーションについて、利用状況の送信が続きます。

利用状況データは、**12** か月の間、管理対象デバイスでローカルに保存されます。

利用状況収集フィルタの設定手順は、次を参照してください。

- [利用状況収集フィルタの設定](#) (164 ページ)
- [利用状況条件の定義](#) (165 ページ)

利用状況収集フィルタの設定

利用状況収集フィルタ作成ウィザードを使用して、新しい利用状況収集フィルタを作成します。既存のフィルタを変更するには、[フィルタの詳細] ウィンドウを使用してください。


HPCAS にはデフォルトで、あらかじめ設定された収集フィルタが備えられています。新しいフィルタを作成するモデルにこれらのフィルタを使用したり、ニーズに合うようにこれらのフィルタを変更したりできます。




ワイルドカード文字を使用して利用状況データを収集するフィルタを設定すると、大量のデータが収集されることになる場合があります。この場合、データベースのサイズが大きくなるにつれて、レポートのパフォーマンスに重大な問題が生じる可能性があります。利用状況情報がほしいアプリケーションについてだけ、データを収集するフィルタを作成するように、強く推奨します。

全アプリケーションについて利用状況データを収集するのは、避けてください。

収集フィルタを作成するには

- 1 [利用状況] タブで、**[新しいフィルタの作成]**  ツールバー ボタンをクリックして、[利用状況収集フィルタ作成ウィザード](#)を起動します。
- 2 188 ページのウィザードの手順に従って、新しい収集フィルタを作成し有効にします。

収集フィルタを有効にするには

- 1 フィルタ リストで、フィルタの説明の左にあるボックスをクリックし、有効にするフィルタを選択します。
- 2 **[選択したアイテムの有効化]**  ツールバー ボタンをクリックします。

- 3 **[保存]** をクリックします。

既存のフィルタを変更するには

- 1 フィルタ リストで、フィルタの説明リンクをクリックして、[フィルタの詳細] ウィンドウを開きます。
- 2 [フィルタ条件] 領域に、利用状況データを収集するときに使用する具体的なフィルタ条件を入力します。どの条件を選択するか決定するためのアドバイスは、165 ページの「[利用状況条件の定義](#)」を参照してください。
- 3 **[保存]** をクリックします。

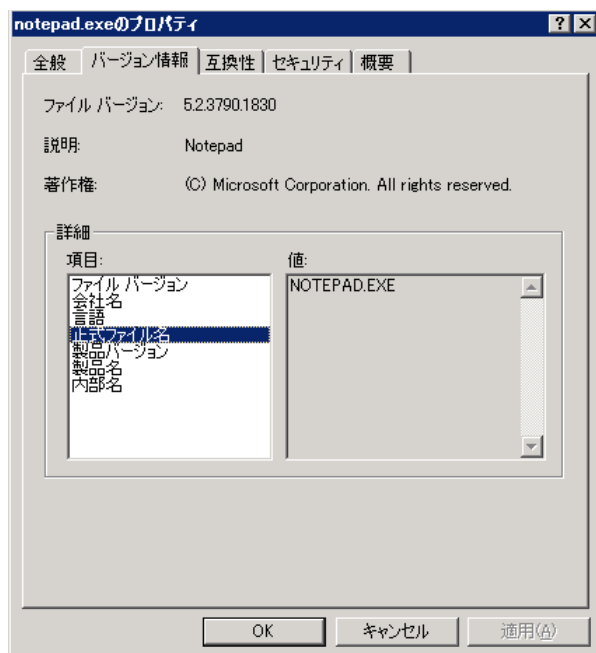
利用状況条件の定義

利用状況収集エージェントは、ローカルの各実行可能ファイルのファイル ヘッダー情報を使用して、そのアプリケーションが定義されたフィルタ条件に適合するか判断します。フィルタを定義するときに、ファイル ヘッダー情報を使用して、どの条件を使用するか決定できます。

ファイル ヘッダー情報を決定するには

- 1 システムの実行可能ファイルを右クリックします。
- 2 ショートカット メニューから **[プロパティ]** を選択します。
- 3 [プロパティ] ウィンドウで **[バージョン]** タブをクリックします。

図 28 アプリケーションの [プロパティ] ウィンドウ



[項目名] および **[値]** 領域に含まれる情報を利用状況収集エージェントが使用して、利用可能な利用状況データにフィルタを適用します（[言語] および [内部名] の各項目は、現在サポートされていないので除外されます）。

▶ すべての実行可能ファイルが、ファイル ヘッダーに格納された値をサポートし、正しく取得するわけではありません。

次の例は、特定のアプリケーションについて検索するフィルタの作成方法を説明しています。

notepad.exe の利用状況データにフィルタを設定するには

- 1 利用状況収集フィルタ作成ウィザードを起動して、新しい利用状況フィルタを作成します。
- 2 [プロパティ] の手順で、次のフィルタ条件を定義します。
 - 説明 : Notepad
 - 有効 : はい
 - ファイル/アプリケーション名 : notepad.exe


- 3 利用状況収集エージェントを管理対象デバイスに配布します。管理対象デバイスへのソフトウェア配布に関する指示は、83 ページの「ソフトウェアの配布」を参照してください。

利用状況データが毎週 HPCAS に送信され、これには収集エージェントがインストールされている全デバイスに対する Notepad の利用状況データすべてが含まれます。

メンテナンス

[メンテナンス] タブは、HPCAS にレポート データが格納されているデバイスがすべて表示されます。[メンテナンス] タブ ツールバーを使用して、HPCAS データベースにはすでに存在しないデバイスのレポート データをクリーン アップします。

デバイスのレポート データを削除するには

- 1 [メンテナンス] タブで、HPCAS からレポート データを削除するデバイスを選択します。
- 2 [レポート データの削除]  ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 レポート データが HPCAS から削除されます。

デバイスのレポート データが削除されると、そのデータはレポートの生成に利用できなくなります。



アクティブに管理されているデバイスのレポート データを削除する場合、レポート データの矛盾を避けるため、削除してから、そのデバイスに管理エージェントを再配布します。

7 ウィザード

HPCAS を使用する際、多くの異なるウィザードを使用して、エージェントの配布、デバイスの追加、グループの作成、およびその他の作業を行います。このセクションでは、各ウィザードの個別の手順について説明します。

▶ ウィザードには、コントロール パネルの複数の領域から起動できるものがあります。

- デバイス インポート ウィザード (170 ページ)
- エージェント配布ウィザード (171 ページ)
- エージェント削除ウィザード (172 ページ)
- ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード (173 ページ)
- パッチの適用状況探索ウィザード (174 ページ)
- アプリケーション利用状況収集ウィザード (174 ページ)
- 電源管理ウィザード (175 ページ)
- グループ作成ウィザード (177 ページ)
- ソフトウェア配布ウィザード (180 ページ)
- サービス インポート ウィザード (181 ページ)
- サービス エクスポート ウィザード (181 ページ)
- ソフトウェア同期ウィザード (182 ページ)
- パッチ配布ウィザード (183 ページ)
- サービス エンタイトルメント ウィザード (184 ページ)
- ソフトウェア削除ウィザード (185 ページ)
- ユーザー作成ウィザード (186 ページ)
- OS 配布ウィザード (186 ページ)
- 利用状況収集フィルタ作成ウィザード (188 ページ)
- インフラストラクチャ配布ウィザード (189 ページ)
- インフラストラクチャ削除ウィザード (190 ページ)
- インフラストラクチャ ロケーション作成ウィザード (190 ページ)




ウィザードを実行したり通知を表示したりするときに、HPCAS コンソールが別のブラウザ インスタンスを開く場合があります。これらのウィザードや通知にアクセスするには、ブラウザのポップアップ ブロック設定で [許可されたサイト] に HPCAS を設定します。

デバイス インポート ウィザード

デバイス インポート ウィザードを使用して、HPCAS データベースでのデバイスの探索および追加を行います。デバイスは、インポートされると、エージェント配布ウィザードを使用して管理の対象とすることができます。


デバイス インポート ウィザードを使用してデバイスをインポートするには

- 1 ウィザードを起動するには、[デバイス管理] セクションの [一般] タブにある [インポート] をクリックするか、[デバイス] タブの [管理対象デバイスのインポート]  ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 ドロップダウン リストから [デバイス ソース] を選択します。
 - 手動インポート — 表示されたボックスに、デバイスのホスト名または IP アドレスのリストを入力するか貼り付けます。
 - LDAP/Active Directory — Active Directory や他の LDAP 互換ディレクトリ サービスからデバイスを自動的にインポートするには、LDAP ホスト、ポート、ユーザー ID、パスワード（必要な場合）、およびクエリする DN を入力します。
また、クエリに適用する、範囲、詳細フィルタ、またはデバイスの制限を選択します。
 - ドメイン — インポートするデバイスのネットワーク ドメインをスキャンするには、ドメイン名（たとえば、ABC ドメインの完全ドメイン スキャンには ABC と入力）またはドメイン名の一部とワイルドカード文字 (ABC* とすると、ABC で始まるドメインから全デバイスが返されます) を入力します。ドメインの特定のデバイスを含めるには、「ドメイン¥デバイス」という構文を使用します。たとえば、Sales¥WS* は、Sales ドメインの WS で始まるデバイスだけを返します。
ドメインの特定のデバイスを除外するには、感嘆符 (!) を使用します。たとえば、Sales,!Sales¥WS* は、WS で始まるデバイスを除く、Sales ドメインの全デバイスを返します。

- 3 **[インポート]** をクリックします。
 - 4 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。
- インポートされたデバイスは、**[デバイス]** タブに表示されます。

エージェント配布ウィザード

エージェント配布ウィザードを使用して、HPCAS データベースのデバイスに管理エージェントを配布します。

 管理エージェントをデバイスに配布する前に、30 ページの **ターゲットデバイス** のファイアウォール設定のルールを確認し、必要なファイアウォールのルールが必ず使用されているようにしてください。

エージェント配布ウィザードを使用して管理エージェントを配布するには

- 1 ウィザードを起動するには
 - **[デバイス管理]** にある **[一般]** タブの **[配布]** をクリックします。
 - **[デバイス管理]** にある **[デバイス]** タブの **[管理エージェントの配布]** ツールバー ボタンをクリックします。
 - **[グループ管理]** にある **[グループ]** タブの **[管理エージェントの配布]** ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 利用可能なデバイスがすべて表示されます。管理エージェントを配布する各デバイスを選択して、**[次へ]** をクリックします。デバイスのリストの範囲を絞り込むには、**[検索]** 機能を使用します。
- 4 選択したデバイスに関する必要な情報を入力して、**[次へ]** をクリックします。
- 5 ウィザードが完了したらすぐにエージェントを配布するには、**[実行：今すぐ]** を選択します。または、**[実行：後で]** を選択して、エージェント配布の日付と時刻を入力します。
- 6 **[その他のパラメータ]** セクションで、**[はい]**（デフォルト）を選択してエージェントをサイレントでインストールするか、**[いいえ]** を選択し、インストール プロセスでターゲット デバイス上にインストール UI を表示します。



管理デバイスは、Windows Vista および Windows Server 2008 デバイスには、[その他のパラメータ]が選択されているかどうかにかかわらず、サイレント モードでのみ配布されます。

- 7 **[次へ]** をクリックします。
- 8 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。エージェント配布ジョブが作成されました。
- 9 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。


エージェント削除ウィザード

HPCAS データベースにあるデバイスから管理エージェントを削除するには、エージェント削除ウィザードを使用します。



管理エージェントを削除すると、ソフトウェアやパッチを配布したり、そのデバイスの最新のインベントリ情報を収集したりすることができなくなります。管理対象でないデバイスは、グループまたは HPCAS から削除されるまで、それぞれのグループに存在し、配布済みのすべてのソフトウェアを保持します。

エージェント削除ウィザードを使用して管理エージェントを削除するには


- 1 [デバイス管理] の **[デバイス]** タブ、または [グループ管理] の **[グループ]** タブからウィザードを起動します。
- 2 管理エージェントを削除するデバイスまたはグループを選択して、**[管理エージェントの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。
- 4 ウィザードが完了したらすぐにエージェントを削除するには、**[実行：今すぐ]** を選択します。または、**[実行：後で]** を選択して、エージェント削除の日付と時刻を入力します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
- 6 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。エージェント配布ジョブが作成されました。
- 7 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード

ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードを使用して、選択したデバイスについてソフトウェアとハードウェア インベントリを探索する、インベントリ監査ジョブを作成します。

ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードを使用してインベントリを探索するには

- 1 [デバイス管理] の [デバイス] タブ、または [グループ管理] の [グループ] タブからウィザードを起動します。

— **[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索]** を選択します。

- 2 ウィザードが完了したらすぐにインベントリを探索するには、**[実行：今すぐ]** を選択します。または、**[実行：後で]** を選択して、インベントリ探索の日付と時刻を入力します。反復スケジュールを設定するには、**['x' 時間ごと]**、**['x' 日ごと]**、または **['x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウン リストから **[間隔]** を選択します。



反復ジョブ スケジュール オプション (['x' 日ごと] など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。



- 3 そのデバイスで **[LAN で起動]** を有効にするかどうかを選択します。ドロップダウン リストで **[はい]** を選択すると、HPCAS は、必要な場合、デバイスの電源をオンにしてインベントリを探索します。
- 4 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。
- 5 ジョブが正常に作成されました。**[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

保留中の管理ジョブをすべて表示するには、**[現在のジョブ]** タブを使用します。

パッチの適用状況探索ウィザード

パッチ適用状況探索ウィザードを使用して、選択したデバイスおよびグループに対するパッチ適用状況スケジュールを設定します。

パッチ適用状況を探るには

- 1 [デバイス管理] の [デバイス] タブ、または [グループ管理] の [グループ] タブからウィザードを起動します。
 - **[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[パッチ適用状況の探索]** を選択します。
- 2 ウィザードが完了したらすぐにジョブを実行するようスケジュールを設定するには、**[実行：今すぐ]** を選択します。または、**[実行：後で]** を選択して、ジョブを開始する日付と時刻を入力します。反復スケジュールを設定するには、**[x' 時間ごと]**、**[x' 日ごと]**、または **[x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウン リストから **[間隔]** を選択します。
 -  反復ジョブ スケジュール オプション ([x' 日ごと] など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。
- 3 そのデバイスで **[LAN で起動]** を有効にするかどうかを選択します。ドロップダウン リストで **[はい]** を選択すると、HPCAS は、必要な場合、デバイスの電源をオンにします。
- 4 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。
- 5 ジョブが正常に作成されました。**[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。


終了したら、[レポート] タブを使用して、選択したデバイスまたはグループに関する適用状況レポートを表示します。

アプリケーション利用状況収集ウィザード

アプリケーション利用状況収集ウィザードを使用して、ターゲット デバイスまたはグループのアプリケーション利用状況データを収集します。アプリケーション利用状況収集ウィザードは、ターゲット デバイスに収集エージェントをインストールして、ユーザーが作成し有効にしたフィルタに基づいて利用状況データを返します。詳細は、162 ページの「[利用状況の収集](#)」を参照してください。

アプリケーション利用状況データを探索するには

- 1 [デバイス管理] の [デバイス] タブ、または [グループ管理] の [グループ] タブからウィザードを起動します。

— [インベントリの収集]  ツールバー ボタンをクリックして、[アプリケーション利用状況の探索] を選択します。

- 2 ウィザードが完了したらすぐにジョブを実行するようスケジュールを設定するには、[実行：今すぐ] を選択します。または、[実行：後で] を選択して、ジョブを開始する日付と時刻を入力します。反復スケジュールを設定するには、[x' 時間ごと]、[x' 日ごと]、または [x' 週ごと] を選択して、ドロップダウン リストから [間隔] を選択します。



反復ジョブ スケジュール オプション ([x' 日ごと] など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。

週ごとのアプリケーション利用状況データの収集を推奨します。

- 3 そのデバイスで [LAN で起動] を有効にするかどうかを選択します。ドロップダウン リストで [はい] を選択すると、HPCAS は、必要な場合、デバイスの電源をオンにします。
- 4 要約情報を確認し、[サブミット] をクリックします。
- 5 ジョブが正常に作成されました。[閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。


保留中の管理ジョブをすべて表示するには、[現在のジョブ] タブを使用します。

電源管理ウィザード

選択したデバイスの電源をオンにしたり、オフにしたり、デバイスを再起動するには、電源管理ウィザードを使用します。

- ▶ リモートからデバイスの電源をオンにするには、コンピュータに **Wake-On-LAN** 機能が内蔵されている必要があります。**Wake-On-LAN** は、**HPCAS** サーバーが、ネットワーク上にパケットを送信して、管理対象デバイスの電源をリモートからオンにできる、管理ツールです。デバイスに、リモートの起動機能を有効にするよう **BIOS** を設定する必要があります。詳細は、ハードウェアのドキュメントを参照してください。**HP** デバイスの **BIOS** 設定は、**HPCAS** を使用して変更および配布できます。詳細は、230 ページの「**BIOS 設定のパブリッシュ**」を参照してください。
- ▶ **Windows XPe** デバイスで電源オフ機能を選択すると、電源がオフになる前に、1 度デバイスが再起動します。これは、**XPe** デバイスの内部キャッシュをクリアするために必要な、通常の動作です。

リモートからデバイスの電源オン、オフ、および再起動を行うには

- 1 [デバイス管理] の [デバイス] 領域、または [グループ管理] の [グループ] 領域から、ウィザードを起動します。**[電源管理]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 ドロップダウン リストから電源管理機能を選択します。選択したデバイスの電源オン、オフ、または再起動が行えます。
 - **起動** — 選択したデバイスの電源をオンにします
 - **停止** — 選択したデバイスの電源をオフにします
 - **再起動** — 選択したデバイスを再起動します
- 3 このジョブの実行スケジュールを設定します。ジョブをすぐに実行するようにスケジュールを設定するには、**[実行：今すぐ]** を選択するか、**[実行：後で]** を選択して、ジョブを開始する日付と時刻を設定します。反復スケジュールを設定するには、**['x' 時間ごと]**、**['x' 日ごと]**、または **['x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウン リストから **[間隔]** を選択します。

▶ 反復ジョブ スケジュール オプション (['x' 日ごと] など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。
- 4 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。
- 5 ジョブが正常に作成されました。**[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。


保留中の管理ジョブをすべて表示するには、**[現在のジョブ]** タブを使用します。

グループ作成ウィザード

データベースにある管理対象デバイスのグループに、ソフトウェアまたはパッチを配布する必要があります。グループ作成ウィザードを使用して、指定したデバイス、探索したデバイス、またはレポート クエリの一部として返されたデバイスに基づき、デバイス グループを定義します。

グループ作成ウィザードの手順は、作成するグループのタイプにより異なります。


スタティック グループを作成するには

- 1 ウィザードを起動するには、次のいずれかを実行します。
 - [グループ管理] の [一般] タブから、**[新しいスタティック グループの作成]** をクリックします。
 - **[グループ]** タブから、**[新しいスタティック グループの作成]** ツールバー ボタン  をクリックします。
- 2 **[次へ]** をクリックして、グループの作成を開始します。
- 3 グループの名前および説明を入力します
- 4 **[次へ]** をクリックします。
- 5 グループに含めたいデバイスを選択するには、該当する各デバイスの最初のカラムのボックスをチェックします。必要な場合、デバイスのリストの範囲を絞り込むには、**[検索]** 機能を使用できます。
- 6 **[次へ]** をクリックします。
- 7 要約情報を確認します。選択したデバイスの数が、**[デバイス数]** 要約と一致することを確認します。グループを変更する必要がある場合、**[前へ]** をクリックします。
- 8 **[作成]** をクリックします。グループが正常に作成されました。
- 9 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

ダイナミック ディスカバリ グループを作成するには

探索グループ メンバーシップは、LDAP クエリまたはドメイン スキャンの間に発見されたデバイスをベースにしています。

- 1 ウィザードを起動するには
 - [グループ管理] の [一般] タブから、**[新しいダイナミック ディスカバリ グループの作成]** をクリックします。

- **[グループ]** タブから、**[新しいグループの作成]** ツールバー ボタン  をクリックし、**[新しいダイナミック ディスカバリ グループの作成]** を選択します。
- 2 **[次へ]** をクリックして、グループの作成を開始します。
- 3 グループの名前および説明を入力します
- 4 **[次へ]** をクリックします。
- 5 探索ソースを選択します。
 - **LDAP/Active Directory** — LDAP ホストおよびポート番号、ユーザー ID、パスワード（必要な場合）、およびクエリする DN を入力します。


また、クエリに適用する、範囲、詳細フィルタ、またはデバイスの制限を選択します。
 - **ドメイン** — インポートするデバイスのネットワーク ドメインをスキャンするには、ドメイン名（たとえば、ABC ドメインの完全ドメイン スキャンには ABC と入力）またはドメイン名の一部とワイルドカード文字（ABC* とすると、ABC で始まるドメインから全デバイスが返されます）を入力します。ドメインの特定のデバイスを含めるには、「ドメイン¥デバイス」という構文を使用します。たとえば、Sales¥WS* は、Sales ドメインの WS で始まるデバイスだけを返します。

ドメインの特定のデバイスを除外するには、感嘆符 (!) を使用します。たとえば、Sales,!Sales¥WS* は、WS で始まるデバイスを除く、Sales ドメインの全デバイスを返します。
- 6 **[次へ]** をクリックします。
- 7 ダイナミック グループのリフレッシュ スケジュールを設定します。
 - **実行**： 時間、日、週など一定の間隔でダイナミック グループ メンバーシップを更新するかどうかを設定します。
 - **間隔**： 具体的な間隔（時間、日、または週）を選択します。
 - **開始日**： ドロップダウン リストを使用して、グループをリフレッシュする日付を選択します。
 - **[現在のサーバー時刻]** は、HPCAS サーバーの現在の時刻を表示します。
- 8 **[次へ]** をクリックします。
- 9 要約情報を確認し、**[作成]** をクリックします。
- 10 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

探索グループは、LDAP クエリまたはドメイン スキャンの間に発見されたデバイスを含むように作成されます。発見されたデバイスがすでに HPCAS の一部でなかった場合、自動的にデバイス リストに追加されます。このグループのデバイス メンバーシップは、設定したリフレッシュ スケジュールに基づいて更新されます。

ダイナミック レポート グループを作成するには


レポート グループは、レポート クエリで返されたデバイスを使用して、作成されます。

- 1 [レポート] 領域のアクション バーからウィザードを起動するには、**[新しいダイナミック レポート グループの作成]**  をクリックします。
- 2 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 グループの名前および説明を入力します
- 4 **[次へ]** をクリックします。
- 5 ダイナミック グループのリフレッシュ スケジュールを設定します。
 - **実行**：時間、日、週など一定の間隔でダイナミック グループ メンバーシップを更新するかどうかを設定します。
 - **間隔**：具体的な間隔（時間、日、または週）を選択します。
 - **開始日**：ドロップダウン リストを使用して、グループをリフレッシュする日付を選択します。
 - **[現在のサーバー時刻]** は、HPCAS サーバーの現在の時刻を表示します。
- 6 **[次へ]** をクリックします。
- 7 要約情報を確認し、**[作成]** をクリックします。
- 8 レポート クエリの現在のデバイスを含む、レポート グループが作成されます。このグループのデバイス メンバーシップは、設定したリフレッシュ スケジュールに基づいて更新されます。
- 9 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

ソフトウェア配布ウィザード

ソフトウェア配布ウィザードを使用して、お使いの環境にある管理対象デバイスにソフトウェアのエンタイトルメント設定と配布を行います。

ソフトウェア配布ウィザードを使用してソフトウェアのエンタイトルメント設定と配布を行うには


- 1 ウィザードを起動するには
 - [ソフトウェア管理] の [一般] 領域で **[配布]** をクリックします。
 - [ソフトウェアの詳細] ウィンドウ、または [グループの詳細] ウィンドウの [ソフトウェア] タブから、**[ソフトウェアの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 エンタイトルメント設定と配布を行うソフトウェアを選択するには、最初のカラムのボックスをチェックします。
- 4 **[次へ]** をクリックします。
- 5 エンタイトルメントが設定され配布の対象となるグループを選択するには、最初のカラムのボックスをチェックします。
- 6 **[次へ]** をクリックします。
- 7 ソフトウェア配布ジョブの実行スケジュールを設定します。ソフトウェアを今すぐ配布するには **[実行: 今すぐ]** を、ソフトウェア配布の日付と時刻をスケジュール設定するには **[実行: 後で]** を選択します。反復スケジュールを設定するには、**['x' 時間ごと]**、**['x' 日ごと]**、または **['x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウン リストから **[間隔]** を選択します。

反復ジョブ スケジュール オプション (['x' 日ごと] など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。
- 8 **[次へ]** をクリックします。
- 9 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。
- 10 現在のソフトウェア配布ジョブを表示するには、**[現在のジョブ]** タブをクリックします。
- 11 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

サービス インポート ウィザード

サービス インポート ウィザードを使用して、HPCAS サーバー マシンの ChangeControl ディレクトリからソフトウェア、パッチ、または OS ライブラリへサービスをインポートします。

サービス インポート ウィザードを使用してサービスをインポートするには


- 1 [ソフトウェア管理] の [ソフトウェア] 領域、[パッチ管理] の [パッチ] 領域、または [OS 管理] の [オペレーティング システム] 領域から、**[サービスのインポート]**  ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 インポートするサービスを選択します。HPCAS サーバーの ChangeControl ディレクトリ内で利用可能なサービス デッキがすべてリストに表示されます。

各サービスのファイル名の 4 番目の部分に、そのソフトウェア、パッチ、または OS のわかりやすい名前が含まれています。たとえば、PRIMARY.SOFTWARE.ZSERVICE.ORCA は、Orca ソフトウェア アプリケーション用のサービス デッキです。
- 3 要約情報を確認し、**[インポート]** をクリックします。サービスがインポートされ、HPCAS ライブラリ内で利用可能になります。
- 4 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

サービス エクスポート ウィザード

サービス エクスポート ウィザードを使用して、HPCAS ソフトウェア、パッチ、または OS ライブラリから、HPCAS サーバー マシンの ChangeControl ディレクトリへ、サービスをエクスポートします。

サービス エクスポート ウィザードを使用してサービスをエクスポートするには

- 1 エクスポートするサービス（ソフトウェア、パッチ、または OS）を選択します。
- 2 [ソフトウェア管理] の [ソフトウェア] 領域、[パッチ管理] の [パッチ] 領域、または [OS 管理] の [オペレーティング システム] 領域から、**[サービスのエクスポート]**  ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。

3 要約情報を確認し、**[エクスポート]** をクリックします。サービスが、HPCAS サーバーの **ChangeControl** ディレクトリにエクスポートされます。

4 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

各サービスのファイル名の 4 番目の部分に、そのソフトウェア、パッチ、または OS のわかりやすい名前が含まれています。たとえば、**PRIMARY.SOFTWARE.ZSERVICE.ORCA** は、**Orca** ソフトウェア アプリケーション用のサービス デッキです。

ソフトウェア同期ウィザード

ソフトウェア同期ウィザードを使用して、ソフトウェア同期ジョブを作成します。このジョブは、ソフトウェアをインストールしていないグループ メンバーに、エンタイトルメントが設定されたソフトウェアをすべて自動的に配布します。また、ソフトウェア同期ジョブは、新しいグループ メンバーが全員、エンタイトルメントが設定されたソフトウェアをすべて受信するようにします。

ソフトウェア同期ジョブを作成するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウの [ソフトウェア] タブで、[ソフトウェアの同期] ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 ソフトウェア同期ジョブの実行スケジュールを設定してください。すぐにジョブを実行するようスケジュールを設定するには、**[実行：今すぐ]** を選択します。または、**[実行：後で]** を選択して、ジョブの日付と時刻を設定します。反復スケジュールを設定するには、**['x' 時間ごと]**、**['x' 日ごと]**、または **['x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウン リストから **[間隔]** を選択します。




反復ジョブ スケジュール オプション (['x' 日ごと] など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。

- 3 **[LAN で起動]** ドロップダウン リストを使用して、グループのデバイスについて **[LAN で起動]** を有効にします。これにより、HPCAS は、必要なジョブ アクションを実行するため、デバイスの電源をオンにできます。
- 4 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。
- 5 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

パッチ配布ウィザード

パッチ配布ウィザードを使用して、お使いの環境にある管理対象デバイスにパッチのエンタイトルメント設定と配布を行います。

パッチ配布ウィザードを使用してパッチのエンタイトルメント設定と配布を行うには

- 1 ウィザードを起動するには、次のいずれかを実行します。
 - [パッチ管理] の [一般] タブで **[配布]** をクリックします。
 - [パッチの詳細] ウィンドウ、または [グループの詳細] ウィンドウの [パッチ ライブラリ] 領域から、**[ソフトウェアの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 配布メソッドを選択します。

適用状況の強制 — どのパッチがターゲット デバイスに適用可能か判断するには、この方法を選択します。適用可能なパッチのみがインストールされます。新しいパッチがデバイスにエンタイトルメント設定されると、このジョブが次回実行されるときに、そのパッチがインストールされます。継続的にパッチ適用状況を強制するには、反復スケジュールを作成する必要があります。

手動選択 — ターゲット デバイスにパッチを配布するには、この方法を選択します。パッチがデバイスに適用できない場合、ジョブはエラーにより終了することがあります。反復適用状況スケジュールを作成せずに、1 度だけターゲット デバイスにパッチを配布するには、この方法を使用します。
- 4 エンタイトルメント設定と配布を行うパッチを選択するには、最初のカラムのボックスをチェックします。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
- 6 エンタイトルメントが設定され配布の対象となるグループを選択するには、最初のカラムのボックスをチェックします。
- 7 **[次へ]** をクリックします。

- 8 このジョブの実行スケジュールを設定します。すぐにジョブを実行するようスケジュールを設定するには、**[実行: 今すぐ]** を選択します。または、**[実行: 後で]** を選択して、ジョブの日付と時刻を設定します。反復スケジュールを設定するには、**['x' 時間ごと]**、**['x' 日ごと]**、または **['x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウン リストから **[間隔]** を選択します。



[適用状況の強制] 配布方法を選択した場合だけ、反復スケジュールが利用できます。

- 9 **[次へ]** をクリックします。
- 10 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。
- 11 現在のパッチ配布ジョブを表示するには、**[現在のジョブ]** タブをクリックします。
- 12 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。




パッチは、配布された後、デバイスから削除できません。

サービス エンタイトルメント ウィザード

サービス エンタイトルメント ウィザードは、デバイスのグループにソフトウェア、オペレーティング システム、およびパッチ サービスのエンタイトルメントを設定します。

サービス エンタイトルメント ウィザードを使用してグループ エンタイトルメントを追加するには

[パッチ管理] の [パッチ] タブ、または [OS 管理] の [オペレーティング システム] タブからウィザードを起動します。


- 1 グループにエンタイトルメントを設定するパッチを選択して、**[グループ エンタイトルメントの追加]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 サービスへのエンタイトルメントを受けるグループを選択するには、左のカラムのチェック ボックスをクリックします。
- 3 **[次へ]** をクリックします。

- 4 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。
- 5 現在のソフトウェア削除ジョブを表示するには、**[現在のジョブ]** タブをクリックします。
- 6 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

ソフトウェア削除ウィザード

ソフトウェア削除ウィザードは、選択したデバイスまたはグループからソフトウェアをアンインストールします。


ソフトウェア削除ウィザードを使用してソフトウェアを削除するには

- 1 **[ソフトウェアの詳細]** ウィンドウまたは **[グループの詳細]** ウィンドウから、削除するソフトウェアを選択します。
- 2 **[ソフトウェアの削除]**  ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 3 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。
- 4 ソフトウェア削除ジョブの実行スケジュールを設定します。ソフトウェアを今すぐ削除するには**[実行：今すぐ]** を、ソフトウェア削除の日付と時刻をスケジュール設定するには **[実行：後で]** を選択します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
- 6 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。
- 7 現在のソフトウェア削除ジョブを表示するには、**[現在のジョブ]** タブをクリックします。
- 8 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

ユーザー作成ウィザード

ユーザー作成ウィザードは、コンソール ユーザーを追加します。

ユーザー作成ウィザードを使用して追加のコンソール ユーザーを作成するには

- 1 [設定] タブの [コンソールへのアクセス] セクションからウィザードを起動するには、**[新しいユーザーの作成]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 `jdoo` などを **[ユーザー ID]** に入力します。この ID を使用して、コンソールにログインします。



ユーザー ID には、予約文字 (アンダースコア "_", スペース、スラッシュ "/" または "¥") を含めることはできません。予約文字は、ユーザー ID が生成されるときに自動的に削除されます。たとえば、ユーザー ID として `jdoo_1` を作成しようとする、`jdoo1` が作成されます。

- 3 **[表示名]** を入力します。これは、管理ジョブの [作成者] フィールドに表示される名前です。
- 4 オプションで、ユーザーの **[説明]** を入力できます。
- 5 [パスワード] を入力して、**[パスワードの確認]** テキスト ボックスでパスワード入力を確認します。
- 6 **[作成]** をクリックします。ユーザーが正常に作成されました。



ユーザー ID が同じユーザーがすでに存在する場合、新しいユーザーを作成できません。


- 7 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

新しいコンソール ユーザーがユーザーのリストに表示されます。コンソール ユーザーのプロパティを変更または表示するには、ユーザー ID をクリックします。

OS 配布ウィザード

OS 配布ウィザードは、オペレーティング システムを管理対象デバイスに配布します。オペレーティング システムの配布には、有人モードと無人モードがあります。配布モードを選択するには、156 ページ、[設定] タブの **[OS 管理]** セクションを参照してください。

OS 配布ウィザードを使用してオペレーティング システムを配布するには

- 1 [OS 管理] セクションの [一般] 領域または [オペレーティング システム] 領域からウィザードを起動するには、**[オペレーティング システムの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。

- 2 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。



OS 配布用に作成されたグループは、グループ内の全デバイスが同様の、互換性のあるハードウェアを持っているなど、基本的なガイドラインに従う必要があります。

- 3 オペレーティング システムのエントリーメント設定および配布用のグループを選択します。



特定のターゲット デバイスへは、単一の **Linux** オペレーティング システムのみを割り当てることができます。

- 4 **[次へ]** をクリックします。

- 5 このジョブで使用する OS 配布メソッドを選択します。

— **Local Service Boot (LSB)** : OS を配布するために **LSB** をインストールする場合、このオプションを選択します。ローカル サービスの起動には、既存のマシンは **PXE** 対応である必要がなく、各ターゲット デバイスについて、起動の順序を **BIOS** でローカルに設定する必要がないという利点があります。

— **ローカル CD または PXE サーバー** : デバイスにオペレーティング システムをインストールするのに **PXE** サーバーまたはサービス **CD** を使用する場合は、このオプションを選択します。

- 6 **HP Client Automation Standard** がインストールしてある場合、**ユーザーデータと設定の移行**を行うかどうかを選択する画面が表示されます。オペレーティング システムとともに **Settings Migration Utility** を配布するには、**[はい]** を選択します。オペレーティング システムの配布の間に、**Settings Migration Utility** が起動し、ユーザーに設定をバックアップするように表示します。新しいオペレーティング システムがインストールされた後、設定を復元するため、**Settings Migration Manager** サービスをデバイスに配布します。詳細は、255 ページの「[設定の移行](#)」を参照してください。

▶ OS 配布に無人モードを使用して、**Settings Migration** を選択した場合、このプロセスも無人で実行されます。コンピュータ名およびパスワードといった、**Settings Migration** に必要な情報は、自動的に生成されます。エンド ユーザーは、**Settings Migration Utility のオペレーティング システムの移行からの復元**機能を使用して、OS 無人配布の間に保管された設定を復元します。

- 7 このジョブの実行スケジュールを設定します。OS を今すぐ配布するには **[実行：今すぐ]** を、OS 配布の日付と時刻をスケジュール設定するには **[実行：後で]** を選択します。反復スケジュールを設定するには、**['x' 時間ごと]**、**['x' 日ごと]**、または **['x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウン リストから **[間隔]** を選択します。

▶ 反復ジョブ スケジュール オプション (['x' 日ごと] など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。

- 8 追加のジョブ タスクは **[その他のパラメータ]** セクションで設定します。
- 9 **[次へ]** をクリックします。
- 10 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。
- 11 現在の OS 配布ジョブを表示するには、**[現在のジョブ]** タブをクリックします。
- 12 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

利用状況収集フィルタ作成ウィザード

利用状況収集フィルタ作成ウィザードを使用して、新しい利用状況収集フィルタを作成します。

新しい収集フィルタを作成するには

- 1 ウィザードを起動するには、**[設定]** タブの **[レポート]** セクションにある **[利用状況の収集]** タブの **[新しいフィルタの作成]** ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 フィルタ パラメータを設定するには、各テキスト ボックスに条件を入力します。

利用状況データのフィルタを適用するフィールドにのみ値を入力します。空のテキスト ボックスは無視され、フィルタ条件として使用されません。

入力した値が、ソフトウェアの実行可能ファイルのファイル ヘッダーと比較され、収集された利用状況データがフィルタ条件に合致するか判断されます。

特定のソフトウェアにフィルタを適用する方法を決めるには、**165** ページの「[利用状況条件の定義](#)」を参照してください。



50 を超えるアプリケーションについてデータを収集し、報告するようにフィルタを設定すると、大量のデータが収集され、結果的にレポートのパフォーマンスに重大な問題が生じる可能性があります。

3 **[作成]** をクリックします。


4 **[閉じる]** をクリックします。

新しいフィルタが、収集フィルタ リストに追加されます。

インフラストラクチャ配布ウィザード

インフラストラクチャ配布ウィザードを使用して、データ キャッシングなどのリモート サービスが可能になるインフラストラクチャ サービスをインフラストラクチャ サーバーにインストールします。


インフラストラクチャ サービスを配布するには

- 1 **[設定]** タブの[インフラストラクチャ管理] セクションにある **[サーバー]** タブから **[インフラストラクチャ サービスの配布]**  ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 配布の資格情報を入力して、**[次へ]** をクリックします。
- 3 インフラストラクチャ サービスをインストールするドライブを選択して、**[次へ]** をクリックします。
- 4 このジョブの実行スケジュールを設定します。サービスを今すぐ配布するには **[実行：今すぐ]** を、配布の日付と時刻をスケジュール設定するには **[実行：後で]** を選択します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
- 6 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。
- 7 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

インフラストラクチャ削除ウィザード

インフラストラクチャ削除ウィザードを使用して、インフラストラクチャ サーバー グループのデバイスからインフラストラクチャ サービスを削除します。


インフラストラクチャ サービスを削除するには

- 1 [設定] タブの [インフラストラクチャ管理] セクションの [サーバー] タブ ツールバーからウィザードを起動します。
- 2 インフラストラクチャ サービスを削除するデバイスを選択して、**[インフラストラクチャ サービスの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 ウィザードが完了したらすぐにサービスを削除するには、**[実行：今すぐ]** を選択するか、**[実行：後で]** を選択して、削除の日付と時刻を入力します。
- 4 **[次へ]** をクリックします。
- 5 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。
- 6 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

インフラストラクチャ ロケーション作成ウィザード

インフラストラクチャ ロケーション作成ウィザードを使用して、インフラストラクチャ サーバーを割り当てることができる新しいインフラストラクチャ ロケーション（サブネット）を追加します。

新しいロケーションを追加するには

- 1 [設定] タブの [インフラストラクチャ管理] セクションの [ロケーション] タブ ツールバーからウィザードを起動します。
- 2 **[新しいロケーションの作成]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 ロケーションの説明およびこのインフラストラクチャ ロケーションの一部として含めるサブネットを入力します。サブネット アドレス計算機を使用して、どのサブネット アドレスを使用するか決定します。
- 4 **[作成]** をクリックします。
- 5 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

8 イメージの準備と取得

Image Preparation Wizard を使用して、お使いの環境にあるデバイスに配布するため、オペレーティング システム イメージを準備し取得します。イメージを取得したら、**Publisher** を使用して **HPCAS** にパブリッシュします。

ウィザードを実行すると、イメージと関連付けられているインベントリ情報を収集し、イメージ ファイルを **HPCAS** サーバーの¥upload ディレクトリ（デフォルトでは C:¥Novadigm¥OSManagerServer¥upload）に送信します。



パフォーマンスの問題を避けるため、イメージは、非プロダクション環境にある **HPCAS** サーバーに送信します。

Image Preparation Wizard は、**HPCAS** メディアの OSManagement¥ISO¥CaptureCD ディレクトリにある ImageCapture.iso ファイルの一部として利用可能です。

- 始める前に、このファイルから **Image Preparation Wizard CD** を作成します。

準備と取得の手順は、オペレーティング システムにより異なります。OS 特有の手順は、下の適切なセクションを参照してください。

- [Windows OS イメージ](#) (191 ページ)
- [シン クライアントの OS イメージ](#) (202 ページ)

Windows OS イメージ

次のセクションでは、**Windows** オペレーティング システムのイメージを準備して取得する方法を説明しています。

- [タスク 1 – 参照マシンの準備](#) (192 ページ)
- [タスク 2 – 応答ファイルの作成](#) (194 ページ)
- [タスク 3 – Image Preparation Wizard の実行](#) (197 ページ)

タスク 1 – 参照マシンの準備

参照マシン(オペレーティング システムのイメージを作成するため使用されるマシン) で作成されたイメージが、ターゲット デバイスに配布されます。**Image Preparation Wizard** (`prep wiz.exe`) を使用してイメージを作成する前に、以下を実行します。

- 1 参照マシンで、そのオペレーティング システムの元の製品メディアからインストールを実行します。参照マシンは、インストールするオペレーティング システムを実行できる必要があります。参照マシンが **DHCP** を使用していることを確認します。



C: ドライブしか取得されないので、**OS** は **C:** ドライブに保存する必要があります。

- 2 必要に応じて **OS** をカスタマイズします。これには、基本的なまたは必要な複数のアプリケーションのインストールが必要になる場合があります。必ず **OS** およびアプリケーションの最新のサービスパックも含めてください。イメージを配布するデバイスの全設定に必要なドライバをすべて必ず含めてください。次の **Microsoft** サポート技術情報の記事には、**Windows OS** のインストールに **OEM** ドライバを含めることに関する情報が記載されています。

<http://support.microsoft.com/kb/314479/ja>



Windows XP イメージは、最低でも **Service Pack 1** を必要とします。

- 3 管理エージェントを参照マシンに配布するか、**HPCAS** メディアを使用して手動でエージェントをインストールする必要があります。イメージが配布されるときにデバイスが **HPCAS** サーバーに接続するために、エージェントが必要です。

▶ **Windows Vista** イメージを、**HPCAS** によって取得および配布する場合、**HPCAS** サーバーに 2 つのユーティリティをコピーする必要があります。これらのユーティリティは **Windows Vista** メディアおよび **WAIK** (**Windows Automated Installation Kit**) のデフォルトのインストールディレクトリにあります。**WAIK** は、**Microsoft** の **Web** サイトから入手可能です。これは、通常の **Vista** のインストールには含まれません。

- 1 C:\Novadigm\OSManagerServer\OSM\SOS\winpe\ に
utilities\Program ファイルを作成します。
- 2 bootsect.exe を **Windows Vista** メディアの\boot から
C:\Novadigm\OSManagerServer\OSM\SOS\winpe\utilities\Program Files\ にコピーします。
- 3 imagex.exe を、C:\Program Files\Windows AIK\Tools\x86 から
C:\Novadigm\OSManagerServer\OSM\SOS\winpe\utilities\Program Files\ にコピーします。

その他の推奨事項

- 1 **HPCAS** サーバーへのアップロード プロセスが終了するまで、キーボードやマウスによる操作が数分間行われなくても、マシンの電源が切れないように、**BIOS** の電源管理を設定してください。
- 2 イメージ ファイルのサイズはできるだけ小さくしておいてください。理想的な設定は、オペレーティング システムを収納できるだけの大きさパーティションと、管理エージェント用の追加領域があるものです。

▶ プライマリ ブート ドライブのプライマリ ブート パーティションへのイメージの配布がサポートされます。

Image Preparation Wizard には、以下で説明するように、イメージ ファイルのサイズを小さく維持するためのいくつかのオプションがあります。

— **OS のアップロードの前にパーティションのサイズを変更する**
パーティションのサイズを、より小さいサイズに変更します。

— **未使用のディスク スペースの圧縮を最適化する**
システム ドライブ パーティションの終わりの空き容量をゼロにする場合は、**Image Preparation Wizard** で適切なオプションを選択します。

これにより、取得したイメージの圧縮率が大きくなり、サイズが小さくなります。イメージ ファイルのサイズが小さい方が、保存するディスク領域が少なく、ネットワーク上を転送するバンド幅が小さくて済みます。

— イメージ ファイルをスパンする

イメージをスパンする場合は、**Image Preparation Wizard** で適切なオプションを選択します。これは、イメージ ファイルが小さなセグメントに分割されることを意味します。スパンされたイメージの各セグメントのサイズは **4 GB** に制限されます。これは、イメージを **HPCAS** サーバーに保存する場合、イメージ全体を **4 GB** より小さくする必要があるという条件に対応できるので便利です。イメージをスパンするオプションを選択しない場合は、イメージを **4 GB** より小さくしてください。

さらに、以下の方法で、イメージのフットプリントを最小に抑えます。

— 空き領域を作成する。

できるだけ小さいディスク空き領域を持つできるだけ小さいパーティションを作成したら、`Sysprep.inf` の **[Unattended]** セクションで **ExtendOemPartition = 1** を設定します。これにより、ずっと大きいドライブを持つターゲット デバイスで小さなイメージがインストールできるようになります。**ExtendOemPartition** を **1** に設定すると、**Microsoft** ミニセットアップ ウィザードは、**OS** インストール パーティションを、そのディスク上で、物理的に連続しパーティションが設定されていない利用可能な領域に拡張します。管理エージェントは、そのボリュームの空き領域をアプリケーションのインストールに使用できます。

— ラップトップを使用している場合はハイバネーションを無効にする。

— ページ ファイルを無効にする。

— システムの復元を無効にする。

タスク 2 – 応答ファイルの作成

応答ファイルを作成します。詳細は以下のセクションを参照してください。

- **unattend.xml (Windows Vista 配布の場合) の準備** (194 ページ)
- **Sysprep.inf の作成 (非 Vista OS の場合のみ)** (195 ページ)

unattend.xml (Windows Vista 配布の場合) の準備

サンプルの `unattend.xml` を、`ImageCapture.iso` から作成した **Image Preparation CD** の `%samples` ディレクトリから、`C:%windows%system32%sysprep` に

コピーします。このファイルは、お使いの環境に合わせて変更が必要な場合があります。

Sysprep.inf の作成（非 Vista OS の場合のみ）

複製されたイメージを使用して **Microsoft** オペレーティング システムを配布するため、**Microsoft Sysprep** をダウンロードします。



Sysprep の使用方法、**Sysprep.inf** の作成方法、および利用可能なパラメータについては、**Microsoft** のドキュメントで確認してください。**Windows XP** および **Windows 2000** の **Microsoft Sysprep** の情報については、インストール メディアの¥support¥tools¥deploy.cab に移動してください。**Deploy.cab** には **3** つのヘルプ ファイルがあります（**Deploy.chm** には、**Sysprep** の詳細情報が含まれています）。

イメージ作成の最後の手順で、**Image Preparation Wizard** は、**Microsoft Sysprep** を実行します。これにより、イメージのセキュリティ識別子がすべて削除され、イメージがリセットされます。

オペレーティング システム イメージがターゲット デバイスに配布された後でターゲット デバイスが起動されると、**Microsoft** ミニウィザードが自動的に実行されます。**Sysprep.inf** からの応答を使用した後、**Microsoft** ミニウィザードは、ターゲット マシンの **Sysprep** ディレクトリを削除します。

Sysprep をセットアップするには

- 1 **Microsoft** オペレーティング システムのインストール メディアの **SUPPORT¥TOOLS** フォルダにある **DEPLOY.CAB** へ移動します。詳細は、**Microsoft** のドキュメントを参照してください。
- 2 適切な オペレーティング システム メディアを使用して、**Deploy.cab** ファイルから **Microsoft Sysprep** ファイルを展開します。これらのファイルを参照マシンの **C:¥SysPrep** にコピーして、ディレクトリおよびファイルが読み取り専用に設定されていないことを確認します。



最新バージョンの **Sysprep** を使用していることを確認してください。古いバージョンを使用すると、エラーが発生する場合があります。

適切なバージョンの **Sysprep** がない場合は、**Microsoft** の Web サイトからダウンロードできます。

管理者権限を持っている場合でも、**Sysprep** を実行するための適切なユーザー権限を設定されていることを確認してください。

Microsoft Web サイトの記事#270032 *「User Rights Required to Run the Sysprep.exe Program」* を参照してください。適切なユーザー権限がない場合、**Sysprep** を実行すると、次のエラーが発生します。

「このアプリケーションを実行するには、管理者である必要があります。」

Image Preparation Wizard を終了し、適切なユーザー権限をセットアップしたら、再びウィザードを実行する必要があります。

- 3 **Microsoft Sysprep** を使用するために、参照マシンが、ドメインではなく **WORKGROUP** に所属していることを確認します。
- 4 **Sysprep.inf** を作成して、**C:¥Sysprep** に保存します。

Sysprep.inf を作成するには

sysprep.inf は手動で作成できます。または、**Microsoft** セットアップ マネージャ (**Setupmgr.exe**) を使用して **Sysprep** ファイルを作成します。セットアップ マネージャは、**Microsoft OS** 配布メディアにある **SUPPORT¥TOOLS** フォルダの **Deploy.cab** ファイルにあります。詳細は、**Microsoft** のドキュメントを参照してください。



Windows 2000 イメージを取得する場合、**Sysprep.inf** ファイルから **[SYSPREPMASSTORAGE]** セクションを削除する必要があります。このセクションが削除されないと、「レジストリの更新中にエラーが発生しました。続行できません」というエラーが発生する場合があります。

サンプルの **Sysprep.inf** ファイルが、作成した **Image Preparation CD** (**ImageCapture.iso**) の **¥samples¥sysprep¥** ディレクトリにあります。



Sysprep.inf ファイルのサイズは **800 KB** を超えてはなりません。

以下は Sysprep.inf ファイルを作成するときのヒントです。

- **TimeZone** の値 を環境に合わせて調整します。
- 管理者パスワードをセットアップします。
- ユーザーがターゲット デバイスに入力しなくて済むように、製品キーを作成します。
- 無人インストールを行うには、[Unattended] セクションに **UnattendMode = FullUnattended** を含めます。
- **ExtendOemPartition** を **1** に設定します。これにより、Microsoft Sysprep は、OS のパーティションをそのディスク上で、物理的に連続した、パーティションが設定されていない空き領域へ拡張します。

Sysprep.inf に **JoinDomain** が存在する場合、Sysprep.inf はコンピュータをドメインに接続する権限があるアカウントの管理ユーザー **ID** とパスワードを持っている必要があります。**JoinDomain** は大文字と小文字を区別することに注意します。

これらの手順を終了したら、197 ページの「[タスク 3 – Image Preparation Wizard の実行](#)」を続行します。

タスク 3 – Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は以下のタスクを実行します。

- 1 マシンに十分な空きディスク領域があるかチェックし、管理エージェントがインストールされていることを確認します。192 ページの「[タスク 1 – 参照マシンの準備](#)」を参照してください。十分な空きディスク領域がない場合、Image Preparation Wizard はメッセージを表示して終了します。
- 2 参照マシンに関する情報（ハードウェアおよび BIOS の機能など）を含むオブジェクトを作成します。
- 3 サポートされている オペレーティング システムで Microsoft Sysprep を実行します（Windows XPe、CE、および Embedded Linux は、Sysprep をサポートしません）。
- 4 参照マシンを適切なメディアからブートされたサービス オペレーティング システムで再起動します。実行したサービス OS がイメージと関連ファイルを収集します。
- 5 以下のファイルを作成し、HPCAS サーバーの *SystemDrive:\Program Files\Hewlett-Packard\CM\IntegrationServer\upload* にコピーします。

Vista 以前のイメージを作成する場合、以下のファイルがアップロードされます。

- **ImageName.IMG**
このファイルにイメージが含まれます。これは、非常に大きなハード ディスク ドライブ システムのブート パーティションをセクタごとにコピーして圧縮したファイルです。このファイルには、イメージがインストールされるときにアクセス可能な組み込みファイル システムが含まれます。
- **ImageName.MBR**
このファイルには参照マシンのマスタ ブート レコードファイルが含まれています。
- **ImageName.PAR**
このファイルには、参照マシンのパーティション テーブル ファイルが含まれています。
- **ImageName.EDM**
このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。

Windows Vista のイメージを作成する場合、以下のファイルがアップロードされます。

- **ImageName.WIM**
このファイルには参照マシンの一連のファイルとファイル システムが含まれています。
- **ImageName.EDM**
このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。



これらのファイルが転送される間は、オペレーティング システム イメージが転送の間に圧縮されるので、ネットワーク速度は最大速度より遅くなります。

イメージが配布されると、包括的なログ (*machineID.log*) も `SystemDrive:\Program Files\Hewlett-Packard\CM\IntegrationServer\upload` で使用できます。

Image Preparation Wizard を使用するには



続行する前に、参照マシンを、CD-ROM ドライブからブートするように設定します。**Image Preparation Wizard** の **CD-ROM** はブート可能なので、この設定が必要です。**Image Preparation Wizard** を実行すると、イメージを取得するために、デバイスがメディアから起動する適切なサービス オペレーティング システムで再起動されます。

- 1 作成した **Image Preparation Wizard** の **CD-ROM** を参照マシンの **CD-ROM** ドライブに挿入します。この **CD** は、お使いの **HPCAS** メディアの **OSManagement¥ISO¥CaptureCD** ディレクトリにある **ImageCapture.iso** を使用して作成されます。
- 2 自動実行が有効な場合、**HPCAS OS 準備と取得 CD** のホームページが開きます。
- 3 **[ブラウズ]** をクリックして¥image_preparation_wizard¥win32¥ ディレクトリを開きます。
- 4 **prep wiz.exe** をダブルクリックします。

— イメージを取得する場合、**Image Preparation Wizard** は、続行する前に、**C:¥Sysprep** フォルダが存在するか、管理エージェントがインストールされているかを確認します。次のメッセージが表示された場合は、以前の手順に戻り、参照マシンに管理エージェントをインストールし、**Image Preparation Wizard** を再起動する必要があります。

「このコンピュータには **CM Application Manager** がインストールされていません。OS Manager 製品がインストールされているターゲット コンピュータは管理できない可能性があります。」

Image Preparation Wizard が開始されます。

- 5 **[次へ]** をクリックします。**[エンドユーザー ライセンス契約]** ウィンドウが表示されます。
- 6 **[同意する]** をクリックします。**[CM OS Manager Server を特定する]** ウィンドウが表示されます。
- 7 **HPCAS** サーバーの **IP** アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、**xxx.xxx.xxx.xxx:port** という形式で指定する必要があります。**OS** のイメージ作成用に予約されている **HPCAS** サーバーのポートは **3469** です。

Image Preparation Wizard が **HPCAS** サーバーに接続できない場合、メッセージが表示されるので、以下の手順を実行する必要があります。

- **[はい]** をクリックして続行します。
- **[いいえ]** をクリックして、ホスト名または **IP** アドレスを変更します。
- **[キャンセル]** をクリックして、**Image Preparation Wizard** を終了します。

- 8 **[次へ]** をクリックします。**[イメージ名]** ウィンドウが開きます。
- 9 イメージ ファイルの名前を入力します。これは、**HPCAS** サーバーの **/upload** ディレクトリに保存されるイメージ名です。

- 10 **[次へ]** をクリックします。
- 11 Vista 以前のオペレーティング システムを取得する場合、スパンされたイメージ ファイルを使用するサイズの入力を求める画面が表示されます。
Windows Vista を取得する場合は、この手順をスキップできます。
- 12 **[次へ]** をクリックします。
- 13 テキスト ボックスを使用して、Sysprep オプションを入力または変更します。
- 14 **[次へ]** をクリックします。
- 15 イメージ ファイルの説明を入力し、**[次へ]** をクリックします。**[オプション]** ウィンドウが表示されます。
- 16 適切なオプションを選択します。

Sysprep.inf に大容量ストレージ セクションをビルドする

このチェック ボックスをオンにして、Windows 2000 以上の Sysprep.inf の **[SysprepMassStorage]** セクションに、大容量ストレージ ドライバのリストをビルドします。

大容量ストレージ ドライバのリストは、レジストリにインストールされます。これには約 15 ～ 20 分かかりますが、マシンのモデルおよびメーカーを越えたイメージ配布を成功させるため、基本的な大容量ストレージ デバイスのドライバを提供します。

これらの入力内容にエラーがあると、この後の Sysprep の実行は失敗する場合があります。

OS のアップロードの前にパーティションのサイズを変更する

このチェック ボックスをオンにして、パーティションのサイズをできるだけ小さくするように変更します。このチェック ボックスをオンにしない場合は、パーティションのサイズが適切であるか確認してください。

未使用のディスク スペースの圧縮を最適化する

このチェック ボックスをオンにして、未使用ディスク領域の圧縮を最適化します。これは、ディスクの終わりまでゼロを追加します。ハード ディスクのサイズにより、しばらく時間がかかる場合があるので注意してください。

- 17 デフォルトを受け入れて、**[次へ]** をクリックします。**[要約]** ウィンドウが表示されます。
- 18 **[開始]** をクリックします。APIC マシンで作業している場合は、新しいウィンドウが開きます。
- 19 必要に応じてチェック ボックスをオンにします。



Microsoft はこれを推奨していません。この選択を行う前に、Microsoft の Web サイトで詳細を確認してください。

20 **[次へ]** をクリックします。前の手順でチェック ボックスをオンにした場合、[Windows CD の選択] ウィンドウが開きます。

21 Windows CD-ROM をブラウズします。

22 **[次へ]** をクリックします。

23 **[完了]** をクリックして、Sysprep を実行します。

Image Preparation Wizard により Sysprep が起動されます。これが完了するのに 15 ～ 20 分かかる場合があります。Sysprep は、完了するとマシンを自動的に再起動します。

24 **[OK]** をクリックします。Sysprep が起動します。



Windows 2000 を使用している場合、画面では活動していないように見えても、Sysprep の実行に時間がかかっている場合があります。

Sysprep がデバイスを再起動した後、デバイスは、CD-ROM ドライブの Image Preparation Wizard CD を起動します。

このような動作になるように必要な設定の調整します（たとえば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に **F10** キーを押して、設定内の起動順序を変更できます）。



デバイスが CD を起動せずに Windows を起動する場合、上記の「[タスク 1 – 参照マシンの準備](#)」からプロセスを再開する必要があります。



イメージのアップロードは、長時間かかるように感じられる場合がありますが、それは、アップロードではなく、イメージの圧縮と圧縮のための未使用ディスク領域の最適化（特に、空きディスク領域が多くある場合）によるものです。これは、イメージの転送の間に行われるので、ネットワークのパイプはボトルネックになりません。転送速度は、約 30 から 400 Kbps ですが、プロセッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。



必要なときに取得できるように、¥upload ディレクトリに格納するファイルのコピーを作成します。

25 Image Preparation Wizard は、ネットワークに接続され、HPCAS サーバーのイメージを/upload ディレクトリに保存します。

アップロード プロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。

「OS イメージが正常に OVCM OS Manager Server へ送信されました

**** CD を挿入している場合、CD を取り出して再起動します」

26 参照マシンを再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレーティング システムに戻ります。

これで、**Publisher** を使用して、管理対象デバイスへの配布のためにイメージ ファイルを **HPCAS** サーバーにパブリッシュできるようになりました。223 ページの「[オペレーティング システム イメージのパブリッシュ](#)」を参照してください。

シン クライアントの OS イメージ

次のセクションでは、サポートされているシン クライアント オペレーティング システムのイメージを準備し取得する方法を説明します。

- [Windows XPe OS イメージ](#) (202 ページ)
- [Windows CE OS イメージ](#) (206 ページ)
- [Embedded Linux OS イメージ](#) (210 ページ)

Windows XPe OS イメージ

次のセクションでは、**Windows XPe** シン クライアント オペレーティング システムのイメージを準備して取得する方法を説明します。

- [タスク 1 – XPe 参照マシンの準備](#) (203 ページ)
- [タスク 2 – Image Preparation Wizard の実行](#) (203 ページ)

▶ シン クライアント デバイス上のイメージを取得し、その後、取得したイメージを容量の大きなフラッシュ ドライブを持つ **XPe** シン クライアント デバイスに配布できます。これは、リリース ノートのドキュメントに記述されているような一定の制限に従う必要があります。

タスク 1 – XPe 参照マシンの準備

イメージ取得のため XPe シン クライアントを準備するには、以下のものが必要です。

- HPCAS メディア
- XPe Embedded Toolkit CD-ROM
- イメージ準備 CD-ROM

Windows XPe イメージを取得する前に、以下の操作を行う必要があります。

- 1 Windows XPe に管理者としてログインします。
- 2 XPe Embedded Toolkit から、etprep.exe を C:\Windows にコピーします。
- 3 XPe Embedded Toolkit から、fbreaseal.exe を C:\Windows\fbal にコピーします。
- 4 管理エージェントをインストールします。

Windows XPe に管理エージェントをインストールするには

- 1 Windows XPe シン クライアント デバイスから HPCAS メディアにアクセスします。
- 2 HPCAS メディアで、*SystemDrive:\ThinClient\XPE* に移動します。
- 3 setup.exe をダブルクリックします。
- 4 インストールの手順に従います。
- 5 IP アドレスとポート番号の入力を要求されたら、HPCAS サーバーの IP アドレスとポート番号を入力します。
管理エージェントがインストールされます。

タスク 2 – Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は以下のタスクを実行します。

- 1 マシンに十分な空きディスク領域があるかチェックし、管理エージェントがインストールされていることを確認します。十分な空きディスク領域がない場合、Image Preparation Wizard はメッセージを表示して終了します。
- 2 参照マシンに関する情報（ハードウェアおよび BIOS の機能など）を含むオブジェクトを作成します。

- 3 参照マシンを、作成したイメージ準備 CD から起動したサービス オペレーティング システムから再起動します。OS Manager の Image Preparation Wizard の Linux ベースの部分が動作して、イメージおよび関連ファイルを収集します。
 - 4 次のファイルを作成し、HPCAS サーバーの `SystemDrive:\Novadigm\OSManagerServer\upload` にコピーします。
 - `ImageName.IBR`
このファイルにイメージが含まれます。シン クライアント イメージ ファイルは、参照マシンのフラッシュ ドライブと同じサイズです。
Windows XPe のイメージは、同等以上のサイズのフラッシュ ドライブを備えたターゲット マシンに配布できます。このファイルには、イメージがインストールされるときにアクセス可能な組み込みファイル システムが含まれます。
 - `ImageName.EDM`
このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。
- ▶ これらのファイルが転送される間は、オペレーティング システム イメージが転送の間に圧縮されるので、ネットワーク速度は最大速度より遅くなります。
- イメージが配布された後、包括的なログ (`machineID.log`) も `SystemDrive:\Novadigm\OSManagerServer\upload` で利用できます。

Image Preparation Wizard を使用するには

- 1 作成した Image Preparation Wizard CD-ROM を参照マシンの CD-ROM ドライブに挿入します(シン クライアント デバイスには、USB CD-ROM ドライブが必要です)。この CD は、お使いの HPCAS メディアの `OSManagement\ISO\CaptureCD` ディレクトリにある `ImageCapture.iso` を使用して作成されます。
- 2 自動実行が有効な場合、HPCAS OS 準備と取得 CD のホームページが開きます。
- 3 **[ブラウズ]** をクリックして `\image_preparation_wizard\win32` ディレクトリを開きます。
- 4 **prepwiz.exe** をダブルクリックします。Image Preparation Wizard は、続行する前に、`etprep.exe` および `fbreaseal.exe` が利用できるかどうかを確認します。[ようこそ] ウィンドウが表示されます。

- 5 **[次へ]** をクリックします。[エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。
- 6 **[同意する]** をクリックします。
- 7 HPCAS サーバーの IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、`xxx.xxx.xxx.xxx:port` という形式で指定する必要があります。OS のイメージ作成用に予約されている HPCAS サーバーのポートは **3469** です。

Image Preparation Wizard が HPCAS サーバーに接続できない場合、メッセージが表示されるので、以下の手順を実行する必要があります。

- **[はい]** をクリックして続行します。
- **[いいえ]** をクリックして、ホスト名または IP アドレスを変更します。
- **[キャンセル]** をクリックして、Image Preparation Wizard を終了します。

- 8 **[次へ]** をクリックします。[イメージ名] ウィンドウが開きます。
- 9 イメージ ファイルの名前を入力します。これは、HPCAS サーバーの `¥upload` ディレクトリに保存されるイメージ名です。
- 10 **[次へ]** をクリックします。イメージの説明を入力するウィンドウが開きます。
- 11 イメージ ファイルの説明を入力します。
- 12 **[次へ]** をクリックします。[オプション] ウィンドウが表示されます。
- 13 適切なオプションを選択します。

OS のインストール後にクライアント接続を実行する このチェック ボックスをオンにして、OS が正しくインストールされたか確認するため、OS のインストール後に HPCAS サーバーに接続します。このチェック ボックスをオンにしない場合は、OS がインストールされた後、OS 接続は自動的に実行されません。

- 14 デフォルトを受け入れて、**[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。
- 15 **[開始]** をクリックします。
- 16 **[完了]** をクリックします。ウィザードがイメージを準備します。
- 17 **[OK]** をクリックします。

デバイスは、CD-ROM ドライブの Image Preparation Wizard CD から起動されます。このような動作になるように必要な設定の調整します（たとえ

ば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に **F10** キーを押して、設定内の起動順序を変更できます）。



デバイスが **CD** を起動せずに **Windows XPe** を起動する場合、上記の「[タスク 1 – XPe 参照マシンの準備](#)」から、プロセスを再開する必要があります。



イメージのアップロードは、長時間かかるように感じられる場合がありますが、それは、アップロードではなく、イメージの圧縮と圧縮のための未使用ディスク領域の最適化（特に、空きディスク領域が多くある場合）によるものです。これは、イメージの転送の間に行われるので、ネットワークのパイプはボトルネックになりません。転送速度は、約 **30** から **400 Kbps** ですが、プロセッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。



必要なときに取得できるように、¥upload ディレクトリに格納するファイルのコピーを作成します。

18 OS Image Preparation Wizard はネットワークに接続して、**HPCAS** サーバーのイメージを ¥upload ディレクトリに保存します。

アップロード プロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。

「OS イメージが正常に OVCN OS Manager Server へ送信されました

**** CD を挿入している場合、CD を取り出して再起動します」

19 参照マシンを再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレーティング システムに戻ります。

これで、**Publisher** を使用して、管理対象デバイスへの配布のためにイメージ ファイルを **CCM** サーバーにパブリッシュできるようになりました。**223** ページの「[オペレーティング システム イメージのパブリッシュ](#)」を参照してください。

Windows CE OS イメージ

次のセクションでは、**Windows CE** シン クライアント オペレーティング システムのイメージを準備し、取得する方法を説明します。

- [タスク 1 – CE 参照マシンの準備](#) （207 ページ）
- [タスク 2 – Image Preparation Wizard の実行](#) （207 ページ）

タスク 1 – CE 参照マシンの準備

イメージ取得のため CE シン クライアントを準備するには、以下のものが必要です。

- HPCAS メディア
- イメージ準備 CD-ROM

イメージを取得する前に、Windows CE デバイスに管理エージェントをインストールする必要があります。

Windows CE に管理エージェントをインストールするには

- 1 Windows CE シン クライアント デバイスから HPCAS メディアにアクセスします。
- 2 HPCAS メディアで、*SystemDrive:\ThinClient\WinCE* に移動します。
- 3 **radskman.X86.CAB** をダブルクリックします。
- 4 HPCAS サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力して、**[OK]** をクリックします。

管理エージェントがインストールされます。

タスク 2 – Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は以下のタスクを実行します。

- 1 マシンに十分な空きディスク領域があるかチェックし、管理エージェントがインストールされていることを確認します。十分な空きディスク領域がない場合、Image Preparation Wizard はメッセージを表示して終了します。
- 2 参照マシンに関する情報（ハードウェアおよび BIOS の機能など）を含むオブジェクトを作成します。
- 3 参照マシンを、作成したイメージ準備 CD から起動したサービス オペレーティング システムから再起動します。OS Manager の Image Preparation Wizard の Linux ベースの部分が動作して、イメージおよび関連ファイルを収集します。
- 4 次のファイルを作成し、HPCAS サーバーの *SystemDrive:\Novadigm\OSManagerServer\upload* にコピーします。

— ImageName.IBR

このファイルにイメージが含まれます。シン クライアント イメージ ファイルは、参照マシンのフラッシュ ドライブと同じサイズです。

Windows CE のイメージは、同等のサイズのフラッシュ ドライブを備えたターゲット マシンに配布できます。このファイルには、イメージがインストールされるときにアクセス可能な組み込みファイル システムが含まれます。

— ImageName.EDM

このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。



これらのファイルが転送される間は、オペレーティング システム イメージが転送の間に圧縮されるので、ネットワーク速度は最大速度より遅くなります。

イメージが配布された後、包括的なログ (*machineID.log*) も *SystemDrive:¥Novadigm¥OSManagerServer¥upload* で利用できます。

Image Preparation Wizard を使用するには

- 1 作成した **Image Preparation Wizard CD-ROM** を参照マシンの **CD-ROM** ドライブに挿入します(シン クライアント デバイスには、**USB CD-ROM** ドライブが必要です)。この **CD** は、お使いの **HPCAS** メディアの *OSManagement¥ISO¥CaptureCD* ディレクトリにある *ImageCapture.iso* を使用して作成されます。
- 2 自動実行が有効な場合、**HPCAS OS 準備と取得 CD** のホームページが開きます。
- 3 **[ブラウズ]** をクリックして *¥image_preparation_wizard¥WinCE¥* ディレクトリを開きます。
- 4 **prep wiz.exe** をダブルクリックします。**Image Preparation Wizard** が開始されます。



- 5 HPCAS サーバーの IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、`xxx.xxx.xxx.xxx:port` という形式で指定する必要があります。OS のイメージ作成用に予約されている HPCAS サーバーのポートは 3469 です。

Image Preparation Wizard が HPCAS サーバーに接続できない場合、メッセージが表示されるので、以下の手順を実行する必要があります。

- **[はい]** をクリックして続行します。
- **[いいえ]** をクリックして、ホスト名または IP アドレスを変更します。
- **[キャンセル]** をクリックして、Image Preparation Wizard を終了します。

- 6 **[OK]** をクリックします。ウィザードがイメージを準備します。

デバイスは、CD-ROM ドライブの Image Preparation Wizard CD から起動されます。このような動作になるように必要な設定の調整します（たとえば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に **F10** キーを押して、設定内の起動順序を変更できます）。



デバイスが CD を起動せずに Windows CE を起動する場合、上記の「[タスク 1-CE 参照マシンの準備](#)」からプロセスを再開する必要があります。



イメージのアップロードは、長時間かかるように感じられる場合がありますが、それは、アップロードではなく、イメージの圧縮と圧縮のための未使用ディスク領域の最適化（特に、空きディスク領域が多くある場合）によるものです。これは、イメージの転送の間に行われるので、ネットワークのパイプはボトルネックになりません。転送速度は、約 30 から 400 Kbps ですが、プロセッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。



必要なときに取得できるように、¥upload ディレクトリに格納するファイルのコピーを作成します。

- 7 **OS Image Preparation Wizard** はネットワークに接続して、HPCAS サーバーのイメージを/upload ディレクトリに保存します。

アップロード プロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。

「OS イメージが正常に OVCM OS Manager Server へ送信されました

**** CD を挿入している場合、CD を取り出して再起動します」

- 8 参照マシンを再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレーティング システムに戻ります。

これで、**Publisher** を使用して、管理対象デバイスへの配布のためにイメージ ファイルを **CCM** サーバーにパブリッシュできるようになりました。**223** ページの「[オペレーティング システム イメージのパブリッシュ](#)」を参照してください。

Embedded Linux OS イメージ

次のセクションでは、**Embedded Linux** オペレーティング システムのイメージを準備し取得する方法を説明します。

- [タスク 1 – Embedded Linux 参照マシンの準備](#) (210 ページ)
- [タスク 2 – Image Preparation Wizard の実行](#) (211 ページ)

タスク 1 – Embedded Linux 参照マシンの準備

イメージ取得のため **Embedded Linux** シン クライアントを準備するには、以下のものがが必要です。

- HPCAS メディア
- イメージ準備 CD-ROM

イメージを取得する前に、**Embedded Linux** シン クライアントに管理エージェントをインストールする必要があります。

▶ シン クライアント デバイスの情報および **NFS** を使用したインストールの実行手順の詳細は、このガイドのインストールの章または **ThinClient.tar** の **README** ファイルを参照してください。

Embedded Linux に管理エージェントをインストールするには

- 1 ターゲットのシン クライアント デバイスにログインします。
- 2 `/mnt/opt/OVCM` という名前の新しいディレクトリを作成します。
- 3 **HPCAS** メディアの `/ThinClient/Linux` ディレクトリにある **ThinClient.tar** の内容を `/mnt/opt/OVCM` にコピーします。

tar ファイルと展開された内容を両方とも格納する十分なディスク領域（約 **7 ～ 8 MB** の空き領域が必要）がないモデルもあるため、デバイスのモデルによっては、`/tmp` または別のマシンでこれらのファイルを展開する必要があります。展開した後は、**ThinClient.tar** を削除できます。

- 4 カレント ディレクトリを `/mnt/opt/OVCM` に変更して、インストールを実行するには、次のように入力します。

```
./install -i HPCAS_Server
```

この場合の **HPCAS_Server** は **HPCAS** サーバーのホスト名または **IP** アドレスです。

管理エージェントがインストールされます。

タスク 2 – Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は以下のタスクを実行します。

- 1 マシンに十分な空きディスク領域があるかチェックし、管理エージェントがインストールされていることを確認します。十分な空きディスク領域がない場合、**Image Preparation Wizard** はメッセージを表示して終了します。
- 2 参照マシンに関する情報（ハードウェアおよび **BIOS** の機能など）を含むオブジェクトを作成します。
- 3 参照マシンを、作成したイメージ準備 **CD** から起動したサービス オペレーティング システムから再起動します。**OS Manager** の **Image Preparation Wizard** の **Linux** ベースの部分が動作して、イメージおよび関連ファイルを収集します。

4 次のファイルを作成し、HPCAS サーバーの

`SystemDrive:\Novadigm\OSManagerServer\upload` にコピーします。

— `ImageName.DD`

このファイルにイメージが含まれます。シン クライアント イメージ ファイルは、参照マシンのフラッシュ ドライブと同じサイズです。

Embedded Linux のイメージは、サイズが同じフラッシュ ドライブを備えたターゲット マシンにしか配布できません。このファイルには、イメージがインストールされるときにアクセス可能な組み込みファイル システムが含まれます。

— `ImageName.EDM`

このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。



これらのファイルが転送される間は、オペレーティング システム イメージが転送の間に圧縮されるので、ネットワーク速度は最大速度より遅くなります。

イメージが配布された後、包括的なログ (`machineID.log`) も `SystemDrive:\Novadigm\OSManagerServer\upload` で利用できます。

Image Preparation Wizard を使用するには

- 1 作成した **Image Preparation Wizard CD-ROM** を参照マシンの CD-ROM ドライブに挿入します(シン クライアント デバイスには、**USB CD-ROM** ドライブが必要です)。この CD は、お使いの HPCAS メディアの `OSManagement\ISO\CaptureCD` ディレクトリにある **ImageCapture.iso** を使用して作成されます。



Linux シン クライアント モデルでは、**CD-ROM** が実行されないように、マウント時にデフォルトで **noexec** オプションが設定される場合があります。これにより、**Image Preparation Wizard** を実行しようとする、パーミッション エラーが起こったり、実行に失敗したりします。この問題を解決するには、**noexec** オプションを設定せずに **CD-ROM** を 再マウントしてください。

- 2 **Image Preparation** の CD で、`/image_preparation_wizard/linux` に移動し、`./prep wiz` を実行します。[よろこ] ウィンドウが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックします。[エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。
- 4 **[同意する]** をクリックします。

- 5 HPCAS サーバーの IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、`xxx.xxx.xxx.xxx:port` という形式で指定する必要があります。OS のイメージ作成用に予約されている HPCAS サーバーのポートは 3469 です。

Image Preparation Wizard が HPCAS サーバーに接続できない場合、メッセージが表示されるので、以下の手順を実行する必要があります。

- **[はい]** をクリックして続行します。
 - **[いいえ]** をクリックして、ホスト名または IP アドレスを変更します。
 - **[キャンセル]** をクリックして、Image Preparation Wizard を終了します。
- 6 **[次へ]** をクリックします。[イメージ名] ウィンドウが開きます。
- 7 イメージ ファイルの名前を入力します。これは、HPCAS サーバーの `¥upload` ディレクトリに保存されるイメージ名です。
- 8 **[次へ]** をクリックします。イメージの説明を入力するウィンドウが開きます。
- 9 イメージ ファイルの説明を入力します。
- 10 **[次へ]** をクリックします。[オプション] ウィンドウが表示されます。
- 11 適切なオプションを選択します。

OS のインストール後にクライアント接続を実行する

このチェック ボックスをオンにして、OS が正しくインストールされたか確認するため、OS のインストール後に HPCAS サーバーに接続します。このチェック ボックスをオンにしない場合は、OS がインストールされた後、OS 接続は自動的に実行されません。

- 12 デフォルトを受け入れて、**[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。
- 13 **[開始]** をクリックします。
- 14 **[完了]** をクリックします。ウィザードがイメージを準備します。
- 15 **[OK]** をクリックします。

デバイスは、CD-ROM ドライブの Image Preparation Wizard CD から起動されます。このような動作になるように必要な設定の調整します（たとえば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に **F10** キーを押して、設定内の起動順序を変更できます）。



デバイスが CD を起動せずに **Embedded Linux** を起動する場合、上記の「[タスク 1 – Embedded Linux 参照マシンの準備](#)」から、プロセスを再開する必要があります。



イメージのアップロードは、長時間かかるように感じられる場合がありますが、それは、アップロードではなく、イメージの圧縮と圧縮のための未使用ディスク領域の最適化（特に、空きディスク領域が多くある場合）によるものです。これは、イメージの転送の間に行われるので、ネットワークのパイプはボトルネックになりません。転送速度は、約 30 から 400 Kbps ですが、プロセッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。



必要なときに取得できるように、¥upload ディレクトリに格納するファイルのコピーを作成します。

- 16 OS Image Preparation Wizard** はネットワークに接続して、HPCAS サーバーのイメージを/UPLOAD ディレクトリに保存します。

アップロード プロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。

「OS イメージが正常に OVCM OS Manager Server へ送信されました

**** CD を挿入している場合、CD を取り出して再起動します」

- 17 参照マシンを再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレーティング システムに戻ります。**

これで、**Publisher** を使用して、管理対象デバイスへの配布のためにイメージ ファイルを HPCAS サーバーにパブリッシュできるようになりました。**223** ページの「[オペレーティング システム イメージのパブリッシュ](#)」を参照してください。

OS イメージのパブリッシュおよび配布

イメージを取得したら、**Publisher** を使用して HPCAS にパブリッシュします。手順は、**223** ページの「[オペレーティング システムのパブリッシュ](#)」または **Publisher** のオンライン ヘルプを参照してください。

HPCAS にパブリッシュするとき、OS ライブラリをリフレッシュして、新しいイメージを表示します。HPCAS コンソール ツールバーを使用して、選択した

デバイスにイメージを配布します。手順については、102 ページの「[オペレーティング システムの配布](#)」を参照してください。

9 Publisher の使用

Publisher を使用して、HP Client Automation Starter and Standard

(HPCAS) へ、ソフトウェア、BIOS 設定、HP Softpaq、およびオペレーティング システム イメージのパブリッシュを行います。パブリッシュされたソフトウェアはすべて、メイン HPCAS コンソールの [ソフトウェア管理] にある [ソフトウェア] タブで利用できます。パブリッシュされたオペレーティング システムは、[OS 管理] の [オペレーティング システム] タブ内で利用できます。

ソフトウェアは、パブリッシュした後、環境の管理対象デバイスへエンタイトルメント設定と配布を行う必要があります。



Publisher は、HPCAS とは別にインストールされます。インストールには、製品 CD の HP Client Automation Administrator インストール ファイルを使用するか、またはソフトウェア ライブラリの HP Client Automation Publisher サービスを使用します。詳細は、37 ページのインストール手順を参照してください。

Publisher を起動するには

- 1 Publisher をインストールしたデバイスで、**[スタート]** メニューを使用して、以下のように移動します。

[スタート] > [すべてのプログラム] > [HP Client Automation Administrator] > [HP Client Automation Administrator Publisher]

- 2 Publisher にログインするには、HPCAS のユーザー名とパスワードを使用します。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

以下のセクションは、Windows インストーラ ファイル、オペレーティング システム イメージ、HP Softpaq、および他のソフトウェア形式を HPCAS にパブリッシュするため Publisher を使用する方法を説明しています。

- ソフトウェアのパブリッシュ (218 ページ)
- オペレーティング システム イメージのパブリッシュ (223 ページ)
- HP Softpaq のパブリッシュ (228 ページ)
- BIOS 設定のパブリッシュ (230 ページ)



パブリッシュ オプションは、ターゲット デバイスおよびインストールしている HPCAS ライセンスによって異なります。

- パブリッシュ オプションの **[コンポーネントの選択]**、**[OS イメージ]**、および **[Windows インストーラ]** には、HP Client Automation Standard が必要です。HP Client Automation Starter and Standard では、**[HP BIOS 設定]** および **[HP Softpaq パブリッシュ]** のオプションを使用できます。
- HP Client Automation Starter and Standard の両方で、**[クライアント パブリッシュ]** のオプション、**[OS イメージ]**、および **[コンポーネントの選択]** を使用できます。

ソフトウェアのパブリッシュ

パブリッシュするソフトウェアのタイプにより、2 つのパブリッシュ オプションの 1 つを使用します。ログイン画面で、**[Windows インストーラ]** を使用して **Windows インストーラ ファイル (.msi)** をパブリッシュするか、**[コンポーネントの選択]** を使用して **Windows 以外のインストーラ ファイル** をパブリッシュするかを選択します。次のセクションでは、各ファイル タイプをパブリッシュする手順を説明します。

- **Windows インストーラ ファイルのパブリッシュ** (218 ページ)
- **[コンポーネントの選択] を使用したパブリッシュ** (221 ページ)

Windows インストーラ ファイルのパブリッシュ

Windows インストーラ は、**MSI ファイル** を使用して、オペレーティング システムにソフトウェア サービスを配布します。**Publisher** は、このファイルを使用してサービスを作成し、そのサービスが **HPCAS** へパブリッシュされます。ソフトウェア サービスが **HPCAS** に格納されると、お使いの環境にある管理対象デバイスへそのサービスを配布する準備が完了します。

Windows インストーラ ファイルをパブリッシュするには

- 1 **Publisher** を起動します (217 ページの「**Publisher** を起動するには」を参照してください)。
- 2 ログイン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。



HPCAS のユーザー名とパスワードを使用して、**Publisher** にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

- 3 [パブリッシュ オプション] 領域で、**[Windows インストーラ]** を選択して、**[OK]** をクリックします。
- 4 左ペインの **Windows インストーラ ファイル**へ移動します。右ペインには、選択した **MSI** ファイルで利用可能な情報が表示されます。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
- 6 使用できるパブリッシュ オプションを確認します。

— 管理オプション

管理インストール ポイント (AIP) を作成するには、**[setup を使用]** または **[msiexec を使用]** を選択します。



AIP のパスは、一時的な場所であり、パブリッシュ セッションが完了したら、削除されます。

— 変換

Windows インストーラ ファイルに関連付けられた変換ファイルのアプリケーションを選択し、順序を変更します。

— 追加のファイル

AIP の一部として追加のファイルを含めます。

- リストに表示された利用可能なファイルをすべて選択するには、**[すべて選択]** をクリックします。
- すべてのファイルの選択を解除するには、**[選択なし]** をクリックします。

— プロパティ

msi ファイルのプロパティを表示および変更します。**Windows インストーラ ファイル**には、正しく配布するために追加のコマンド ライン パラメータが必要な場合があります。たとえば、インストールの間にシリアル番号を渡すため、アプリケーションがカスタム プロパティを必要とす

る場合があります。[プロパティ] ダイアログを使用して、パラメータを追加します。

- 新しいプロパティを追加するには **[追加]** をクリックします。
- 既存のプロパティを削除するには **[削除]** をクリックします。
- プロパティの **[名前]** または **[値]** を変更するには、変更する項目をクリックして、新しい値を入力します。

パブリッシュ オプションの編集が終わったら、**[次へ]** をクリックします。

- 7 [アプリケーションの情報] セクションでソフトウェア サービスの情報を入力します。
- 8 **[パッケージを適用する対象システム]** セクションを使用して、特定のオペレーティング システムまたはハードウェアへのサービスを制限します。いずれかのリンクをクリックして、設定可能なオプションを表示します。
- 9 **[次へ]** をクリックします。
- 10 [要約] セクションで、前の手順で指定したサービス情報を確認します。この情報で良ければ、**[パブリッシュ]** をクリックします。
- 11 パブリッシュ プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックして **Publisher** を終了します。

これで、**Windows** インストーラ サービスを企業へ配布する準備が整いました。

変換ファイルを使用してその他のパラメータを適用するには

- 1 **Orca** や他の **MSI** エディタを使用して、変換を作成します。変換は、**Windows** インストーラ ファイルがパブリッシュされるディレクトリと同じディレクトリに保存します。
- 2 **Windows** インストーラのパブリッシュ セッションを開始します。詳細は、上記の指示に従います。
- 3 編集手順で **[変換]** をクリックします。
- 4 利用可能な変換ファイルを選択して、パブリッシュ セッションを続けます。ソフトウェア サービスが配布されると、変換ファイルが適用され、追加のコマンド ライン パラメータが指定されます。

[コンポーネントの選択] を使用したパブリッシュ

Windows インストーラ ファイル以外のソフトウェアをパブリッシュするには、[コンポーネントの選択] オプションを使用して、パブリッシュするソフトウェアを選択します。

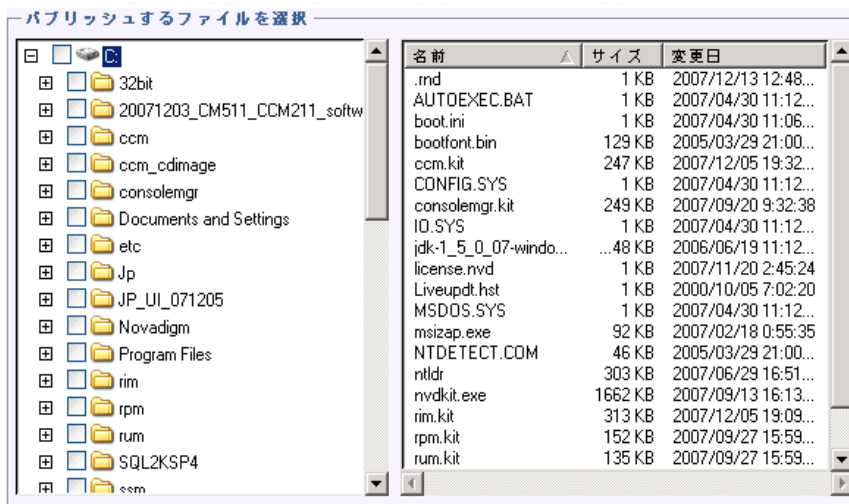
[コンポーネントの選択] を使用してパブリッシュするには

- 1 **Publisher** を起動します (217 ページの「**Publisher** を起動するには」を参照してください)。
- 2 ログイン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。



HPCAS のユーザー名とパスワードを使用して、**Publisher** にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

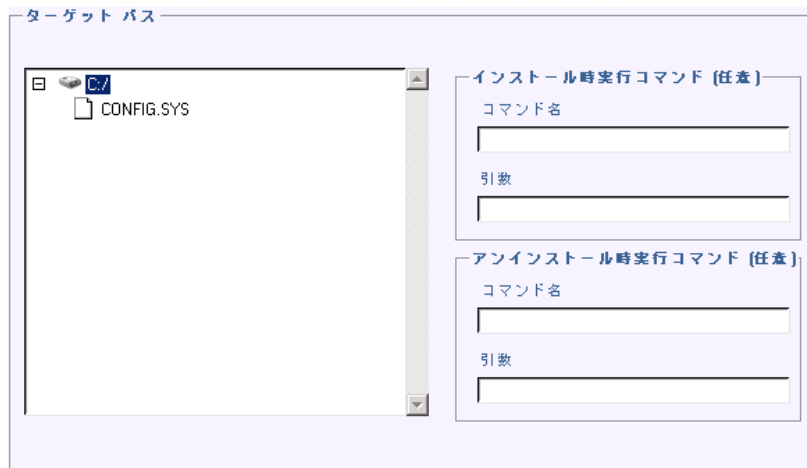
- 3 [パブリッシュ オプション] 領域で以下の操作を実行します。
 - シン クライアントへパブリッシュしている場合は、**[シンクライアントのパブリッシュ]** を選択します。
 - ドロップダウン リストから **[コンポーネントの選択]** を選択します。
- 4 **[OK]** をクリックします。[パブリッシュするファイルを選択] ウィンドウが開きます。



- 5 パブリッシュするファイルを選択して、**[次へ]** をクリックします。

- ▶ ソフトウェアがある（パブリッシュ元の）ディレクトリ パスは、ソフトウェアがターゲット デバイスに配布される先のディレクトリ パスになります。
- ▶ ネットワーク共有が表示されますが、配布中に利用できなくなる場合があるのでソフトウェアのパブリッシュには使用しません。

[ターゲット パス] ウィンドウが開きます。



- 6 シン クライアントへパブリッシュしている場合、インストール ポイントを選択します。次の図を参照してください。



- 7 コマンドを入力して、アプリケーションのインストールおよびアンインストールを実行します。たとえば、インストールを実行するコマンドは、次のようになります。C:\temp\installs\install.exe /quietmode /automatic c:\mydestination

アンインストールを実行するコマンドは、次のようになります。
C:\temp\installs\uninstall.exe /quietmode /automatic

- ▶ ファイルを右クリックして、インストールまたはアンインストール コマンドとして設定できます。

- 8 **[次へ]** をクリックします。[アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。
- 9 [アプリケーションの情報] セクションでソフトウェア サービスの情報を入力します。
- 10 **[パッケージを適用する対象システム]** セクションを使用して、特定のオペレーティング システムまたはハードウェアへのサービスを制限します。いずれかのリンクをクリックして、設定可能なオプションを表示します。
- 11 **[次へ]** をクリックします。
- 12 [要約] セクションで、前の手順で指定したサービス情報を確認します。設定を終了したら、**[パブリッシュ]** をクリックします。
- 13 パブリッシュ プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックして **Publisher** を終了します。

これで、ソフトウェア サービスを企業へ配布する準備が整いました。

オペレーティング システム イメージのパブリッシュ

Image Preparation Wizard を使用して作成したオペレーティング システム イメージは、HPCAS サーバーの¥Novadigm¥OSManagerServer¥upload に保存されています。Publisher を使用して、管理対象デバイスへ配布するためにオペレーティング システム イメージ ファイル (.IMG) をパブリッシュします。

- .WIM イメージをパブリッシュする場合は、223 ページの「**Vista OS の .WIM イメージをパブリッシュするための前提条件**」を参照してください。
- Publisher を使用して OS イメージをパブリッシュするために必要な手順については、227 ページの「**OS イメージのパブリッシュ**」を参照してください。

Vista OS の .WIM イメージをパブリッシュするための前提条件

Vista オペレーティング システムの .WIM イメージをパブリッシュする場合は、以下の条件が必要です。

- HPCAS メディアの RadAgent¥client フォルダにアクセスできること。このフォルダは、最初に .WIM ファイルをパブリッシュするとき、または、更新したエージェント パッケージをパブリッシュする場合だけ必要です。管理エージェントは個別のパッケージとしてパブリッシュされます。このため、そ

の後のすべての .WIM ファイルの配布は、必ず利用可能な最新のエージェントを自動的に受信します。

- **WAIK** がインストールされていること。(WAIK は、Microsoft の Web サイトから入手可能です。これは、通常の Vista のインストールには含まれません。)
- *filename.wim* および *filename.edm* を HPCAS サーバーの¥upload ディレクトリ (デフォルトは、C:¥Novadigm¥OSManagerServer¥upload) からイメージをパブリッシュするデバイスにコピーします。
- *substitutes* および *unattend.xml* を同じディレクトリに *filename.wim* としてコピーします。これらのファイルのサンプルは、**Image Capture** メディアの¥samples にあります。サンプルを使用する場合は、設定やタイムゾーンなど、必要な情報を変更し、製品キーを入力します。詳細は以下の説明を参照してください。これらのファイルは、同じプレフィックスを持つ必要があるので注意してください。たとえば、*install.wim*、*install.subs*、および *install.xml* のようになります。



このディレクトリ内のファイルやフォルダが読み取り専用を設定されていないことを確認してください。読み取り専用を設定されていると、イメージは配布できません。

.subs および .xml ファイルについて

Filename.subs および *filename.xml* は情報をカスタマイズするために使用します。オペレーティングシステムの配布中に、*filename.subs* と *filename.xml* が結合され、*unattend.xml* ファイルが作成されます。*unattend.xml* ファイルは、ターゲット デバイスでの **Windows** セットアップのすべてのフェーズで、情報を提供するために使用されます。

Filename.xml は一般情報を含んだ応答ファイルだけではなく、*filename.subs* から取り込まれる情報のプレースホルダとして使用できます。これを選択すると、指定された *filename.xml* と **Microsoft** の **Windows System Image Manager (SIM)** ツールを使用して、このファイルに追加が作成できます。そのためには、*filename.xml* を開く前に、対応する .wim ファイルを開きます。



Vista インストール用の製品キーをこのファイルに指定する必要があります。

このファイルからは、いかなる **XML** 値も削除しないでください。この .xml ファイルを不正に変更すると、重大な問題が発生し、インストールが失敗する可能性があります。

SIM ツールの [Messages] セクションで「・\$SUBSTR\$\$ が無効です・」などのエラーが表示されることがありますが、これは無視できます。ファイルを保存するとき、「応答ファイルには、検証エラーがあります。続行してもよろしいですか?」などのメッセージが表示される場合がありますが、**[はい]** をクリックして続行します。

Filename.subs は、*filename.xml* で修正する各 XML 項目と、推奨される修正値をリストする置換ファイルです。置換ファイル内の行は **XPATH** と呼ばれます。

▶ *filename.subs* ファイルに入力した情報は、*filename.xml* の情報より優先されます。

置き換えの例

置き換えがどのように実行されるかを調べるには、以下の例を検討します。この例では、**JoinDomain** 属性を *filename.xml* 内の「anything」から *unattend.xml* の「VistaTeam」に設定する方法を示しています。

▶ <> で囲まれるコードは、**xml** ファイル内ではすべて 1 行で表示する必要があります。

- 1 *sample.xml* ファイルから抽出した **JoinDomain** の XML 要素を確認します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<unattend xmlns="urn:schemas-microsoft-com:unattend">
  <settings pass="specialize">
    <component name="Microsoft-Windows-Shell-Setup"
      processorArchitecture="x86"
      publicKeyToken="31bf3856ad364e35" language="neutral"
      versionScope="nonSxS"
      xmlns:wcm="http://schemas.microsoft.com/WMICConfig/2002/State"
      xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
    >
      <Identification>
        <JoinDomain>anything</JoinDomain>
      </Identification>
    </component>
  </settings>
```

```

        <cpu:offlineImage
        cpu:source="wim://hpfcovcm/c$/vista_inst/vista.wim#W
        indows Vista ULTIMATE"
        xmlns:cpu="urn:schemas-microsoft-com:cpu"/>
    </unattend>

```

- 2 以下の `sample.subs` の **XPATH** 要素を変更します。**XPATH** 要素が、`sample.subs` では 1 行で表示されていることに注意してください。

```

//un:settings[@pass='specialize']//un:component[@name='Microsoft-
Windows-Shell-Setup'][@processorArchitecture='x86']/un:Identifica
tion/un:JoinDomain,VistaTeam

```

- 3 オペレーティング システムの配布中に、`filename.subs` ファイルと `filename.xml` ファイルが結合され、`unattend.xml` ファイルが作成されます。このファイルは、**Windows** セットアップのすべてのフェーズで、情報を提供するために使用されます。この例では、**JoinDomain** 属性が **VistaTeam** に設定されます。以下にカスタマイズした **XML** 要素の例を示します。

```

<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<unattend xmlns="urn:schemas-microsoft-com:unattend">
    <settings pass="specialize">
        <component name="Microsoft-Windows-Shell-Setup"
        processorArchitecture="x86"
        publicKeyToken="31bf3856ad364e35" language="neutral"
        versionScope="nonSxS"
        xmlns:wcm="http://schemas.microsoft.com/WMIconfig/2002/Stat
        e" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
            <Identification>
                <JoinDomain>VistaTeam</JoinDomain>
            </Identification>
        </component>
    </settings>
    <cpu:offlineImage
    cpu:source="wim://hpfcovcm/c$/vista_inst/vista.wim#Windows
    Vista ULTIMATE" xmlns:cpu="urn:schemas-microsoft-com:cpu"/>
</unattend>

```

filename.xml の準備

SIM ツールを使用して、製品キーや、お使いの環境に合わせて変更する必要がある他の情報を変更します。

OS イメージのパブリッシュ

以下のセクションでは、**Administrator Publisher** を使用してオペレーティングシステム イメージをパブリッシュする方法を説明します。

オペレーティング システム イメージをパブリッシュするには

- 1 **Publisher** を起動します (217 ページの「**Publisher** を起動するには」を参照してください)。
- 2 ログイン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。



HPCAS のユーザー名とパスワードを使用して、**Publisher** にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

- 3 [パブリッシュ オプション] 領域で以下の操作を実行します。
 - シン クライアントへパブリッシュしている場合は、**[シンクライアントのパブリッシュ]** を選択します。
 - ドロップダウン リストから **[OS イメージ]** を選択します。
- 4 **[OK]** をクリックします。[OS イメージ ファイルの選択] ウィンドウが開きます。
- 5 [選択] ウィンドウを使用して、パブリッシュするファイルを探し、選択します (Image Preparation Wizard を使用して作成したイメージは、HPCAS サーバーの¥Novadigm¥OSManagerServer¥upload ディレクトリに保存されています)。
- 6 続行する前に、**[説明]** 領域を使用して、ファイルを確認します。説明に情報を追加することもできます。
- 7 **[次へ]** をクリックします。

.WIM ファイルをパブリッシュするのを選択すると、**[WIM 配布設定]** ウィンドウが表示されます。.IMG ファイルをパブリッシュする場合は、次の手順に進みます。

- a **[配布方法]** ドロップダウン リスト ボックスで、**[ImageX]** を選択します。
 - b **[送信元]** ディレクトリは空白のままにします。これは必須ではありません。
 - c **[クライアント メディアのロケーション]** で、管理エージェント メディアの正しいパスをブラウズします（これは、HPCAS メディアの RadAgent/client フォルダです）。
- すでにこれをパブリッシュしている場合は、**[以前にパブリッシュされた既存のパッケージを使用]** を選択して、適切なパッケージを選択できます。
- 8 **[次へ]** をクリックします。[アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。
 - 9 **[アプリケーションの情報]** セクションを使用して、サービスの情報を入力します。
 - 10 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。
 - 11 **[要約]** 情報を確認して、前の手順で指定したパッケージおよびサービスの情報を検証します。この情報で良ければ、**[パブリッシュ]** をクリックします。
 - 12 パブリッシュ プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックして **Publisher** を終了します。

これで、企業内の管理対象デバイスへサービスを配布する準備が整いました。

パブリッシュされたオペレーティング システム イメージ サービスは、[OS 管理] セクションのオペレーティング システム OS ライブラリのリストで確認できます。

HP Softpaq のパブリッシュ

HP Softpaq は、サポート ソフトウェアの集合です。これには、デバイス ドライバ、設定プログラム、フラッシュ可能な ROM イメージなど、デバイスを最新の状態に保ち、最善のパフォーマンスを発揮させるのに利用可能なユーティリティが含まれます。

Softpaq は、実行可能（.EXE）ファイルとして使用できます。

Publisher を使用して、管理対象デバイスに配布するため HP Softpaq を HPCAS へパブリッシュします。

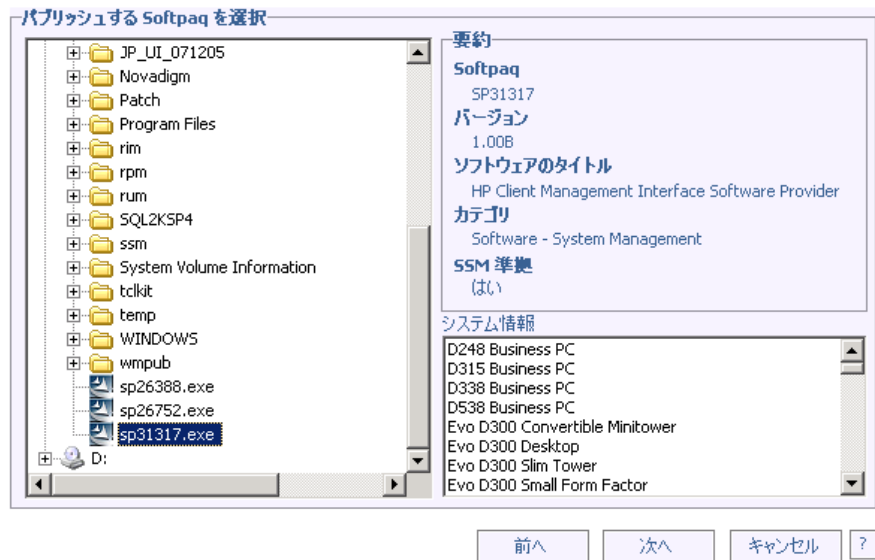
Softpaq をパブリッシュするには

- 1 **Publisher** を起動します（217 ページの「**Publisher** を起動するには」を参照してください）。
- 2 ログイン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。



HPCAS のユーザー名とパスワードを使用して、**Publisher** にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

- 3 [パブリッシュ オプション] 領域で、**[HP Softpaq]** を選択して、**[OK]** をクリックします。[選択] ウィンドウが表示されます。



- 4 パブリッシュする **Softpaq** ファイルを選択します。
 - [要約] セクションには、**Softpaq** が **SSM 準拠** であるかないかなど、選択した **Softpaq** の情報が表示されます。選択した **Softpaq** が **SSM 準拠** でなく、**Softpaq** の一部としてサイレント インストールが含まれていない場合、**Softpaq** の内容を展開して、付属のドキュメントを読む必要があります。必要なファイルをパブリッシュして、指示に従ってインストール方法をセットアップします。
 - [システム情報] ダイアログ ボックスには、選択した **Softpaq** がサポートするすべてのハードウェアが表示されます。

- 5 **[次へ]** をクリックします。[アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。
- 6 **Softpaq** 情報を表示し、必要な場合は変更します。アプリケーション情報は、**Softpaq** ファイルから利用できる情報に基づいて、あらかじめ決まっています。
- 7 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。
- 8 要約情報を確認し、それで良ければ、**[パブリッシュ]** をクリックします。
- 9 パブリッシュ プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックして **Publisher** を終了します。

Softpaq が **HPCAS** へパブリッシュされ、管理対象デバイスへの配布に利用できるようになります。パブリッシュされた **Softpaq** を、**HPCAS** コンソールの [ソフトウェア管理] にあるソフトウェア ライブラリに表示します。配布された **Softpaq** は、**Application Self-Service Manager** または管理対象デバイスの **HP Softpaq** カテゴリ グループ内にあります。

BIOS 設定のパブリッシュ

Publisher を使用して、クライアント デバイスへ配布するために、**BIOS** 設定ファイルをサービスとしてパブリッシュします。設定ファイルを使用して、**BIOS** 設定（起動順序など）の更新や変更、またはクライアント デバイスの **BIOS** パスワードの変更ができます。

BIOS 設定ファイルのサンプル (Common HP BIOS Settings.xml) が、**Publisher** のインストール時に、デフォルトでは C:\Program Files\Novadigm\BIOS に配置されます。このファイルを使用して、ターゲット デバイスの **BIOS** 設定を変更します。

BIOS 設定ファイルのサンプルに必要なオプションが含まれない、または特定のデバイス用の設定ファイルを作成する場合は、233 ページの「[BIOS 設定ファイルの作成](#)」を参照してください。

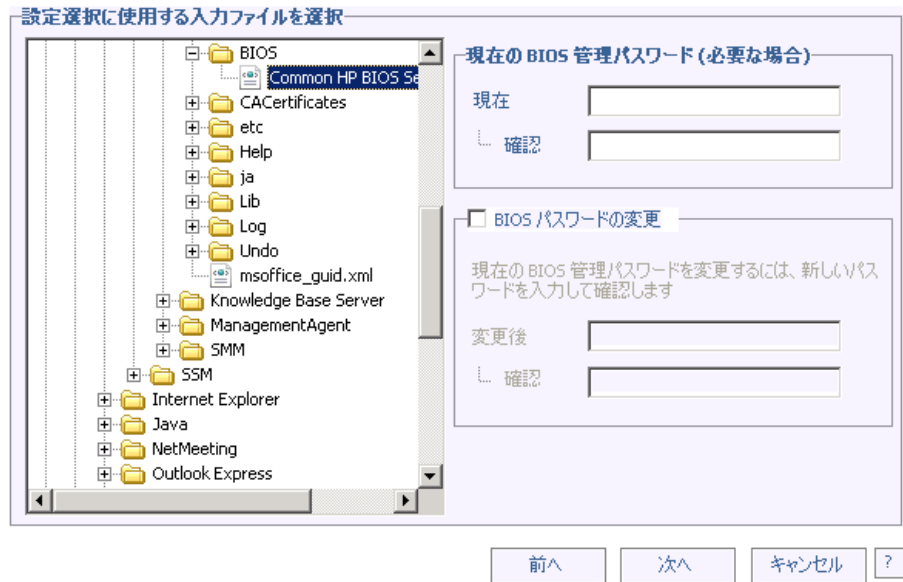
BIOS 設定をパブリッシュするには

- 1 **Publisher** を起動します (217 ページの「[Publisher を起動するには](#)」を参照してください)。
- 2 ログイン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。



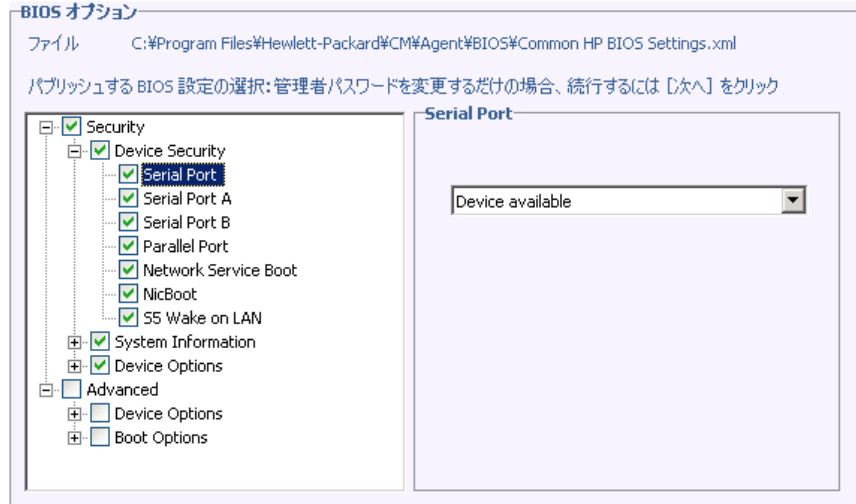
HPCAS のユーザー名とパスワードを使用して、Publisher にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

- 3 [パブリッシュ オプション] 領域で、[HP BIOS 設定] を選択して、[OK] をクリックします。[選択] ウィンドウが表示されます。



- 4 パブリッシュする BIOS 設定ファイルを選択します。BIOS 設定ファイルのサンプル (Common HP BIOS Settings.xml) は、デフォルトでは C:\Program Files\Novadigm\BIOS にあります。
- 5 必要の場合は [現在の BIOS 管理パスワード] 領域に、BIOS パスワードを入力して確認します。ターゲット デバイスに BIOS パスワードがある場合、設定を変更するにはこれが必要です。
- 6 現在の BIOS パスワードを変更する場合、[BIOS パスワードの変更] を選択し、新しいパスワードを入力して確認します。これが必要なのは、クライアント デバイスの BIOS パスワードを変更する場合だけです。

- 7 **[次へ]** をクリックします。[BIOS オプション] ウィンドウが表示されます。



- 8 パブリッシュする BIOS 設定を選択するには、BIOS 設定名の左にあるチェック ボックスをクリックします。
- 9 BIOS 設定の値を変更する必要がある場合、設定名をクリックして、必要に応じて使用可能なオプションを調整します。
- 10 **[次へ]** をクリックします。[アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。
- 11 アプリケーション情報を表示し、必要な場合は変更します。アプリケーション情報は、設定ファイルから利用できる情報に基づいて、あらかじめ決まっています。
- 12 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。
- 13 要約情報を確認し、それで良ければ、**[パブリッシュ]** をクリックします。
- 14 パブリッシュ プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックして **Publisher** を終了します。

BIOS 設定サービスは、HPCAS コンソールのソフトウェア ライブラリで利用できます。

BIOS 設定ファイルの作成

HPCAS に付属のファイル以外の BIOS 設定ファイルを使用する場合、HP System Software Manager (SSM) の BIOS 設定ユーティリティを使用して、独自の設定ファイルを生成できます。

SSM は、管理エージェントと一緒にインストールされます (C:¥Program Files¥Hewlett-Packard¥SSM)。または、HP サポート サイトからダウンロードできます。

BIOS 設定ファイルを作成するには

- 1 コマンド プロンプトを表示して、SSM BIOS 設定ユーティリティがあるディレクトリ (デフォルトでは C:¥Program Files¥Hewlett-Packard¥SSM) に移動します。

- 2 次のように入力します。

```
BiosConfigUtility.exe  
/GetConfig:"C:\tmp\MyBIOSconfig.xml" /Format:XML
```

このコマンドは、MyBIOSconfig.xml という名前の XML ファイルを生成し、C:¥tmp に保存します。

XML ではなくテキスト ファイルを作成する場合は、次のように入力します。

```
BiosConfigUtility.exe  
/GetConfig:"C:\tmp\MyBIOSconfig.txt" /Format:REPSET
```

このコマンドは、MyBIOSconfig.txt という名前のテキスト ファイルを生成し、C:¥tmp に保存します。

- 3 BIOS 設定をパブリッシュする準備ができれば、上の「[BIOS 設定をパブリッシュするには](#)」の手順 6 で、このファイルを選択します。

パブリッシュされたサービスの表示

[ソフトウェア] タブにパブリッシュされたソフトウェアを表示します。次の図は、HPCAS コンソール内のサンプルのパブリッシュ済みサービスおよび利用可能なアプリケーションが表示された [ソフトウェア] タブを示します。

図 29 ソフトウェア ライブラリ



パブリッシュされたオペレーティング システムは、コンソールの [OS 管理] セクション内の [オペレーティング システム] 領域に保存されています。

HP Client Automation Administrator Agent Explorer

HP Client Automation Administrator の一部として、Publisher と一緒にインストールされる、Agent Explorer は、トラブルシューティングや問題解決に役立ちますが、HP サポートからの直接の指示がない場合は使用しないでください。

10 Application Self-Service Manager の使用

HP Client Automation Application Self-Service Manager (ASM) は、管理エージェントがデバイスに配布されたときにインストールされます。**Application Self-Service Manager** を使用して、デバイスにエンタイトルメントが設定されたソフトウェアをインストールします。

次のセクションでは、**ASM** のユーザー インターフェイスの使用方法を説明します。

- [Application Self-Service Manager へのアクセス](#) (235 ページ)
- [Application Self-Service Manager の概要](#) (236 ページ)
- [Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスの使用](#) (239 ページ)
- [ユーザー インターフェイスのカスタマイズ](#) (245 ページ)
- [HPCA システム トレイのアイコン](#) (251 ページ)

Application Self-Service Manager へのアクセス

Windows の [スタート] メニュー、またはデスクトップの **Application Self-Service Manager** アイコンをダブルクリックして、ユーザー インターフェイスにアクセスします。

ユーザー インターフェイスにアクセスするには

- **[スタート] > [プログラム] > [HP Client Automation Agent] > [Client Automation Application Self-Service Manager]** へと移動します。

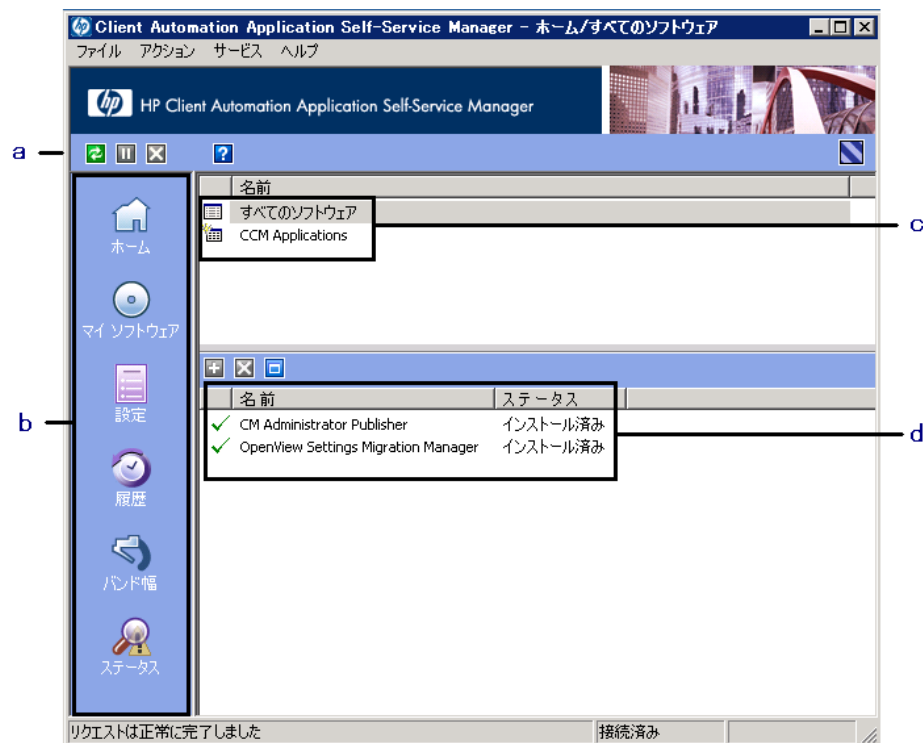
または

- **[Client Automation Application Self-Service Manager]** デスクトップ ショートカットをダブルクリックします。

Application Self-Service Manager の概要

ASM ユーザーには、4 つの主要セクションがあります。各セクションでは、利用可能なソフトウェアの管理、カタログにあるソフトウェアの情報やステータスの表示、ユーザー インターフェイス表示のカスタマイズができます。

図 30 Application Self-Service Manager のユーザー インターフェイス



凡例

- a** グローバル ツールバー — カatalogのリフレッシュや、現在のアクションの一時停止または取り消しができます。
- b** メニュー バー — Application Self-Service Manager を使用するとき利用可能なメニューの選択肢を表示します。
- c** カタログ リスト — 使用できるさまざまなソフトウェア カタログの一覧が表示されます。
- d** サービス リスト — エンタイトルメントを設定できるアプリケーションの一覧が表示されます。

次のセクションでは、ユーザー インターフェイス セクションを詳細に説明します。


- [グローバル ツールバー\(237 ページ\)](#)
- [メニュー バー \(238 ページ\)](#)
- [カタログ リスト \(238 ページ\)](#)
- [サービス リスト \(239 ページ\)](#)

グローバル ツールバー



グローバル ツールバーでは、カタログのリフレッシュ、現在のアクションの一時停止、または現在のアクションの取り消しができます。アクションを一時停止すると、**[一時停止]** ボタンを再度クリックしてアクションを再開するか、**[キャンセル]** ボタンをクリックして一時停止したアクションをキャンセルするまで、他のアクションを実行できません。

[グローバル ツールバー] のボタンのうち、現在のアクションで使用できないボタンは、グレー表示になります。


カタログをリフレッシュするには

- 選択したカタログをリフレッシュするには、グローバル ツールバーの **[リフレッシュ]**  をクリックします。

現在のアクションを一時停止または再開するには

- 現在のアクションを停止するには、グローバル ツールバーの **[一時停止]**  をクリックします。
- 停止したアクションを再開するには、**[リジューム]**  をクリックします。
(アクションを停止すると、**[停止]** ボタンがこのボタンに変わります)。

現在のアクションをキャンセルするには

- 現在のアクションをキャンセルするには、グローバル ツールバーの **[キャンセル]**  をクリックします。

メニュー バー

メニュー バーを使用して、**Application Self-Service Manager** の設定およびカスタマイズを行います。

次のセクションでは、メニュー バーの各アイコンについて説明します。

ホーム

このボタンをクリックすると、ホーム カタログにアクセスできます。

マイ ソフトウェア

このボタンをクリックすると、インストールしたサービスだけが表示されます。

設定

このボタンをクリックすると、**ASM** のさまざまな表示オプション、サービス リスト オプション、および接続オプションにアクセスできます。

[設定] セクションの右上隅にある **[OK]**、**[適用]**、または **[キャンセル]** をクリックして、いつでも変更内容を保持または無視できます。

カタログ リスト



[カタログ リスト] セクションには、使用可能なソフトウェア カタログおよび仮想カタログの一覧が表示されます。

カタログを選択するには

- [カタログ リスト] で、[サービス リスト] セクションに表示するカタログをクリックします。カタログをリフレッシュするには、カタログの名前を右クリックして、ショートカット メニューから **[リフレッシュ]** を選択します。

仮想カタログ




仮想カタログは、**HPCAS** の [ソフトウェアの詳細] で管理者が定義した、デフォルトのカタログのサブセットです。カタログ グループの値が同じサービスは、1 つの仮想カタログにグループ化されます。次のイメージは、いくつかのサンプルのカタログを表示しています。

	名前
	すべてのソフトウェア
	CCM Applications

サービス リスト

[サービス リスト] セクションは、利用可能なアプリケーションを一覧表示します。すでにインストールされているソフトウェアの隣には、チェック マークが表示されます。表示されているカラムの見出しは、必要に応じて変更できます。詳細は、238 ページの「設定」を参照してください。

表 15 [サービス リスト] セクションのボタン

ボタン	アクション	説明
	インストール	選択したサービスをマシンにインストールする。
	削除	選択したサービスをマシンから削除する。
	展開／折りたたむ	選択したサービスを展開／折りたたむ。



[サービス リスト] セクションのボタンは、選択したアプリケーションに対して使用できない場合、グレー表示になります。

Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスの使用

ユーザー インターフェイスを使用して、ソフトウェアのインストールと削除、利用可能なソフトウェアのカatalogのリフレッシュ、および利用可能なソフトウェアに関する情報の表示を行います。メニュー バーには、セッション履歴の表示、バンド幅の調整、およびアプリケーションの現在のステータスの表示のためのボタンがあります。


詳細は以下のセクションを参照してください。

- [ソフトウェアのインストール](#) (240 ページ)
- [カタログのリフレッシュ](#) (241 ページ)
- [情報の表示](#) (241 ページ)
- [ソフトウェアの削除](#) (242 ページ)
- [履歴の表示](#) (242 ページ)
- [バンド幅の調整](#) (243 ページ)
- [ステータスの表示](#) (244 ページ)

ソフトウェアのインストール

利用可能なアプリケーションは、サービス リストに一覧表示されます。これらのアプリケーションから 1 つ以上をいつでもインストールできます。

ソフトウェアをインストールするには



- 1 インストールするソフトウェア名をサービス リストでクリックします。
- 2 [インストール] ボタン  をクリックします。

一部のインストールでは複数のダイアログ ボックスが表示されます。複数のダイアログ ボックスが表示された場合は指示に従います。それ以外の場合は、インストールがすぐに始まります。





インストールするソフトウェア名を右クリックして、表示されるショートカット メニューの **[インストール]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。

インストールの進行状況が、進行状況バーに表示されます。


- インストールをキャンセルするには、グローバル ツールバーの **[キャンセル]**  をクリックします。
- インストールを一時停止するには、グローバル ツールバーの **[一時停止]**  をクリックします。アクションを一時停止すると、一時停止しているアクションをキャンセルまたは再開するまで、他のアクションを実行できません。

カタログのリフレッシュ

ASM ユーザー インターフェイスにログインするたびに、カタログはリフレッシュされます。ログインしている間に、使用権限が与えられているアプリケーションのリストが変わった、またはインストールしているアプリケーションの更新が利用可能になったと考えられる場合は、グローバル ツールバーの **[カタログをリフレッシュ]**  をクリックして、アプリケーションの更新されたリストを取得します。


 ソフトウェア リストの任意のアイテムを右クリックして、表示されるショートカット メニューの **[カタログをリフレッシュ]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。


情報の表示

あるアプリケーションに関してサービス リストが提供する情報よりもさらに詳細な情報が必要な場合があります。ベンダー、バージョン、サイズ、およびアプリケーションがインストールされた日付を知りたい場合、サービス リストにこれらのカラムを追加するか、展開したサービス ボックスで **[拡張情報を表示]**  をクリックします。

メーカーからの詳細情報が必要な場合は、ベンダーのリンクをクリックします。

詳細情報を表示するには


- サービス リストで目的のソフトウェアを選択し、**[拡張情報を表示]**  をクリックします。

 目的のソフトウェアを右クリックし、**表示されるショートカットメニューの [プロパティ]** をポイントし、**[情報]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。




サービス リストに戻るには、対応する **[キャンセル]** ボタンをクリックします。

ソフトウェアの削除

[削除] ボタン  を使用してコンピュータからソフトウェアを削除できます。

ソフトウェアを削除するには

- 1 削除するソフトウェアを選択します。
- 2 **[削除]**  をクリックします。
- 3 アプリケーションの削除を確認するメッセージが表示されたら、**[はい]** をクリックします。

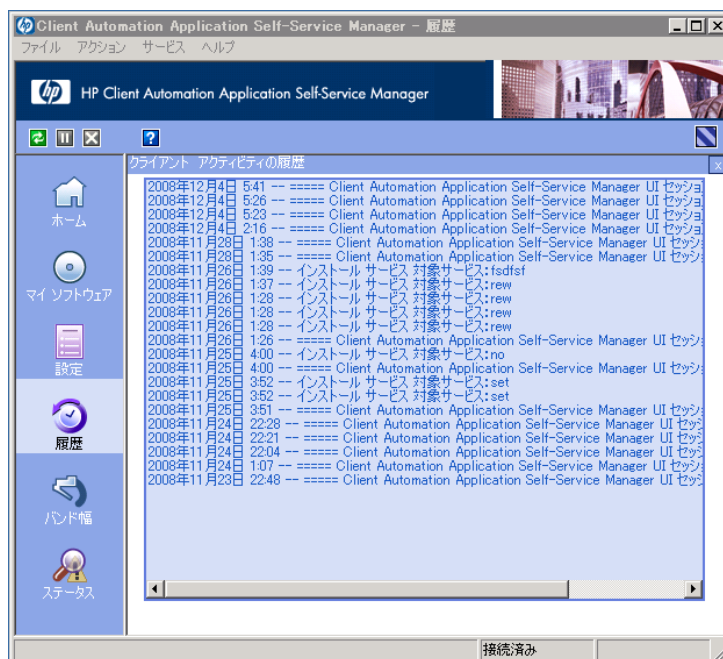


インストールされている削除対象のソフトウェア名を右クリックして、表示されるショートカット メニューの **[削除]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。

履歴の表示

- 1 メニュー バーの **[履歴]** をクリックして、現在のセッションの履歴を表示します。

図 31 「履歴」 ウィンドウ



2 「履歴」 ウィンドウを閉じて、サービス リストを表示します。

バンド幅の調整

メニュー バーの **[バンド幅]** をクリックして、バンド幅のスライダを表示します。この値を変更すると、スロットリングの値がダイナミックに変化します。

バンド幅のスライダを使用してバンド幅の設定を調整するには

- スライダをドラッグして、目的のバンド幅スロットリングの量にまで値を増減して調整します。
- バンド幅スロットリングは、[設定] の [接続オプション] セクションでも調整できます。

ステータスの表示

メニュー バーの **[ステータス]** をクリックすると、サイズ、推定時間、進捗状況、使用可能なバンド幅など、現在のアクションのステータスが表示されます。

図 32 選択したアプリケーションのステータス表示



ダウンロードがキャンセルされました			
転送速度	0 kbps	ファイルの総数	N/A
合計サイズ	N/A	受信ファイル数	0
受信したバイト数	0 Kb	サービスの総数	0
推定残り時間	00:00:00	受信サービス数	0

[ステータス] ウィンドウは、**Application Self-Service Manager** からドッキングしたりドッキングを解除したりできます。これにより、画面上の任意の位置に [ステータス] ウィンドウを移動できます。デフォルトでは、[ステータス] ウィンドウはドッキングされています。

[ステータス] ウィンドウのドッキングを解除するには

- 1 メニュー バーの **[ステータス]** をクリックします。
- 2 表示された [ステータス] ウィンドウ上で右クリックします。
- 3 ショートカット メニューから **[ドッキング済み]** を選択します。[ステータス] ウィンドウがドッキングされると、ショートカット メニューの **[ドッキング済み]** の横にチェック マークが表示されます。



転送速度	0 kbps	ファイルの総数	N/A
合計サイズ	N/A	受信ファイル数	0
受信したバイト数	0 Kb	サービスの総数	0
推定残り時間	00:00:00	受信サービス数	0

ASM ユーザー インターフェイスから [ステータス] ウィンドウが分離され、画面上の任意の場所に移動できるようになります。

[ステータス] ウィンドウをドッキングするには

- 1 メニュー バーの **[ステータス]** をクリックします。
- 2 表示された [ステータス] ウィンドウ上で右クリックします。

- 3 ショートカット メニューの **【ドッキング済み】** をクリックします（チェックマークが表示されていない場合のみ）。

転送速度	0 kbps	ファイルの総数	N/A
合計サイズ	0 kb	受信ファイル数	0
受信したバイト数	0 kb	サービスの総数	0
推定残り時間	00:00:00	受信サービス数	0

[ステータス] ウィンドウが **Application Self-Service Manager** にドッキングされます。

ユーザー インターフェイスのカスタマイズ

メニュー バーの **【設定】** ボタンをクリックして、利用可能なカスタマイズ オプションを表示します。

次のセクションで各カスタマイズ領域について説明します。

- [全般オプション](#) (245 ページ)
- [サービス リスト オプション](#) (247 ページ)
- [接続オプション](#) (250 ページ)

全般オプション

[全般オプション] ウィンドウを使用して、**Application Self-Service Manager** の外観を変更します。

図 33 【全般オプション】 ウィンドウ



表示を変更するには

- メニューを表示する場合は、該当するチェック ボックスをオンにします。
- カタログ リストを表示する場合は、該当するチェック ボックスをオンにします。
- 各セッションの開始時にオフライン モードで **ASM** を使用するプロンプトを表示する場合は、該当するチェック ボックスをオンにします。

色を変更するには

- システムの色を使用する場合は、**[システムの色を使用]** オプション ボタンをクリックします。
- 独自のカスタム色を使用する場合は、**[色のカスタマイズ]** オプション ボタンをクリックします。
 - **[色のカスタマイズ]** をクリックした場合、目的に応じて以下のラベルのボックスをクリックします。

- **[選択色を設定]**。選択した色を変更します。
- **[ボタンの色を設定]**。ボタンの色を変更します。
- **[背景色を設定]**。背景色を変更します。
- **[作業領域の色を設定]**。作業領域を変更します。

サービス リスト オプション

[サービス リスト オプション] を使用して、サービス リストの外観を変更します。

図 34 サービス リスト オプション



サービス リストのカラム名をカスタマイズするには

[カラム] 領域を使用して、サービス リストに表示されるカラムをカスタマイズします。右のカラムには、サービス リストに表示されるカラム名が一覧表示されます。利用可能な各カラム見出しの説明は、248 ページの「[表示のカスタマイズ](#)」を参照してください。

サービス リストにカラムを追加するには

- [使用可能なカラム] リスト ボックスで、1 つ以上の名前を選択し、**[追加]** をクリックします。選択したカラムが [表示するカラム] リスト ボックスの一覧に表示されます。

サービス リストからカラムを削除するには

- 1 [表示するカラム] リスト ボックスで、1 つ以上の名前を選択します。連続した複数のカラム名を選択するには **Shift** キーを押したままカラム名をクリックし、連続していない複数のカラム名を選択するには **Ctrl** キーを押したままカラム名をクリックします。
- 2 **[削除]** をクリックします。選択したカラムが [表示するカラム] リスト ボックスから削除され、元の [使用可能なカラム] ボックスに表示されます。

表示のカスタマイズ

- サービス リストで現在のサービス アイテムを展開するには、**[アクティブなサービス アイテムを展開]** を選択します。
- 各サービスを仕切るグリッド線付きでサービス リストを表示するには、**[グリッド線を表示]** を選択します。
- 現在選択しているカタログを展開するには、**[アクティブなカタログ アイテムを展開]** を選択します。
- **[詳細なオペレーションを表示]** は現時点では利用できません。

表 16 サービス リストで利用可能なカラムの見出し

カラムの見出し	説明
適応バンド幅	バンド幅スロットリングを使用するとき使用されるバンド幅の適用最小割合。
警告メッセージ	エンド ユーザーに長いサービス説明または指示のメッセージを表示（警告/延期設定の一部としてオプションのサービス テキスト フィールド）。
作成者	サービスの作成者。
Avis	内部で使用するためだけのサービス ステータス フラグ。
圧縮後のサイズ	圧縮後のサービスのサイズ（バイト単位）。
エラーコード	現在のサービスのステータス。例:初期 = 999。メソッドの失敗 = 709。
説明	サービスの簡単な説明。

カラムの見出し	説明
インストール日	サービスがコンピュータにインストールされた日付。
ローカルの修復	ローカルでのデータ修復可能性(データがローカル コンピュータにキャッシュされているかどうか)。
名前	サービスの名前。
必須	サービスで定義される必須/オプション ファイル (内部使用)。
オーナー カタログ	アプリケーションの取得元のドメイン名。
価格	サービスの価格。
パブリッシュ日	サービスがカタログにパブリッシュされた日付。
再起動	サービスの再起動設定 (内部使用)。
再パブリッシュ日	サービスがカタログに再パブリッシュされた日付。
予約済みのバンド幅	バンド幅スロットリングを使用するときに使用されるバンド幅の予約済み最大割合。
スケジュールを許可	エンド ユーザーがローカルにサービスの更新スケジュールを変更できるかどうかを指定。
サイズ	サービスのサイズ (バイト単位)。 注意 :サービスを正常にインストールするには、このカラムで表示される空き容量がコンピュータに必要です。
ステータス	ソフトウェアの現在のステータス <ul style="list-style-type: none"> ● 使用可能 ● インストール済み ● 更新可能 ● 破損
システムのインストール	システム アカウントを使用してサービスがインストールされるかどうかを表示。
スロットリング タイプ	使用するバンド幅スロットリングのタイプ。可能な値は、 ADAPTIVE 、 RESERVED 、または NONE 。
UI オプション	ステータス ウィンドウを表示するかどうかを決定。
アップグレード日	サービスがアップグレードされた日付。
URL	ソフトウェア ベンダーの URL。
ベンダー	サービスを提供したソフトウェア ベンダー。

カラムの見出し	説明
VerifiedDate	前回、サービスが検証された日付。
バージョン	サービスのバージョン。

接続オプション

250 ページの次の図に示すように、**[接続オプション]** では、使用するバンド幅スロットリングのタイプを選択したり、プロキシ サーバーを使用するために必要な設定を指定したりすることができます。

図 35 接続オプション

[全般オプション](#)
[サービスリスト オプション](#)
[接続オプション](#)

スロットリング

- ☒ なし
- ☐ バンド幅を予約
- ☐ トラフィックに適應

プロキシ

- ☐ プロキシ サーバーを使用
- ☐ プロキシ アドレスを検出

プロキシ サーバーのアドレス

ポート

- スロットリング
 - スロットリングを行わない場合、**[なし]** を選択します。
 - 使用するネットワーク バンド幅の最大の割合をスケールに基づいて指定するには、**[バンド幅を予約]** を選択します。サブスクリイバは、ダウンロード時に予約バンド幅をユーザー インターフェイスで変更できます。

- 使用するネットワーク バンド幅の最小の割合をスケールに基づいて指定するには、**[トラフィックに適応]** をクリックします。適応バンド幅は、データ ダウンロード プロセスの間は変更できません。設定できるのは、ジョブがディスパッチされる前だけです。

- **プロキシ**

- **ASM** は、インターネット プロキシが使用されると、それを検出できます。その後、インターネット プロキシのアドレスは、クライアント コンピュータの **IDMLIB** ディレクトリの **PROXYINF.EDM** に格納されます。**IDMLIB** のデフォルトのロケーションは、**SystemDrive:¥Program Files¥Novadigm¥Lib** です。次回、クライアント コンピュータが **HPCAS** サーバーに接続する際は、指定したインターネット プロキシが使用されます。この機能を使用するには、クライアントが、インターネット プロキシを使用および検出できるようにする必要があります。**ASM** を使用している場合、**[設定]** の **[接続]** セクションでプロキシを設定します。

HPCA システム トレイのアイコン

HP Client Automation システム トレイ アイコンを使用すると、サブスクライバは、ステータスや統計情報を確認したり、停止やキャンセルの操作を行ったりすることができます。

図 36 HPCA システム トレイ アイコン



HPCA の状態を表示するには、カーソルをアイコンの上に移動します。

- **アイドル**

アクションが処理中でなく、ユーザーの介入を必要としないとき、アイコンはスタティックです。システム トレイ アイコンは、アイドル状態では非表示になる場合があります。

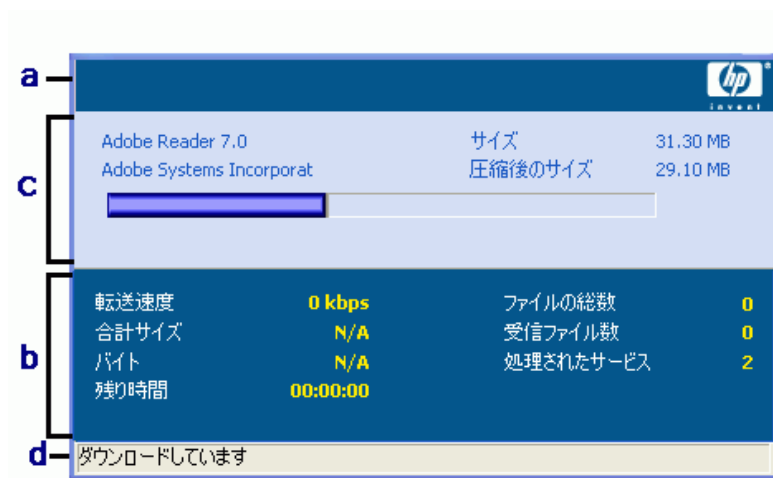
- **アクティブ**

ASM が実行中のとき、またはユーザーの介入が必要なときに、アイコンはアクティブになります。アイコンの上にカーソルを合わせると、活動情報を示すポップアップが表示されます。重要な通知が行われた場合は、ポップアップが自動的に表示されます。

[HPCA ステータス] ウィンドウ

HPCA システム トレイ アイコンを左クリックして、[ステータス] ウィンドウを表示します。次の図で示すように [ステータス] ウィンドウが開きます。

図 37 HPCA ステータス



凡例

- a** ボタン バー
- b** 情報パネル
- c** ステータス領域
- d** ステータス メッセージ

[ステータス] ウィンドウには次の領域があります。


- **ボタン バー**
[一時停止] ボタン、[キャンセル] ボタン、およびエージェントが実行中にアニメーション表示になるロゴがあります。
- **情報パネル**
この領域には、アクティブなサービスに関する情報が表示され、完了したタスクの割合を示す進行状況バーも表示されます。
- **ステータス領域**
転送速度、送信の合計サイズ、受信したバイト数、送信の推定残り時間、送信するファイルの総数、受信したファイルの数、処理されたサービスの数など、アクティブなプロセスに関する統計が表示されます。

- ステータス メッセージ領域

現在のプロセスに関するメッセージが表示されます。

- バンド幅設定

— HPCAS サーバーのサービスにバンド幅スロットリング を設定してい

る場合、システム トレイ コンソールのバンド幅のトグル ボタン  をクリックすると、バンド幅設定用のスライダが表示されます。バンド幅スロットリングの値を変更するには、スライダを調整します。

11 設定の移行

[設定の移行] では、個々の管理対象デバイスにあるアプリケーションおよびオペレーティング システムのユーザー設定をバックアップおよび復元できます。設定およびファイルは **HPCAS** サーバーに保管され、元のデバイスや新しいデバイスへの復元に利用したり、オペレーティング システムの配布の間に含めたりすることができます。

Settings Migration Manager を使用して、管理対象デバイスのユーザー設定およびファイルを取得するための設定テンプレートを作成および保管します。

Settings Migration Utility が個々のデバイスに配布され、これらの設定ファイルのバックアップや復元に使用されます。

- ▶ 設定の移行 では、**HP Client Automation Standard** が必要になります。
- ▶ **HPCAS** の最新バージョンにアップグレードした場合、ユーザー設定の新規バックアップを実行する必要があります。以前のバージョンの **HPCAS** を使用して作成されたバックアップは、復元できません。

次のセクションでは、お使いの環境で設定の移行を行う方法を説明しています。

- [サポートされるアプリケーションと設定](#) (255 ページ)
- [設定テンプレートの作成](#) (257 ページ)
- [Settings Migration Utility の使用](#) (260 ページ)
- [OS 配布の間の設定の移行](#) (263 ページ)
- [File Rules](#) (264 ページ)
- [アプリケーション サポートの注意点](#) (267 ページ)

サポートされるアプリケーションと設定

次の表は、設定の移行 でサポートされるアプリケーションおよびオペレーティング システムの設定を一覧表示しています。

表 17 サポートされるアプリケーション

サポートされる Microsoft のアプリケーション	サポートされる他のアプリケーション
<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Access 95、97、2000、XP、2003 • Microsoft Excel 95、97、2000、XP、2003 • Microsoft FrontPage 2000、XP、2003 • Microsoft InfoPath 2003 • Microsoft OneNote 2003 • Microsoft Outlook (Windows Messaging) 、97、98、2000、XP、2003 • Microsoft PowerPoint 95、97、2000、XP、2003 • Microsoft Project 98、2000、2002、2003 • Microsoft Publisher 2003 • Microsoft Word 95、97、2000、XP、2003 	<ul style="list-style-type: none"> • Act!2000 • Adobe Acrobat 4.x、5.x、6 • Acrobat Reader 4.x、5.x、6、7 • Lotus Notes 5.x、6.x • Microsoft Internet Explorer 4.01、5.x、6.x • Microsoft NetMeeting 2.x、3.x • Microsoft Outlook Express 5.x、6.x • Netscape 4.5、4.6、4.7、6.x • Norton AntiVirus 2000 • Norton AntiVirus Corporate Edition • Visio 4.5、5、2000、2002、2003 • WinZip 7.x、8.x、9.0 • WordPerfect Office 2000 <ul style="list-style-type: none"> — Corel Utilities — Dragon NaturallySpeaking for WordPerfect — Quattro Pro 9 — WordPerfect 9

表 18 サポートされる設定

Windows のオプション	コントロール パネルの設定
<ul style="list-style-type: none"> • デスクトップ ショートカット • ダイアルアップ ネットワーク • フォルダ オプション • ローカル プリンタ ログ • マッピングされたネットワーク ドライブ • マイ ドキュメント • ネットワーク接続および共有プリンタ接続 • ネットワーク設定 • タスク バーおよびスタート メニュー <ul style="list-style-type: none"> — クイック起動バーのショートカット — タスク バーとスタート メニューの設定 • Windows アドレス帳 	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザー補助オプション • 表示 <ul style="list-style-type: none"> — 外観とテーマ — 背景 — 視覚効果 • インターネット オプション • キーボード <ul style="list-style-type: none"> — キーボードの言語 — キーボードの設定 • マウスの設定 <ul style="list-style-type: none"> — ボタンと動き — ポインタとスキーマ • 電源管理 • 地域の設定 • サウンド • タイム ゾーン

サポートされるアプリケーションの追加情報は、267 ページの「[アプリケーション サポートの注意点](#)」を参照してください。

設定テンプレートの作成

Settings Migration Manager を使用して、テンプレートを作成します。このテンプレートは、どのアプリケーション設定、ファイル、およびオペレーティング システム設定をバックアップし、個々のデバイスで復元またはインストールに利用できるかを決めます。

Settings Migration Manager を使用するには、最初に HPCAS を使用して配布する必要があります。

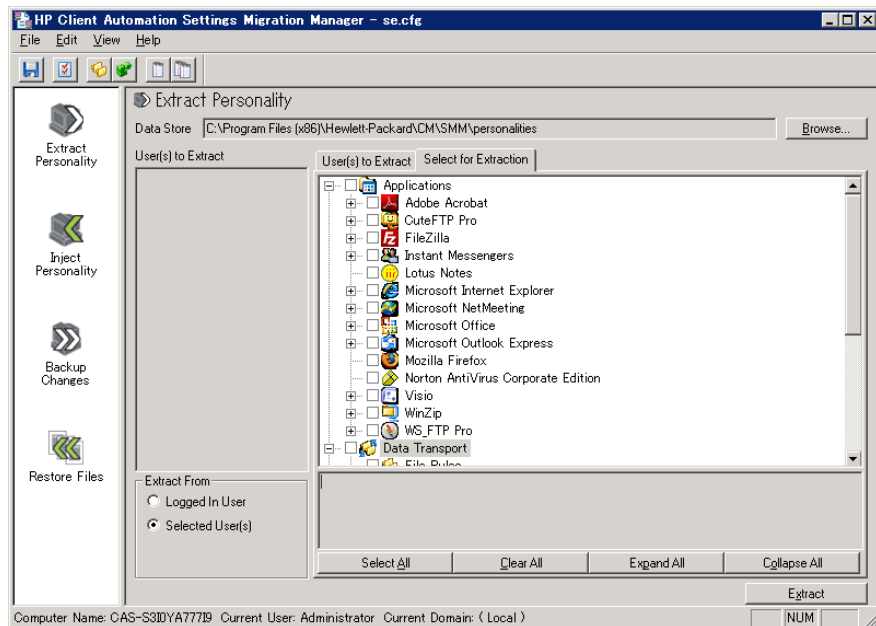
Settings Migration Manager を配布するには

- HPCAS ソフトウェア ライブラリの **Settings Migration Manager** サービスを使用して、**Settings Migration Manager** を配布します。ソフトウェア サービスの配布に関する詳細な手順は、83 ページのセクション「[ソフトウェアの配布](#)」を参照してください。

Settings Migration Manager を使用して、設定テンプレートを作成します。このテンプレートは、**Settings Migration Utility** を実行したときに、どのアプリケーション設定、ファイル、およびオペレーティング システム設定をバックアップするかを指定します。

Settings Migration Manager を起動するには

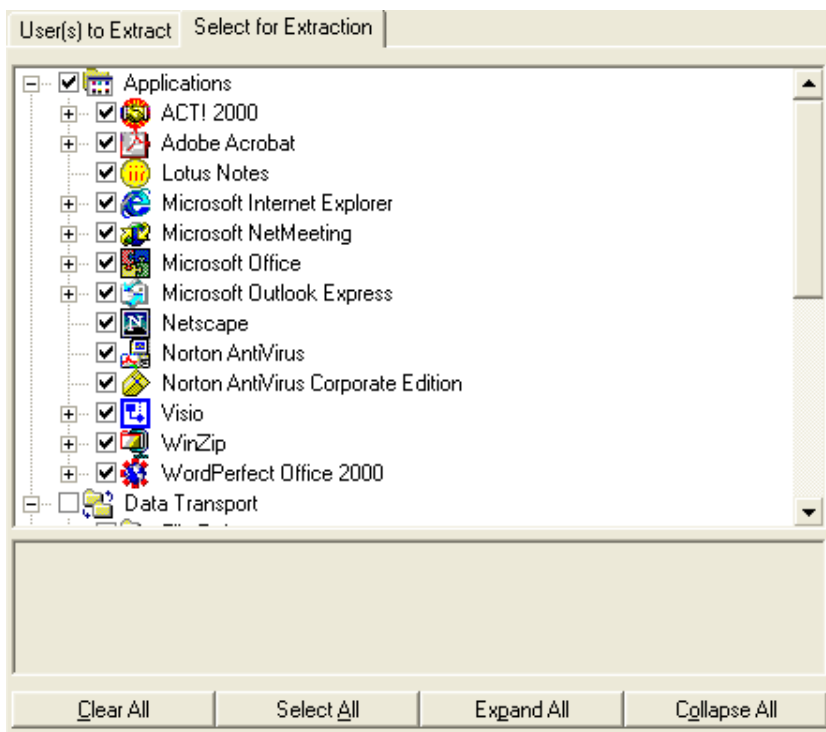
- 1 **Settings Migration Manager** がインストールされているデバイスで、`C:\Program Files\Hewlett-Packard\CM\SMM` へ移動します。
- 2 **SE.exe** をダブルクリックします。
- 3 **Setting Migration Manager** が開きます。



設定テンプレートを作成するには

- 1 **Settings Migration Manager** を起動します。

- 2 **[Select for Extraction]** をクリックして、設定およびファイルのバックアップに利用可能なアプリケーションのリストを表示します。
- 3 このツリー表示を使用して、アプリケーション設定やファイルを選択または除外します。



- 4 設定に満足したら、ツールバーまたは **[File]** メニューを使用して、ファイルを保存します。ファイル名は **SE.CFG** とします（これがデフォルトの名前です）。
- 5 **Settings Migration Manager** を終了します。
- 6 ファイル **se.rul**、**se.ptt**、および **SE.CFG** を **C:\Program Files\Hewlett-Packard\CM\SM** から、**HPCAS** サーバーのディレクトリ **C:\Novadigm\ProxyServer\upload** にコピーします。

ファイルをサーバーのディレクトリにコピーすると、この設定が、クライアント デバイスに配布する **Settings Migration Utility** で利用できるようになります。ユーティリティは、実行されるたびに、これらのファイルにアクセスしてバックアップする設定およびファイルを決定します。

設定ファイルを **HPCAS** サーバーへコピーしたら、**Settings Migration Manager** サービスを配布して、管理対象デバイスで 設定の移行を有効にします。

Settings Migration Utility の使用

Settings Migration Utility は、Settings Migration Manager サービスと一緒にインストールされます。ソフトウェア サービスの管理対象デバイスへの配布に関する詳細な手順は、83 ページのセクション「[ソフトウェアの配布](#)」を参照してください。

管理対象デバイスへ配布して、ユーティリティを設定のバックアップまたは復元に使います。ユーティリティは、実行されるたびに、HPCAS サーバーから最新の設定テンプレート (SE.CFG) をダウンロードします。詳細は、257 ページの「[設定テンプレートの作成](#)」を参照してください。

Setting Migration Utility を起動するには

- Settings Migration Manager サービスが配布されたデバイスで、[スタート] メニューを使用して次のように選択します。

[スタート] > [すべてのプログラム] > [HP Client Automation Settings Migration] > [HP Client Automation Settings Migration Utility]

次のセクションでは、Settings Migration Utility の使用方法を説明します。

- [設定のバックアップ](#) (260 ページ)
- [設定の復元](#) (262 ページ)

設定のバックアップ

Settings Migration Utility を使用して、設定およびファイルのバックアップおよび HPCAS サーバーでの保管を行います。

▶ HPCAS の最新バージョンにアップグレードした場合、ユーザー設定の新規バックアップを実行する必要があります。以前のバージョンの HPCAS を使用して作成されたバックアップは、復元できません。

設定は、HPCAS サーバーの C: ¥Novadigm¥ProxyServer¥upload ディレクトリに保管されます。

設定およびファイルをバックアップするには

- 1 クライアント デバイスで Settings Migration Utility を起動します。
- 2 **[設定およびファイルのバックアップ]** を選択します。

3 [次へ] をクリックします。

HP Client Automation Settings Migration Manager

バックアップ
バックアップはこの情報により保護されます。

バックアップをセキュリティで保護するために使用するコンピュータ名とパスワードを入力します。この情報は、データの復元を行うために必要です。

コンピュータ名: CAS-S310YA77719
確認: CAS-S310YA77719
パスワード:
確認:
☐ パスワードの保存

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

4 コンピュータ名とパスワードを入力して確認します。設定を復元するときに必要なので、この情報を記録します。

5 [次へ] をクリックします。

6 要約情報を確認し、[完了] をクリックします。

7 プロセスが完了したら、[OK] をクリックします。

設定が HPCAS サーバーに保管され、デバイスへの復元に利用可能になりました。

保管された設定およびファイル

設定およびファイルをバックアップするたびに、HPCAS サーバーの C:\¥Novadigm¥proxyserver¥upload ディレクトリに保管されます。

デバイスに関連付けられているファイルはすべて、ファイル名の一部にそのデバイス名が含まれます。

定期的に、個々のデバイスについて保管されているデータを削除して、¥upload ディレクトリをクリーンアップする場合があります。どのデータを削除するかは、各ファイル名のデバイス名を確認して判断します。

設定の復元

Settings Migration Utility を使用して、デバイスに設定を復元します。設定が無人才オペレーティング システム配布（移行）の間にバックアップされた場合、これらの設定を復元するオプションが提供されます。[263 ページの「無人才オペレーティング システム配布から設定を復元するには」](#)を参照してください。



復元された設定には、ドメイン プロファイルが含まれる場合があります。このため、特定のドメインのデバイスからバックアップされた設定は、同じドメイン内のデバイスにしか復元できません。

設定を復元するには

- 1 クライアント デバイスで Settings Migration Utility を起動します。
- 2 **[設定およびファイルの復元]** を選択します。
- 3 **[次へ]** をクリックします。

- 4 復元する設定のコンピュータ名およびパスワードを入力します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
- 6 要約情報を確認し、**[完了]** をクリックします。
- 7 復元プロセスが完了したら、**[OK]** をクリックします。

設定およびファイルが復元されます。

無人オペレーティング システム配布から設定を復元するには


- 1 クライアント デバイスで **Settings Migration Utility** を起動します。
 - 2 **[設定およびファイルの復元]** を選択します。
 - 3 **[次へ]** をクリックします。
 - 4 **[オペレーティング システムの移行からの復元]** を選択します。最後に実行した、移行を有効にした無人オペレーティング システム配布の間に保管された設定にアクセスします。このオプションは、これらのタイプの設定が検出されたときだけ利用できます。
 - 5 **[次へ]** をクリックします。
 - 6 要約情報を確認し、**[完了]** をクリックします。
 - 7 復元プロセスが完了したら、**[OK]** をクリックします。
- 設定およびファイルが復元されます。

OS 配布の間の設定の移行

設定およびファイルは、オペレーティング システム配布の間に保存できます。**HPCAS** を使用してオペレーティング システムを配布します。詳細は、102 ページの「[オペレーティング システムの配布](#)」を参照してください。

OS 配布ウィザードの間に、ユーザーのデータおよび設定を移行するように指示されます。**[はい]** を選択すると、**Settings Migration Manager** サービスが、新しいオペレーティング システムと一緒に配布されます。配布の間に、**Settings Migration Utility** が実行され、エンド ユーザーは、デバイス名とパスワードを入力して、既存の設定をバックアップするように指示されます。詳細は、260 ページの「[Settings Migration Utility の使用](#)」を参照してください。


オペレーティング システムのインストールが完了したら、**Settings Migration Manager** サービスを再配布し、**Settings Migration Utility** を使用して、バックアップしたデバイスの設定を復元します。最初のバックアップ プロセスで入力したデバイス名およびパスワードを必ず使用します。

- 
- OS 配布に無人モードを使用して、設定の移行を選択した場合、このプロセスも無人で実行されます。コンピュータ名およびパスワードといった、設定の移行に必要な情報は、自動的に生成されます。エンド ユーザーは、**Settings Migration Utility** の **OS 移行からの復元機能**を使用して、無人 OS 配布の間に保管された設定を復元します。

File Rules

大部分のファイルは、**OV Settings Migration Manager** の内蔵サポートを使用して移行できます。企業の移行プロジェクトでは、その他のファイル移行サポートが必要になることがあります。たとえば、社内で開発したアプリケーションで作成された独自のファイル タイプを移行する場合があります。

大規模な移行プロジェクト用に設計されている **File Rules** は、パス、タイプ、日付、およびサイズ別にファイルを含めたり除外したりする方法を提供します。サブディレクトリは含めることも含めないことも可能です。複数のルールを作成して、プロジェクトの目標と要件に合うように移行を調整できます。

- 
- File Rules** は、ファイル ツリーを使用して選択したファイルよりも優先されます。

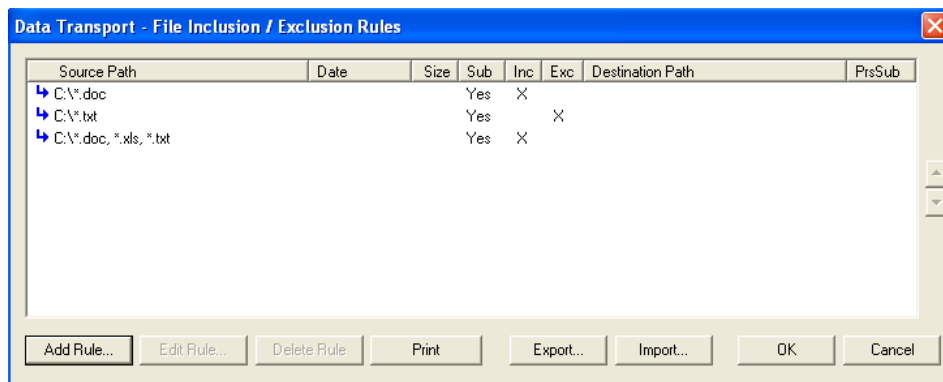
次のセクションでは、**File Rules** の使用方法を説明します。

- [File Rules へのアクセス](#) (264 ページ)
- [\[File Rules\] ダイアログ ボックス](#) (265 ページ)

File Rules へのアクセス

File Rules にアクセスするには、**Settings Migration Manager** を起動し、**[Edit] > [File Rules]** メニュー項目を使用します。

図 38 File Rules



File Rules には階層的な優先順位があります。2 つのルールが互いに矛盾する場合、リストの上の方に表示されたルールが、下の方に表示されたルールより優先されます。たとえば、ディレクトリ `c:\¥files` から `.jpg` ファイルをすべて移行するときに、そのディレクトリから他のファイルが移動するのを防ぐため、優先順位が使用されます。

宛先再マッピング機能を使用して、ファイルをターゲット コンピュータの別のディレクトリにリダイレクトすることもできます。ネットワーク パスを含む任意のパスを宛先として指定できます。サブディレクトリ構造は、保存することも保存しないことも可能です。

[**Add Rule**]、[**Edit Rule**]、および [**Delete Rule**] ボタンを使用して、ルールの入力および操作を行います。

ルールを削除または編集するには、[**Source Path**] カラムでルールをクリックして強調表示し、[**Delete Rule**] または [**Edit Rule**] ボタンをクリックします。優先順位を調整するため、ルールをリスト内で移動させることができます。ダイアログ ボックスの右側にある上矢印ボタンおよび下矢印ボタンを使用します。

終了したら、[**OK**] ボタンをクリックします。または、[**キャンセル**] をクリックして、セッションを破棄します。リストのルールは、現在の設定ファイルを保存するときに保存されます。

[File Rules] ダイアログ ボックス

ルールを追加または編集するときは、[**File Rules**] ダイアログ ボックスが表示されます。

図 39 [File Rules] ダイアログ ボックス

- **[Include]** または **[Exclude]** ラジオ ボタンを使用して、ルール タイプを選択します。
- **[Source Path]** テキスト ボックスに、影響を受けるファイルのパスを入力します。このコントロールでは、ワイルドカード文字であるアスタリスク (*) および疑問符 (?) をパスのファイル名およびファイル タイプ部分で使用できます。**[Source Path]** は、トークンの置換もサポートしています。
- **[File Rules]** のソースのパスで、複数のファイルまたはファイル タイプをセミコロン (;) で区切ると、複数のファイルまたはファイル タイプを包含または除外できます。たとえば、**[Include]** を選択して **[Source Path]** に次のように入力します。

C:*.doc;*.xls;*.mdb

これは、C: ドライブにある指定されたファイル タイプのファイルを検索し抽出します。

[Exclude] を選択して次のように入力します。

C:¥*.mp3;*.dll;*.exe

指定されたファイル タイプに一致する **C:** ドライブのファイルが抽出から除外されます。

移行のために同じファイルを指定する複数のルールを作成できますが、優先順位が高い（リストの上の方に位置する）ルールだけがこれらのファイルを移行します。

アプリケーション サポートの注意点

次のセクションでは、各アプリケーションの設定について、留意すべき重要な使用上の注意および制限を記載します。

Microsoft Office サポートの注意点

次に、**Microsoft Office** について留意すべき利用上の重要な注意点をあげます。

Microsoft Office

- 次の **Office** アプリケーションのデータ ファイル、テンプレート、および永続的な設定を移行します。
- MS Access
- MS Excel
- MS FrontPage
- MS InfoPath
- Office アシスタントの設定
- Office ショートカット バー
- MS OneNote
- MS Outlook
- MS PowerPoint
- MS Project
- MS Publisher
- MS Word

次のバージョンの **Office** がサポートされています。

- Office 95、Office 97、Office 2000、Office XP、および Office 2003
- 次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。
- Office 95 から Office 97 へ
- Office 95 から Office 2000 へ
- Office 95 から Office XP へ
- Office 95 から Office 2003 へ
- Office 97 から Office 97 へ
- Office 97 から Office 2000 へ
- Office 97 から Office XP へ
- Office 97 から Office 2003 へ
- Office 2000 から Office 2000 へ
- Office 2000 から Office XP へ
- Office 2000 から Office 2003 へ
- Office XP から Office XP へ
- Office XP から Office 2003 へ
- Office 2003 から Office 2003 へ

Microsoft Access

Access のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。
次のファイル タイプが移行されます。

Access のデータ ファイル

- .ade, .adp, .mad, .maf, .mag, .mam, .maq, .mar, .mas, .mat, .mav, .maw, .mda, .mdb, .mdbhtml, .mde, .mdt, .mdw

Access のテンプレート ファイル

- .mdn, .mdz, .wizhtml

次のバージョンの Access がサポートされます。

- Access 95、Access 97、Access 2000、Access XP、Access 2003
- 次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。
- Access 95 から Access 97 へ

- Access 95 から Access 2000 へ
- Access 95 から Access XP へ
- Access 95 から Access 2003 へ
- Access 97 から Access 97 へ
- Access 97 から Access 2000 へ
- Access 97 から Access XP へ
- Access 97 から Access 2003 へ
- Access 2000 から Access 2000 へ
- Access 2000 から Access XP へ
- Access 2000 から Access 2003 へ
- Access XP から Access XP へ
- Access XP から Access 2003 へ
- Access 2003 から Access 2003 へ

Microsoft Excel

Excel のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

Excel のデータ ファイル

- .csv、.dqy、.iqy、.oqy、.rqy、.slk、.xla、.xlb、.xlc、.xld、.xlk、.xll、.xlm、.xls、.xlshtml、.xlv、.xlw

Excel のテンプレート ファイル

- .xlt

次のバージョンの Excel がサポートされます。

- Excel 95、Excel 97、Excel 2000、Excel XP、Excel 2003

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Excel 95 から Excel 97 へ
- Excel 95 から Excel 2000 へ
- Excel 95 から Excel XP へ
- Excel 95 から Excel 2003 へ

- Excel 97 から Excel 97 へ
- Excel 97 から Excel 2000 へ
- Excel 97 から Excel XP へ
- Excel 97 から Excel 2003 へ
- Excel 2000 から Excel 2000 へ
- Excel 2000 から Excel XP へ
- Excel 2000 から Excel 2003 へ
- Excel XP から Excel XP へ
- Excel XP から Excel 2003 へ
- Excel 2003 から Excel 2003 へ

Microsoft Frontpage

FrontPage のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。

▶ **FrontPage** のデータ ファイルを移行するよう選択すると、「ユーザーの一時ディレクトリを除外」および「ユーザーの一時インターネット ディレクトリを除外」ポリシーが設定されていなければ（デフォルト）、ローカル ディスク ドライブにある .html および .htm ファイルがすべて移行されます。このような動作が好ましくない場合もあります。 .html および .htm ファイルをすべて移行することが望ましくない場合、**File Rules** を使用して、これらのファイル タイプを完全に除外するか、ローカル ディスクの指定したファイル フォルダを選択的に除外できます。

次のファイル タイプが移行されます。

FrontPage のデータ ファイル：

- .asa、.asp、.cdx、.fphtml、.htm、.html、.htx、.shtm、.shtml、.stm

FrontPage のテンプレート ファイル：

- .tem

次のバージョンの **FrontPage** がサポートされます。

- **FrontPage 2000、FrontPage XP、FrontPage 2003**

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- **FrontPage 2000 から FrontPage 2000 へ**

- HP Settings Migration Manager 89
- HP Settings Migration Manager 90
- FrontPage 2000 から FrontPage XP へ
- FrontPage 2000 から FrontPage 2003 へ
- FrontPage XP から FrontPage XP へ
- FrontPage XP から FrontPage 2003 へ
- FrontPage 2003 から FrontPage 2003 へ

Microsoft InfoPath

InfoPath のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。
次のファイル タイプが移行されます。

InfoPath のデータ ファイル：

- .xml、.xsf

InfoPath のテンプレート ファイル：

- .xsn

次のバージョンの InfoPath がサポートされます。

- InfoPath 2003

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- InfoPath 2003 から InfoPath 2003 へ

Office アシスタントの設定

Microsoft Office アシスタントの永続的な設定を移行します。



Settings Migration Manager は、特定のアシスタントを移行しません。
Office アシスタントと関連する設定を移行するだけです。

Office ショートカット バー

Office ショートカット バーの永続的な設定を移行します。

Microsoft OneNote

OneNote のデータ ファイルおよび永続的な設定を移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

OneNote のデータ ファイル

- .mht、.one、.onetoc

次のバージョンの OneNote がサポートされます。

- OneNote 2003
- 次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。
- OneNote 2003 から OneNote 2003 へ

Microsoft Outlook

Outlook のデータ ファイル、Outlook メール クライアントと関連ファイル、および Outlook の永続的な設定を移行します。

▶ ターゲット デバイスのサービスは、ソース デバイスのサービスと同じである必要があります。たとえば、ソース デバイスで Outlook が Corporate Workgroup に設定されている場合、ターゲット デバイスの Outlook も Corporate Workgroup に設定する必要があります。

次のファイル タイプが移行されます。

Outlook のファイル：

- .ics、.msg、.oft、.pst（非アクティブ）、.vcs

▶ Outlook メール クライアントと関連ファイルを選択せずに .pst ファイルを移行する場合、アクティブな .pst ファイルは移行されますが、ターゲット デバイスでアクティブにはなりません。

Outlook メール クライアントおよび関連ファイル：

Outlook Exchange およびインターネット メール クライアントが移行されます。これには、Exchange のクライアントとして Windows メッセージが含まれます。アクティブな個人用フォルダ（.pst ファイル）、アドレス帳（.pab ファイル）、およびオフラインのアドレス帳（.oab ファイル）も移行されます。

次のバージョンの Outlook がサポートされます。

- Windows Messaging、Outlook 97、Outlook 98、Outlook 2000、Outlook XP、Outlook 2003

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Windows Messaging から Outlook 97 へ
- Windows Messaging から Outlook 98 へ
- Windows Messaging から Outlook 2000 へ
- Outlook 97 から Outlook 97 へ
- Outlook 97 から Outlook 98 へ
- Outlook 97 から Outlook 2000 へ
- Outlook 97 から Outlook XP へ
- Outlook 97 から Outlook 2003 へ
- Outlook 98 から Outlook 98 へ
- Outlook 98 から Outlook 2000 へ
- Outlook 98 から Outlook XP へ
- Outlook 98 から Outlook 2003 へ
- Outlook 2000 から Outlook 2000 へ
- Outlook 2000 から Outlook XP へ
- Outlook 2000 から Outlook 2003 へ
- Outlook XP から Outlook XP へ
- Outlook XP から Outlook 2003 へ
- Outlook 2003 から Outlook 2003 へ

Microsoft PowerPoint

PowerPoint のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

PowerPoint のデータ ファイル：

- .pps、.ppt、.ppthtml、.ppz、.pwz

PowerPoint のテンプレート ファイル：

- .pot、.pothtml

次のバージョンの PowerPoint がサポートされます。

- PowerPoint 95、PowerPoint 97、PowerPoint 2000、PowerPoint XP、PowerPoint 2003

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- PowerPoint 95 から PowerPoint 97 へ
- PowerPoint 95 から PowerPoint 2000 へ
- PowerPoint 95 から PowerPoint XP へ
- PowerPoint 95 から PowerPoint 2003 へ
- PowerPoint 97 から PowerPoint 97 へ
- PowerPoint 97 から PowerPoint 2000 へ
- PowerPoint 97 から PowerPoint XP へ
- PowerPoint 97 から PowerPoint 2003 へ
- PowerPoint 2000 から PowerPoint 2000 へ
- PowerPoint 2000 から PowerPoint XP へ
- PowerPoint 2000 から PowerPoint 2003 へ
- PowerPoint XP から PowerPoint XP へ
- PowerPoint XP から PowerPoint 2003 へ
- PowerPoint 2003 から PowerPoint 2003 へ

Microsoft Project

Project のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

Project のデータ ファイル：

- .mpd、.mpp、.mpw、.mpx

Project のテンプレート ファイル：

- .mpt

次のバージョンの Project がサポートされます。

- Project 98、Project 2000、Project 2002、Project 2003

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Project 98 から Project 98 へ
- Project 98 から Project 2000 へ
- Project 98 から Project 2002 へ
- Project 98 から Project 2003 へ
- Project 2000 から Project 2000 へ
- Project 2000 から Project 2002 へ
- Project 2000 から Project 2003 へ
- Project 2002 から Project 2002 へ
- Project 2002 から Project 2003 へ
- Project 2003 から Project 2003 へ

Microsoft Publisher

Publisher のデータ ファイルおよび永続的な設定を移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

Publisher のデータ ファイル :

- .pub、.pubhtml、.pubmhtml

次のバージョンの **Publisher** がサポートされます。

- **Publisher 2003**

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- **Publisher 2003** から **Publisher 2003** へ

Microsoft Word

Word のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

Word のデータ ファイル :

- .doc、.dochtml、.gly、.rtf、.wbk、.wiz

Word のテンプレート ファイル :

- .dot、.dothtml

次のバージョンの Word がサポートされます。

- Word 95、Word 97、Word 2000、Word XP、Word 2003

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Word 95 から Word 97 へ
- Word 95 から Word 2000 へ
- Word 95 から Word XP へ
- Word 95 から Word 2003 へ
- Word 97 から Word 97 へ
- Word 97 から Word 2000 へ
- Word 97 から Word XP へ
- Word 97 から Word 2003 へ
- Word 2000 から Word 2000 へ
- Word 2000 から Word XP へ
- Word 2000 から Word 2003 へ
- Word XP から Word XP へ
- Word XP から Word 2003 へ
- Word 2003 から Word 2003 へ

サポートされる他のアプリケーションと OS に関する注意点

次に、このリリースの **OV Settings Migration Manager** に含まれるコンテンツ項目について、留意すべき利用上の重要な注意点をあげます。

ACT! 2000

ACT! 2000 の永続的な設定および ACT! 2000 ファイルを移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

ACT! 2000 Files:

- .adt、.cly、.env、.gly、.lbl、.mpr、.rep、.rpt、.tpl、.usr、.wpa

ACT! 2000 Database Files:

- .dbf、.adb、.adx、.blb、.ddb、.ddf、.ddx、.edb、.edx、.gdb、.gdx、.hdb、.hdx、.lck、.mdx、.rel、.rem、.rex、.sdb、.sdx、.tdb、.tdx

Adobe Acrobat

Adobe Acrobat および Adobe Acrobat Reader の Adobe Acrobat ファイルおよび永続的な設定を移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

Adobe Acrobat のデータ ファイル：

- .akf、.apf、.eps、.fdb、.fdf、.joboptions、.ndx、.p7c、.pdf、.pdx、.pfx、.ps、.sequ

次のバージョンの Adobe Acrobat がサポートされます。

- Acrobat Reader 4.x、Acrobat Reader 5.x、Acrobat Reader 6.x、Acrobat Reader 7.x、Adobe Acrobat 4.x、Adobe Acrobat 5.x、Adobe Acrobat 6.0。

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Adobe Acrobat 4.x から 4.x へ
- Adobe Acrobat 4.x から 5.x へ
- Adobe Acrobat 4.x から 6.0 へ
- Adobe Acrobat 5.x から 5.x へ
- Adobe Acrobat 5.x から 6.0 へ
- Adobe Acrobat 6.0 から 6.0 へ
- Acrobat Reader 4.x から 4.x へ
- Acrobat Reader 4.x から 5.x へ
- Acrobat Reader 4.x から 6.x へ
- Acrobat Reader 4.x から 7.x へ
- Acrobat Reader 5.x から 5.x へ
- Acrobat Reader 5.x から 6.x へ
- Acrobat Reader 5.x から 7.x へ
- Acrobat Reader 6.x から 6.x へ
- Acrobat Reader 6.x から 7.x へ
- Acrobat Reader 7.x から 7.x へ

Lotus Notes 5.X、6.X

Lotus Notes のデータ ファイルおよび永続的な設定を移行します。デフォルトの場所にあるユーザー ID ファイルおよび最後に使用されたユーザー ID ファイルだけが移行されます。

▶ デフォルトではない場所に保管されているユーザー ID ファイルを移行する場合、OV Settings Migration Manager の File Rules を使用します。

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Lotus Notes 5.x から Lotus Notes 5.x へ
- Lotus Notes 5.x から Lotus Notes 6.x へ
- Lotus Notes 6.x から Lotus Notes 6.x へ

Microsoft Internet Explorer

Internet Explorer の永続的な設定、クッキー、プロキシ設定、およびお気に入りを移行します。

次のバージョンの Internet Explorer がサポートされます。

- IE 4.01、IE 5.x、IE 6.x

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- IE 4.01 から IE 4.01 へ
- IE 4.01 から IE 5.x へ
- IE 4.01 から IE 6.x へ
- IE 5.x から IE 5.x へ
- IE 5.x から IE 6.x へ
- IE 6.x から IE 6.x へ

Microsoft NetMeeting

Microsoft NetMeeting の設定を移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

NetMeeting のホワイトボード ファイル :

- .nmw、.wht

次のバージョンの Microsoft NetMeeting がサポートされます。

- Microsoft NetMeeting 2.x
- Microsoft NetMeeting 3.x

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Microsoft NetMeeting 2.x から Microsoft NetMeeting 2.x へ
- Microsoft NetMeeting 2.x から Microsoft NetMeeting 3.x へ
- Microsoft NetMeeting 3.x から Microsoft NetMeeting 3.x へ

Microsoft Outlook Express

Microsoft Outlook Express の永続的な設定、Windows アドレス帳、メール、およびニュースのファイルを移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

Outlook Express のファイル :

- .eml、.nws、Outlook Express ステーショナリ

次のバージョンの Microsoft Outlook Express がサポートされます。

- Outlook Express 5.x
- Outlook Express 6.x

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Microsoft Outlook Express 5.x から Microsoft Outlook Express 5.x へ
- Microsoft Outlook Express 5.x から Microsoft Outlook Express 6.x へ
- Microsoft Outlook Express 6.x から Microsoft Outlook Express 6.x へ

Netscape

Netscape のデータ ファイルおよび永続的な設定を移行します。

次のバージョンの Netscape Communicator がサポートされます。

- Netscape 4.5、Netscape 4.6、Netscape 4.7、および Netscape 6.x

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Netscape 4.5 から Netscape 4.5 へ
- Netscape 4.5 から Netscape 4.6 へ
- Netscape 4.5 から Netscape 4.7 へ
- Netscape 4.5 から Netscape 6.x へ
- Netscape 4.6 から Netscape 4.6 へ
- Netscape 4.6 から Netscape 4.7 へ
- Netscape 4.6 から Netscape 6.x へ
- Netscape 4.7 から Netscape 4.7 へ
- Netscape 4.7 から Netscape 6.x へ
- Netscape 6.x から Netscape 6.x へ

Norton AntiVirus

Norton AntiVirus の永続的な設定を移行します。

次のバージョンの Norton AntiVirus がサポートされます。

- Norton AntiVirus 2000

Norton AntiVirus Corporate Edition

Norton AntiVirus Corporate Edition のカスタム スキャンおよびユーザー設定を移行します。

次のバージョンの Netscape Communicator がサポートされます。

- Norton AntiVirus Corporate Edition 7.6 および Symantec AntiVirus Corporate Edition 8.0

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Norton AntiVirus Corporate Edition 7.6 から Norton AntiVirus Corporate Edition 7.6. へ
- Norton AntiVirus Corporate Edition 7.6 から Symantec AntiVirus Corporate Edition 8.0 へ
- Symantec AntiVirus Corporate Edition 8.0 から Symantec AntiVirus Corporate Edition 8.0. へ

Visio

Visio のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

Visio のデータ ファイル：

- .vsd、.vss、.vsw

Visio のテンプレート ファイル：

- .vst

次のバージョンの Visio がサポートされます。

- Visio 4.5、Visio 5.0、Visio 2000、Visio 2002 および Visio 2003

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Visio 4.5 から Visio 4.5 へ
- Visio 4.5 から Visio 5.0 へ
- Visio 4.5 から Visio 2000 へ
- Visio 4.5 から Visio 2002 へ
- Visio 4.5 から Visio 2003 へ
- Visio 5.0 から Visio 5.0 へ
- Visio 5.0 から Visio 2000 へ
- Visio 5.0 から Visio 2002 へ
- Visio 5.0 から Visio 2003 へ
- Visio 2000 から Visio 2000 へ
- Visio 2000 から Visio 2002 へ
- Visio 2000 から Visio 2003 へ
- Visio 2002 から Visio 2002 へ
- Visio 2002 から Visio 2003 へ
- Visio 2003 から Visio 2003 へ

WinZip

WinZip のデータ ファイルおよび永続的な設定を移行します。



WinZip のコンテンツは、仕様により .cab ファイルを移行しません。 .cab ファイルを移行する場合は、OV Settings Migration Manager の File Rules を使用できます。

次のファイル タイプが移行されます。

WinZip ファイル

- .arc、.arj、.b64、.bhx、.gz、.hqx、.lzh、.mim、.tar、.taz、.tgz、.tz、.uu、.uue、.xxe、.z、.zip

次のバージョンの WinZip がサポートされます。

- WinZip 7.x
- WinZip 8.x
- WinZip 9.0

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- WinZip 7.x から WinZip 7.x へ
- WinZip 7.x から WinZip 8.x へ
- WinZip 7.x から WinZip 9.0 へ
- WinZip 8.x から WinZip 8.x へ
- WinZip 8.x から WinZip 9.0 へ
- WinZip 9.0 から WinZip 9.0 へ

WordPerfect for Office 2000

WordPerfect Office 2000 は、次のアプリケーション用のデータ ファイル、テンプレート、および永続的な設定を移行します。

- Corel Utilities (アドレス帳および QuickFinder)
- Dragon NaturallySpeaking for WordPerfect 3.x および 4.x
- Quattro Pro 9.0
- WordPerfect 9.0

次のバージョンの WordPerfect Office がサポートされます。

- WordPerfect Office 2000

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- WordPerfect Office 2000 から WordPerfect Office 2000 へ

Dragon Naturally Speaking for WordPerfect

Dragon NaturallySpeaking のデータ ファイルおよび永続的な設定を移行します。

次のバージョンの Dragon NaturallySpeaking がサポートされます。

- Dragon NaturallySpeaking 3.x、Dragon NaturallySpeaking 4.x

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Dragon NaturallySpeaking 3.x から Dragon NaturallySpeaking 3.x へ
- Dragon NaturallySpeaking 3.x から Dragon NaturallySpeaking 4.x へ
- Dragon NaturallySpeaking 4.x から Dragon NaturallySpeaking 4.x へ

Corel Utilities

Corel アドレス帳: Corel アドレス帳の永続的な設定およびデータ ファイルを移行します。

Corel QuickFinder : Corel Office 2000 Suite QuickFinder の設定を移行します。

Corel Quattro Pro

Quattro Pro のデータ ファイルおよび永続的な設定を移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

Quattro Pro 9 のデータ ファイル

- .qpw、.wb1、.wb2、.wb3、.wq1

Corel WordPerfect

WordPerfect のデータ ファイルおよび WordPerfect の永続的な設定を移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

WordPerfect 9 のデータ ファイル

- .frm、.lab、.usr、.wpd、.wpt

Data Transports

File Rules、ファイル ツリー、およびレジストリ ルールで設定されたファイル およびレジストリ値を移行します。

Windows のオプション

次の永続的な設定およびファイルを移行します。コントロール パネル、デスクトップ ショートカット、ダイヤルアップ ネットワーク、フォルダ オプション、ローカル プリンタ ログ、マッピングされたネットワーク ドライブ、マイ ドキュメント、ネットワーク接続および共有プリンタ接続、ネットワーク設定、タスク バーおよびクイック起動バー、**Windows** アドレス帳。

デスクトップ ショートカット

デスクトップ上のショートカットを移行します。

▶ デフォルトでは、リンクが切れたデスクトップ ショートカットは移行されません。たとえば、ソース マシンのデスクトップに、インストールされたアプリケーションのショートカットがあり、そのアプリケーションがターゲット マシンにはインストールされていない場合、ターゲット マシンではリンクが切れてしまうので、このショートカットは移行されません。リンクが切れたファイルを移行するには、[編集] メニューから [設定] を選択して、[切れたショートカット ポリシー] チェック ボックスをチェックします。リンクが切れたファイルが、ソース ディレクトリへ移行され、**Broken Shortcuts** フォルダに配置されます。

ダイヤルアップ ネットワーク

ダイヤルアップ ネットワークの永続的な設定およびファイルを移行します。

▶ 仕様により、ハードウェアに関連する永続的な設定は移行されません。

フォルダ オプション

フォルダ オプションの永続的な設定を移行します。

ローカル プリンタ ログ

ユーザーのデスクトップでの導入の間に `printinfo.txt` ファイルが作成されます。このファイルには、ネットワーク プリンタおよびローカル プリンタの両方のプリンタ情報が含まれています。

マッピングされたネットワーク ドライブ

マッピングされたネットワーク ドライブを移行します。ターゲット マシンで、移行するマッピングされたドライブと同じドライブ文字が使用されている場合、移行されるネットワーク ドライブには、利用可能な次のドライブ文字が使用されます。

▶ ハードウェア関連の設定およびファイルは、仕様により移行されません。

マイ ドキュメント

マイ ドキュメント フォルダの内容を移行します。

▶ マイ ドキュメント フォルダの名前または場所が変更されている場合でも、**OV Settings Migration Manager** は、そのフォルダを「マイ ドキュメント」として認識し、フォルダの内部をターゲット マシンの「マイ ドキュメント」フォルダに移行します。

ネットワークおよび共有プリンタの設定

ネットワーク プリンタおよび共有プリンタを移行します。プリンタは、有効な **UNC** パスがあり、ネットワークまたは共有を介してアクセス可能な場合に移行されます。プリンタが移行されると、プリンタ アイコンがターゲット システムのデスクトップに表示されます。このアイコンをダブルクリックして、プリンタをインストールします。

▶ **OV Settings Migration Manager Operator** は、各ユーザーについて移行されるプリンタへの完全なアクセス権を持っている必要があります。ハードウェア関連の設定およびファイルは、仕様により移行されません。

ネットワーク設定

コンピュータ名、ワークグループ／ドメイン、説明、IP アドレス、DHCP、DNS、および WINS の設定を移行します。



すべての問題点を十分に理解している場合を除き、ネットワーク設定の移行により、問題が発生する場合があります。

タスク バーおよびクイック起動バー

[スタート] メニューの設定、タスク バーの設定、およびクイック起動バーのショートカットを移行します。

Windows アドレス帳

Windows アドレス帳を移行します。

コントロール パネル



ハードウェア関連の設定およびファイルは、仕様により移行されません。

次の永続的な設定およびファイルを移行します。

ユーザー補助オプション、表示、インターネット オプション、キーボード、マウスの設定、電源の管理、地域設定、サウンド、およびタイム ゾーン。

ユーザー補助オプション

キーボード、サウンド、表示、およびマウスのユーザー補助設定を移行します。

表示

外観、テーマ、背景、および視覚効果を移行します。

インターネット オプション

インターネット プロパティ（ホーム ページ、色、フォント、言語）を移行します。

キーボード

キーボードの言語およびキーボードの設定を移行します。キーボードの言語は、インストールしているオペレーティング システムによって、保管されている場所や名前が異なります。

Windows 98 では、設定は次のパスに保管されています。

- [コントロール パネル] ♫ [キーボード] ♫ [言語] (タブ)

Windows NT および Windows 2000 では、設定は次のパスに保管されています。

- [コントロール パネル] ♫ [キーボード] ♫ [入力ロケール] (タブ)

Windows 2000 の次のパスにも、設定があります。

- [コントロール パネル] ♫ [地域の設定] ♫ [入力ロケール]

Windows XP Professional では、設定は次のパスにあります。

- [コントロール パネル] ♫ [地域と言語のオプション] ♫ [言語] (タブ) ♫ [詳細] (ボタン)

マウスの設定

マウスの永続的な設定およびファイル (ボタン、動作、ポインタ、およびスキーマ) を移行します。

電源管理

電源管理の永続的な設定を移行します。

地域の設定

永続的な地域の設定を移行します。

▶ オペレーティング システムのバージョンにより国コードが変更された場合、またはその国コードがターゲット マシンに存在しない場合、設定は移行されません。

サウンド

Windows のシステム サウンドの永続的な設定およびファイルを移行します。

タイム ゾーン

タイム ゾーンの永続的な設定を移行します。

12 よく寄せられる質問

この章では、**HPCAS** およびそのコンポーネントを使用したときに利用できる一般的な管理タスクに関する、よく寄せられる質問を紹介します。

- **HPCAS** コンソールにはどうやってアクセスしますか? (290 ページ)
- どのバージョンを使用しているかは、どのようにしてわかりますか? (290 ページ)
- コンソールのパスワードはどのようにして変更できますか? (291 ページ)
- 自分の環境にあるデバイスの管理を始めるには、どのようにしますか? (291 ページ)
- インベントリの収集のスケジュール設定は、どのようにしますか? (292 ページ)
- 管理対象デバイスのインベントリ情報は、どのようにして表示できますか? (292 ページ)
- パッチ取得はどのようにして自動化できますか? (293 ページ)
- パッチ適用状況探索スケジュールをどのようにして設定しますか? (293 ページ)
- 管理対象デバイスすべてにソフトウェアを配布するには、どのようにしますか? (294 ページ)
- 特定の **Microsoft** パッチを取得するには、どのようにしますか? (294 ページ)
- ライセンス キーはどのようにして更新しますか? (295 ページ)
- **OS** サービス パックの対象とするデバイスのグループをどのようにして作成しますか? (295 ページ)
- ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布するには、どのようにしますか? (296 ページ)
- コンソールを使用せずに管理エージェントをデバイスにインストールするには、どのようにしますか? (296 ページ)
- **Windows** インストーラ パッケージをパブリッシュするには、どのようにしますか? (297 ページ)
- **Setup.exe** をパブリッシュするには、どのようにしますか? (297 ページ)

- 全デバイスがソフトウェアを受信したのは、どのようにしてわかりますか？ (297 ページ)
- ソフトウェアをユーザーがインストールできるようにするには、どのようにしますか？ (298 ページ)
- デバイス適用状況レポートを生成するには、どのようにしますか？ (298 ページ)
- OS イメージを取得するには、どのようにしますか？ (299 ページ)
- OS イメージにドライバを追加するには、どのようにしますか？ (299 ページ)
- OS イメージをパブリッシュするには、どのようにしますか？ (300 ページ)
- OS イメージを配布するには、どのようにしますか？ (300 ページ)
- 利用状況データの収集を開始するには、どのようにしますか？ (301 ページ)
- サポートに連絡するには、どのようにしますか？ (301 ページ)

HPCAS コンソールにはどうやってアクセスしますか？

お使いの環境にある任意のデバイスからブラウザを使用して、HPCAS コンソールにアクセスします。

- **http://HPCAShost:3480/ccm,** に移動します。ここで、*HPCAShost* は、HPCAS がインストールされているサーバーの名前です。

どのバージョンを使用しているかは、どのようにしてわかりますか？

- HPCAS のバージョン情報を表示するには、[設定] 領域の [サポート] セクションを使用します。

コンソールのパスワードはどのようにして変更できますか？

各コンソール ユーザーには、コンソール ユーザーを作成するときに管理者が指定した独自のパスワードがあります。コンソール ユーザーのログイン パスワードは、**[設定]** 領域の **[コンソールへのアクセス]** セクションで変更します。

- コンソール ユーザーのユーザー ID をクリックして、**[ユーザーの詳細]** ウィンドウを開きます。
- **[パスワードの変更]** 領域で、表示されたテキスト ボックスに新しいパスワードを入力して確認します。
- **[保存]** をクリックします。

新しいパスワードが保存されます。

自分の環境にあるデバイスの管理を始めるには、どのようにしますか？

デバイスは、管理エージェントが配布されると、管理されます。エージェントを配布するには、そのデバイスを **HPCAS** に追加する必要があります。

最初にデバイスをインポートします。

- **[デバイス管理]** の **[一般]** タブで **[管理対象デバイスのインポート]** をクリックします。**デバイス インポート ウィザード** が開始されます。
- 170 ページのウィザードの手順に従って、デバイスをインポートします。


デバイスがインポートされたら、管理エージェントを配布します。

- **[デバイス管理]** の **[一般]** タブで **[管理エージェントの配布]** をクリックします。**エージェント配布ウィザード** が開始されます。
- 171 ページのウィザードの手順に従って、管理エージェントを配布します。

エージェントが配布されると、デバイスが管理できるようになり、ソフトウェア、パッチ、およびインベントリ管理の準備が完了します。

インベントリの収集のスケジュール設定は、どのようにしますか?

ハードウェアおよびソフトウェアのインベントリは、**ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード**を使用して指定したスケジュールに基づいて収集されます。


- 最初に、インベントリ収集のスケジュール設定を、個々のデバイスについて行うか、グループについて行うかを選択します。**[デバイス管理]** の **[デバイス]** セクションまたは **[グループ管理]** の **[グループ]** セクションで選択します。
- ツールバーで、**[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索]** を選択し、ウィザードを起動します。
- 173 ページのウィザードの手順に従って、ユーザーのデバイスとグループについてソフトウェアおよびハードウェアのインベントリ収集を定義します。



ソフトウェア配布ジョブが完了すると、追加されたインベントリ収集が実施されます。

管理対象デバイスのインベントリ情報は、どのようにして表示できますか?

[レポート] タブを使用して、管理対象デバイスのインベントリ情報を表示します。

- **[レポート]** タブのホーム ページから、**[インベントリ情報]** の下にある **[管理対象デバイスを表示]** をクリックします。全管理対象デバイスの一覧が表示されます。
- ページの左側のツールを使用するか、各リスト項目の条件をクリックしてリストをさらにフィルタします。
- ある 1 つのデバイスの情報を表示するには、**[詳細を表示]**  をクリックします。


パッチ取得はどのようにして自動化できますか？

[設定] タブの [パッチ管理] セクションを使用して、パッチ取得のスケジュールおよび設定を指定します。

- 1 **[パッチ取得スケジュール]** 領域で、付属のツールを使用して、取得スケジュールを設定します。
 - **実行**：時間、日、週など一定の間隔でパッチを探索するかどうかを設定します。
 - **間隔**： 具体的な間隔（時間、日、または週）を選択します。
 - **開始日**：ドロップダウン リストを使用して、パッチ適用状況を探る日を選択します。
 - **[現在のサーバー時刻]** は、HPCAS サーバーの現在の時刻を表示します。
- 2 終了したら、**[保存]** をクリックして、変更をコミットします。[現在のスケジュール] の後に、新しいスケジュールが表示されます。
- 3 **[パッチ取得設定]** 領域に、各探索期間で取得するブリテンを入力します。ある範囲のブリテンを指定するには、ワイルドカード文字を使用できます（MS05* など）。複数のブリテン検索を同時に行うには、コンマで区切ります（MS05*, MS06* など）。
- 4 ブリテンの取得元の [プロキシ サーバーのアドレス] を入力します（**http://proxyserver:8080/** など）。
- 5 必要な場合、パッチを取得するためのプロキシ ユーザー ID およびプロキシ パスワードを入力します。
- 6 **[保存]** をクリックして、変更をコミットします。


パッチ適用状況探索スケジュールをどのようにして設定しますか？

- パッチ適用状況探索のスケジュールを指定するには、**[デバイス]** タブから管理対象デバイスを選択します（または、**[グループ]** タブからグループを選択します）。

- **[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[パッチ適用状況の探索]** を選択し、**パッチの適用状況探索ウィザード** を起動します。
- 174 ページのウィザードの手順に従って、デバイスおよびグループのパッチ適用状況探索のスケジュールを指定します。
- **[レポート]** タブを使用して、選択したデバイスに関するパッチ適用状況レポートを表示します。

管理対象デバイスすべてにソフトウェアを配布するには、どのようにしますか?

最初に、管理対象デバイスをすべて含むダイナミック レポート グループを作成します。

- **[レポート]** タブ の **[インベントリ]** の下で、**[管理対象デバイスを表示]** をクリックします。
- 全管理対象デバイスの一覧が表示されます。
- **[新しいダイナミック レポート グループの作成]**  をクリックします。グループ作成ウィザードの手順に従って、グループを作成します。

これで、新しく作成したグループ内のデバイスにソフトウェアを配布できます。

- **[管理]** タブで **[ソフトウェア管理]** をクリックします。
- **[ソフトウェアの配布]** をクリックします。
- これで、ソフトウェア配布ウィザード開始されます。ウィザードの指示に従って、新しく作成したグループおよび配布するソフトウェアを選択します。

特定の Microsoft パッチを取得するには、どのようにしますか?

- **[設定]** タブの **[パッチ管理]** セクションを使用して、**[パッチ取得設定]** の **[取得するブリテン]** テキスト ボックスに具体的なパッチ ブリテン番号を指定します。



設定を行ってすぐにパッチ取得を起動できます。定期的にパッチを取得するようにパッチ取得スケジュールを設定した場合、取得設定の値をリセットする必要があります。これは、これらから先の取得の間に、パッチ取得が特定のパッチだけを取得するのを防ぐためです。


ライセンス キーはどのようにして更新しますか?

- 1 テキスト エディタを使用して、新しいライセンス ファイル (`license.nvd` など) を開きます。
- 2 ファイルの内容を、[設定] タブの [サポート] セクションにある [ライセンス データ] テキスト ボックスにコピーします。
- 3 **[保存]** をクリックして、ライセンス情報を更新します。

OS サービス パックの対象とするデバイスのグループをどのようにして作成しますか?


[レポート] タブを使用して、特定のサービス パックを適用していない全デバイスを含むクエリを作成します。この例では、サービス パック 2 をインストールしていない Windows XP デバイスすべてを含むグループが作成されます。

- 1 [データ フィルタ] 領域で **[インベントリ管理の関連情報]** をクリックします。
- 2 **[OS 関連情報]** をクリックします。
- 3 **[オペレーティング システム]** をクリックして、「*Windows XP*」と入力します。
- 4 **[適用]** をクリックします。Windows XP をインストールしてある全デバイスが表示されます。
- 5 **[OS のレベル]** をクリックして、「!Service Pack 2」と入力します。
- 6 **[適用]** をクリックします。Service Pack 2 をインストールしていない Windows XP デバイスがすべて表示されます。

- 次に、[新しいダイナミック レポート グループの作成]  をクリックして、グループ作成ウィザードの指示に従い、デバイスのグループを作成します。

ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布するには、どのようにしますか?

[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを使用して、ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布します。

- [管理] タブで [ソフトウェア管理] をクリックします。
- [ソフトウェア ライブラリ] をクリックして、パブリッシュされたソフトウェアをすべて表示します。
- ある 1 つのデバイスに配布するソフトウェアの説明リンクをクリックします。[ソフトウェアの詳細] ウィンドウが開きます。
- [デバイス] タブをクリックして、そのソフトウェアを配布するデバイスを選択します。
- [ソフトウェアの配布]  をクリックして、ソフトウェア配布ウィザードを開始します。
- ウィザードの手順に従って、そのデバイスにソフトウェアを配布します。

コンソールを使用せずに管理エージェントをデバイスにインストールするには、どのようにしますか?

HPCAS CD-ROM に収録されている管理エージェント インストール プログラムを使用して、常時ネットワークに接続されているとは限らないデバイスに、エージェントをインストールします。

- HPCAS インストール メディアの RadAgent ディレクトリにある、管理エージェントの `setup.cmd` ファイルを使用します。
- コマンド ラインで次のように入力します：`setup.cmd HPCAS_IP_Addr`
ここで、`HPCAS_IP_Addr` はお使いの HPCAS サーバーの IP アドレスです。
- Enter** キーを押します。

Windows インストーラ パッケージをパブリッシュするには、どのようにしますか？

- **Publisher** を使用して、パブリッシュするデータのタイプに **[Windows インストーラ]** を選択します。**Publisher** の手順に従って、Windows インストーラ ファイルが、管理対象デバイスへの配布に利用できるようにします。

詳細は、**Publisher** のオンライン ヘルプ または「第 9 章、**Publisher** の使用」を参照してください。

Setup.exe をパブリッシュするには、どのようにしますか？

- **Publisher** を使用して、パブリッシュするデータのタイプに **[コンポーネントの選択]** を選択します。パブリッシュするファイルを選択して、**Publisher** の指示に従い、管理対象デバイスへの配布にそのファイルが利用できるようにします。

詳細は、**Publisher** のオンライン ヘルプ または「第 9 章、**Publisher** の使用」を参照してください。

全デバイスがソフトウェアを受信したのは、どのようにしてわかりますか？

- 1 [管理] 領域で [ソフトウェア管理] をクリックします。
- 2 [レポート] タブで **[ソフトウェアの要約]** をクリックします。[レポート] 領域に、全デバイス、管理対象デバイス、および失敗したデバイスの要約が表示されます。


[ソフトウェアの詳細] ウィンドウの [デバイス] タブを使用して、デバイス別のソフトウェアのステータスを表示することもできます。

- 1 ソフトウェアの説明リンクをクリックして、[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開きます。
- 2 **[デバイス]** タブをクリックします。

- 3 [ソフトウェアのステータス] カラムを表示して、どの管理対象デバイスにソフトウェアがインストールされているかを確認します。エンタイトルメントが設定されたデバイスだけが表示されます。

ソフトウェアをユーザーがインストールできるようにするには、どのようにしますか？

ソフトウェア エンタイトルメントをデバイスのグループに追加して、**Application Self-Service Manager** から、ユーザーがそのソフトウェアをインストールできるようにします。

- [管理] タブの [グループ管理] セクションで **[グループ]** タブをクリックします。
- グループの説明リンクをクリックして、[グループの詳細] ウィンドウを開きます。
- **[ソフトウェア]** タブをクリックして、そのグループにエンタイトルメントが設定されている全ソフトウェアを表示します。
- 別のソフトウェアのエンタイトルメントを設定するには、**[ソフトウェア エンタイトルメントの追加]**  をクリックします。
- エンタイトルメントを設定するソフトウェアを選択して、**[エンタイトルメントの追加]** をクリックします。

エンタイトルメントを設定すると、ソフトウェアは、コンソールまたは個々のデバイスの **Application Self-Service Manager** から配布できるようになります。

デバイス適用状況レポートを生成するには、どのようにしますか？

- [レポート] タブを使用して、どのパッチ ブリテンの適用状況を確認するかを指定します。
- [データ フィルタ] で **[パッチ管理の関連情報]** をクリックします。
- **[パッチ適用状況ステータス]** をクリックします。

- ブリテンの名前または名前の一部を入力して、**[適用]** をクリックします。
- レポート リストの上部にあるツールを使用して、レポートのエクスポートまたは印刷を行います。

OS イメージを取得するには、どのようにしますか?

Image Preparation Wizard を使用して、オペレーティング システム イメージの準備と取得を行います。

- 1 ImageCapture.iso ファイルから **Image Preparation CD** を作成します。このファイルは、**HPCAS** メディアの ¥OSManagement¥ISO¥CaptureCD ディレクトリにあります。
- 2 詳細な手順については、**Image Preparation Wizard** のオンライン ヘルプ、または 190 ページの「**イメージの準備と取得**」セクションの準備の手順に従います。

OS イメージにドライバを追加するには、どのようにしますか?

配布用にオペレーティング システム イメージを取得する前に、予想されるすべてのデバイスのハードウェア設定に対する **OEM** のドライバがインストールされているかを確認するのが良いでしょう。

- 次の **Microsoft** サポート技術情報の記事には、**Windows OS** のインストールに **OEM** ドライバを含めることに関する情報が記載されています。

<http://support.microsoft.com/kb/314479/ja>

OS イメージをパブリッシュするには、どのようにしますか?

- **Publisher** を使用して、パブリッシュするデータのタイプとして **[OS イメージ]** を選択します。パブリッシュするオペレーティング システム イメージを選択して、**Publisher** の指示に従い、デバイスへの配布にそのファイルが利用できるようにします。

▶ **Image Preparation Wizard** を使用して取得したイメージは、デフォルトでは **HPCAS** サーバーの¥Novadigm¥OSManagerServer¥upload¥ ディレクトリに保存されます。

詳細は、**Publisher** のオンライン ヘルプ または「第 9 章、**Publisher** の使用」を参照してください。

OS イメージを配布するには、どのようにしますか?

最初に、OS イメージを受信する全デバイスを含むスタティック グループを作成します。

- 1 [グループ管理] の [一般] タブから、**[新しいスタティック グループの作成]** をクリックします。
- 2 グループ管理ウィザードが開始されます。グループ作成ウィザードの手順に従って、グループを作成します。

これで、新しく作成したグループ内のデバイスにソフトウェアを配布できます。

- 1 [管理] タブで **[OS 管理]** をクリックします。
- 2 **[オペレーティング システムの配布]** をクリックします。

OS 配布ウィザードが開始されます。ウィザードの指示に従って、最初に新しく作成したグループを、次に配布するソフトウェアを選択します。OS 管理ジョブが作成されます。

利用状況データの収集を開始するには、どのようにしますか？

利用状況データは、利用状況収集エージェントが、管理対象デバイスでローカルに収集し保存します。利用状況データの収集を開始するには、次を行います。

- 1 [利用状況収集フィルタ作成ウィザード](#)を使用して、収集フィルタを作成して有効にします。詳細は、[162 ページの「利用状況の収集」](#)を参照してください。
- 2 [アプリケーション利用状況収集ウィザード](#)を使用して、利用状況収集エージェントを配布し、利用状況データの収集を始めます。[174 ページのウィザードの手順](#)に従って、グループから利用状況データを収集するスケジュールを指定します。または、個々のデバイスからの **1** 回だけの収集を強制します。利用状況データは、**12** か月の間、ローカル デバイスで保存されます。



ワイルドカード文字を使用して利用状況データを収集するフィルタを設定すると、大量のデータが収集されることになる場合があります。この場合、データベースのサイズが大きくなるにつれて、レポートのパフォーマンスに重大な問題が生じる可能性があります。利用状況情報がほしいアプリケーションについてだけ、データを収集するフィルタを作成するように、強く推奨します。

全アプリケーションについて利用状況データを収集するのは、*避けてください*。

サポートに連絡するには、どのようにしますか？

- HPCAS コンソールの [設定] タブを使用して、サポート連絡先情報を確認します。

13 トラブルシューティング

次のセクションを使用して、HPCAS の使用中に遭遇する一般的な問題のトラブルシューティングを行います。

- ログ ファイル (303 ページ)
- エージェント配布の問題 (304 ページ)
- OS 配布の問題 (305 ページ)
- **Application Self-Service Manager** の問題 (306 ページ)
- 電源管理の問題 (306 ページ)
- パッチ管理の問題 (307 ページ)

ログ ファイル

HPCAS のログ ファイルは、サーバーの次のディレクトリにあります。

- \Novadigm\Apache Group\Apache2\logs
- \Novadigm\ClientConfigurationManager\logs
- \Novadigm\ConfigurationServer\log
- \Novadigm\ManagementPortal\logs
- \Novadigm\MessagingServer\logs
- \Novadigm\MobileManagementServer\logs
- \Novadigm\OSManagerServer\logs
- \Novadigm\PatchManager\logs
- \Novadigm\ProxyServer\logs
- \Novadigm\ReportingServer\log

ログ ファイルのサイズは、時間が経過するにつれて大きくなります。ログには、HPCAS サービスが動作中に使用されるものもあります。これらのアクティブなログ ファイルを削除しないでください。履歴ログ ファイルは必要に応じてアーカイブしたり削除したりできます。

エージェント配布の問題

次の表は、エージェント配布ジョブの一般的なエラー メッセージおよび問題を解決するための手順を示しています。

表 19 エージェント配布ジョブのメッセージとトラブルシューティング

メッセージ	トラブルシューティングの手順
Failed to Install HPCA Management Agent - 理由: <i>device</i> にユーザー <i>user</i> とし て接続するのに失敗 しました。コード: No network provider accepted the given network path	<p>HPCAS サーバーは、エージェント インストール メディアをコピーするため、管理共有を作成します。</p> <p>Windows ファイアウォールなどのパーソナル ファイアウォールが、この共有をブロックする場合があります。管理対象デバイスのファイアウォール除外リストに、3463 番ポートおよびファイルとプリンタ共有サービスが追加されていることを確認します。</p> <p>ローカルに定義された管理者に対しては、Windows Vista デバイスの管理共有 (C\$) へのアクセスは無効にされています。このため、Windows Vista デバイスはドメインの一部である必要があり、そのドメインの管理者の資格情報は、HPCAS コンソールによる管理エージェントの配布の間に指定する必要があります。デバイスがドメインの一部でない場合、その他の手順ではローカルの管理者にアクセスを許可する必要があります。詳細な手順は、Microsoft のサポート Web サイト上の次のリンクを参照してください。</p> <p>http://support.microsoft.com/kb/947232/en-us</p> <p>これらの変更が終了したら、デバイスを再起動します。</p>
Failed to Install HPCA Management Agent - 理由: <i>device</i> にユーザー <i>user</i> とし て接続するのに失敗 しました。コード: Logon failure: unknown user name or bad password.	<p>エージェント配布ウィザードの間に使用されたログイン資格情報が正しく、ユーザー ID がそのデバイスの管理特権を持っていることを確認します。パスワードは必ず入力してください。Windows XP デバイスでは、簡易ファイルの共有が無効になっていることを確認します。</p>

メッセージ	トラブルシューティングの手順
Connection timed out	HPCAS サーバーは、エージェントをデバイスに配布した後、 3463 番ポートを使用して、そのデバイスへの TCP 接続を確立します。このポートがパーソナルファイアウォールでブロックされていると、 HPCAS はデバイスを管理できません。管理対象デバイスのファイアウォール除外リストに、 3463 番ポートおよびファイルとプリンタ共有サービスが追加されていることを確認します。
Timeout waiting for rma to register	エージェントは、デバイスにインストールされた後、 3466 番ポートを使用して、 HPCAS サーバーに登録されます。このポートが HPCAS サーバーでファイアウォールによりブロックされていると、 HPCAS はデバイスを管理できません。 HPCAS サーバーのファイアウォール除外リストに、 3463 番ポートが追加されていることを確認します。
Installation fails when installing manually (using setup.cmd) to a Vista device.	エージェントを Vista デバイスにインストールするには、管理者アカウントを使用する必要があります。または、他のアカウントを使用する場合は、ユーザーアカウント制御 (UAC) を無効にする必要があります。

OS 配布の問題

この章では、オペレーティング システム イメージの配布中に遭遇する一般的な問題について説明します。

TFTP サーバーが起動後にシャットダウンする

- 同じコンピュータで他の **TFTP** サーバーが動作していないことを確認します。

PXE がサブネットを横断できない

- **PXE** がサブネットを自由に移動するには、**DHCP** ヘルパーが有効である必要があります。**DHCP** ヘルパーは、**DHCP** ポートでのブロードキャスト ト

ラフィックの横断を許可します。通常、ブロードキャストはルーターではオフになっています。

Application Self-Service Manager の問題

このセクションでは、HP Client Automation Application Self-service Manager (ASM) のよくある問題および問題を解決する手順を説明します。

アプリケーションのインストールが失敗し、カタログにはインストールされたと表示される

問題

インストール プログラムが失敗時にゼロを返すと、カタログには、アプリケーションがインストールされたと表示される場合があります。

対処法

ASD は、インストールが成功したかどうかを検出するのに、リターン コードを信頼しています。ASM が失敗を検出するには、インストールはゼロ以外のコードを返す必要があります。

このためには、インストールをコマンド ファイルにラッピングし、正しいコードを返すことでプロセスが成功したかどうかを確認するロジックを使用します。

電源管理の問題

このセクションでは、HPCAS 電源管理機能に関連するタスクの問題と対処法を説明しています。

デバイスが HPCAS サーバーからの電源コマンドに応答しない

管理対象デバイスが、HPCAS サーバーからの電源オン コマンドに応答しない場合、ルーターやスイッチなどのネットワーク デバイスの設定に問題があることがあります。

- **Wake on LAN** サポートについて、HPCAS サーバーから管理対象デバイスへのネットワーク パスをテストします。ネットワーク デバイスにリモートの電源オン コマンドを送信するためのサード パーティ製ツールが、いくつ

かあります。インターネットで「Wake on Lan ツール」を検索すると、この機能をテストするための無料のツールが見つかります。

パッチ管理の問題

このセクションでは、パッチ管理に関連するタスクの問題と対処法を説明しています。

パッチ配布時のエラー

ターゲット デバイスへのパッチの配布時にエラーが発生する場合（たとえば、次のようなエラー メッセージが表示されます: WUA Install Result Code 3 HRESULT \$hresult）、正しい **Windows** インストーラのバージョンがパッチの更新を受け取るターゲット デバイスにインストールされているかを確認します。サポートされている最低限のバージョンに関する詳細は、**89** ページのセクション「[パッチ管理](#)」を参照してください。

A 2 バイト文字のサポートについて

このセクションでは、サービス オペレーティング システム (SOS) のロケールを設定する、設定の変更を説明します。

▶ **Image Preparation Wizard** を使用してイメージを作成するとき、参照マシンとターゲット マシンのロケールが一致する必要があります。たとえば、簡体中国語の OS イメージを作成する場合、簡体中国語の参照マシンで **Image Preparation Wizard** を実行する必要があります。

⚠ 2 バイト文字が必要でない場合は、以下の変更を行わないでください。

サポートされる言語

中国語（簡体字）、日本語、韓国語

ロケールの変更

PXE 環境において、中国語（簡体字）、日本語、韓国語にサポートを追加するには

- 1 テキスト エディタを使用して、`¥X86PC¥UNDI¥linux-boot¥linux.cfg¥default` を開きます。ファイルは次のように表示されます。

```
DEFAULT bzImage
```

```
APPEND initrd=rootfs.gz root=/dev/ram0 rw ISVR=10.10.10.1  
ISVRPORT=3466
```

- 2 **APPEND** 行の最後に **LANG** パラメータを追加して、言語コードを設定します。有効なコードは次のとおりです。

— **zh_CN** = 簡体中国語

— **ja_JP** = 日本語

— **ko_KR** = 韓国語

— **en_US** = 英語

- 3 結果的に、ファイルは次のようになります（次の例では、言語を日本語に設定しています）。

```
DEFAULT bzImage
```

```
APPEND initrd=rootfs.gz root=/dev/ram0 rw ISVR=10.10.10.1  
ISVRPORT=3466 LANG=ja_JA
```

- 4 **default** ファイルを保存して閉じます。

サービス CD-ROM から復元するときに簡体中国語、日本語、または韓国語のサポートを追加するには

- `romsinfo.ini` ファイルの **ServiceCD** セクションに **LANG=xx_XX** を指定します。この場合の **xx_XX** は設定する言語の言語コードです。有効な言語コードは次のとおりです。
 - **zh_CN** = 簡体中国語
 - **ja_JP** = 日本語
 - **ko_KR** = 韓国語
 - **en_US** = 英語
- `romsinfo.ini` ファイルは、サービス **CD iso** の一部です。

Sysprep ファイルの 2 バイト文字サポート

Sysprep で 2 バイト文字を使用する場合、ファイルは **UTF-8** コーディングでエンコードする必要があります。

索引

A

Agent Explorer, 27, 234
APIC, 105
APIC マシン, 200
Application Self-service Manager, 26
 user interface
 Menu Bar, 238
 ユーザー インターフェイス, 235
 アクセス, 235
Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイス
 カタログのリフレッシュ, 241
 グローバル ツールバー, 237
 サービス リスト, 239
 ソフトウェアのインストール, 240
 ソフトウェアの削除, 242
Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイス
 情報の表示, 241
Application Self-service Manager 用のユーザー インターフェイス, 235
Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイス
 カタログ リスト, 238
Avis, 248

B

BIOS の電源管理, 193
bootsect.exe, 36, 193

C

CCM_PUBLISHER, 81
CCM_SMM, 82
CCM_TPM_ENABLEMENT, 81
CCMDB_Data.MDF, 33
CMI、設定, 157
console user

removing, 140
CCSV にエクスポート, 56, 68, 82, 92, 101, 115, 133, 143, 150

D

Deploy.cab, 195
Deploy.chm, 195
deploying
 OS image using PXE, 108

E

Embedded Linux, 106, 210
Ended with Errors, 116
Enterprise, 21
ExtendOemPartition パラメータ, 194, 197

G

group details window, tasks, 75
Group Management
 Groups, 67

H

HAL, 105
Hardware Abstract Layer. HAL を参照
HP Client Automation Administrator Publisher, 81
HP Softpaqs, publishing, 228
HP インスタント サポート, 153
HP ハードウェア レポート, 131
HPCA Administrator Publisher, 27
HPCA エージェント ID, 129
HPCA エージェントのバージョン, 129
HPCA システム トレイのアイコン, 251
[HPCA ステータス] ウィンドウ, 252
 ステータス メッセージ領域, 253
 ステータス領域, 252

[HPCA ステータス] ウィンドウの情報パネル,
252

HPCAS, 19

インストール, 33

HPCAS コンソールへのアクセス, 290

HPCAS サーバー、ファイアウォール設定, 31

hpccm.exe, 35, 43

I

Image Preparation Wizard, 193

Image Preparation Wizard, 28

Image Preparation Wizard, 197

Image Preparation Wizard

使用, 198

Image Preparation Wizard

使用, 204

Image Preparation Wizard

使用, 208

Image Preparation Wizard

使用, 212

ImageName.EDM, 198, 204, 208, 212

ImageName.IMG, 198

ImageName.MBR, 198

ImageName.PAR, 198

imagex.exe, 36, 193

installing

HPCAS, 33

IQY にエクスポート, 133

J

JoinDomain パラメータ, 197

L

logfiles.zip, 139

M

Microsoft Sysprep, 195

Microsoft 自動更新

重要な情報, 90

Microsoft パッチ, 294

O

ODBC DSN, 35

ODBC 設定, 設定, 161

OS Management

Operating Systems, 101

OS イメージ ターゲット デバイス

要件, 104

OS 管理, 100, 156

一般, 100

過去のジョブ, 113

現在のジョブ, 113

[OS のアップロードの前にパーティションのサイズを変更する] チェック ボックス, 200

[OS のインストール後にクライアント接続を実行する] チェック ボックス, 205

[OS のインストール後にクライアント接続を実行する] チェック ボックス, 213

OS のサービス パック, 295

OS の詳細, 111

一般, 111

グループ, 112

デバイス, 112

プロパティ, 112

レポート, 113

OS のパーティション, 197

OS 配布ウィザード, 186

P

prepwiz.exe, 199, 204, 208

Publisher, 27

アクセス, 38

使用, 217

別のデバイスへのインストール, 37

publishing HP Softpaqs, 228

PXE, 107

PXE ブート, 105

R

RDP, 60

S

S.M.A.R.T.

enabling, 158
設定, 158
S.M.A.R.T. 警告
レポート, 129
SCSI, 105
Self-Monitoring、Analysis、および Reporting
Technology. S.M.A.R.T. を参照
Settings Migration Manager, 28
Settings Migration Manager service, 82
Settings Migration Utility, 28
setup.exe, 297
Setupmgr.exe, 196
Software Management
General, 80
SQL Server, 30
SQL Server Enterprise Manager, 34
SQL Server Management Studio, 34
SSM, 229
SSM 準拠, 229
Standard, 21
Starter, 21
[Sysprep.inf に大容量ストレージ セクションを
ビルドする] チェック ボックス, 200
Sysprep.inf ファイル, 195
[SysprepMassStorage] セクション, 200

T

TCP ポート, 30
TimeZone パラメータ, 197
TPM
設定, 159
TPM Enablement サービス, 81

U

UAC. ユーザー アカウント制御を参照
UI オプション, 249
UnattendMode パラメータ, 197
[URL] カラム, 249

V

VerifiedDate column, 250
VMware
installing HPCAS to, 32
インストール要件, 32

VNC, 60

W

Web サイト, 86
Web ブラウザ サポート, 29
Windows 2003 Server, 37
Windows CE, 106, 206
Windows XP Embedded, 106
Windows XPe, 202
Windows インストーラ ファイル, 218
Windows インストーラ パッケージ, 297
Windows リモート デスクトップ, 61

X

XPe, 106

あ

アクション バー
使用, 133
アクション バー, 123
アイコン, 133
[アクティブなカタログ アイテムを展開], 248
[アクティブなサービス アイテムを展開], 248
新しいロケーションの作成, 150
[圧縮後のサイズ] カラム, 248
[アップグレード日] カラム, 249
後にブラウズするボタン, 134
アプリケーション利用状況、探索, 59
アプリケーション利用状況収集ウィザード, 174
アンインストール コマンド ライン, 86
アンインストール前コマンドライン, 86

い

イメージ ファイル, スパン, 194
イメージ ファイルをスパンする, 194
[色のカスタマイズ] オプション, 246
インスタント サポート, 153
インストール コマンド ライン, 86
[インストール] ボタン, 239
インストール

Application Self-Service Manager ユーザー
インターフェイスを使用したソフトウェア,
240

HPCAS, 29

Publisher を別のデバイスにインストール, 37
管理エージェント

Windows CE, 42

Windows XPe, 41

手動, 39

シン クライアント, 39

[インストール日] カラム, 249

インターネット プロキシの検出, 251

インフラストラクチャ サーバー

サービス キャッシュ, 146

サービス キャッシュの同期, 146

インフラストラクチャ サーバーの削除, 143

インフラストラクチャ サーバーの追加, 143

インフラストラクチャ サーバーの同期, 146

インフラストラクチャ サービス, 142

インフラストラクチャ サービスの削除, 143

インフラストラクチャ サービスの配布, 143

インフラストラクチャ管理, 142

インベントリ データに基づいたロケーションの

自動作成, 150

インベントリ

探索, 59

インベントリ管理レポート, 129

インベントリの収集, 56

インベントリのスケジュール設定, 292

インベントリの表示, 292

インポート

サービス, 94, 110

う

ウィザード, 169

OS 配布, 186

アプリケーション利用状況収集, 174

エージェント削除, 172

エージェント配布, 171

グループ作成, 177

サービス インポート, 181

サービス エクスポート, 181

ソフトウェア削除, 185

ソフトウェア エンタイトルメント, 184

ソフトウェア／ハードウェア インベントリ,
173

ソフトウェア同期, 182

ソフトウェア配布, 180

デバイス インポート, 170

電源管理, 175

パッチ適用状況探索, 174

パッチ配布, 183

ユーザー作成, 186

ウィンドウあたりの最大項目数, 134

え

エージェント削除ウィザード, 172

エージェント配布

サイレント インストール, 171

エージェント配布ウィザード, 171

エクスポート

サービス, 110

エラーコード, 248

エラーで終了, 115

エンタイトルメント設定

ソフトウェア, 50

パッチ, 50

エンタイトルメント設定

パッチ, 78

お

[オーナー カタログ] カラム, 249

オペレーティング システム イメージ, パブリッ
シュ, 223

オペレーティング システムの削除, 102

オペレーティング システムの配布, 101

オンライン ヘルプ, 28

か

概要, 21

[価格] カラム, 249

拡張情報を表示, 241

過去のジョブ

OS 管理, 113

グループ管理, 79

ジョブ管理, 119

ソフトウェア管理, 89

- デバイス管理, 64
- パッチ管理, 99
- 仮想カタログ, 238
- カタログ リスト, 238
- カタログ
 - 仮想, 238
 - 選択, 238
 - リフレッシュ, 237
- カタログのリフレッシュ, 237
- カラムのソート, 134
- カタログの表示, 86
- 管理
 - オペレーティング システム, 100
 - グループ, 65
 - ジョブ, 114
 - ソフトウェア, 80
 - デバイス, 54
 - パッチ, 89
- 管理エージェント, 26
 - インストール
 - Windows CE, 42
 - Windows XPe, 41
 - グループへの配布, 69
 - 削除, 58
 - 手動インストール, 39
 - デバイスのグループからの削除, 70
 - 配布, 47, 54, 58
- 管理エージェントの削除, 56
- 管理エージェントの配布, 56
- 管理オプション パブリッシュ オプション, 219
- 管理対象デバイスのインポート, 56

く

- クイック スタート タスク, 46
- [グリッド線を表示], 248
- グループ
 - 削除, 72
 - ソフトウェア, 77
 - ソフトウェア エンタイトルメント, 76
 - パッチ エンタイトルメント, 78
 - 作成, 69
 - スタティック, 66
 - ソフトウェアの配布, 77
 - タイプ, 66
 - 探索, 66

- 追加
 - ソフトウェア エンタイトルメント, 76
 - パッチ エンタイトルメント, 78
- 内部, 66
 - レポート, 66
- グループ エンタイトルメントの追加, 82, 94, 101, 109
- グループ タイプ, 74
- グループ管理, 65
 - 一般, 65
 - 過去のジョブ, 79
 - 現在のジョブ, 79
- グループ作成ウィザード, 177
- グループ詳細
 - OS, 74
 - ソフトウェア, 75
 - パッチ, 75
 - プロパティ, 74
 - レポート, 75
- グループの作成, 50
- グループの詳細, 73
 - 一般, 73
 - 現在のジョブ, 75
 - デバイス, 74
- グローバル ツールバー, 237

け

- 警告メッセージ, 248
- 現在のジョブ
 - OS 管理, 113
 - グループ管理, 79
 - ジョブ管理, 114
 - ソフトウェア管理, 89
 - デバイス管理, 64
 - パッチ管理, 99
- 検索オプション, 122
 - 使用, 124
 - フィルタ, 124
- 検索条件, 123

こ

- 高度なプログラム可能割り込みコントローラ.
APIC を参照

小型コンピュータ システム インターフェイス。
SCSI を参照
コンソール, 25
コンソール ユーザー
作成, 140
詳細の表示および変更, 141
コンソールへのアクセス, 139
[コンポーネントの選択] パブリッシュ, 221

さ

[サーバーの詳細] ウィンドウ, 146, 147
サービス
インポート, 94, 110
エクスポート, 95, 110
サービス CD, 108
サービス インポート ウィザード, 181
サービス エクスポート ウィザード, 181
サービス エンタイトルメント ウィザード, 184
サービス リスト
[インストール] ボタン, 239
[展開/折りたたむ] ボタン, 239
サービス リスト, 239
カラムの削除, 248
カラムの追加, 248
[削除] ボタン, 239
サービス リスト オプション, 247
サービス リストへのカラムの追加, 248
サービスのインポート, 82, 83, 93, 102
サービスのエクスポート, 82, 84, 93, 95, 102
[サービスの詳細] ウィンドウ, 148
再起動, 249
再起動の設定, 86
最終ログオン ユーザー, 63, 129
[サイズ] カラム, 249
[再パブリッシュ日] カラム, 249
[削除] ボタン, 239
削除
管理エージェント
Windows XPe, 42
シン クライアント, 41
サービス リストからのカラムの削除, 248
ソフトウェア, 77, 242
パッチ エンタイトルメント, 78
ライブラリからオペレーティング システム,
110

作成
新しいロケーション, 150
グループ, 69
スタティック グループ, 177
ダイナミック ディスカバリ グループ, 177
ダイナミック レポート グループ, 136, 179
[作成者] カラム, 248
作成者, 86
サポート, 137
連絡, 301
参照マシン
準備, 192

し

システム トレイ
アイドル状態, 251
アクティブ状態, 251
システム トレイのアイドル状態, 251
システム トレイのアクティブ状態, 251
[システムの色を使用] オプション, 246
システムのインストール, 249
システム要件, 29
ターゲット デバイス, 104
自動更新, 90
収集フィルタ
作成, 164
変更, 165
有効化, 164
集中時, 130
管理エージェント
削除
Windows XPe, 42
手動入力, 170
[使用可能なカラム] リスト ボックス, 248
詳細なオペレーションを表示, 248
詳細プロパティ, 63
ジョブ コントロール, 114
ジョブ ステータス, 115
ジョブ管理, 114
一般, 114
過去のジョブ, 119
現在のジョブ, 114
ジョブの一時停止, 115
ジョブの開始, 115
ジョブの削除, 115, 116

- ジョブの詳細, 117
 - サービス, 118
 - 詳細, 118
 - ターゲット, 118
- ジョブのスケジュール再設定, 115, 116
- ジョブの停止, 115
- ジョブのリジューム, 115
- シン クライアント, 106
 - イメージの準備と取得, 202
 - 管理, 23
 - 管理エージェントのインストール, 39
 - 管理エージェントを配布, 39
 - 出荷 OS イメージの配布, 106
 - 要件, 30

す

- スケジュール, 設定, 48
- スケジュールを許可, 249
- スタティック グループ, 74
 - 作成, 177
 - デバイスの削除, 76
 - デバイスの追加, 76
- [ステータス] ウィンドウ
 - ドッキング, 244
 - ドッキング解除, 244
- [ステータス] カラム, 249
- [ステータス] ボタン, 244
- スロットリング, 250
- スロットリング タイプ, 249

せ

- 生成
 - レポート, 51
- 接続オプション, 250
- [設定] ボタン, 238
- 設定
 - CMI, 157
 - ODBC 設定, 161
 - OS 配布モード, 156
 - S.M.A.R.T., 158
 - TPM, 159
 - スケジュール, 48
 - パッチ取得
 - スケジュール, 153

- 設定, 153, 154
 - レポート, 160
- [説明] カラム, 248
- 前回の接続, 129
- 前回の同期, 146
- 選択されたインフラストラクチャ サーバーのサービス キャッシュの同期, 143
- 全デバイス グループ, 104
- 全デバイス, 66

そ

- ソフトウェア
 - エンタイトルメント設定, 50
 - グループ エンタイトルメントの追加, 83
 - 削除, 242
 - 配布, 50
 - パブリッシュ, 49, 218
- ソフトウェア インベントリ、探査, 59
- ソフトウェア カテゴリ, 86
- ソフトウェア／ハードウェア インベントリ ウィザード, 173
- ソフトウェア管理, 80
 - 過去のジョブ, 89
 - 現在のジョブ, 89
 - ソフトウェア, 81
- ソフトウェア削除ウィザード, 185
- ソフトウェアの削除, 82, 84
- ソフトウェアの詳細, 85
 - 一般, 85
 - グループ, 86
 - デバイス, 87
 - プロパティ, 85
 - レポート, 88
- ソフトウェアの同期, 77
- ソフトウェアの配布, 82
- ソフトウェア配布ウィザード, 180

た

- ターゲット デバイス
 - 定義, 104
 - ファイアウォール設定, 30, 31
 - ファイアウォールの設定, 144
 - 要件, 104
- 対象, 19

ダイナミック レポート グループ、作成, 136, 179
大量ストレージ ドライバ, 200

探索

デバイス, 57

探索グループ, 69

つ

[追加のファイル] 詳細パブリッシュ モード オ
ブション, 219

て

ディレクトリ/グループ フィルタ, 125

ディレクトリ/グループ フィルタ, 122

データ フィルタ, 122, 125

データのリフレッシュ, 56, 82, 101, 115, 143,
150

データベースのセットアップ, 33

適応バンド幅, 248

デバイス

インポート, 47, 54, 57

削除, 62

探索, 57

デバイス インポート ウィザード, 170

デバイス管理, 54

一般, 54

過去のジョブ, 64

現在のジョブ, 64

デバイス, 55

デバイス適用状況レポート, 298

デバイスのインポート, 47, 57

デバイスのグループに対する電源管理, 72

デバイスの削除, 57, 143

デバイスの詳細, 62

os, 63

一般, 63

グループ, 63

詳細プロパティ, 63

ソフトウェア, 63

パッチ, 64

プロパティ, 63

レポート, 64

デバイスの探索, 170

デバイスの要約, レポート, 135

[展開/折りたたむ] ボタン, 239

電源管理, 56, 61

電源管理ウィザード, 175

と

ドッキング解除された [ステータス] ウィンドウ,
244

ドッキングされた [ステータス] ウィンドウ, 244

トラフィックに適応, 251

な

[名前] カラム, 249

は

バージョン, 290

[バージョン] カラム, 250

パーティション

拡張, 194

ハードウェア インベントリ。探索, 59

ハードウェア管理, 157

ハイバネーション, 194

配布

管理エージェント, 47, 54

シナリオ、os イメージ, 103

ソフトウェア, 50, 77, 83, 294

パッチ, 50, 78, 92, 93

配布モード, 102, 186

パスワード

変更, 141

パッチ

エンタイトルメント設定, 50, 78

エンタイトルメントの削除, 78

グループ エンタイトルメントの追加, 94, 109

取得, 49, 92, 153

配布, 50, 78, 92, 93

パッチ管理, 89

一般, 91

過去のジョブ, 99

現在のジョブ, 99

設定, 152

パッチ, 92

パッチ管理レポート, 130

パッチ取得, 293

スケジュール, 153

設定, 153
パッチ適用状況
探索, 59
パッチ適用状況探索ウィザード, 174
パッチ適用状況探索スケジュール, 293
パッチの削除, 93
パッチの取得, 49, 92, 153
パッチの詳細, 95
一般, 96
グループ, 96
デバイス, 97
プロパティ, 96
レポート, 98
パッチ配布ウィザード, 183
パブリッシュ
os イメージ, 100
コンポーネントの選択, 221
ソフトウェア, 49, 218
モード
管理オプション, 219
追加のファイル, 219
プロパティ, 219
パブリッシュ モード
変換, 219
パブリッシュされたサービス, 表示, 233
[パブリッシュ日] カラム, 249
バンド幅
スロットリング, 250
予約, 250
バンド幅スロットリング, 243, 253
バンド幅設定, 253
バンド幅のスライダ, 243
バンド幅の設定、調整, 243
バンド幅を予約, 250

ひ

ビュー, 適用, 128
表示
Application Self-Service Manager ユーザー
インターフェイスでの情報の表示, 241
パブリッシュされたサービス, 233
レポート, 51
表示オプション, 122, 127
[表示するカラム] リスト ボックス, 248

ふ

ファイアウォール設定, 30
フィルタ
値文字, 126
適用, 125
ワイルドカード, 126
フィルタ ヘッダー情報, 165
ブラウズ, 134
レポートの項目, 134
ブレード サーバー レポート, 129
プロキシ, 35
プロキシの検出, 251
[プロパティ] パブリッシュ オプション, 219

へ

ベアメタル, 104
ヘルプ, 28
変換 パブリッシュ オプション, 219
変換ファイル, 220
ベンダー, 86
[ベンダー] カラム, 249

ほ

[ホーム] ボタン, 238
ボタン バー, 252

ま

[マイ ソフトウェア] ボタン, 238
前にブラウズするボタン, 134
マニュアルの変更点, 4

み

[未使用のディスク スペースの圧縮を最適化する] チェック ボックス, 200

め

メニュー バー, 238

も

[戻る] ボタン, 128

ゆ

ユーザー アカウント制御, 305
ユーザー作成ウィザード, 186
[ユーザーの詳細] ウィンドウ, 141

よ

予約済みのバンド幅, 249

ら

ライセンス キー
更新, 295
ライセンス情報, 更新, 139

り

リモート制御, 57, 60
利用回数, 130
利用時間, 130
利用状況管理対象製品（使用されているもの）,
132
利用状況管理レポート, 130
利用状況収集エージェント, 165
利用状況収集フィルタ
ウィザード, 164
作成, 164
設定, 164
変更, 165
有効化, 164

利用状況条件、定義, 165
利用状況データ、難読化, 162
利用状況データ、フィルタ, 166
利用状況データの難読化, 59, 71, 161, 162
利用状況の収集, 162
[利用状況の設定] タブ, 161
利用ステータス, 130
[履歴] ボタン, 242

れ

レポート, 121
インターフェイス, 121
ウィンドウ, 132
生成, 51
設定, 160
表示, 51
[レポート] ウィンドウ, 123
レポート グループ
作成, 133
レポート クエリからの作成, 133
[レポート] タブ, 121
レポート ビュー, 122, 127

ろ

ローカル サービスの起動, 107
[ローカルの修復] カラム, 249
ログ ファイル, ダウンロード, 138
ログイン, 45
ロケーション, 142, 149
インフラストラクチャ サーバーへの割り当て,
151
削除, 151
新規作成, 150
ロケーションの削除, 150